

2004年度

経済学部シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

【シラバス】は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生の皆さんに周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をするようにしてください。

★入学年度により、科目名が異なる場合があります。

2003年度以降の入学者は、〔03年度以降〕の科目名を参照してください。
2001年から2002年度の入学者は、〔01～02年度〕の科目名を参照してください。
2000年以前の入学者は、〔00年度以前〕の科目名を参照してください。

03年度以降 ①01～02年 00年度以前	② 科目名 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 春学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
③ 担当教員氏名
④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
⑤ a科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
b科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

03年度以降 01～02年度 00年度以前	科目名 科目名 科目名	担当者
◆講義目的 講義概要		◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 秋学期 】		
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

目 次

【2003～04 年度 入学者用】

【経済学科 経営学科 共通】

【学科基礎科目】

科目名	担当者	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa・b	各担当教員	1
インターナショナルコミュニケーションⅡa・b	各担当教員	2
基礎演習	阿部正浩	3
基礎演習	伊藤為一郎	4
基礎演習（春学期のみ）	犬井正	5
基礎演習	今福啓	6
基礎演習	大久保貞義	7
基礎演習	岡村国和	8
基礎演習（春学期のみ）	香取徹	9
基礎演習	上坂卓郎	10
基礎演習	日下泰夫	11
基礎演習	黒川文子	12
基礎演習	黒木亮	13
基礎演習	小林進	14
基礎演習	塩田尚樹	15
基礎演習	立田ルミ	16
基礎演習	千代浦昌道	17
基礎演習（春学期のみ）	全載旭	18
基礎演習（春学期のみ）	中野隆史	19
基礎演習	中村泰将	20
基礎演習	奈倉文二	21
基礎演習	波形昭一	22
基礎演習	野村容康	23
基礎演習	浜本光紹	24
基礎演習	藤山英樹	25
基礎演習	本田浩邦	26
基礎演習	益山光央	27
基礎演習	松井敬	28
基礎演習	御園生眞	29
基礎演習	森 健	30
基礎演習	山越徳	31
基礎演習	山本美樹子	32
基礎演習（春学期のみ）	湯田雅夫	33
基礎演習（秋学期のみ）	和田智	34

科目名	担当者	ページ
経済学 a・b (再)	阿部正浩	35
経済学 a・b (再)	片岡晴雄	36
経済学 b・a (済・再) (春学期 b 科目 秋学期 a 科目) ..	小林進	37
経済学 a・b (済・再・営)	浜本光紹	38
経済学 a・b (済)	益山光央	39
経済学 a・b (営)	米山昌幸	40
統計学 a・b	富田誠	41
統計学 a・b	本田勝	42
統計学 a・b	松井敬	43
コンピュータ入門 a・b	各担当教員	44
プレゼンテーション技法 (秋学期のみ)	富澤儀一	45
経営学 a・b (済)	清水絹代	46
経営学 a・b (営)	上坂卓郎	47
経営学 a・b (営)	日下泰夫	48
経営学 a・b (営)	黒川文子	49
経営学 a・b (営)	小林哲也	50
経営学 a・b (営)	高松和幸	51
経営学 a・b (営)	富田忠義	52
簿記原理 a・b	井出健二郎	53
簿記原理 a・b	内倉滋	54
簿記原理 a・b	香取徹	55
簿記原理 a・b	金井繁雅	56
簿記原理 a・b	千葉啓司	57
簿記原理 a・b	中村泰将	58
簿記原理 a・b	細田哲	59
簿記原理 a・b	百瀬房徳	60
簿記原理 a・b	湯田雅夫	61
数学 a・b	遠藤信	62
高齢化社会論 a・b	奥山正司	63
精神衛生論 a・b	中野隆史	64
医療・福祉概論 a・b	藤井賢一郎	65
現代文化論 a・b	柴崎信三	66

【経済学科 経営学科 共通】

【経済・経営外国語】

科目名	担当者	ページ
経済・経営外国語 I a・b	青木雅明	67
経済・経営外国語 I a・b	阿部正浩	68
経済・経営外国語 I a・b	井出健二郎	69
経済・経営外国語 I a・b	伊藤為一郎	70
経済・経営外国語 I a・b	岡村国和	71
経済・経営外国語 I a・b	奥山正司	72

科目名	担当者	ページ
経済・経営外国語Ⅰ a・b	金井繁雅	73
経済・経営外国語Ⅰ a・b	黒川文子	74
経済・経営外国語Ⅰ a・b	黒木亮	75
経済・経営外国語Ⅰ a・b	小林進	76
経済・経営外国語Ⅰ a・b	小林哲也	77
経済・経営外国語Ⅰ a・b	齋藤正章	78
経済・経営外国語Ⅰ a・b	塩田尚樹	79
経済・経営外国語Ⅰ a・b	清水絹代	80
経済・経営外国語Ⅰ a・b	千葉啓司	81
経済・経営外国語Ⅰ a・b	中村泰将	82
経済・経営外国語Ⅰ a・b	波形昭一	83
経済・経営外国語Ⅰ a・b	野村容康	84
経済・経営外国語Ⅰ a・b	本田浩邦	85
経済・経営外国語Ⅰ a・b	益山光央	86
経済・経営外国語Ⅰ a・b	松本栄次	87
経済・経営外国語Ⅰ a・b	御園生眞	88
経済・経営外国語Ⅰ a・b	百瀬房徳	89
経済・経営外国語Ⅰ a・b	森 健	90
経済・経営外国語Ⅰ a・b	山越徳	91
経済・経営外国語Ⅰ a・b	山本美樹子	92
経済・経営外国語Ⅰ a・b	米山昌幸	93
経済・経営外国語Ⅰ a・b (ドイツ語)	大西健夫	94
経済・経営外国語Ⅰ a・b (中国語) (春学期 週2回)	全載旭	95
経済・経営外国語Ⅰ a・b (留学生用)	ジム・ブローガン 授業で説明	

【経済学科】

【学科専門科目】

科目名	担当者	ページ
マクロ経済学 a・b	塩田尚樹	96
マクロ経済学 a・b	松本正信	97
ミクロ経済学 a・b	小林進	98
ミクロ経済学 a・b	藤山英樹	99
経済統計論 a・b	松本正信	100
経済政策論 a・b	阿部正浩	101
経済開発論 a・b	千代浦昌道	102
環境政策論 a・b	塩田尚樹	103
日本経済史 a・b	奈倉文二	104
西洋経済史 a・b	御園生眞	105
国際経済論 a・b	益山光央	106
日本経済論 a・b	波形昭一	107
アメリカ経済論 a・b	本田浩邦	108
ラテンアメリカ経済論 a・b	松本栄次	109

科目名	担当者	ページ
西ヨーロッパ経済論 a・b	大西健夫	110
東アジア・中国経済論 a・b	全載旭/駒形哲也	111
オセアニア経済論 a・b	森 健	112
アフリカ経済論 a・b	千代浦昌道	113
中東経済論 a・b	平井文子	114
金融経済論 a・b	斉藤美彦/須藤時仁	115
金融システム論 a・b	斉藤美彦/須藤時仁	116
財政学 a・b	野村容康	117
公共経済学 a・b	伊藤為一郎	118
環境経済学 a・b	浜本光紹	119
経済地理学 a・b	犬井正	120
交通経済論 a・b	岡田博	121

【経済学科】

【関連専門科目】

科目名	担当者	ページ
経営学原理 a・b	黒川文子	122
経営学原理 a・b	富田忠義	123
企業論 a・b	西川純子	124
会計学 a・b	内倉滋	125
応用統計学 a・b	本田勝	126
標本調査論 a・b	松井敬	127
データベース論 a・b	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論 a・b	市川新	129
マルチメディア論 a・b	立田ルミ	130
マルチメディア論 a・b	森園子	131
プログラミング論 a・b	高柳敏子	132
プログラミング論 a・b	立田ルミ	133
プログラミング論 a・b	森園子	134

【経済学科 経営学科 共通】

【関連専門科目】

科目名	担当者	ページ
法学 a・b	内山良雄	135
政治学総論 a・b	杉田孝夫	136
民法 a・b (春学期 週 2 回授業)	遠藤研一郎	137
民法 a・b (春学期 週 2 回授業)	藤田貴宏	138
商法 a・b	藩阿憲	139
総合講座 a・b	経済学部	140
特殊講義 a・b 「経済学入門」	黒木亮	141
特殊講義 a 「経営学科で何が学べるか」	経営学科	142

科目名	担当者	ページ
特殊講義 a 「経済と法」	住田裕子	143
特殊講義 b 「企業と法」	住田裕子	143
特殊講義 a 「ビジネス法のケーススタディ」 (春)	住田裕子	144
特殊講義 b 「ビジネス法のケーススタディ」 (秋)	住田裕子	144
特殊講義 a 「ライフスタイルと日本経済」	森永卓郎	145
特殊講義 b 「現代日本の経済政策」	森永卓郎	145

【経営学科】

【学科専門科目】

科目名	担当者	ページ
経営学原理 a・b	黒川文子	122
経営学原理 a・b	富田忠義	123
経営戦略論 a・b	富田忠義	146
経営管理論 a・b	黒川文子	147
経営組織論 a・b	高松和幸	148
経営財務論 a・b	細田哲	149
国際経営論 a・b	小林哲也	150
経営史 a・b	柳 敦	151
日本経営史 a・b	奈倉文二	152
マーケティング論 a・b	大久保貞義	153
広告論 a・b	川又祥平	154
行動科学論 a・b	大久保貞義	155
保険論 a・b	岡村国和	156
貿易論 a・b	米山昌幸	157
証券市場論 a・b	高橋元	158
企業論 a・b	西川純子	124
ベンチャービジネス論 a・b	上坂卓郎	159
非営利組織マネジメント論 a・b	高松和幸	160
企業文化論 a (春学期のみ開講)	斉藤善久	161
研究・開発マネジメント a・b	日下泰夫	162
会計学原理 a・b	内倉滋	163
財務会計論 a・b	中村泰将	164
原価計算論 a・b	齋藤正章	165
上級簿記 a・b (商業)	井出健二郎	166
上級簿記 a・b (工業)	香取徹	167
国際会計論 a・b	五十嵐則夫	168
経営数学 a・b	本田勝	169
応用統計学 a・b	本田勝	126
標本調査論 a・b	松井敬	127
データベース論 a・b	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論 a・b	市川新	129
マルチメディア論 a・b	立田ルミ	130

科目名	担当者	ページ
マルチメディア論 a・b	森園子	131
情報システム論 a・b	今福啓	170
プログラミング論 a・b	高柳敏子	132
プログラミング論 a・b	立田ルミ	133
プログラミング論 a・b	森園子	134
情報社会論 a・b	柴崎信三	171
コンピュータネットワーク (春学期のみ)	富澤義一	45
コンピュータアーキテクチャ (秋学期のみ)	今福啓	172
情報と職業 a・b	小林哲也	173
アルゴリズム論 a・b	木村昌史	174

【経営学科】

【関連専門科目】

科目名	担当者	ページ
マクロ経済学 a・b	塩田尚樹	96
マクロ経済学 a・b	松本正信	97
ミクロ経済学 a・b	小林進	98
ミクロ経済学 a・b	藤山英樹	99
経済政策論 a・b	阿部正浩	101
日本経済論 a・b	波形昭一	107
日本経済史 a・b	奈倉文二	104
国際経済論 a・b	益山光央	106
金融経済論 a・b	斉藤美彦	115
財政学 a・b	野村容康	117
著作権法 a・b	長塚真琴	175

【経済学科 経営学科 共通】

【英語科目 再履修クラス】

科目名	担当者	ページ
English 111-a・b (再履修)	小澤喬	授業で説明
English 111-a・b (再履修)	金子久男	授業で説明
English 112-a・b (再履修)	喜田慶文	223

【留学生】

科目名	担当者	ページ
日本事情 a・b	櫻井彦/新井孝重	230
日本語Ⅱ a・b	野村美知子	231
日本語Ⅱ a・b	東中川かほる	232
日本語Ⅱ a・b	斎藤明	233

【2001～02 年度 入学者用】

【経済学科 経営学科 共通】

【学科基礎科目】

科目名	担当教員	ページ
経済学 a・b (再)	阿部正浩	35
経済学 a・b (再)	片岡晴雄	36
経済学 b・a (済・再) (春学期 b 科目 秋学期 a 科目)	小林進	37
経済学 a・b (済・営・再)	浜本光紹	38
経済学 a・b (済)	益山光央	39
経済学 a・b (営)	米山昌幸	40
統計学 a・b	富田誠	41
統計学 a・b	本田勝	42
統計学 a・b	松井敬	43
コンピュータ入門 a・b	各担当教員	44
プレゼンテーション技法 (秋学期のみ)	富澤儀一	45
経営学 a・b (済)	清水絹代	46
経営学 a・b (営)	上坂卓郎	47
経営学 a・b (営)	日下泰夫	48
経営学 a・b (営)	黒川文子	49
経営学 a・b (営)	小林哲也	50
経営学 a・b (営)	高松和幸	51
経営学 a・b (営)	富田忠義	52
簿記原理 a・b	井出健二郎	53
簿記原理 a・b	内倉滋	54
簿記原理 a・b	香取徹	55
簿記原理 a・b	金井繁雅	56
簿記原理 a・b	千葉啓司	57
簿記原理 a・b	中村泰将	58
簿記原理 a・b	細田哲	59
簿記原理 a・b	百瀬房徳	60
簿記原理 a・b	湯田雅夫	61
英語 I 講読 (再履修)	沼隆三	176
英語 I 総合 (再履修)	沼隆三	177
英語 I 会話 (再履修)	本田謙介	178
英語 II 講読 (再履修)	福田有美	179
英語 II 講読 (再履修)	佐竹由帆	180
英語 II 講読 (再履修)	三浦郁代	181
英語 II 講読 (上級) (再履修)	佐々木恵理	授業で説明
英語 II 総合 (再履修)	佐々木恵理	授業で説明
英語 II 総合 (再履修)	工藤政司	182
英語 II 総合 (再履修)	豊田宣是	183
英語 II 総合 (上級) (再履修)	豊田宣是	184

科目名	担当教員	ページ
高齢化社会論 a・b	奥山正司	63
社会学(通年)	岡村圭子	185
法学 a・b	内山良雄	135
日本国憲法(通年)	加藤一彦	186
現代文化論 a・b	柴崎信三	66
文化人類学(通年)	井上兼行	187
心理学(通年)	増田直衛	188
歴史学(日本史)(通年)	櫻井彦/新井孝重	189
歴史学(日本史)(通年)	丸浜昭	190
歴史学(東洋史)(通年)	熊谷哲也	191
哲学(通年)	谷口郁夫	192
文学(日本文学)(通年)	佐藤毅	193
文学(日本文学)(通年)	福沢健	194
文学(世界文学)(通年)	野々山ミチコ	195
文学(世界文学)(通年)	宮内尚美	196
国語(通年)	飯島一彦	197
国語(通年)(春学期 週2回授業)	小島幸枝	198
国語(通年)	佐藤毅	199
国語(通年)	千本健一郎	200
国語(通年)	福沢健	201
地球環境論(通年)	鈴木滋	202
数学 a・b	遠藤信	62
地理学(通年)	秋本弘章	203
地理学(通年)	犬井正	204
精神衛生論 a・b	中野隆史	64
医療・福祉概論 a・b	藤井賢一郎	65
スポーツ・健康論 a・b	和田智	205

【経済学科 経営学科 共通】

【経済・経営外国語】

科目名	担当教員	ページ
経済・経営外国語 I a・b	青木雅明	67
経済・経営外国語 I a・b	阿部正浩	68
経済・経営外国語 I a・b	井出健二郎	69
経済・経営外国語 I a・b	伊藤為一郎	70
経済・経営外国語 I a・b	岡村国和	71
経済・経営外国語 I a・b	奥山正司	72
経済・経営外国語 I a・b	金井繁雅	73
経済・経営外国語 I a・b	黒川文子	74
経済・経営外国語 I a・b	黒木亮	75
経済・経営外国語 I a・b	小林進	76

科目名	担当教員	ページ
経済・経営外国語Ⅰa・b	小林哲也	77
経済・経営外国語Ⅰa・b	齋藤正章	78
経済・経営外国語Ⅰa・b	塩田尚樹	79
経済・経営外国語Ⅰa・b	清水絹代	80
経済・経営外国語Ⅰa・b	千葉啓司	81
経済・経営外国語Ⅰa・b	中村泰將	82
経済・経営外国語Ⅰa・b	波形昭一	83
経済・経営外国語Ⅰa・b	野村容康	84
経済・経営外国語Ⅰa・b	本田浩邦	85
経済・経営外国語Ⅰa・b	益山光央	86
経済・経営外国語Ⅰa・b	松本栄次	87
経済・経営外国語Ⅰa・b	御園生眞	88
経済・経営外国語Ⅰa・b	百瀬房徳	89
経済・経営外国語Ⅰa・b	森 健	90
経済・経営外国語Ⅰa・b	山越徳	91
経済・経営外国語Ⅰa・b	山本美樹子	92
経済・経営外国語Ⅰa・b	米山昌幸	93
経済・経営外国語Ⅰa・b (ドイツ語)	大西健夫	94
経済・経営外国語Ⅰa・b (中国語) (春学期 週2回)	全載旭	95
経済・経営外国語Ⅰa・b (留学生用)	ジム・ブローガン	授業で説明
経済・経営外国語Ⅱa・b	岡村国和	224
経済・経営外国語Ⅱa・b	清水絹代	225
経済・経営外国語Ⅱa・b (中国語) (春学期 週2回)	全載旭	226
経済・経営外国語Ⅱa・b	野村容康	227
経済・経営外国語Ⅱa・b	米山昌幸	228

【経済学科】

【学科専門科目】

科目名	担当教員	ページ
マクロ経済学a・b	塩田尚樹	96
マクロ経済学a・b	松本正信	97
ミクロ経済学a・b	小林進	98
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	99
経済学史a・b	黒木亮	206
経済変動論a・b	松本正信	207
経済統計論a・b	松本正信	100
計量経済学a・b	藤山英樹	208
経済政策論a・b	阿部正浩	101
経済開発論a・b	千代浦昌道	102
環境政策論a・b	塩田尚樹	103
日本経済史a・b	奈倉文二	104
西洋経済史a・b	御園生眞	105
国際経済論a・b	益山光央	106
国際金融論a・b	山本美樹子	209

科目名	担当教員	ページ
日本経済論 a・b	波形昭一	107
アメリカ経済論 a・b	本田浩邦	108
ラテンアメリカ経済論 a・b	松本栄次	109
西ヨーロッパ経済論 a・b	大西健夫	110
東アジア・中国経済論 a・b	全載旭/駒形哲也	111
オセアニア経済論 a・b	森 健	112
アフリカ経済論 a・b	千代浦昌道	113
中東経済論 a・b	平井文子	114
金融経済論 a・b	斉藤美彦/須藤時仁	115
金融システム論 a・b	斉藤美彦/須藤時仁	116
財政学 a・b	野村容康	117
公共経済学 a・b	伊藤為一郎	118
地方財政論 a・b	伊藤為一郎	210
環境経済学 a・b	浜本光紹	119
経済地理学 a・b	犬井正	120
交通経済論 a・b	岡田博	121
産業組織論 a・b	青木雅明	211
産業構造論 a・b	山越徳	212

【経済学科】

【関連専門科目】

科目名	担当教員	ページ
経営学原理 a・b	黒川文子	122
経営学原理 a・b	富田忠義	123
企業論 a・b	西川純子	124
会計学 a・b	内倉滋	125
応用統計学 a・b	本田勝	126
標本調査論 a・b	松井敬	127
データベース論 a・b	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論 a・b	市川新	129
マルチメディア論 a・b	立田ルミ	130
マルチメディア論 a・b	森園子	131
プログラミング論 a・b	高柳敏子	132
プログラミング論 a・b	立田ルミ	133
プログラミング論 a・b	森園子	134

【経済学科 経営学科 共通】

【関連専門科目】

科目名	担当教員	ページ
政治学総論 a・b	杉田孝夫	136
民法 a・b (春学期 週2回授業)	遠藤研一郎	137

科目名	担当教員	ページ
民法a・b(春学期 週2回授業)	藤田貴宏	138
商法a・b	藩阿憲	139
総合講座(1)a・b	経済学部	140
特殊講義B「経済と法」(春学期)	住田裕子	143
特殊講義B「企業と法」(秋学期)	住田裕子	143
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(春学期)	住田裕子	144
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(秋学期)	住田裕子	144
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(春学期)	森永卓郎	145
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	145

【経営学科】
【学科専門科目】

科目名	担当教員	ページ
経営学原理a・b	黒川文子	122
経営学原理a・b	富田忠義	123
経営戦略論a・b	富田忠義	146
経営管理論a・b	黒川文子	147
経営組織論a・b	高松和幸	148
経営財務論a・b	細田哲	149
国際経営論a・b	小林哲也	150
経営史a・b	柳 敦	151
日本経営史a・b	奈倉文二	152
マーケティング論a・b	大久保貞義	153
広告論a・b	川又祥平	154
行動科学論a・b	大久保貞義	155
保険論a・b	岡村国和	156
貿易論a・b	米山昌幸	157
証券市場論a・b	高橋元	158
企業論a・b	西川純子	124
ベンチャービジネス論a・b	上坂卓郎	159
非営利組織マネジメント論a・b	高松和幸	160
企業文化論a(春学期のみ開講)	斉藤善久	161
研究・開発マネジメントa・b	日下泰夫	162
会計学原理a・b	内倉滋	163
財務会計論a・b	中村泰將	164
管理会計論a・b	香取徹	213
社会会計論a・b	湯田雅夫	214
原価計算論a・b	齋藤正章	165
会計監査論a・b	米田正巳	215
税務会計論a・b	山田浩一	216
経営分析論a・b	百瀬房徳	217
上級簿記a・b(商業)	井出健二郎	166

科目名	担当教員	ページ
上級簿記a・b(工業)	香取徹	167
国際会計論a・b	五十嵐則夫	168
経営数学a・b	本田勝	169
応用統計学a・b	本田勝	126
標本調査論a・b	松井敬	127
データベース論a・b	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論a・b	市川新	129
マルチメディア論a・b	立田ルミ	130
マルチメディア論a・b	森園子	131
情報検索論a・b	福田求	218
情報システム論a・b	今福啓	170
プログラミング論a・b	高柳敏子	132
プログラミング論a・b	立田ルミ	133
プログラミング論a・b	森園子	134
情報社会論a・b	柴崎信三	171
情報通信ネットワークa	今福啓	219
情報通信ネットワークb	三宅真	219
コンピュータネットワーク(春学期のみ)	富澤義一	45
コンピュータアーキテクチャ(秋学期のみ)	今福啓	172
情報と職業a・b	小林哲也	173
アルゴリズム論a・b	木村昌史	174
オペレーションズ・リサーチa・b	正道寺勉	220
システムズ・エンジニアリングa・b	天笠美知夫	221
経営システム工学a・b	日下泰夫	222

【経営学科】

【関連専門科目】

科目名	担当教員	ページ
マクロ経済学a・b	塩田尚樹	96
マクロ経済学a・b	松本正信	97
ミクロ経済学a・b	小林進	98
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	99
経済政策論a・b	阿部正浩	101
日本経済論a・b	波形昭一	107
日本経済史a・b	奈倉文二	104
国際経済論a・b	益山光央	106
金融経済論a・b	斉藤美彦	115
財政学a・b	野村容康	117
著作権法(通年)	長塚真琴	175

【2000 年度以前 入学者用】

〔科目名の見方について〕

入学年度により、科目名が異なる場合があります。

1998 年から 2000 年に入学した学生は、「98～00 科目名」を参照してください。

1997 年以前に入学した学生は、「97 以前科目名」を参照してください。

「97 以前科目名」については、「98～00 科目名」と異なる場合のみ、科目名を表示しています。特に表示が無い場合は、「98～00 科目名」と同一です。

また、1997 年以前に入学した学生は、履修できない科目があります。その場合は、「97 以前科目名」の欄に「97 不可」と表示しています。

【経済学科 経営学科 共通】

【学科基礎科目】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
経済学（再）		阿部正浩	35
経済学（再）		片岡晴雄	36
経済学（済・再）		小林進	37
経済学（済・営・再）		浜本光紹	38
経済学（済）		益山光央	39
経済学（営）		米山昌幸	40
統計学		富田誠	41
統計学		本田勝	42
統計学		松井敬	43
情報処理概論		各担当教員	44
経営学（済）		清水絹代	46
経営学（営）		上坂卓郎	47
経営学（営）		日下泰夫	48
経営学（営）		黒川文子	49
経営学（営）		小林哲也	50
経営学（営）		高松和幸	51
経営学（営）		富田忠義	52
簿記原理		井出健二郎	53
簿記原理		内倉滋	54
簿記原理		香取徹	55
簿記原理		金井繁雅	56
簿記原理		千葉啓司	57
簿記原理		中村泰將	58
簿記原理		細田哲	59

98~00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
簿記原理		百瀬房徳	60
簿記原理		湯田雅夫	61
英語 I 講読 (再履修)		沼隆三	176
英語 I 総合 (再履修)		沼隆三	177
英語 I 会話 (再履修)		本田謙介	178
英語 II 講読 (再履修)		福田有美	179
英語 II 講読 (再履修)		佐竹由帆	180
英語 II 講読 (再履修)		三浦郁代	181
英語 II 講読 (上級) (再履修)		佐々木恵理	授業で説明
英語 II 総合 (再履修)		佐々木恵理	授業で説明
英語 II 総合 (再履修)		工藤政司	182
英語 II 総合 (再履修)		豊田宣是	183
英語 II 総合 (上級) (再履修)		豊田宣是	184
高齢化社会論	老年社会学	奥山正司	63
社会学 (通年)	97 不可	岡村圭子	185
法学 (日本国憲法 2 単位を含む)		内山良雄	135
現代文化論	日本文化論 (社会)	柴崎信三	66
文化人類学 (通年)	97 不可	井上兼行	187
心理学 (通年)		増田直衛	188
歴史学 (日本史) (通年)		櫻井彦/新井孝重	189
歴史学 (日本史) (通年)		丸浜昭	190
歴史学 (東洋史) (通年)		熊谷哲也	191
哲学 (通年)	思想 (哲学)	谷口郁夫	192
文学 (日本文学) (通年)		佐藤毅	193
文学 (日本文学) (通年)		福沢健	194
文学 (世界文学) (通年)		野々山ミチコ	195
文学 (世界文学) (通年)		宮内尚美	196
国語 (通年)		飯島一彦	197
国語 (通年) (春学期 週 2 回授業)		小島幸枝	198
国語 (通年)		佐藤毅	199
国語 (通年)		千本健一郎	200
国語 (通年)		福沢健	201
地球環境論 (通年)	自然科学概論	鈴木滋	202
数学		遠藤信	62
地理学 (通年)		秋本弘章	203
地理学 (通年)		犬井正	204
精神衛生論	地域精神衛生論	中野隆史	64
医療・福祉概論	保健論	藤井賢一郎	65
スポーツ・健康論	体育理論	和田智	205

【経済学科 経営学科 共通】

【経済・経営外国語】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	青木雅明	67
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	阿部正浩	68
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	井出健二郎	69
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	伊藤為一郎	70
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	岡村国和	71
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	奥山正司	72
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	金井繁雅	73
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	黒川文子	74
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	黒木亮	75
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	小林進	76
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	小林哲也	77
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	齋藤正章	78
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	塩田尚樹	79
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	清水絹代	80
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	千葉啓司	81
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	中村泰将	82
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	波形昭一	83
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	野村容康	84
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	本田浩邦	85
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	益山光央	86
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	松本栄次	87
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	御園生眞	88
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	百瀬房徳	89
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	森 健	90
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	山越徳	91
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	山本美樹子	92
経済・経営外国語	外国書研究Ⅰ	米山昌幸	93
経済・経営外国語（ドイツ語）	外国書研究Ⅰ	大西健夫	94
経済・経営外国語（中国語）（春学期 週2回授業）		全載旭	95
経済・経営外国語（留学生用）	外国書研究Ⅰ	ジム・ブローガン	授業で説明
外国書購読	外国書研究Ⅱ	岡村国和	224
外国書購読	外国書研究Ⅱ	清水絹代	225
外国書購読（中国語）（春学期 週2回授業）		全載旭	226
外国書購読	外国書研究Ⅱ	野村容康	227
外国書購読	外国書研究Ⅱ	米山昌幸	228

【経済学科】
【学科専門科目】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
マクロ経済学	経済原論	塩田尚樹	96
マクロ経済学	経済原論	松本正信	97
ミクロ経済学	近代経済学	小林進	98
ミクロ経済学	近代経済学	藤山英樹	99
経済学史		黒木亮	206
経済変動論		松本正信	207
経済統計論	経済統計	松本正信	100
計量経済学		藤山英樹	208
経済政策論	経済政策	阿部正浩	101
経済開発論		千代浦昌道	102
日本経済史		奈倉文二	104
西洋経済史		御園生眞	105
国際経済論		益山光央	106
国際金融論		山本美樹子	209
日本経済論		波形昭一	107
北アメリカ経済論	地域経済論 (1)	本田浩邦	108
ラテンアメリカ経済論	地域経済論 (6)	松本栄次	109
西ヨーロッパ経済論	地域経済論 (2)	大西健夫	110
東アジア・中国経済論	97 不可	全載旭/駒形哲也	111
東南アジア・オセアニア経済論	地域経済論 (4)	森 健	112
中東・アフリカ経済論	地域経済論 (5)	千代浦昌道	113
中東・アフリカ経済論	地域経済論 (5)	平井文子	114
金融経済論	金融論	斉藤美彦/須藤時仁	115
金融システム論	97 不可	斉藤美彦/須藤時仁	116
財政学		野村容康	117
公共経済学		伊藤為一郎	118
地方財政論		伊藤為一郎	210
環境経済学	97 不可	浜本光紹	119
経済地理学	経済地理	犬井正	120
交通経済論		岡田博	121
産業組織論		青木雅明	211
産業構造論		山越徳	212

【経済学科】
【関連専門科目】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
経営学原理	経営学総論	黒川文子	122
経営学原理	経営学総論	富田忠義	123
企業論		西川純子	124

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
会計学		内倉滋	125
応用統計学		本田勝	126
標本調査論		松井敬	127
データベース論	情報処理論 (1)	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論	情報処理論 (2)	市川新	129
マルチメディア論	情報処理論 (3)	立田ルミ	130
マルチメディア論	情報処理論 (3)	森園子	131
プログラミング論		高柳敏子	132
プログラミング論		立田ルミ	133
プログラミング論		森園子	134

【経済学科 経営学科 共通】

【関連専門科目】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
政治学総論		杉田孝夫	136
民法 (春学期 週 2 回授業)		遠藤研一郎	137
民法 (春学期 週 2 回授業)		藤田貴宏	138
商法		藩阿憲	139
総合講座 (1)		経済学部	140
特殊講義B「経済と法」 (春学期)		住田裕子	143
特殊講義B「企業と法」 (秋学期)		住田裕子	143
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」 (春学期)		住田裕子	144
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」 (秋学期)		住田裕子	144
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」 (春学期)		森永卓郎	145
特殊講義B「現代日本の経済政策」 (秋学期)		森永卓郎	145

【経営学科】

【学科専門科目】

98～00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
経営学原理	経営学総論	黒川文子	122
経営学原理	経営学総論	富田忠義	123
経営戦略論	97 不可	富田忠義	146
経営管理論		黒川文子	147
経営組織論	97 不可	高松和幸	148
経営財務論		細田哲	149
国際経営論		小林哲也	150
経営史	一般経営史	柳 敦	151
日本経営史		奈倉文二	152
マーケティング論		大久保貞義	153
広告論		川又祥平	154
行動科学論		大久保貞義	155
保険論		岡村国和	156

98~00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
貿易論		米山昌幸	157
証券市場論		高橋元	158
企業論		西川純子	124
ベンチャー・ビジネス論	中小企業論	上坂卓郎	159
協同組合論		高松和幸	160
会計学原理		内倉滋	163
財務会計論		中村泰將	164
管理会計論		香取徹	213
社会会計論		湯田雅夫	214
原価計算論		齋藤正章	165
会計監査論		米田正巳	215
税務会計論		山田浩一	216
経営分析論		百瀬房徳	217
上級簿記		井出健二郎	166
上級簿記		香取徹	167
経営数学		本田勝	169
応用統計学		本田勝	126
標本調査論		松井敬	127
データベース論	情報処理論 (1)	高柳敏子	128
コンピュータ・シミュレーション論	情報処理論 (2)	市川新	129
マルチメディア論	情報処理論 (3)	立田ルミ	130
マルチメディア論	情報処理論 (3)	森園子	131
情報検索論		福田求	218
情報システム論		今福啓	170
プログラミング論		高柳敏子	132
プログラミング論		立田ルミ	133
プログラミング論		森園子	134
オペレーションズ・リサーチ a・b		正道寺勉	220
システムズ・エンジニアリング a・b		天笠美知夫	221
管理工学	97 不可	日下泰夫	222

【経営学科】

【関連専門科目】

98~00 科目名	97 以前科目名	担当教員	ページ
マクロ経済学	経済原論	塩田尚樹	96
マクロ経済学	経済原論	松本正信	97
ミクロ経済学	近代経済学	小林進	98
ミクロ経済学	近代経済学	藤山英樹	99
経済政策論	経済政策	阿部正浩	101
日本経済論		波形昭一	107
日本経済史		奈倉文二	104
国際経済論		益山光央	106
金融経済論	金融論	齊藤美彦	115
財政学		野村容康	117

03年度以降（春）	インターナショナルコミュニケーション I a	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部1年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>各担当者による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当者による。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(各担当者による。)</p>	

03年度以降（秋）	インターナショナルコミュニケーション I b	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部1年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>各担当者による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当者による。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(各担当者による。)</p>	

03 年度以降 (春)	インターナショナルコミュニケーションⅡa	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部2年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>各担当者による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当者による。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(各担当者による。)</p>	

03 年度以降 (秋)	インターナショナルコミュニケーションⅡb	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部2年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>各担当者による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当者による。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(各担当者による。)</p>	

03年度以降 01～02年度（春）	基礎演習（春期）	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわたり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。</p> <p>講義概要 テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があります。受講者はOJTを通して「技」を盗むこととなります。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジюмеを作成してもらい、報告してもらいます。また、自分の興味のあることについてレポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します</p> <p>◆ 評価方法 提出するレジюмеとレポートの内容、および授業中の発言に基づき評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 「新版・考える技術・書く技術」バーバラ・ミント（ダイヤモンド社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 (教員がレジюмеを作成、報告します) 3. 第2章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 4. 第3章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 5. 第4章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 6. 予備日 7. 第5章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 8. 第6章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 9. 第7章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 10. 第8章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 11. 第9章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 12. レポートの発表 (全員によるレポートの報告会) 	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	基礎演習（秋期）	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわたり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。</p> <p>講義概要 テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があります。受講者はOJTを通して「技」を盗むこととなります。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジюмеを作成してもらい、報告してもらいます。また、自分の興味のあることについてレポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します</p> <p>◆ 評価方法 提出するレジюмеとレポートの内容、および授業中の発言に基づき評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 「新版・考える技術・書く技術」バーバラ・ミント（ダイヤモンド社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 (教員がレジюмеを作成、報告します) 3. 第2章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 4. 第3章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 5. 第4章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 6. 予備日 7. 第5章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 8. 第6章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 9. 第7章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 10. 第8章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 11. 第9章 (受講生がレジюмеを作成、報告します) 12. レポートの発表 (全員によるレポートの報告会) 	

基礎演習 a	担当者	伊藤爲一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 わが国はGDPを越えるほどの財政赤字に苦しんでいます、少子高齢化社会をむかえて公共部門の課題は一層重くなりそうです。公共部門の果たしている役割りの研究を通して日本経済の特徴を探りたいと思います。</p> <p>◆評価方法 演習での発言、出席状況等を総合的に判断して評価します</p> <p>◆テキスト、参考文献 未定</p>	<p>◆授業計画</p>	

基礎演習 b	担当者	伊藤爲一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>後期：前期と同じ。</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降(春) 01~02 年度(春)	基礎演習 (春期)	担当者	犬井 正
---------------------------	-----------	-----	------

<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 大学での学際的、専門的知識を修得できるようになるためにはどのような取り組みが効果的であるのかを理解し、それを発見することにある。将来、各専門領域やコースに分かれて、それぞれの専門科目の講義を受ける際に必要となる基礎的・基本的方法を習得する。</p> <p>講義概要 本講義は問題意識をもちながら文献を購読する方法、学習や研究テーマの見つけ方、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーションの技法等について実習をまじえながらすすめていく。問題意識の発見から効果的な相手への伝え方の技術を磨くため討論を何回か行い、適当なトピックスに関する小レポートを作成したり、他の受講者の前で実際にプレゼンテーションを行ったりする方法を採用する。</p> <p>◆ 評価方法 講義への出席状況と小レポートの提出、発表・討論などの貢献度を総合的に判定する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストは特になし。必要に応じて資料を配付する。参考文献は適宜、提示する。</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1 オリエンテーション - 大学への適応</td></tr> <tr><td>2 大学でなにをどのように学ぶか (1) - 講義への対応と心構え</td></tr> <tr><td>3 経済学部でなにをどのように学ぶか (1) - 社会科学入門</td></tr> <tr><td>4 経済学部でなにをどのように学ぶか (2) - 人文科学・自然科学・野外科学との協働</td></tr> <tr><td>5 調査・研究の方法 (1) 図書館の利用 - 文献収集方法</td></tr> <tr><td>6 調査・研究の方法 (2) 文献解題と学習・研究テーマの発見</td></tr> <tr><td>7 調査・研究の方法 (3) コンピュータの利用 - 文献検索・資料収集</td></tr> <tr><td>8 調査・研究の方法 (4) コンピュータの利用 - 資料分析</td></tr> <tr><td>9 レポートの作成 (1)</td></tr> <tr><td>10 レポートの作成 (2)</td></tr> <tr><td>11 レポートの発表 プレゼンテーションの方法</td></tr> <tr><td>12 まとめ</td></tr> </table>	1 オリエンテーション - 大学への適応	2 大学でなにをどのように学ぶか (1) - 講義への対応と心構え	3 経済学部でなにをどのように学ぶか (1) - 社会科学入門	4 経済学部でなにをどのように学ぶか (2) - 人文科学・自然科学・野外科学との協働	5 調査・研究の方法 (1) 図書館の利用 - 文献収集方法	6 調査・研究の方法 (2) 文献解題と学習・研究テーマの発見	7 調査・研究の方法 (3) コンピュータの利用 - 文献検索・資料収集	8 調査・研究の方法 (4) コンピュータの利用 - 資料分析	9 レポートの作成 (1)	10 レポートの作成 (2)	11 レポートの発表 プレゼンテーションの方法	12 まとめ
1 オリエンテーション - 大学への適応													
2 大学でなにをどのように学ぶか (1) - 講義への対応と心構え													
3 経済学部でなにをどのように学ぶか (1) - 社会科学入門													
4 経済学部でなにをどのように学ぶか (2) - 人文科学・自然科学・野外科学との協働													
5 調査・研究の方法 (1) 図書館の利用 - 文献収集方法													
6 調査・研究の方法 (2) 文献解題と学習・研究テーマの発見													
7 調査・研究の方法 (3) コンピュータの利用 - 文献検索・資料収集													
8 調査・研究の方法 (4) コンピュータの利用 - 資料分析													
9 レポートの作成 (1)													
10 レポートの作成 (2)													
11 レポートの発表 プレゼンテーションの方法													
12 まとめ													

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>	<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>		

03 年度以降 01～02 年度 (春)	基礎演習 (春期)	担当者	今福 啓
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータを用いてデータ処理を行う際には、市販されているソフトに搭載されたマクロと呼ばれる機能を利用して行うことが、幅広く行われています。しかし、大量のデータをより高速に処理する際には、開発言語を用いて、データ処理を行う方法（アルゴリズム）をプログラム化することが、処理を円滑に行うための近道です。</p> <p>この授業では、Windows や UNIX といったオペレーティングシステムに依存しない開発言語である Java を使用して、データ処理の基本と、ソフトウェアの作成の基礎を学びます。Java の文法の基礎を学習し、簡単な統計処理に関するプログラムを作成して、最終的には一人一人が簡単なデータ処理を実行するプログラムを作成して、アルゴリズムを考え、作成することの楽しさを実感できることを目的とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験は行わず、授業の出席と、提出された課題により評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特にありません。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. Java の開発環境について 3. Java の文法の基礎 1 4. Java の文法の基礎 2 5. Java の文法の基礎 3 6. Java の文法の基礎 4 7. プログラム化しやすいアルゴリズムとは 8. アルゴリズムを考えるーその 1 9. アルゴリズムを考えるーその 2 10. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説 1 11. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説 2 12. 授業のまとめ 	

03 年度以降 01～02 年度 (秋)	基礎演習 (秋期)	担当者	今福 啓
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータを用いてデータ処理を行う際には、市販されているソフトに搭載されたマクロと呼ばれる機能を利用して行うことが、幅広く行われています。しかし、大量のデータをより高速に処理する際には、開発言語を用いて、データ処理を行う方法（アルゴリズム）をプログラム化することが、処理を円滑に行うための近道です。</p> <p>この授業では、Windows や UNIX といったオペレーティングシステムに依存しない開発言語である Java を使用して、データ処理の基本と、ソフトウェアの作成の基礎を学びます。Java の文法の基礎を学習し、簡単な統計処理に関するプログラムを作成して、最終的には一人一人が簡単なデータ処理を実行するプログラムを作成して、アルゴリズムを考え、作成することの楽しさを実感できることを目的とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験は行わず、授業の出席と、提出された課題により評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特にありません。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. Java の開発環境について 3. Java の文法の基礎 1 4. Java の文法の基礎 2 5. Java の文法の基礎 3 6. Java の文法の基礎 4 7. プログラム化しやすいアルゴリズムとは 8. アルゴリズムを考えるーその 1 9. アルゴリズムを考えるーその 2 10. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説 1 11. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説 2 12. 授業のまとめ 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（春期）	担当者	大久保 貞義
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代は個性を確立することを求められている時代である。魅力ある個性を形成するためには、知識や知性を吸収しなければならない。若々しく新鮮な感覚で、知の世界を各自が形成することを目標とするのが大久保ゼミである。</p> <p>豊かな発想は、知的訓練が無いと継続して新しい考え方や新鮮なアイデアは生まれてこない。つまらない話は半分聞いた振りをして、後の半分で別なことを考えている。誰かが考えることは考えない。他人と違った方法で考える。</p> <p>ゼミは家族的雰囲気の中で行われる。夏休みの7月に合宿を行うが、必ず参加しなければならない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、テストによる。3回以上欠席すると、テストを受けられない場合もある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業時に指示する。 多くの本を読むことになる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミの目標と学習方法について講義する 2 努力しないで頭が良くなる方法論について 3 五感を使って学び、六感を養う 4 五月病対策について考える （忙しくない時に発病する病気の対策） 5 魅力的な人間になる方法 学問は遊び、遊んで成功する方法を習得する 6 大量の知識と知性の現代的活用法 7 スピード・リーディング、ブレン・ストーミング、ディベートの現実社会への適応 8 二次元的思考と一次的思考 9 人生の快楽を追求する方法（創造性の喜び） 10 脳細胞活性化のためのトレーニング 11 未来が読めない男と現在が分からない女の脳細胞 12 生まれた時の社会と死ぬ時の社会の変化 （人間の魅力、快楽、幸福の変容過程の研究） 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋期）	担当者	大久保 貞義
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代は個性を確立することを求められている時代である。魅力ある個性を形成するためには、知識や知性を吸収しなければならない。若々しく新鮮な感覚で、知の世界を各自が形成することを目標とするのが大久保ゼミである。</p> <p>豊かな発想は、知的訓練が無いと継続して新しい考え方や新鮮なアイデアは生まれてこない。つまらない話は半分聞いた振りをして、後の半分で別なことを考えている。誰かが考えることは考えない。他人と違った方法で考える。</p> <p>ゼミは家族的雰囲気の中で行われる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、テストによる。3回以上欠席すると、テストを受けられない場合もある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業時に指示する。 多くの本を読むことになる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミの目標と学習方法について講義する 2 努力しないで頭が良くなる方法論について 3 五感を使って学び、六感を養う 4 五月病対策について考える （忙しくない時に発病する病気の対策） 5 魅力的な人間になる方法 学問は遊び、遊んで成功する方法を習得する 6 大量の知識と知性の現代的活用法 7 スピード・リーディング、ブレン・ストーミング、ディベートの現実社会への適応 8 二次元的思考と一次的思考 9 人生の快楽を追求する方法（創造性の喜び） 10 脳細胞活性化のためのトレーニング 11 未来が読めない男と現在が分からない女の脳細胞 12 生まれた時の社会と死ぬ時の社会の変化 （人間の魅力、快楽、幸福の変容過程の研究） 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（春期）	担当者	岡村 国和
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講義の目的は、1年生が大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。経済学部の学生として何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持ち、さらに将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、いま学んでいる講義がこれから専攻する他の専門科目にどのように関連しているのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。</p> <p>第2学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>講義参加者の平常点により行ないますので、特に期末試験などは予定していません。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 6 講義のまとめ 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋期）	担当者	岡村 国和
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この演習では、大学での講義を受ける際に必要な準備や組立てテーマの組立て方などを講義します。また、日頃あまり考えることがない時事問題などについても取り上げ、皆で考えていきます。</p> <p>春学期と同様に、第2学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学や経営学の基礎的な話が分かるように工夫した講義を行います。</p> <p>また、問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技法などについて講義します。</p> <p>なお、この科目は自分で考える習慣を付けることが大切な科目なので、日頃から新聞やニュース等にこまめに目を通しておくことが必要だと思います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>講義参加者の平常点により行ないますので、特に期末試験などは予定していません。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 6 講義のまとめ 	

03 年度以降 01～02 年度 (春)	基礎演習 a (春期)	担当者	香取 徹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>基礎演習は、経済学部 of 学生として知っておきたいスキルを身に付けて、2 年生以降の専門科目を勉強するための準備をすることが目的です。つまり、情報を集める方法、情報を整理する方法、調べること、観ること、そして考えるといったスキルを身に付けることです。</p> <p>教室、パソコン室、ビデオ室その他毎回テーマにあった教室に移動します。そこで皆さんが積極的に参加してください。その活動を私が支援するスタイルで授業を進めていきます。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 調べよう、探そう。(1) 図書館 3. 調べよう、探そう。(2) インターネット 4. 調べよう、探そう。(3) 日経新聞 5. 情報を整理しよう。(1) ノートをとろう 6. 情報を整理しよう。(2) 本を読もう 7. ビデオを観て考えよう。(1) 英語は共通語 8. ビデオを観て考えよう。(2) 会社で何が起きているか 9. ビデオを観て考えよう。(3) 世界では何が起きているか 10. 発表しよう。(1) 11. 発表しよう。(2) 12. まとめ 	
出席して参加することで評価します			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	基礎演習(春期)	担当者	上坂卓郎
◆講義目的、講義概要 この講義は経済学部の学生が、現実の経済や企業について実証的に勉強を進める上で最初に必要になる経済統計と企業の財務情報に関する知識を身につけることを意図している。 合わせて、資料を作成し、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、2年生から始まる演習Ⅰの事前準備を行う。さらにデータを加工してレポートを作成する。 授業計画やパソコン演習の日程は受講生数や講義の進捗に合わせて変更がありうる。 最近遅参や欠席を当然のようにする学生がいる。まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください。		◆授業計画 1 はじめに、学習の進め方 2 読み方・書き方 3 経済記事の読み方 4 経済統計の見方(1) 5 経済統計の見方(2) 6 経済統計の見方(3) 7 エクセルによる経済統計の加工実習 8 企業の見方(1) 9 企業の見方(2) 10 企業の見方(3) 11 エクセルによる企業分析実習(1) 12 エクセルによる企業分析実習(2)	
◆評価方法 毎回出席と課題作成・発表は必須事項。原則欠席は不可			
◆テキスト、参考文献 開講時に指示する			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	基礎演習(秋期)	担当者	上坂卓郎
◆講義目的、講義概要 基礎演習春期と同様		◆授業計画 基礎演習春期と同様	
◆評価方法 基礎演習春期と同様			
◆テキスト、参考文献 基礎演習春期と同様			

03年度以降 01～02年度 (春)	基礎演習 (春期)	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学に入学して環境変化にとまどっていませんか？ レポート・論文の作成方法は？ 大学では何を学ぶべきか？ どのような能力を修得すべきか？ 大学生活の過ごし方は？ 実社会で必要とされる問題解決能力とは？ 夢の効用とは？ そんな疑問を皆さんと一緒に考えていく演習にしたいと考えています。</p> <p>今後の大学生活を方向づけるうえで重要と考えられることごとを取り上げ、教員からの課題提起、グループ討論、グループ発表・討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。自ら考え、他の人とコミュニケーションをはかり、自分の考え方を明確にさせていく能力の修得を重視しています。皆さんのこれからの大学生活を方向づけるうえで、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。説明はパソコンによるプレゼンテーション (プレゼン) によって行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>2回の提出レポートを中心に、平常点・出席点を加味して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特に使用しません。必要に応じて資料を配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとプレゼンテーション：ガイダンス、レポート・論文の書き方 (プレゼンによる講義) 2 大学で学ぶとは1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 3 大学で学ぶとは2：グループ討議、発表のまとめ 4 大学で学ぶとは3：グループ発表・討議 5 変化の時代を生き抜く知恵1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 6 変化の時代を生き抜く知恵2：グループ討議、まとめ 7 変化の時代を生き抜く知恵3：グループ発表・討議 8 私の夢：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 9 私の夢：グループ発表・討議 10 実社会で必要とされる問題解決能力とは1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 11 実社会で必要とされる問題解決能力とは2：まとめとプレゼンの準備 12 実社会で必要とされる問題解決能力とは3：グループ発表 (プレゼン)・討議 	
03年度以降 01～02年度 (秋)	基礎演習 (秋期)	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学に入学して環境変化にとまどっていませんか？ レポート・論文の作成方法は？ 大学では何を学ぶべきか？ どのような能力を修得すべきか？ 大学生活の過ごし方は？ 実社会で必要とされる問題解決能力とは？ 夢の効用とは？ そんな疑問を皆さんと一緒に考えていく演習にしたいと考えています。</p> <p>今後の大学生活を方向づけるうえで重要と考えられることごとを取り上げ、教員からの課題提起、グループ討論、グループ発表・討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。自ら考え、他の人とコミュニケーションをはかり、自分の考え方を明確にさせていく能力の修得を重視しています。皆さんのこれからの大学生活を方向づける上で、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。説明はパソコンによるプレゼンテーション (プレゼン) によって行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>2回の提出レポートを中心に、平常点・出席点を加味して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特に使用しません。必要に応じて資料を配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとプレゼンテーション：ガイダンス、レポート・論文の書き方 (プレゼンによる講義) 2 大学で学ぶとは1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 3 大学で学ぶとは2：グループ討議、発表のまとめ 4 大学で学ぶとは3：グループ発表・討議 5 変化の時代を生き抜く知恵1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 6 変化の時代を生き抜く知恵2：グループ討議、まとめ 7 変化の時代を生き抜く知恵3：グループ発表・討議 8 私の夢：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 9 私の夢：グループ発表・討議 10 実社会で必要とされる問題解決能力とは1：教員からの課題提起 (プレゼン)、グループ討議 11 実社会で必要とされる問題解決能力とは2：まとめとプレゼンの準備 12 実社会で必要とされる問題解決能力とは3：グループ発表 (プレゼン)・討議 	

03年度以降(春) 01～02年度(春)	基礎演習(春期)	担当者	黒川文子
◆講義目的、講義概要 今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。		◆授業計画	
◆評価方法 出席と授業態度によって、総合的に評価する。		1 資料収集方法 2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3 配布資料を通してのディスカッション(1) 4 配布資料を通してのディスカッション(2) 5 工場見学 6 フィールドワーク 7 フィールドワークの成果の発表(1) 8 フィールドワークの成果の発表(2) 9 配布資料を通してのディスカッション(3) 10 配布資料を通してのディスカッション(4) 11 配布資料を通してのディスカッション(5) 12 配布資料を通してのディスカッション(6)	
◆テキスト、参考文献 丸山恵也編著『ボルボ・システム』多賀出版、2002年。			

03年度以降(秋) 01～02年度(秋)	基礎演習(秋期)	担当者	黒川文子
◆講義目的、講義概要 今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。		◆授業計画	
◆評価方法 出席と授業態度によって、総合的に評価する。		1 資料収集方法 2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3 配布資料を通してのディスカッション(1) 4 配布資料を通してのディスカッション(2) 5 工場見学 6 フィールドワーク 7 フィールドワークの成果の発表(1) 8 フィールドワークの成果の発表(2) 9 配布資料を通してのディスカッション(3) 10 配布資料を通してのディスカッション(4) 11 配布資料を通してのディスカッション(5) 12 配布資料を通してのディスカッション(6)	
◆テキスト、参考文献 丸山恵也編著『ボルボ・システム』多賀出版、2002年。			

03年度以降 01～02年度（春）	基礎演習（春期）	担当者	黒木 亮
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標 本演習の目的は、大学での学習に必要な不可欠なスキルを身につけることにある。独力で「読み、考え、書く」ことができるようになるために、まず読解力を磨くきっかけを提供したい。</p> <p>講義の概要 1回の授業で、テキストを1章ずつ読み進める。あらかじめ担当者を決めず、参加者全員で例題を解き、解答について討論しながら授業を進めていく。</p>			
◆ 評価方法			
出席状態、議論への参加姿勢や発言内容。			
◆テキスト、参考文献			
野矢茂樹『論理トレーニング』産業図書。			

03年度以降 01～02年度（秋）	基礎演習（秋期）	担当者	黒木 亮
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標 本演習の目的は、大学での学習に必要な不可欠なスキルを身につけることにある。独力で「読み、考え、書く」ことができるようになるために、まず読解力を磨くきっかけを提供したい。</p> <p>講義の概要 1回の授業で、テキストを1章ずつ読み進める。あらかじめ担当者を決めず、参加者全員で例題を解き、解答について討論しながら授業を進めていく。</p>			
◆ 評価方法			
出席状態、議論への参加姿勢や発言内容。			
◆テキスト、参考文献			
野矢茂樹『論理トレーニング』産業図書。			

03 年度以降(春) 基礎演習(春期) 01 ~ 02 年度(春) 00 年度以前	担当者	小林 進
講義目的、講義概要 少人数クラスで経済学の基礎力を修得することを目指し、英語または日本語の初級レベルの経済学文献の読破を達成したい。 評価方法 平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末のレポートを加味して評価する テキスト 未定(プリント配布の予定)	授業計画 受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる	

03 年度以降(秋) 基礎演習(秋期) 01 ~ 02 年度(秋) 00 年度以前	担当者	小林 進
講義目的、講義概要 少人数クラスで経済学の基礎力を修得することを目指し、英語または日本語の初級レベルの経済学文献の読破を達成したい。 評価方法 平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末のレポートを加味して評価する テキスト 未定(プリント配布の予定)	授業計画 受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	基礎演習(春季)	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>大学生としての書物の読み方、および、発表の仕方を学ぶのが目的です。「ミクロ経済学」のテキストを題材とします。ときには、1ページの記述の理解に90分以上費やすこともあるでしょう。高校までの勉強との違いを体で味わってみたいと思います。</p> <p>事前に担当者を決めて順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>なお、参加者全員の理解を前提として進度を調整します。右の計画は最速の場合と理解してください。</p> <p>授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業方針の確認 2 経済分析の基礎用語 3 数学的用語 4 消費者行動の概観 5 選好と効用関数 6 効用最大化と需要 7 需要の変化と財の分類 8 交換の理論 9 生産者行動の概観 10 費用と供給 11 生産技術と費用 12 生産要素の需要 	
◆ 評価方法			
<p>担当部分の報告 50点、授業への参加態度 50点。ただし、欠席一回 10点、遅刻一回 5点減点。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>武隈慎一(1999)『ミクロ経済学(増補版)』新世社</p>			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	基礎演習(秋季)	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>大学生としての書物の読み方、および、発表の仕方を学ぶのが目的です。「ミクロ経済学」のテキストを題材とします。ときには、1ページの記述の理解に90分以上費やすこともあるでしょう。高校までの勉強との違いを体で味わってみたいと思います。</p> <p>事前に担当者を決めて順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>なお、参加者全員の理解を前提として進度を調整します。右の計画は最速の場合と理解してください。</p> <p>授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業方針の確認 2 経済分析の基礎用語 3 数学的用語 4 消費者行動の概観 5 選好と効用関数 6 効用最大化と需要 7 需要の変化と財の分類 8 交換の理論 9 生産者行動の概観 10 費用と供給 11 生産技術と費用 12 生産要素の需要 	
◆ 評価方法			
<p>担当部分の報告 50点、授業への参加態度 50点。ただし、欠席一回 10点、遅刻一回 5点減点。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>武隈慎一(1999)『ミクロ経済学(増補版)』新世社</p>			

03 年度以降(春) 01～02 年度(春) 00 年度以前	基礎演習(春期)	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、グループで調査できることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで清書する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス 2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット 3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能 4 ワープロによる発表 調査内容の発表 5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン 6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能 7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表 8 データの表示方法 効果的な表示 9 プレゼンテーションツールの利用（1） PowerPoint の利用法 10 プレゼンテーションツールの利用（2） PowerPoint 応用 11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価 	
◆ 評価方法			
授業内での発表 40%、レポート 60%			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指定			

03 年度以降(秋) 01～02 年度(秋) 00 年度以前	基礎演習(秋期)	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、グループで調査できることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで清書する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス 2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット 3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能 4 ワープロによる発表 調査内容の発表 5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン 6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能 7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表 8 データの表示方法 効果的な表示 9 プレゼンテーションツールの利用（1） PowerPoint の利用法 10 プレゼンテーションツールの利用（2） PowerPoint 応用 11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価 	
◆ 評価方法			
授業内での発表 40%、レポート 60%			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指定			

03年度以降 01～02年度（春）	基礎演習（春期）	担当者	千代浦昌道
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>講義の目標</u> 充実した大学生活を送るための基礎的知識・情報・ノウハウを短期間に修得する。</p> <p><u>講義概要</u> 右の授業計画に沿って進めるが、授業日の「日本経済新聞」（朝刊）をかならず持参すること。新聞に目を通してから、その日の授業計画に入る。</p> <p>◆ 評価方法 出席状況、授業態度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業の進展に従って参考書などを指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p><u>授業計画</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業について 2. ①日経を読む。②社会科学とはどんな科学か？ ③経済学とはどんな学問か？ 3. ①日経を読む。②経済と経済学の基礎知識とキーワード 5. ①日経を読む。②専門書・文献の探し方・読み方、 ③図書館の上手な利用法など 6. ①日経を読む。②統計資料の種類・特徴・見方・ 利用法など 7. ①日経を読む。②インターネット情報収集法、③ 簡単な統計処理法、グラフの書き方など 8. ①日経を読む。②上手なノートやメモのとり方 9. ①日経を読む。②レポート・論文のテーマの見 つけ方、書き方・まとめ方 10. ①日経を読む。②テーマを決めてディベートす る 11. ①日経を読む。②外国語専門書・文献の読み方・ 利用法 12. ①日経を読む。②経済・経営英語の基礎知識 	

03年度以降 01～02年度（秋）	基礎演習（秋期）	担当者	千代浦昌道
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><u>講義の目標</u> 充実した大学生活を送るための基礎的知識・情報・ノウハウを短期間に修得する。</p> <p><u>講義概要</u> 右の授業計画に沿って進めるが、授業日の「日本経済新聞」（朝刊）をかならず持参すること。新聞に目を通してから、その日の授業計画に入る。</p> <p>◆ 評価方法 出席状況、授業態度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業の進展に従って参考書などを指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p><u>授業計画</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の授業について 2. ①日経を読む。②社会科学とはどんな科学か？ ③経済学とはどんな学問か？ 3. ①日経を読む。②経済と経済学の基礎知識とキーワード 5. ①日経を読む。②専門書・文献の探し方・読み方、 ③図書館の上手な利用法など 6. ①日経を読む。②統計資料の種類・特徴・見方・ 利用法など 7. ①日経を読む。②インターネット情報収集法、③ 簡単な統計処理法、グラフの書き方など 8. ①日経を読む。②上手なノートやメモのとり方 9. ①日経を読む。②レポート・論文のテーマの見 つけ方、書き方・まとめ方 10. ①日経を読む。②テーマを決めてディベートす る 11. ①日経を読む。②外国語専門書・文献の読み方・ 利用法 12. ①日経を読む。②経済・経営英語の基礎知識 	

03年度以降 01～02年度 (春)	基礎演習 (春期)	担当者	全 載旭
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。</p> <p>そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に行っている経済問題に応用している。</p> <p>1. 日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。</p> <p>2. 与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。</p> <p>(自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業の平常の参加状況 (出欠)、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要に応じて配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の長期不況 2. デフレ 3. ゼロ金利 4. 銀行の危機 5. 財政の危機 6. 日本経済の課題 7. 日本経済の展望 8. アジア経済の動向 (Ⅰ) 9. アジア経済の動向 (Ⅱ) 10. レジュメの作成 11. レジュメの作成及び発表の練習 (Ⅰ) 12. レジュメの作成及び発表の練習 (Ⅱ) 	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 01～02 年度	基礎演習（春期）	担当者	中野隆史
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学で何を学ぶか、どのようにして充実した大学生生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが必要である。</p> <p>学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料情報の検索の仕方、資料情報の整理分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。また、テキスト（医療経済および社会福祉に関する入門書とレポートの書き方の本）の輪読を行う。担当の箇所についてレジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業の際に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 研究・学習テーマの見つけ方 3 図書館の使い方 4 文献の探し方 5 インターネットによる資料情報の検索 6 パソコンによる資料情報の整理分析 7 自分の考えをまとめ結論を導く 8 レポートの書き方 9 論文の書き方 10 口頭発表の仕方 11 討論の仕方 12 まとめ 	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p> </p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p> </p>		<p>◆授業計画</p> <p> </p>	

03年度以降 01~02年度 (春)	基礎演習(春期)	担当者	中村泰將
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>私の「基礎ゼミ」は、専門科目を勉強することはない。専門科目は2年生以上で勉強する。1年生が高校での受験勉強の生活から大学の生活環境に馴染むためには、「学ぶ方法」を学ぶことが重要である。具体的には、以下の5つに集約されます。</p> <p>①大学においてどのように学ぶかの「学ぶ姿勢」(attitude)を学びます。</p> <p>②自分のいいたいことをどのように表現・発表(プレゼンテーション)するかを学びます。</p> <p>③現代社会のさまざまな問題について「切り口」(access)の方法を学びます。</p> <p>④どのような新聞・雑誌・著書をどのように読んだらよいかの「読み方」を学びます。</p> <p>⑤レポートの「書き方」を学びます。</p> <p>授業内容： (1)毎週、新聞を読んで、自分の興味をもったトピックスを読んでレポートを作成する。 (2)毎週、2, 3分程度の発表(プレゼンテーション)を行ないます。 (3)文献の検索、収集方法を学びます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業で与えられた課題について取り組む姿勢を評価する。3回以上の欠席は、評価 F である。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業の始めに提示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介 2. 図書館の利用の仕方を学ぶ。 3. 新聞のトピックスを選択し、それについて自分の意見を加えたりレポートの作成を学ぶ。 4. 同上。 5. 同上。 6. 工場見学を企画する。他のゼミと合同で行なう。 7. 証券取引所の見学を行なう。 8. 「電通」の「アド・ミュージアム」を見学する。 9. ゼミの選び方。コースの選び方、授業科目の選択の仕方を学ぶ。 10. 将来の進路について、ゼミ同士で討論する。 11. 選んだ「著書の読み方」とそれについての意見を述べる訓練をする。 12. 同上。 	

03年度以降 01~02年度 (秋)	基礎演習(秋期)	担当者	中村泰將
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>私の「基礎ゼミ」は、専門科目を勉強することはない。専門科目は2年生以上で勉強する。1年生が高校での受験勉強の生活から大学の生活環境に馴染むためには、「学ぶ方法」を学ぶことが重要である。具体的には、以下の5つに集約されます。</p> <p>①大学においてどのように学ぶかの「学ぶ姿勢」(attitude)を学びます。</p> <p>②自分のいいたいことをどのように表現・発表(プレゼンテーション)するかを学びます。</p> <p>③現代社会のさまざまな問題について「切り口」(access)の方法を学びます。</p> <p>④どのような新聞・雑誌・著書をどのように読んだらよいかの「読み方」を学びます。</p> <p>⑤レポートの「書き方」を学びます。</p> <p>授業内容： (1)毎週、新聞を読んで、自分の興味をもったトピックスを読んでレポートを作成する。 (2)毎週、2, 3分程度の発表(プレゼンテーション)を行ないます。 (3)文献の検索、収集方法を学びます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業で与えられた課題について取り組む姿勢を評価する。3回以上の欠席は、評価 F である。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業の始めに提示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介 2. 図書館の利用の仕方を学ぶ。 3. 新聞のトピックスを選択し、それについて自分の意見を加えたりレポートの作成を学ぶ。 4. 同上。 5. 同上。 6. 工場見学を企画する。他のゼミと合同で行なう。 7. 証券取引所の見学を行なう。 8. 「電通」の「アド・ミュージアム」を見学する。 9. ゼミの選び方。コースの選び方、授業科目の選択の仕方を学ぶ。 10. 将来の進路について、ゼミ同士で討論する。 11. 選んだ「著書の読み方」とそれについての意見を述べる訓練をする。 12. 同上。 	

03 年度以降 (春)	基礎演習 (春期)	担当者	奈倉 文二
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「9・11」から「アフガン攻撃」「イラク戦争」という世界情勢の急展開と遂に日本「自衛隊」(という名の軍隊)のイラク派遣(2004年2月現在)。ここ二・三年のアメリカ(政府・軍)の世界戦略は一体何をねらっているのか。社会科学を学ぶ者にとって、決して無関心ではられない状況に立ち至っている。</p> <p>そこで本演習では、「イラク戦争」に至る過程を検討しながら、その背後にあるアメリカの世界戦略を吟味しようと思う。できればアメリカ「軍産複合体」の実態や日本の兵器関連産業についても調べ、考えてゆきたい。</p> <p>テキスト、参考文献(雑誌・新聞・インターネット情報も含む)の下調べ、演習時間中の報告、質疑応答への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的に勉学する素地を培う。教師自身もこの分野は専門ではないので、なおさら学生諸君自身が自分で調べ、考えることが重要。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>和田和幸『ブッシュの終わりなき世界戦争』講談社(文庫版)、ほか(右記参照)。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 序章 イラクが狙われた黒い理由 3 第1章 暗黒のパイプライン計画 4 第2章 テロを演出したアメリカ 5 第3章 世界貿易センタービル秘密 6 第4章 アフガン戦争の「果実」 7 第5章 ブッシュとビンラディンの「密約」 8 第6章 収奪される日本 9 第7章 アメリカの情報操作 10 関連報告(その1) 11 関連報告(その2) 12 関連報告(その3) <p>上記の2～9は左記文献の目次を掲げたもので、必ずしも1回分授業を意味するものではない。ほかにも関連文献・雑誌・新聞・インターネット情報等を独自に調べ報告してもらう。</p> <p>参考文献としては一応下記文献をあげておく。</p> <p>*チョルドスキー『アメリカの謀略戦争—9.11の真相とイラク戦争』本の友社</p> <p>*和田和幸『イラク戦争 日本の分け前』ペーパーバック(近刊、テキストにすることもあり得る)</p> <p>*同『アフガン回廊』講談社</p> <p>*広瀬隆『アメリカの巨大軍需産業』集英社新書</p>	

03 年度以降 (秋)	基礎演習 (秋期)	担当者	奈倉 文二
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期同様のテーマとするが(上記参照)、テキスト等、詳細は未定。とくに、急テンポで展開する世界情勢や近刊書籍情報いかんで、どのような文献を取り上げるかなど、変動的要因があるので、受講希望者は掲示等に注意されたい。</p> <p>テキスト、参考文献(雑誌・新聞・インターネット情報も含む)の下調べ、演習時間中の報告、質疑応答への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的に勉学する素地を培う。教師自身もこの分野は専門ではないので、なおさら学生諸君自身が自分で調べ、考えることが重要。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>未定(右記参照)。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>テキスト未定につき、詳細は未定。</p> <p>参考文献としては一応下記文献をあげておく。</p> <p>*チョルドスキー『アメリカの謀略戦争—9.11の真相とイラク戦争』本の友社</p> <p>*和田和幸『イラク戦争 日本の分け前』ペーパーバック(近刊、テキストにすることもあり得る)</p> <p>*同『ブッシュの終わりなき世界戦争』講談社(文庫)</p> <p>*広瀬隆『アメリカの巨大軍需産業』集英社新書</p> <p>*松村昌広『日米同盟と軍事技術』有斐閣</p>	

04年度(春)	基礎ゼミ(春期)	担当者	波形昭一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>基礎演習の目標は、経済学部に入學した若い諸君に、まずは経済を学ぶことの面白さ、楽しさを知ってもらうことにある。したがって、あまり型にはまらないトーク形式の授業にしたいので、教材には新聞(朝日新聞)を使うことにした。具体的には最初の授業で指示する。</p> <p>なお、経済を学ぶには経済辞典が絶対に必要である。必ず購入すること。大学で4年間使える金森久雄ほか編『経済辞典(第4版)』(有斐閣)が最適。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、教室での積極的な発言、学期末試験などで総合評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>朝日新聞</p>		<p>◆授業計画</p> <p>新聞を教材にした自由なトーク形式の授業としたいので、とくに定型的な授業計画は立てない。毎日、新聞に目を通す癖を身につけ、社会の動きに関心を持つような若者になってもらいたい。</p>	

04年度(秋)	基礎ゼミ(秋期)	担当者	波形昭一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春期と同じ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春期と同じ。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春期と同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春期と同じ。</p>	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（春期）	担当者	野村容康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>授業目標 ①これから専門に学んでいく経済学や経済の仕組みについての基礎固めをし、またこれら専門科目の基礎にある社会科学的なものの見方や考え方を身につけます。②これからの大学生活において建設的な人間関係を築き、大学生活を実りあるものとするうえでの心構えについて、簡単な英文テキストの輪読を通じて考えていきます。</p> <p>授業形式 授業全体を上記2つの内容に分け、それぞれ以下の形式によって行います。</p> <p>①講義形式で、主に教員が経済学や日々の経済現象に関する基本的テーマについて講義します。</p> <p>②演習形式で、各学生が予め指定されたテキストの箇所の内容について順次発表します。英語が苦手でも、個々人の能力に応じて授業を進めるので、心配はいりません。①②ともに双方向型授業を重視し、学生の積極的な発言・質問を期待します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、担当箇所の報告、授業への取り組み姿勢等を勘案して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは初回の授業において指定、配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と本演習のルール 2. 講義と学生による発表 3. 以下同じ 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. まとめ 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋期）	担当者	野村容康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>授業目標 ①これから専門に学んでいく経済学や経済の仕組みについての基礎固めをし、またこれら専門科目の基礎にある社会科学的なものの見方や考え方を身につけます。②これからの大学生活において建設的な人間関係を築き、大学生活を実りあるものとするうえでの心構えについて、簡単な英文テキストの輪読を通じて考えていきます。</p> <p>授業形式 授業全体を上記2つの内容に分け、それぞれ以下の形式によって行います。</p> <p>①講義形式で、主に教員が経済学や日々の経済現象に関する基本的テーマについて講義します。</p> <p>②演習形式で、各学生が予め指定されたテキストの箇所の内容について順次発表します。英語が苦手でも、個々人の能力に応じて授業を進めるので、心配はいりません。①②ともに双方向型授業を重視し、学生の積極的な発言・質問を期待します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、担当箇所の報告、授業への取り組み姿勢等を勘案して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは初回の授業において指定、配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と本演習のルール 2. 講義と学生による発表 3. 以下同じ 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. まとめ 	

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	基礎演習(春期)	担当者	浜本 光紹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。</p> <p>知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席などの平常点、およびレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行なう。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 報告・議論の仕方 2 レポートの書き方 3 コンピューターを用いた情報収集 4 輪読を通じた文献の読み方 5 関心のある題材についてのレポート作成 <p>注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。</p>	

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	基礎演習(秋期)	担当者	浜本 光紹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。</p> <p>知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席などの平常点、およびレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行なう。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 報告・議論の仕方 2 レポートの書き方 3 コンピューターを用いた情報収集 4 輪読を通じた文献の読み方 5 関心のある題材についてのレポート作成 <p>注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。</p>	

03年度以降(春) 01～02年度(春)	基礎演習(春期)	担当者	藤山英樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>演習の目的</p> <p>(1) 大学で必要となる論理性を学ぶ。 (2) 大学での勉強において便利なツールを紹介する。</p> <p>演習の進め方 講義の前半 30 分は教員による、様々なツールや勉強方法の紹介をする。後半 60 分は、毎回、テキストにある練習問題を解いてゆく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>ゼミへの貢献度(出席, 課題, 発言)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『論理トレーニング』 野矢茂樹 産業図書 1997年, 2400円。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『論理トレーニング』は、日本語における、論理的な読解および表現の場合に必要な、基礎知識および修得のためのトレーニング(練習問題)を提供する。</p> <p>このトレーニングを積むことによって、論文執筆、プレゼンテーション、ディベートのすべてにおいて必要な論理性の素養を身に付けることができる。</p> <p>ゼミでは、答えへの導出過程を議論することを重視する。したがって、ゼミ生の状況にその進捗状況は大きく依存し、その予測は不可能である。さしあたりは、テキストを1章から、ゆっくりと進めてゆくことにする。</p> <p>前半は勉強のためのコツを紹介します。(例: コンピュータソフトの便利な利用法. 数学の学び方. わからなさとのつきあい方.)</p>	

03年度以降(秋) 01～02年度(秋)	基礎演習(秋期)	担当者	藤山英樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期におなじ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期におなじ。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期におなじ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>前期におなじ。</p>	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（春学期）	担当者	本田浩邦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「グローバル化を考える」というテーマで、できるだけ多くの文献を読んでいこうと思っています。さしあたり、右の文献をテキストにしてすすめます。余裕のある人は参考文献を探して読んでみてください。</p> <p>本を読むことが好きな人、テーマに興味のある人を歓迎します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席および平常点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業計画欄参照</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下のテキストを輪読しますので、各自で入手し、第1回目の授業に持参してください。</p> <p>J・C.リュアノ=ボルバラン, S.アルマン著、杉村昌昭訳『グローバル化の基礎知識』2004年、作品社、1500円</p> <p>その他参考文献</p> <p>川北稔『砂糖の世界史』1996年、岩波ジュニア親書、630円 角山栄『茶の世界史』1980年、中公新書、700円 エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』2004年（改訳版）、明石書店、4800円</p>	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋学期）	担当者	本田浩邦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上記参照</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>上記参照</p>	

03 年度以降 01～02 年度 (春)	基礎演習 (春期)	担当者	益山光央
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席15%、発表70% レポート15%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入門 2 獨協大学の学習環境 3 レポート作成について 4 発表と議論 5 発表と議論 6 発表と議論 7 発表と議論 8 発表と議論 9 発表と議論 10 発表と議論 11 発表と議論 12 発表と議論 	

03 年度以降 01～02 年度 (秋)	基礎演習 (秋期)	担当者	益山光央
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席15%、発表70% レポート15%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入門 2 獨協大学の学習環境 3 レポート作成について 4 発表と議論 5 発表と議論 6 発表と議論 7 発表と議論 8 発表と議論 9 発表と議論 10 発表と議論 11 発表と議論 12 発表と議論 	

03 年度以降 (春) 01~02 年度 (春) 00 年度以前	基礎演習 (春季)	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済学部に入学したものの、何をどう勉強したらいいのかといったことがはっきりしていない学生は多いと思います。</p> <p>大体、「何故われわれは学ばねばならないのか」、とか「大学とは何か」といったことをまともに考えたことはあるでしょうか。この基礎演習ではこういったことから考え始めます。</p> <p>演習では右の授業計画にあるようなことをテーマとしますが、要は次の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加と協調で、全員が、個別あるいは決められたテーマについて調べ、考え、それについての自分の意見を述べること。 2. 「学ぶ」ためには色々な技法が必要になります。個別分野の情報収集のほかに、論文、報告書を書くこと、いかに要領よく説明するかということ。 3. 将来の方向を見つめること。 <p>以上、盛りだくさんで、すべてを十分にこなせるか分かりません。しかし、このように進める中から学生として、社会人として必要となる様々な知識や技法を獲得していくための準備ができればいいなと思っています。</p> <p>◆評価方法 レポート、演習への貢献度 (参加)</p> <p>◆テキスト、参考文献 資料を準備する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>「演習」という性質上、授業計画を逐次的に記すことは出来ませんが、下記のようなことを考えています。興味を持続させるために、授業時間を2つに分け、前半と後半で異なる内容のこと (たとえば、前半は資料読み、後半は個別の報告) を進めることなども考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学について考え、討論すること。 ・新聞、雑誌、などの記事、論文、その他の書物を読んで要約 (まとめ)、感想、討論を行うこと。テーマは広く設定したいと思います。 ・学生の興味にそったテーマを個別に設定し、そのことについて調べ、解説 (報告) し、まとめること。 ・個別に想定されたテーマについて、それをどのように総合的にまとめてゆくかを (章立てなどを含むその過程を) 考えること。 ・必要な「情報」をどのように集めるか、関連してコンピュータやインターネットとの関わり。 ・コミュニケーションやプレゼンテーションの技法。 ・データのあり方とその扱い方について。 ・報告書の作成に関係した技法。 <p>参加している学生みんなで、経済、経営 (あるいはスポーツといった話題など何でも) に関する話題を整理し、討論しながら新たな知見を得る道を探っていくような (そして、それが結果的に知的な創造につながっていくような) 演習にしたいと考えています。</p>	

03 年度以降 (秋) 01~02 年度 (秋) 00 年度以前	基礎演習 (秋季)	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>基礎演習 (春季) に同じ。</p> <p>◆評価方法 レポート、演習への貢献度 (参加)</p> <p>◆テキスト、参考文献 資料を準備する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>基礎演習 (春季) に同じ。</p>	

03年度以降(春) 01~02年度(春)	基礎演習(春期)	担当者	御園生 眞
◆講義目的、講義概要 大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、新聞・雑誌・著書の読み方、レポートの作成方法などについて説明し、その習得を目標とする。 (注意) 履修者は必ず第1回の授業に出席してください。授業のマナーを守り遅刻をしないこと。		◆授業計画 1 ガイダンスと序論 2 図書館の利用方法 3 (続) 4 インターネットによる情報検索 5 (続) 6 新聞・雑誌の記事や専門書の読み方 7 (続) 8 レポートの作成方法 9 (続) 10 (続) 11 (続) 12 まとめ	
◆評価方法 出席とレポートの提出(数回実施)。 3回以上欠席した場合は単位が認定されない。			
◆テキスト、参考文献 プリントなどを利用する。			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋)	基礎演習(秋期)	担当者	御園生 眞
◆講義目的、講義概要 春期に同じ。		◆授業計画 春期に同じ。	
◆評価方法 春期に同じ。			
◆テキスト、参考文献 春期に同じ。			

03年度以降 01～02年度（春）	基礎演習（春期）	担当者	森 健																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>（目的、概要） 日本を含むアジア諸国、米国等の経済・社会問題について書かれた文献を材料にして、その文献の主張がどのような手順で考察された分析の上になされているかを検討し、経済学的な考え方、論考の進め方の特徴を学ぶ。また、図書館において、経済学の勉強に役立つ文献や、インターネット・サイトを実際に確認する。更に、ディベートを行い、ディベートの効用について考える。最後に、レポートや論文の書き方について学ぶ。</p> <p>◆ 評価方法 普段点</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="794 230 1444 1025"> <tr><td>1</td><td>ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか</td></tr> <tr><td>2</td><td>ディベートの予備知識とテーマ選び</td></tr> <tr><td>3</td><td>ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）</td></tr> <tr><td>4</td><td>経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）</td></tr> <tr><td>5</td><td>ディベートの準備：ディベートのやり方</td></tr> <tr><td>6</td><td>ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。</td></tr> <tr><td>7</td><td>ディベート</td></tr> <tr><td>8</td><td>ディベートの反省</td></tr> <tr><td>9</td><td>学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）</td></tr> <tr><td>10</td><td>学術論文の構成分析（2）</td></tr> <tr><td>11</td><td>レポート、ゼミ論の書き方（1）</td></tr> <tr><td>12</td><td>レポート、ゼミ論の書き方（2）</td></tr> </table>		1	ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか	2	ディベートの予備知識とテーマ選び	3	ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）	4	経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）	5	ディベートの準備：ディベートのやり方	6	ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。	7	ディベート	8	ディベートの反省	9	学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）	10	学術論文の構成分析（2）	11	レポート、ゼミ論の書き方（1）	12	レポート、ゼミ論の書き方（2）
1	ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか																										
2	ディベートの予備知識とテーマ選び																										
3	ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）																										
4	経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）																										
5	ディベートの準備：ディベートのやり方																										
6	ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。																										
7	ディベート																										
8	ディベートの反省																										
9	学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）																										
10	学術論文の構成分析（2）																										
11	レポート、ゼミ論の書き方（1）																										
12	レポート、ゼミ論の書き方（2）																										

03年度以降 01～02年度（秋）	基礎演習（秋期）	担当者	森 健																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>目的、概要） 日本を含むアジア諸国、米国等の経済・社会問題について書かれた文献を材料にして、その文献の主張がどのような手順で考察された分析の上になされているかを検討し、経済学的な考え方、論考の進め方の特徴を学ぶ。また、図書館において、経済学の勉強に役立つ文献や、インターネット・サイトを実際に確認する。更に、ディベートを行い、ディベートの効用について考える。最後に、レポートや論文の書き方について学ぶ。</p> <p>◆ 評価方法 普段点</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="794 1281 1444 2076"> <tr><td>1</td><td>ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか</td></tr> <tr><td>2</td><td>ディベートの予備知識とテーマ選び</td></tr> <tr><td>3</td><td>ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）</td></tr> <tr><td>4</td><td>経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）</td></tr> <tr><td>5</td><td>ディベートの準備：ディベートのやり方</td></tr> <tr><td>6</td><td>ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。</td></tr> <tr><td>7</td><td>ディベート</td></tr> <tr><td>8</td><td>ディベートの反省</td></tr> <tr><td>9</td><td>学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）</td></tr> <tr><td>10</td><td>学術論文の構成分析（2）</td></tr> <tr><td>11</td><td>レポート、ゼミ論の書き方（1）</td></tr> <tr><td>12</td><td>レポート、ゼミ論の書き方（2）</td></tr> </table>		1	ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか	2	ディベートの予備知識とテーマ選び	3	ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）	4	経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）	5	ディベートの準備：ディベートのやり方	6	ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。	7	ディベート	8	ディベートの反省	9	学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）	10	学術論文の構成分析（2）	11	レポート、ゼミ論の書き方（1）	12	レポート、ゼミ論の書き方（2）
1	ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか																										
2	ディベートの予備知識とテーマ選び																										
3	ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）																										
4	経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）																										
5	ディベートの準備：ディベートのやり方																										
6	ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。																										
7	ディベート																										
8	ディベートの反省																										
9	学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）																										
10	学術論文の構成分析（2）																										
11	レポート、ゼミ論の書き方（1）																										
12	レポート、ゼミ論の書き方（2）																										

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
科目名	基礎演習(春季)	担当者	山越徳
講義目的および講義概要	<p>経済学の理論がどのような前提や考え方によって成り立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近に感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。</p> <p>そのため、講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明していくが途中からは受講生の関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄について採り上げて共に議論し学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。積極的な取組みを望みたい。</p>	授業計画	1 経済学とは：家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済学・経済学の対象など、なおこの時学生の関心事を提出してもらう
			2 経済と理論：現実の経済、理論図式、統計データ、実証分析についてとそれらの関係を事例を挙げて考える。
			3 経済統計データ：統計データとは、分類、時系列とクロスセクション
			4 統計データの見方、読み方 統計の意味するもの
			5 統計学、経済学の文献 基本的文献、古典などについて
			6 以後受講生から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察をすすめていく。
			7 議論しただいでは、その関連について調べてきてもらうよう要請し、その報告で議論していくこともありうる
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席のみならず講義、議論への参加およびその内容ならびにレポート等で評価		
テキスト参考文献	要望があれば受講生と相談の上決めることもありうるが、基本文献リストおよび資料のコピーは配布する		

科目名		担当者	
科目名	基礎演習(秋季)	担当者	山越徳
講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 同上
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	同上		
テキスト参考文献	同上		

03年度以降 01～02年度	基礎演習（春学期）	担当者	山本 美樹子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本経済は今どのような状態にあるのだろうか？－経済学部に入学生たちに最も関心を持ってほしい事柄である。日本経済の現状がわかる記事（新聞、雑誌等）がわかる記事を毎回取り上げ、参加者が疑問に思ったところ、わからないところを毎回発表してもらい、全員で話し合い、意見の交換をしながら、日本経済についての認識を深めてもらいたい。</p> <p>小泉内閣が存続していれば、小泉内閣のメールマガジンをダウンロードして、その中の経済にかかわることについて話しあいをする。メールの配信、ダウンロード等を行うことによりインターネット環境に慣れてもらうことも目的のひとつとしたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末のレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義時に指示</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーションと大学でのメール配信の仕方 2、メールマガジンの受信 演習時に読む記事を配布し、各自意見をまとめる。 3、あてられた人が次回に読みたいと思う記事、あるいはメルマガの記事を他の演習を受ける学生に配り、次回までに各自が疑問点をまとめておく。 4、同上 5、同上 6、同上 7、同上 8、同上 9、同上 10、 同上 11、各自興味を持った事柄から期末レポートの課題を決め、レポートの概略を発表 12、同上 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋学期）	担当者	山本 美樹子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本経済は今どのような状態にあるのだろうか？－経済学部に入学生たちに最も関心を持ってほしい事柄である。日本経済の現状がわかる記事（新聞、雑誌等）がわかる記事を毎回取り上げ、参加者が疑問に思ったところ、わからないところを毎回発表してもらい、全員で話し合い、意見の交換をしながら、日本経済についての認識を深めてもらいたい。</p> <p>小泉内閣が存続していれば、小泉内閣のメールマガジンをダウンロードして、その中の経済にかかわることについて話しあいをする。メールの配信、ダウンロード等を行うことによりインターネット環境に慣れてもらうことも目的のひとつとしたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末のレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義時に指示</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーションと大学でのメール配信の仕方 2、メールマガジンの受信 演習時に読む記事を配布し、各自意見をまとめる。 3、あてられた人が次回に読みたいと思う記事、あるいはメルマガの記事を他の演習を受ける学生に配り、次回までに各自が疑問点をまとめておく。 4、同上 5、同上 6、同上 7、同上 8、同上 9、同上 10、 同上 11、各自興味を持った事柄から期末レポートの課題を決め、レポートの概略を発表 12、同上 	

03年度以降 01～02年度	基礎演習 (春期)	担当者	湯田 雅夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>企業の環境経営について学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まず、はじめに、皆さん一人一人の日常生活を振り返ってみましょう。 ② 皆さんの日常生活を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙、食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。 ③ この物量について、「リデュース」「リユーズ」「リサイクル」を実行すれば、お金をかけない地球環境にやさしい生活が実現します。 ④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。 ⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。 <p>◆ 評価方法</p> <p>レポートと出席状況から総合的に評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 本演習の進め方 2. 個別研究テーマの選択 3. 資料の入手方法 インターネットの活用他 4. 入手資料の確認、不足資料の確認 5. レポート作成方法① 6. レポート作成方法② 7. レポート作成方法③ 8. レポート中間報告会① 9. レポート中間報告会② 10. 質問、修正 11. レポート提出日 12. レポートの講評 	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p> </p> <p>◆ 評価方法</p> <p> </p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p> </p>		<p>◆授業計画</p> <p> </p>	

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

03年度以降 01～02年度	基礎演習（秋学期）	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>自分の興味のあるテーマについて、調べ、まとめ、表現するということを主にコンピュータを利用してできるようになることを目標とします。具体的には、自分の設定したテーマに沿って、コンピュータ上で、情報を収集し、それを自分なりの方法でまとめ、最終的なレポートとして自分のホームページ上で発表してもらいます。</p> <p>講義の目標を達成するためのコンピュータの利用方法について説明します。同時に自分のテーマについて調べ、ホームページを完成させていく過程で出てきた内容、技術に関する問題点を全員で話し合い解決していく形式で授業を進めていきます。</p> <p>小人数のクラスなので、できるだけそのメリットを生かせる形式で授業を行いたいと思います。</p> <p>コンピュータをこれから積極的に利用したいと思っている学生で、授業の進行に合わせた毎回の宿題を実施する意欲のある学生の受講を望みます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教員、学生間の連絡をとるため電子メール（携帯とPC） フリーメールアドレスIDの取得、 メーリングリストの参加と利用法</p> <p>第3回 ホームページの利用法 ショッピング、オークション、掲示板、 ダウンロード フリーホームページとIDの取得</p> <p>第4回 ホームページ作成ツール</p> <p>第5回 ホームページへの情報のアップロード</p> <p>第6回 ホームページの内容と多様な表現方法</p> <p>第7回 ホームページの内容と多様な表現方法</p> <p>第8回 ホームページを使っ ての 学生プレゼンテーション</p> <p>第9回 ホームページを使っ ての 学生プレゼンテーション</p> <p>第10回 ホームページを使っ ての 学生プレゼンテーション</p> <p>第11回 ホームページを使っ ての 学生プレゼンテーション</p> <p>第12回 まとめ</p>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席回数、授業への参加姿勢、毎回の宿題、レポートとしてのホームページの内容</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">特になし</div>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済学 a（再履修） 経済学 a（再履修） 経済学（再履修）	担当者	阿部 正浩
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。</p> <p>講義概要 テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 経済学の考え方 3. 取引と貿易 4. 需要と供給と価格 5. 予備日 6. 需要・供給分析の応用（その1） 7. 需要・供給分析の応用（その2） 8. 時間とリスク（その1） 9. 時間とリスク（その2） 10. 公共部門（その1） 11. 公共部門（その2） 12. 予備日 	
◆ 評価方法			
課題提出および期末テストの成績による			
◆テキスト、参考文献			
「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済学 b（再履修） 経済学 b（再履修） 経済学（再履修）	担当者	阿部 正浩
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. GNP とは（その1） 3. GNP とは（その2） 4. マクロ経済学と完全雇用（その1） 5. マクロ経済学と完全雇用（その2） 6. 経済成長（その1） 7. 経済成長（その2） 8. 失業と総需要（その1） 9. 失業と総需要（その2） 10. インフレーション（その1） 11. インフレーション（その2） 12. 予備日 	
◆ 評価方法			
課題提出および期末テストの成績による			
◆テキスト、参考文献			
「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済学 a (再履修) 経済学 a (再履修) 経済学 (再履修)	担当者	片岡 晴雄
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学の目的と役割 2 近代経済学誕生までの経済学の流れ 3 市場と価格 4 需要と供給の基礎理論 5 家計の行動 6 企業行動の理論 7 完全競争市場と経済効率 8 所得分配 9 市場機構の限界 10 不完全競争の理論 I 11 不完全競争の理論 II 12 ミクロ経済学の応用 	
◆評価方法			
出席とテストの結果を見て総合的に判断する。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済学 b (再履修) 経済学 b (再履修) 経済学 (再履修)	担当者	片岡 晴雄
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価、利子率、国際収支、雇用量等々である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済循環 2 経済学の危機とケインズ革命 3 国民所得の決定 4 投資乗数の理論 5 投資の決定 6 政府活動と国民所得 7 貨幣市場 8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 9 経済のマクロ的一般均衡体系 10 インフレーション 11 経済の変動と成長 12 開放体系のマクロ経済学 	
◆評価方法			
出席とテストの結果を見て総合的に判断する。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)			

03年度以降(春)	経済学 b (済)(再)	担当者	小林 進
01～02年度(春)	経済学 b (済)(再)		
00年度以前	経済学		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p> <p>評価方法 学期末試験</p> <p>テキスト 使用しない。参考文献は講義の中で指示する</p>		<p>授業計画</p> <p>最初の講義のときにプリント配布 (マクロ経済学を中心にして講義)</p>	

03年度以降(秋)	経済学 a (済)(再)	担当者	小林 進
01～02年度(秋)	経済学 a (済)(再)		
00年度以前	経済学		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p> <p>評価方法 学期末試験</p> <p>テキスト 使用しない。参考文献は講義の中で指示する</p>		<p>授業計画</p> <p>最初の講義のときにプリント配布 (ミクロ経済学を中心にして講義)</p>	

03年度以降(春)	経済学 a (済再)(営)	担当者	浜本 光紹
01~02年度(春)	経済学 a (済再)(営)		
00年度以前	経済学(済再)(営)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の関係について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費・貯蓄行動 4 企業の投資行動 5 企業の資金調達と株価市場 6 貨幣と経済活動 7 マクロ経済モデル 	
◆評価方法			
定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣			

03年度以降(秋)	経済学 b (済再)(営)	担当者	浜本 光紹
01~02年度(秋)	経済学 b (済再)(営)		
00年度以前	経済学(済再)(営)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果について解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和・公共政策・環境政策の効果について講義を行なう。</p> <p>学生は、経済学 a を既習のうえで受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済政策 2 労働市場と失業 3 為替レートと経常収支 4 ミクロ経済学の課題について 5 需要曲線と供給曲線 6 社会的余剰の考え方 7 競争市場と独占 8 市場の失敗と公共政策 9 環境政策の理論と実際 	
◆評価方法			
定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学については適宜指示する。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済学 a 経済学 a 経済学	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要 ミクロ経済学の基本的な諸概念を学びます。 毎回出席調査します。		◆授業計画 1 ミクロ経済学概観 2 消費者の理論 3 消費者の理論 4 消費者の理論 5 生産者の理論 6 生産者の理論 7 生産者の理論 8 完全競争市場 9 完全競争市場 10 不完全競争市場 11 不完全競争市場 12 まとめ	
◆評価方法 試験70%、レポート20%、出席10%			
◆テキスト、参考文献 大石泰彦ほか『エレメンタルミクロ経済学』 英創社			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済学 b 経済学 b 経済学	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要 マクロ経済学の基本的な諸概念を学びます。 毎回出席調査します。		◆授業計画 1 国民所得の諸概念 2 国民所得決定 3 国民所得決定 4 投資関数 5 利子率の決定 6 利子率の決定 7 IS 曲線 8 LM 曲線 9 物価水準と労働市場 10 物価水準と労働市場 11 国民所得と経済成長 12 国民所得と経済成長	
◆評価方法 試験70%、レポート20%、出席10%			
◆テキスト、参考文献 大石泰彦ほか『エレメンタルマクロ経済学』 英創社			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済学 a 経済学 a 経済学	担当者	米 山 昌 幸																												
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																													
<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、まず、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして次に、分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経済学科の学生だけでなく経営学科の学生にとっても、経済学は必要不可欠だと思います。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1章 経済学とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2章 経済学的な考え方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>基本的競争モデル、価格システムとインセンティブ、機会集合、費用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第3章 取引と貿易</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1. 取引からの利益 2. 国家間の取引</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>比較優位と貿易利益</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1. 比較優位と生産可能性曲線 2. 貿易開始後の生産調整と貿易利益</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第4章 需要・供給と価格</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1. 市場需要曲線と需要曲線のシフト 2. 市場供給曲線と供給曲線のシフト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1. 市場メカニズムの原理と市場均衡 2. 限界分析と余剰概念</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第5章 需要・供給分析の応用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>上限価格規制と下限価格規制の厚生分析 コメ市場における政府介入の経済厚生分析</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容	1	第1章 経済学とは	2	第2章 経済学的な考え方	3	基本的競争モデル、価格システムとインセンティブ、機会集合、費用	4	第3章 取引と貿易	5	1. 取引からの利益 2. 国家間の取引	6	比較優位と貿易利益		1. 比較優位と生産可能性曲線 2. 貿易開始後の生産調整と貿易利益	7	第4章 需要・供給と価格	8	1. 市場需要曲線と需要曲線のシフト 2. 市場供給曲線と供給曲線のシフト	9	市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—	10	1. 市場メカニズムの原理と市場均衡 2. 限界分析と余剰概念	11	第5章 需要・供給分析の応用	12	上限価格規制と下限価格規制の厚生分析 コメ市場における政府介入の経済厚生分析
週	内容																														
1	第1章 経済学とは																														
2	第2章 経済学的な考え方																														
3	基本的競争モデル、価格システムとインセンティブ、機会集合、費用																														
4	第3章 取引と貿易																														
5	1. 取引からの利益 2. 国家間の取引																														
6	比較優位と貿易利益																														
	1. 比較優位と生産可能性曲線 2. 貿易開始後の生産調整と貿易利益																														
7	第4章 需要・供給と価格																														
8	1. 市場需要曲線と需要曲線のシフト 2. 市場供給曲線と供給曲線のシフト																														
9	市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—																														
10	1. 市場メカニズムの原理と市場均衡 2. 限界分析と余剰概念																														
11	第5章 需要・供給分析の応用																														
12	上限価格規制と下限価格規制の厚生分析 コメ市場における政府介入の経済厚生分析																														
◆評価方法																															
定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。評価基準は第1回目の授業で説明する。																															
◆テキスト、参考文献																															
第1回目の授業で説明する。																															

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済学 b 経済学 b 経済学	担当者	米 山 昌 幸																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																											
<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、まず、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして次に、分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経済学科の学生だけでなく経営学科の学生にとっても、経済学は必要不可欠だと思います。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。秋学期は、マクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1章 マクロ経済学とGDPの測定</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>GDPの定義と三面等価の原則</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>失業とインフレーション</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>物価指数の算定方法—パーシェ指数とラスパイレス指数—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第2章 基本的完全雇用マクロ・モデル—長期マクロ・モデル—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1. 労働市場・生産物市場・資本市場 2. 一般均衡とモデルの拡張</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第3章 失業と総需要—短期マクロ・モデル—</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>所得・支出分析—生産物市場における国民所得決定の理論：45度線分析—</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1. 需給の不均衡と調整メカニズム</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論 3. 総需要管理政策と乗数効果 4. 開放経済における国民所得の決定</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>総需要曲線の導出 まとめ</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容	1	第1章 マクロ経済学とGDPの測定	2	GDPの定義と三面等価の原則	3	失業とインフレーション	4	物価指数の算定方法—パーシェ指数とラスパイレス指数—	5	第2章 基本的完全雇用マクロ・モデル—長期マクロ・モデル—	6	1. 労働市場・生産物市場・資本市場 2. 一般均衡とモデルの拡張	7	第3章 失業と総需要—短期マクロ・モデル—	8	所得・支出分析—生産物市場における国民所得決定の理論：45度線分析—	9		10	1. 需給の不均衡と調整メカニズム	11	2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論 3. 総需要管理政策と乗数効果 4. 開放経済における国民所得の決定	12	総需要曲線の導出 まとめ
週	内容																												
1	第1章 マクロ経済学とGDPの測定																												
2	GDPの定義と三面等価の原則																												
3	失業とインフレーション																												
4	物価指数の算定方法—パーシェ指数とラスパイレス指数—																												
5	第2章 基本的完全雇用マクロ・モデル—長期マクロ・モデル—																												
6	1. 労働市場・生産物市場・資本市場 2. 一般均衡とモデルの拡張																												
7	第3章 失業と総需要—短期マクロ・モデル—																												
8	所得・支出分析—生産物市場における国民所得決定の理論：45度線分析—																												
9																													
10	1. 需給の不均衡と調整メカニズム																												
11	2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論 3. 総需要管理政策と乗数効果 4. 開放経済における国民所得の決定																												
12	総需要曲線の導出 まとめ																												
◆評価方法																													
定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。評価基準は第1回目の授業で説明する。																													
◆テキスト、参考文献																													
第1回目の授業で説明する。																													

03 年度以降 01~02 年度 (春) 00 年度以前	統計学 a 統計学 a 統計学	担当者	富田誠
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。</p> <p>こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>春学期の内容は、データの整理と確率分布である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要・評価・受講上の注意などについて 統計学の利用例 2 統計学の発展史・統計的な考え方 3 データの整理 (1) 平均値・中央値、分散・標準偏差 4 データの整理 (2) 度数分布表・ヒストグラム 5 データの整理 (3) 簡便法 6 データの整理 (4) 相関係数・回帰直線 7 データの整理 (計算演習とまとめ) 8 確率 順列・組合せ、二項定理 9 離散型確率分布 二項分布・漸化式 10 連続型確率分布 正規分布・標準化 11 連続型確率分布 確率計算・その他 12 確率と確率分布 (計算演習とまとめ) 	
定期試験の結果により評価する。 (出席状況なども考慮する)			
◆テキスト、参考文献			

03 年度以降 01~02 年度 (秋) 00 年度以前	統計学 b 統計学 b 統計学	担当者	富田誠
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。</p> <p>こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>秋学期の内容は、統計的推定、統計的仮説検定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要・評価・受講上の注意などについて 統計学 a の復習 2 母集団と標本 無作為標本・標本調査、国勢調査 3 統計的推定 (1) 比率の信頼区間・サンプルサイズ 4 統計的推定 (2) 母平均の信頼区間、計算演習 5 統計的仮説検定 (1) 概説、帰無仮説・第 1 種の過誤・有意水準 6 統計的仮説検定 (2) 比率の仮説検定、比率の差の仮説検定 7 統計的仮説検定 (3) 分割表による仮説検定 8 統計的仮説検定 (4) 母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定 9 統計的仮説検定 (5) 相関係数の仮説検定、等分散の仮説検定 10 統計的仮説検定 (6) 適合度検定、その他 11 統計的仮説検定 (計算演習とまとめ) 12 統計学のまとめ 	
定期試験の結果により評価する。 (出席状況なども考慮する)			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	統計学 a 統計学 a 統計学	担当者	本田 勝
◆講義目的、講義概要 我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。 この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に適用していく方法について述べていく。 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。 データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方 特殊な確率分布		◆授業計画 1 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。 2 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。平均、中央値、最頻値など。 3 ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。 4 データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。 5 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。 6 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。 7 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。 8 平均 や分散などの特性値について述べる。 9 2項分布を例に、離散型確率分布の性質を調べる。 10 ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。 11 連続型確率分布の性質について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。 12 正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化について述べる。問題演習	
◆ 評価方法 定期試験および出席調査による総合評価			
◆テキスト、参考文献 本田 勝『基本統計学』 産業図書			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	統計学 b 統計学 b 統計学	担当者	本田 勝
◆講義目的、講義概要 講義目的は統計学 a と同じ 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。 標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 2変量間の関係のとらえ方		◆授業計画 1 標本分布とは何かについて述べ、中心極限定理についても言及する。 2 標本比率の確率分布について述べ、2項分布の正規分布近似についても言及する。 3 カイ2乗分布およびt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。 4 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。 5 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。 6 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。 7 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。 8 2変量間の相関とは何かについて述べる。 9 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法) 10 カイ2乗検定の考え方について述べる。 11 問題演習 12 一年間の総復習を行う。	
◆ 評価方法 定期試験および出席調査による総合評価			
◆テキスト、参考文献 本田 勝『基本統計学』 産業図書			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	統計学 a 統計学 a 統計学	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。</p> <p>内容は記述的な統計から、現代統計学の枠組み、データの得られるメカニズム(モデル)などである。</p> <p>試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。</p> <p>◆評価方法</p> <p>期末の試験と出席により評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを配布。池田ほか著『統計学』－データから現実を探る、内田老鶴圃。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。 2. 統計的な見方、考え方とはどんなことか。データを測定する尺度について。 3. データを記述する方法 - データを記述するための様々な尺度の意味と特徴、計算など。 4. 探索的なデータ解析の方法と考え方。 5. 身長と体重、需要と供給といった2つの変数間の関連性を説明する尺度について考える。 6. 2つないし3つ以上の変数間の"線型"な関係を調べる。回帰直線。 7. 確率 - 統計と確率の接点。確率の基本的な考え方。 8. データの得られるしくみ - 実験や観察の結果(データ)とそれを作り出すモデル(分布)。 9. 現代統計学の枠組み - 母集団と標本。データの持つ意味、データの得られる機序。 10. 離散型の分布 - 二項分布、ポアソン分布など。分布の特徴づけ。データとの関係。 11. 連続型の分布 - 連続型確率分布。正規分布の形状や特徴など。 12. 正規分布とその周辺の事柄について。前期のまとめ。 	

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	統計学 b 統計学 b 統計学	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明したい。データは実験、観察、調査などに関連して得られるが、データの処理にはその背景にある様々な条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながらか説明してゆきたい。</p> <p>取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などである。それぞれの方法が、どういった考え方で組み立てられているかを知ることは統計的な考え方を理解するうえで基本的なことなので、そのあたりに十分留意し講義してゆきたい。また、統計的概念の理解は、実際にデータに対峙し、計算を行うことで(データ処理によって)深まってゆくので、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>講義中の演習と出席。期末のレポート。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを配布。池田ほか著『統計学』－データから現実を探る、内田老鶴圃。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ解析の考え方 - 母集団と標本の枠組み。統計的推測について。 2. 統計的推定 - 母集団のパラメータを推定する際の考え方。点推定、最尤推定、標本分布など。 3. 母集団比率と正規分布の母平均の推定。推定量の意味、性質、比較など。 4. 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。標本調査の考え方。 5. 統計的仮説検定の考え方。 6. 比率の検定 - 考え方と定式化。1標本と2標本。 7. 2×2分割表の考え方と方法。r×s表。 8. 適合度検定 9. 正規分布の母平均の検定など。 10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。 11. 順位にもとづく検定など。ノンパラメトリックな検定法の考え方、効率。 12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。後期のまとめ。 	

03 年度以降 (春) コンピュータ入門 a 01~02 年度 (春) コンピュータ入門 a 00 年度以前 情報処理概論		担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 現代社会で必要不可欠なコンピュータとネットワークの仕組みについての概要を講義し、学部学生が4年間の学習・研究生活を通して必要とされるコンピュータとネットワークに関し、実習を通して基礎的技術を養うことを目的とする。 講義・実習を通して、この目標を達成するために、オペレーティングシステムの操作方法、ブラウザ、メールソフト、ワープロソフトなどの使用方法をはじめ、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、コンピュータとネットワーク全般の基礎的なものを扱う。 なお、各テーマの取り扱われる順序や時間配分については、担当教員によって若干異なることがある。 出席・レポート・試験などで総合評価 ◆テキスト、参考文献 情報処理教育担当者会監修 『コンピュータ入門』	◆授業計画 1 履修について、ID、パスワード、情報センター案内、コースの説明 2 コンピュータの基礎 情報倫理、OS、ネットワークの仕組み 3 タイプソフト キーボード、ファイル、文字入力、FD 4 電子メール 基本設定、送受信、添付ファイル、MO 5 ホームページの活用 URL、検索エンジン、ダウンロード 6 ワープロの利用 (1) 文書作成、保存、画像、編集 7 ワープロの利用 (2) 表、図形、レポート作成 8 表計算ソフトの概説、データ入力、計算 9 グラフ作成の概説、適切なグラフ 10 簡単な統計計算、各種計算 11 プレゼンテーション (1) ソフトの概説、スライド作成 12 プレゼンテーション (2) 図表・写真の利用、デモ		

03 年度以降 (秋) コンピュータ入門 b 01~02 年度 (秋) コンピュータ入門 b 00 年度以前 情報処理概論		担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 「コンピュータ入門 a」で学んだ基礎知識をベースに、学部で4年間の学習・研究生活をするのに必要な表計算ソフトのより高度な使用方法と、ゼミなどで必要なデータベースソフトの使用方法について学ぶ。 これらのソフトの使用方法については、例題を通して少しずつ着実に勉強して欲しい。 特に、表計算ソフトは、その他の科目では講義しないので、この講義でマスターするようになっている。 この科目で基礎を学んだ後、プログラミング論、データベース論、コンピュータシミュレーション論、プレゼンテーション技法、マルチメディア論、コンピュータネットワーク論などの科目でさらなる知識を獲得されると良いでしょう。 出席・レポート・試験などで総合評価 ◆テキスト、参考文献 各担当教員指定の教科書および印刷物	◆授業計画 1 履修について、コースの説明、情報倫理、ネットワークの仕組み 2 表計算 (1) 作表、表計算、グラフ 3 表計算 (2) 統計計算、各種関数利用 4 表計算 (3) 外部データベースを利用したデータ処理 5 表計算 (4) シミュレーション 6 表計算 (5) マクロ機能 7 表計算 (6) データベース機能、ソート 8 表計算 (7) 表計算の総合、レポート作成 9 データベース (1) ソフトの概説、データ内容の入力 10 データベース (2) テーブルのリレーションシップ 11 データベース (3) データ検索、ソート 12 データベース (4) データベースの総合、レポート作成		

03年度以降 01～02年度 (春)	コンピュータネットワーク (春期完結科目) コンピュータネットワーク (春期完結科目)	担当者	富澤儀一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータネットワークの基本的な知識を短時間で学べる授業である。本講義は二部で構成されている。</p> <p>第一部は、ネットワーク・アーキテクチャ、プロトコル、パケットといったネットワークの最も基本的な概念を学ぶ。その上で電子メールを送信するときやWebページを表示するときどのようなパケットがケーブルの中を流れているのかを具体的に説明する。</p> <p>第二部は、TCP/IPの歴史と標準化の仕組み、TCP/IPネットワークモデルの全体像を学習する。さらにTCP/IPが送信するデータの形式、TCP/IPのデータに含まれている制御情報とその役割、通信相手を指定するためのアドレスの仕組み、データを目的地まで転送するルーターの基本的な機能などを理解する。</p> <p>本講義でTCP/IPの基本的な知識を身につけていけば、実際のネットワーク設計、構築、運用で具体的な製品ごとの機能についても、より深い理解が得られるようになる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、テキストの印刷 2. ネットワーク学習のための数表現 3. ネットワークの歴史、ネットワーク・アーキテクチャ 4. OSI基本参照モデル 5. TCP/IPモデル、 6. TCP/IP通信の流れ 7. 通信相手のアドレス取得 8. IPアドレス 9. サブネットマスクによるネットワークの分割 10. プライベートIP、グローバルIP 11. パケット解析 12. 総合演習 13. テスト <p>履修上の注意 本講義は、毎時間の学習の積み重ねが不可欠である。連続して出席できない学生は履修を次年度に延期することを勧めたい。</p>	
<p>◆評価方法 ・各章の終了時に小テスト ・期末テスト</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは、コンピュータに格納しておきます。各自が適時に印刷する。</p>			

03年度以降 01～02年度 (秋)	プレゼンテーション技法 (秋期完結) プレゼンテーション技法 (秋期完結)	担当者	富澤儀一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、プレゼンテーションの基本と、新しい時代の最新の技術をふまえた「デジタル・プレゼンテーション」のやり方を説明し、実践する。この講義では次の3項を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本式と欧米式の発表方法を融合し、効果的な標準的な手法を学習する。 (2) プレゼンテーションの基本技法とパソコン・液晶プロジェクターなどの最新のプレゼンテーション機器とを組み合わせ、最適なデジタル・プレゼンテーションのやり方を具体的に提示する。 (3) デジタル・プレゼンテーションで計画、デザイン、発表の3つを組み合わせ、プレゼンテーションの生産性・効率の向上を目指す。 <p>プレゼンテーションは「伝えたい事柄」が相手に伝わることである。プレゼンテーションには「発表」の他に「送呈」の意味がある。相手にプレゼンとするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場に立って、発表するように練度を高めよう。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 個性、計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) メラビアン の法則、伝え方 VS 内容、 (2) 話し方のガイドライン、ボディランゲージ、 (3) 視線の配り方、 (4) 発表の筋道、思考をピラミッド型に整理 (5) 発表時の話の流れはIBC、 (6) 実習1 3. デザイン <ol style="list-style-type: none"> (1) スライドのデザイン、テキストの編集 (1) 聴衆の人数とライン数/フォント (2) イラスト・図表を挿入 (3) 実習 チェック・リスト 4. 自己紹介の発表用スライドの作成 5. 自己紹介の発表1回目 6. 自己紹介の発表2回目 7. 自己紹介の発表3回目 8. 研究発表用のコンテンツの作成 9. 研究発表用のスライド作成 10. 研究発表1回目 11. 研究発表2回目 12. 研究発表3回目 13. 研究発表4回目 <p>履修上の注意：本科目では、Excel、PowerPointを使用するので、これらのソフトが使えることが前提である。</p>	
<p>◆評価方法 出題されたプレゼンテーションはクラスメイトを聞き手として行い、評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>教材は、教室のコンピュータ内のファイルに格納しておく。適時プリントする。</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経営学 a 経営学 a 経営学	担当者	清水絹代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 本講義の目的は大別して三つあります。第一の目標は、経営に関する基礎理論を学び、その応用能力を身につけることです。第二の目標は、経営に関する問題発見と解決策を提示する能力を獲得することにあります。最後に、組織内で効果的に他者と関わるために必要なコミュニケーション能力を獲得することも目指します。</p> <p>講義概要 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々なレポートやディスカッション、チーム・プロジェクトが課せられます。講義 11 回目の発表者はスツで参加します。毎回講義終了前 10 分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のもを無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。遅刻厳禁。携帯電話、PHS の電源は切ること (マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。欠席は原則 2 回まで許可されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. チーム・プロジェクト及びレポートの書き方説明① 3. 経営戦略① 4. 経営戦略② 5. チーム・プロジェクト説明及びレポートの書き方説明② 6. 経営戦略③ 7. シミュレーション・ゲーム 8. 組織のマネジメント① 9. 組織のマネジメント② 10. 組織のマネジメント③ 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 今期の総復習 <p>* ウェブを使ったビジネス・シミュレーション・ゲームも行ないます。ゲームにはチームで参加しますので、協調性のある方の履修を希望します。</p>	
◆ 評価方法			
出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。			
◆テキスト、参考文献			
開講時にお知らせします。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経営学 b 経営学 b 経営学	担当者	清水絹代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 上記同様</p> <p>講義概要 上記同様</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. チーム・プロジェクト説明① 3. リーダーシップ① 4. リーダーシップ② 5. チーム・プロジェクト説明② 6. 日本的経営① 7. 日本的経営② 8. 経営計画 9. 企業文化 10. 企業のガバナンス 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 今学期の総復習 <p>* ウェブを使ったビジネス・シミュレーション・ゲームも行ないます。ゲームにはチームで参加しますので、協調性のある方の履修を希望します。</p>	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経営学a(営) 経営学a(営) 経営学(営)	担当者	上坂卓郎
◆講義目的、講義概要 <p>この講義は経済学部経営学科の学生として学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。</p> <p>また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機や導入になるような講義を意図している。</p> <p>事前に次週のテキストの該当章に目を通して頂くこと。日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つこと。</p> <p>まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください。1学年の必修科目ですから必ず単位を取得することが重要です。そのためにはやはり講義の出席とテキストの学習が近道のようなのです。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 変貌するビジネス 2 会社制度と企業経営 3 会社の目的と業績評価(1) 4 会社の目的と業績評価(2) 5 経営戦略の策定(1) 6 経営戦略の策定(2) 7 経営組織の姿、中間小テスト IT革新とネットワーク組織 9 人的資源戦略 10 財務戦略(1) 11 財務戦略(2)、コーポレートガバナンス 12 まとめ、期末テスト 	
◆評価方法 <p>中間小テスト・期末定期試験が主体なので必ず受験すること。また出席も勘案する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>高橋宏幸ほか著『現代経営・入門』有斐閣 2002年。また参考資料を適宜配布する</p>			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経営学b(営) 経営学b(営) 経営学(営)	担当者	上坂卓郎
◆講義目的、講義概要 <p>経営学aと同様</p>		◆授業計画 <p>経営学aと同様</p>	
◆評価方法 <p>経営学aと同様</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>経営学aと同様</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経営学 a (営) 経営学 a (営) 経営学 (営)	担当者	日下泰夫
◆講義目的、講義概要 入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。 講義の前半(1～6)は経営学の基本的な概念を説明する。後半(7～11)は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。		◆授業計画 1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 4 企業組織 5 企業と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 テクノイノベーション、プロダクト・イノベーション 8 テクノイノベーションと技術戦略 9 マーケティング・イノベーション：パラダイム転換 10 研究開発(R&D)組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて ☆経営学を学ぶ皆さんへ-21世紀の企業パラダイムを求めて-	
◆評価方法 期末試験を中心に、提出レポートと出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 テキスト：日本経済新聞社(編)：「ベーシック経営入門」、参考文献は開講時に紹介する。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経営学 b (営) 経営学 b (営) 経営学 (営)	担当者	日下泰夫
◆講義目的、講義概要 入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。 講義の前半(1～6)は経営学の基本的な概念を説明する。後半(7～11)は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。		◆授業計画 1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 4 企業組織 5 企業と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 テクノイノベーション、プロダクト・イノベーション 8 テクノイノベーションと技術戦略 9 マーケティング・イノベーション：パラダイム転換 10 研究開発(R&D)組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて ☆経営学を学ぶ皆さんへ-21世紀の企業パラダイムを求めて-	
◆評価方法 期末試験を中心に、提出レポートと出席状況を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 テキスト：日本経済新聞社(編)：「ベーシック経営入門」、参考文献は開講時に紹介する。			

03年度以降(春)	経営学 a (営)	担当者	黒川文字																								
01~02年度(春)	経営学 a (営)																										
00年度以前	経営学 (営)																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																									
<p>経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。</p> <p>本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。</p> <p>本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生き残った学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>新製品開発の意義</td></tr> <tr><td>2</td><td>新製品開発のプロセス</td></tr> <tr><td>3</td><td>自動車開発のケース</td></tr> <tr><td>4</td><td>医薬品開発のケース</td></tr> <tr><td>5</td><td>ファッション衣料開発のケース</td></tr> <tr><td>6</td><td>機会の探索とコンセプト形成</td></tr> <tr><td>7</td><td>ITと新製品開発</td></tr> <tr><td>8</td><td>社会・環境問題と新製品開発</td></tr> <tr><td>9</td><td>開発の組織</td></tr> <tr><td>10</td><td>評価の原理</td></tr> <tr><td>11</td><td>発売後の管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>新製品の発売中止と現在製品の廃止</td></tr> </table>		1	新製品開発の意義	2	新製品開発のプロセス	3	自動車開発のケース	4	医薬品開発のケース	5	ファッション衣料開発のケース	6	機会の探索とコンセプト形成	7	ITと新製品開発	8	社会・環境問題と新製品開発	9	開発の組織	10	評価の原理	11	発売後の管理	12	新製品の発売中止と現在製品の廃止
1	新製品開発の意義																										
2	新製品開発のプロセス																										
3	自動車開発のケース																										
4	医薬品開発のケース																										
5	ファッション衣料開発のケース																										
6	機会の探索とコンセプト形成																										
7	ITと新製品開発																										
8	社会・環境問題と新製品開発																										
9	開発の組織																										
10	評価の原理																										
11	発売後の管理																										
12	新製品の発売中止と現在製品の廃止																										
◆評価方法																											
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>																											
◆テキスト、参考文献																											
<p>河野豊弘編著『新製品開発マネジメント』ダイヤモンド社、2003年。</p>																											

03年度以降(秋)	経営学 b (営)	担当者	黒川文字																								
01~02年度(秋)	経営学 b (営)																										
00年度以前	経営学 (営)																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																									
<p>経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。</p> <p>本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。</p> <p>本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生き残った学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>新製品開発の意義</td></tr> <tr><td>2</td><td>新製品開発のプロセス</td></tr> <tr><td>3</td><td>自動車開発のケース</td></tr> <tr><td>4</td><td>医薬品開発のケース</td></tr> <tr><td>5</td><td>ファッション衣料開発のケース</td></tr> <tr><td>6</td><td>機会の探索とコンセプト形成</td></tr> <tr><td>7</td><td>ITと新製品開発</td></tr> <tr><td>8</td><td>社会・環境問題と新製品開発</td></tr> <tr><td>9</td><td>開発の組織</td></tr> <tr><td>10</td><td>評価の原理</td></tr> <tr><td>11</td><td>発売後の管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>新製品の発売中止と現在製品の廃止</td></tr> </table>		1	新製品開発の意義	2	新製品開発のプロセス	3	自動車開発のケース	4	医薬品開発のケース	5	ファッション衣料開発のケース	6	機会の探索とコンセプト形成	7	ITと新製品開発	8	社会・環境問題と新製品開発	9	開発の組織	10	評価の原理	11	発売後の管理	12	新製品の発売中止と現在製品の廃止
1	新製品開発の意義																										
2	新製品開発のプロセス																										
3	自動車開発のケース																										
4	医薬品開発のケース																										
5	ファッション衣料開発のケース																										
6	機会の探索とコンセプト形成																										
7	ITと新製品開発																										
8	社会・環境問題と新製品開発																										
9	開発の組織																										
10	評価の原理																										
11	発売後の管理																										
12	新製品の発売中止と現在製品の廃止																										
◆評価方法																											
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>																											
◆テキスト、参考文献																											
<p>河野豊弘編著『新製品開発マネジメント』ダイヤモンド社、2003年。</p>																											

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経営学 a (営) 経営学 a (営) 経営学 (営)	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現代企業をめぐる国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。1980年代に賞賛されたいわゆる日本の経営が、IT革命以後のスピード中心の経営に適合的でないといわれるようになってきた。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識や話題を解説していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ノートの取り方・勉強の進め方 2. 情報技術革命と日米企業 3. 大企業体制の成立とその変遷 4. 現代における技術革新 ハイテク産業の盛衰 5. 日本的生産システムの確立と進化 6. 情報化とネットワーク IT革命の衝撃 7. 経済・経営情報検索術 8. 技術革新と新しい国際分業 9. 日本企業の海外進出 10. 世界の多国籍企業 11. 情報化とグローバリゼーション 12. 日本的経営の行方 	
◆評価方法			
小レポートおよび定期試験			
◆テキスト、参考文献			
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経営学 b (営) 経営学 b (営) 経営学 (営)	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現代企業をめぐる国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。1980年代に賞賛されたいわゆる日本の経営が、IT革命以後のスピード中心の経営に適合的でないといわれるようになってきた。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識や話題を解説していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ノートの取り方・勉強の進め方 2. 情報技術革命と日米企業 3. 大企業体制の成立とその変遷 4. 現代における技術革新 ハイテク産業の盛衰 5. 日本的生産システムの確立と進化 6. 情報化とネットワーク IT革命の衝撃 7. 経済・経営情報検索術 8. 技術革新と新しい国際分業 9. 日本企業の海外進出 10. 世界の多国籍企業 11. 情報化とグローバリゼーション 12. 日本的経営の行方 	
◆評価方法			
小レポートおよび定期試験			
◆テキスト、参考文献			
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣			

03年度以降(春) 経営学 a(営) 01~02年度(春) 経営学 a(営) 00年度以前 経営学(営)	担当者	高松和幸
<p>◇ 講義目的・講義概要</p> <p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。</p> <p>前・後期交代による授業のため、開講初日に講義レジメを配布してガイダンスをする。概ね右の年間授業内容に従う。</p> <p>◇ 評価方法</p> <p>期末定期試験・平常授業の課題・出席など</p> <p>◇ テキスト・参考文献</p> <p>最初の授業で指示する</p>	授業計画	1ベンチャー起業について…ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。 2現代企業について…ここではアメリカの石油産業を支配の歴史をみる。 3環境と組織について…アメリカの自動車産業をとりまく環境と戦略、組織のあり方など。 4新事業の創出について…新事業の創造は現代企業の宿命である。 5競争戦略について…ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。 6M&Aについて…企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。 7日本的経営について…終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換など。 8寡占について…経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。 9よい会社とは何か…それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。 10製品開発について…「ポケットモンスター」について社会問題まで巻き起こした。 11ネットワーク組織について…企業が、市場に柔軟に対応できる組織が求められる。 12会社は誰のものか…ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。

03年度以降(秋) 経営学 b(営) 01~02年度(秋) 経営学 b(営) 00年度以前 経営学(営)	担当者	高松和幸
<p>◇ 講義目的・講義概要</p> <p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。</p> <p>前・後期交代による授業のため、開講初日に講義レジメを配布してガイダンスをする。概ね右の年間授業内容に従う。</p> <p>◇ 評価方法</p> <p>期末定期試験・平常授業の課題・出席など</p> <p>◇ テキスト・参考文献</p> <p>最初の授業で指示する</p>	授業計画	1ベンチャー起業について…ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。 2現代企業について…ここではアメリカの石油産業を支配の歴史をみる。 3環境と組織について…アメリカの自動車産業をとりまく環境と戦略、組織のあり方など。 4新事業の創出について…新事業の創造は現代企業の宿命である。 5競争戦略について…ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。 6M&Aについて…企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。 7日本的経営について…終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換など。 8寡占について…経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。 9よい会社とは何か…それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。 10製品開発について…「ポケットモンスター」について社会問題まで巻き起こした。 11ネットワーク組織について…企業が、市場に柔軟に対応できる組織が求められる。 12会社は誰のものか…ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経営学 a (営) 経営学 a (営) 経営学 (営)	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要 企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。 ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。		◆授業計画 1 春期授業計画の概要 2 経営と管理 3 機能と機関 4 企業形態 5 株式会社 6 企業間関係 7 企業集団 8 経営理念 9 経営社会責任 10 経営環境 11 経営戦略 12 春期授業のまとめ	
◆評価方法 期末試験の結果と、授業出席状況による			
◆テキスト、参考文献 河野重榮『マネジメント要論』八千代出版			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経営学 b (営) 経営学 b (営) 経営学 (営)	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要 企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。 ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。		◆授業計画 1 秋期授業計画の概要 2 経営と管理 3 機能と機関 4 企業形態 5 株式会社 6 企業間関係 7 企業集団 8 経営理念 9 経営社会責任 10 経営環境 11 経営戦略 12 秋期授業のまとめ	
◆評価方法 期末試験の結果と、授業出席状況による			
◆テキスト、参考文献 河野重榮『マネジメント要論』八千代出版			

03 年度(春) 01~02 年度(春) 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>黒字だ、赤字だ、と新聞で見ることがあるかもしれません。また、バイト先の店長もそのような言葉を口にするときがあるでしょう。実はこうしたコトバは簿記から出来上がった情報なのです。</p> <p>簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所が主催する検定試験をはじめとしてさまざまなものがあり、社会で評価されています。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して、国税専門官として国で、あるいは米国会計士として海外で活躍することも可能です。</p> <p>講義はまったくの初心者を対象としていきます。大学でやはり一つくらいは資格をなあ、というきっかけでも結構です。まずは簿記の基礎の基礎から入っていくことにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義を始めるにあたってのイントロダクション 2 簿記とは 3 簿記の手続き 仕訳 4 簿記の手続き 仕訳 5 簿記の手続き 転記 6 簿記の手続き 試算表 7 簿記の手続き 貸借対照表 8 簿記の手続き 損益計算書 9 簿記の手続き 精算表 10 個別の処理 現金預金 11 個別の処理 商品売買 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
出席 50%、試験 40%、その他 10%			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します			

03 年度(秋) 01~02 年度(秋) 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>簿記原理 a を受講された方を前提としています。簿記は資格に直結する科目という説明をしてきました。ということは、可能な限り資格取得に役立つような講義形式としていきます。</p> <p>目標を日本商工会議所簿記検定 3 級において、新しい内容を理解しながらも、問題を解いていくなど実践的な講義としていきます。</p> <p>すなわち、電卓をそばにおいて問題を考えてもらうこととなります。</p> <p>また、簿記は 2 年時以降にあるさまざまな会計学専門科目の基礎といえます。そうした科目に対してスムーズに入っていけるように、新聞・雑誌なども活用し配慮するつもりです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義を始めるにあたってのイントロダクション(簿記原理 a の復習) 2 個別の処理 掛取引 3 個別の処理 有価証券 4 個別の処理 貸倒れ 5 個別の処理 固定資産 6 個別の処理 手形 7 個別の処理 減価償却 8 個別の処理のまとめ 9 試験対策① 10 試験対策② 11 試験対策③ 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
出席 50%、試験 40%、その他 10%			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します。			

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	内倉 滋
◆講義目的、講義概要 企業会計は、しばしば「事業の言語」と言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粋に形式的に解明していく分野であると言えよう。 会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであると言えよう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。		◆授業計画 1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容 2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第2目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書） 3 取引と取引の分解……期首 B/S と「取引」記録からの B/S・P/L の作成；「取引」記録のルール 4 仕訳帳と勘定元帳その1：「仕訳」……仕訳とは；設例による説明 5 その2：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 6 その3：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」） 7 試算表と精算表その1：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 8 試算表と精算表その2：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明 10 決算手続その1：純損益の振替……決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正） 11 決算手続その2：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習	
◆ 評価方法 評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。			
◆テキスト、参考文献 中村泰将 編著、『講座現代簿記』（中央経済社）			

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	簿記原理 b 簿記原理 b 簿記原理	担当者	内倉 滋
◆講義目的、講義概要 「簿記原理 a」の知識を前提として「簿記原理 b」では、「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、“会計言語”の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくことしたい。		◆授業計画 1 現金と預金・有価証券……当座借越・有価証券の評価の問題を含む 2 商品の3分法その1……設例の提示；“修正された”分記法；3分法 3 商品の3分法その2……値引・返品処理；諸経費の処理 4 仕入と売上の記帳その1……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 5 仕入と売上の記帳その2：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法 6 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 7 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 8 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳 10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 11 決算整理項目と決算整理仕訳・振替仕訳……8桁精算表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習	
◆ 評価方法 「簿記原理 a」と同様			
◆テキスト、参考文献 「簿記原理 a」と同じ			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 <p>簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方がよい基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部の学生はもちろん、経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。</p> <p>この講義では日本商工会議所簿記検定3級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。</p> <p>とにかく欠席しないで、練習してください。（皆さんの進度に応じて変更あります）</p>		<ol style="list-style-type: none"> Chapter1 I 簿記の世界へようこそ II 貸借対照表 III 損益計算書 Chapter2 日常の手続き I 簿記上の取引 II 仕訳（帳簿(1) I 仕訳帳と元帳） III 勘定と転記 Chapter3 決算の手続き(1) I 決算とは II 試算表 III 6桁精算表 IV 決算振替記入と帳簿の締め切り Chapter4 商品売買 I 三分法 II 掛取引 III 返品と値引 IV 商品売買の諸費用 Chapter5 現金と預金 I 現金 II 現金過不足 III 当座預金 IV 当座借越 V 小口現金 Chapter6 手形 I 約束手形 II 為替手形 III 手形の割引 IV 手形の裏書譲渡（II 手形記入帳） 	
◆ 評価方法 試験 100点、プリント・ワークブック 10点		◆授業計画	
◆テキスト、ワークブック TAC 出版『とおるテキスト日商簿記3級』 『とおるゼミ日商簿記3級』			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	簿記原理 b 簿記原理 b 簿記原理	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 <p>簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方がよい基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部の学生はもちろん、経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。</p> <p>この講義では日本商工会議所簿記検定3級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。</p> <p>とにかく欠席しないで、練習してください。（皆さんの進度に応じて変更あります）</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> Chapter7 その他の債権債務 Chapter8 有価証券・有形固定資産 I 有価証券 II 有形固定資産 Chapter9 決算の手続き(2) I 決算整理記入 II 売上原価の計算(III 売上帳と仕入帳 IV 商品有高帳 V 仕入先元帳と得意先元帳) III 貸倒の見積り IV 消耗品費の処理 V 収益・費用の繰延 VI 収益・費用の見越 Chapter10 精算表・財務諸表 I 精算表 II 損益計算書と貸借対照表 Chapter13 日商の3級型の精算表 Chapter11 帳簿(1) I 仕訳帳と元帳 II 手形記入帳 III 売上帳と仕入帳 IV 商品有高帳 V 仕入先元帳と得意先元帳 Chapter12 帳簿(2) I 3伝票製 II 5伝票製 	
◆ 評価方法 試験 100点、プリント・ワークブック 10点			
◆テキスト、ワークブック TAC 出版『とおるテキスト日商簿記3級』 『とおるゼミ日商簿記3級』			

03 年度以降 (春) 簿記原理 a
 01~02 年度 (春) 簿記原理 a
 00 年度以前 簿記原理

担当者 金井繁雅

◆ 講義の目標

複式簿記の計算原理を探求することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会計学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会計学の理解にとって不可欠である。

講義概要

複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という 5 つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。

◆ 評価方法

定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

◆ テキスト、参考文献

・中村泰将編著「講座現代簿記」中央経済社

◆ 授業計画

1	【簿記の意義と目的】 企業社会において、簿記の果たす機能とその目的について概説する。
2	【資産・負債・資本】 簿記の基本概念である資産、負債および資本の意味とそれらの相互関係について説明する。
3	【収益・費用】 収益と費用の概念を明らかにするとともに、その差額である利益について考察する。
4	【財産法と損益法】 利益計算の方法としての財産法と損益法の原理について考える。
5	【取引と勘定記入】 簿記上の取引と一般的な取引の区別および勘定記入の法則について説明する。
6	【仕訳と転記】 仕訳の意味、仕訳の方法および仕訳帳について説明すると同時に、元帳への転記の方法を概説する。
7	【試算表と精算表】 貸借平均の原理、試算表の意義および 8 桁精算表の構造と作成方法について説明する。
8	【帳簿決算手続】 主に英米式決算法を解説する。また、決算振替仕訳について十分に練習する。
9	【現金・預金】 現金と通貨代用証券、現金過不足勘定、小口現金、当座預金と当座借越について学ぶ。
10	【有価証券】 有価証券の購入と売却および評価替えについての記帳を解説する。
11	【商品勘定の 3 分法】 分記法と 3 分法の相違および 3 分法での決算整理について説明する。
12	【仕入帳と売上帳】 商品の仕入と売上についての明細を記録する補助簿について学ぶ。

03 年度以降 (秋) 簿記原理 b
 01~02 年度 (秋) 簿記原理 b
 00 年度以前 簿記原理

担当者 金井繁雅

◆ 講義の目標

複式簿記の計算原理を探求することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会計学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会計学の理解にとって不可欠である。

講義概要

複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という 5 つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。

◆ 評価方法

定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

◆ テキスト、参考文献

中村泰将編著「講座現代簿記」中央経済社

◆ 授業計画

1	【商品有高帳】 商品有高帳の作成方法、つまり先入先出法や移動平均法等を理解する。
2	【得意先元帳と仕入先元帳】 売掛金勘定と得意先元帳の関係および買掛金勘定と仕入先元帳の関係について考える。
3	【手形取引の記帳】 約束手形と為替手形の意味と手形取引の仕訳を学ぶ。また手形の裏書や割引にも触れる。
4	【その他の債権・債務】 前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金などを学ぶ。
5	【貸倒れと貸倒引当金】 貸倒れの意味と貸倒引当金の設定 (差額補充法) について学ぶ。
6	【固定資産と減価償却】 固定資産と減価償却の意味および定額法による減価償却の処理について説明する。
7	【資本金と引出金】 個人企業における資本金勘定と引出金勘定について概説する。
8	【収益・費用の繰延】 損益の期末整理として、前受収益と前払費用の処理について学ぶ。
9	【収益・費用の見越】 損益の期末整理として、未収収益と未払費用の処理について学ぶ。
10	【試算表の作成】 試算表の作成に関する問題を練習する。
11	【8 桁精算表】 8 桁精算表の作成に関する問題を練習する。
12	【財務諸表の作成】 財務諸表の作成について総合的に考察する。

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	千葉啓司
◆講義目的、講義概要 簿記は、企業が行う経済活動を記録する手段であり、最終的に企業が一年間の活動の結果、どれだけ利益を上げたか、またいかなる財政状態にあるかを計算し、表示するための基礎資料を提供する。簿記が企業のどのような経済活動を記録の対象としているか、そしてどのように記録するのか。これには一定の規則があり、この規則は簿記をコンピュータ化するときにも非常に役に立っている。これらの規則のうち基本的なものを習得することが本講義の目的である。 まず、現在企業において広く使われている簿記の全体的な仕組み、体系について解説を加える。つぎに取引の記録の目的および基本原則、取引記録の集計および決算の意味を概説する。そして企業が行う一般的な取引のうち、現金・預金に関する取引および商品売買に関する取引を取り上げ、その取引の仕組みと簿記における記録の仕方について説明する。		◆授業計画 1 簿記の意義、役割、体系 2 簿記における記録の対象と記録方法 3 仕訳と勘定 4 記録の集計 5 決算の意味と方法 6 勘定の体系 7 現金・預金の取引とその記録 1 現金と現金出納帳 8 現金・預金の取引とその記録 2 小切手と当座預金、当座借越 9 商品売買取引とその記録 1 分記法、総記法、三分法、掛取引 10 商品売買取引とその記録 2 仕入帳、商品有高帳 11 商品売買取引とその記録 3 売上原価の算定 12 まとめ	
◆ 評価方法 ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	千葉啓司
◆講義目的、講義概要 講義目的 本講義の目的は2つある。1つ目は簿記原理 a の知識を前提に、より多くの企業の取引およびその記録方法を習得することである。これらを習得することで簿記の記録の規則をより正確に理解することができるようになる。 2つ目は、簿記の最終的な目的ともいえる決算について学習することである。決算についての正しい理解を得て初めて簿記の体系を理解することができる。 講義概要 まず、簿記原理 a の知識を呼び戻すべく、復習の講義をする。つぎに簿記の基本を理解するために不可欠といえる各種の取引の記録方法について解説を加える。その後、決算の意義、手続きについて詳細な説明を行っていくことにする。		◆授業計画 1 簿記原理 a の復習 2 手形取引とその記録 1 約束手形と為替手形 3 手形取引とその記録 手形の裏書と手形の売却 4 その他の債権債務取引とその記録 1 前払い金・前受金、未収金・未払金 商品券、貸付金・借入金 5 その他の債権債務取引とその記録 2 立替金・預り金、仮払金・仮受金 6 引当金 引当金の意義・種類、貸倒引当金 7 有価証券の取引とその記録 1 有価証券の分類、取得、売却、評価 8 固定資産の取引とその記録 固定資産の取得、減価償却 9 資本取引とその記録 個人事業の資本、株式会社の資本 10 決算 1 決算整理仕訳のまとめ、収益・費用の整理 11 決算 2 試算表・財産目録の作成 12 決算 3 精算表の作成	
◆ 評価方法 ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献 百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会			

03年度以降 01～02年度(春) 00年度以降	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： 1. 「複式簿記」の基本的仕組みについて理解する。 2. 取引から決算までの簿記一巡を学びます。 3. 貸借対照表と損益計算書の作成を学びます。</p> <p>講義概要： 春学期の講義は、「簿記とは何か」から始めて、「決算手続き」まで学びます。</p> <p>簿記は企業活動を「借方」と「貸方」の2つに分けることによって、いかなる複雑な企業活動をもフローとストックの表に要約することができる。その意味で、簿記は、歴史上、イタリアで発明されたまれに見る計算システムである。</p>		<p>1. 複式簿記とは何か。 (1)簿記の目的と種類</p> <p>2. 簿記の5要素 (1)資産、負債、資本、収益、費用</p> <p>3. 簿記の仕組み (1)取引と勘定 (2)勘定の記入の仕方</p> <p>4. 取引の8要素と仕訳</p> <p>5. 仕訳と転記、 (1)仕訳帳と(総勘定)元帳</p> <p>6. 試算表と6桁精算表</p> <p>7. 試算表の作成と精算表の作成</p> <p>8. 決算(I) (1)決算の意味と手続き</p> <p>9. 決算(II) (1)大陸式決算と英米式決算</p> <p>10. 決算(III) (1)決算仕訳と開始仕訳</p> <p>11. 財務諸表の作成 (1)貸借対照表と損益計算書</p> <p>12. 現金取引と当座預金取引 (1)現金出納帳の作成 (2)小口現金出納帳</p>	
◆ 評価方法			
出席、宿題、定期試験の総合点で評価します。			
◆テキスト、参考文献			
中村泰將編著『講座現代簿記』中央経済社、			

03年度以降 01～02年度(秋) 00年度以降	簿記原理 b 簿記原理 b 簿記原理	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期では「取引→仕訳→勘定転記→試算表→精算表→財務諸表」という簿記の一巡を学びました。</p> <p>秋学期では、さらに上の取引が若干複雑になるだけであって、その後の簿記の記録と計算の原理は同じである。 したがって、経済活動が複雑になればなるほど、それに応じて勘定科目の数も増加することになるので、それを覚えれば良いことになる。</p>		<p>1. 商品の仕入、管理、販売の処理</p> <p>2. 商品の売買利益の算定方法 (1)分記法と総記法 (2)商品の3分法</p> <p>3. 商品有高帳 先入先出方法と移動平均法</p> <p>4. 仕入帳と売上帳</p> <p>5. 有価証券の購入・保有・売買処分の処理</p> <p>6. 固定資産の購入・利用・修繕・処分の処理</p> <p>7. 手形の取引</p> <p>8. その他の債権・債務</p> <p>9. 資本金と引出金</p> <p>10. 決算の修正手続 (1) (1)収益と費用の繰延 (2)収益と費用の見越</p> <p>11. 決算の修正手続</p> <p>12. 8桁精算表</p>	
◆ 評価方法			
同上。			
◆テキスト、参考文献			
同上。			

03年度以降(春)	簿記原理 a	担当者	細田 哲
01~02年度(春)	簿記原理 a		
00年度以前	簿記原理		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標 「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。</p> <p>講義概要 前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式簿記とは ・ 簿記の仕組み ・ 試算表と精算表 ・ 決算(I) 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.1. 複式簿記とは(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 簿記の目的と種類 2.1. 複式簿記とは(2) <ul style="list-style-type: none"> b) 複式の要素 3.2. 簿記の仕組み(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 取引と勘定、b) 勘定記入法 4.2. 簿記の仕組み(2) <ul style="list-style-type: none"> a) 取引と勘定、b) 勘定記入法 5.2. 簿記の仕組み(3) <ul style="list-style-type: none"> c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳 6.2. 簿記の仕組み(4) <ul style="list-style-type: none"> c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳 7.3. 試算表と精算表(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 試算表の作成、b) 精算表の作成 8.3. 試算表と精算表(2) <ul style="list-style-type: none"> a) 試算表の作成、b) 精算表の作成. 9.4. 決算(I) (1) <ul style="list-style-type: none"> a) 決算の意味と手続 10.4. 決算(I) (2) <ul style="list-style-type: none"> b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法 11.4. 決算(I) (3) <ul style="list-style-type: none"> b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法 12.4. 決算(I) (4) <ul style="list-style-type: none"> d) 損益計算書と貸借対照表の作成、e) 開始記入 	
◆評価方法			
期末試験の結果による。			
◆テキスト、参考文献			
中村泰将(編著)「講座 現代簿記」(中央経済社)			

03年度以降(秋)	簿記原理 b	担当者	細田哲
01~02年度(秋)	簿記原理 b		
00年度以前	簿記原理		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現金・預金取引の記帳 ・ 商品売買取引の記帳 ・ 手形取引の記帳 ・ その他の取引の記帳 ・ 決算(II)決算整理 ・ 損益計算書と貸借対照表の作成 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.5. 現金・預金取引の記帳 2.6. 商品売買取引の記帳(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 分記法、3分法 3.6. 商品売買取引の記帳(2) <ul style="list-style-type: none"> b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳 4.6. 商品売買取引の記帳(3) <ul style="list-style-type: none"> b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳、d) 掛取引の記帳 5.7. 手形取引の記帳(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 約束手形と為替手形、b) 受取手形勘定と支払手形勘定、c) 手形の裏書と割引 6.7. 手形取引の記帳(2) <ul style="list-style-type: none"> a) 受取手形記入帳と支払手形記入帳、b) 不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金 7.8. その他の取引の記帳 <ul style="list-style-type: none"> a) その他の債権、債務取引、b) 有価証券取引、c) 固定資産取引、d) 営業費等の取引 8.9. 決算(II)決算整理(1) <ul style="list-style-type: none"> a) 決算整理の意味、b) 棚卸減耗損及び商品評価損 9.9. 決算(II)決算整理(2) <ul style="list-style-type: none"> c) 有価証券評価損、d) 固定資産の減価償却 10.9. 決算(II)決算整理(3) <ul style="list-style-type: none"> e) 費用・収益の繰延と見越、f) 8桁精算表の作成 11.9. 決算(II)決算整理(4) <ul style="list-style-type: none"> e) 費用・収益の繰延と見越、f) 8桁精算表の作成 12. 損益計算書と貸借対照表の作成 	
◆評価方法			
期末試験の結果による。			
◆テキスト、参考文献			
中村泰将(編著)「講座 現代簿記」(中央経済社)			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	百瀬房徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>簿記原理では複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は取引の借方と貸方による仕訳に基づき、勘定に分解し、元帳における勘定システムを通じて、事業の資産、負債および資本の増減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 複式簿記の現代における意義 2 複式簿記の体系および簿記における取引とは何か 3 仕訳の基本原則および取引勘定への転記 4 補助簿への記入および試算表の作成 5 精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記 6 取引パターン別の仕訳例の説明 7 パターン別に仕訳された例の勘定への転記 8 例題による取引の仕訳および勘定への転記 9 例題による精算表の作成および決済に際しての損益勘定および残高勘定の完成 10 練習問題…取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記 11 練習問題…試算表の作成および精算表の作成 12 練習問題…元帳の締切りによる損益勘定および 	
◆評価方法			
テスト			
◆テキスト、参考文献			
百瀬房徳「体系複式簿記」森山書店			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	簿記原理 b 簿記原理 b 簿記原理	担当者	百瀬房徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算書を、残高勘定（大陸法）から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 現金勘定と現金出納帳 2 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳 3 商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割 4 仕入勘定と売上帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引き 5 仕入勘定と売上帳、および売上勘定と売上帳 6 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損 7 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳 8 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳 9 その他債権・債務の諸勘定、有価証券勘定 10 固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理 11 決算前の諸勘定の整理について 12 決算…勘定の締切り、損益勘定および残高勘定（大陸法）の完成、および8桁精算表の作成 	
◆評価方法			
テスト			
◆テキスト、参考文献			
百瀬房徳「体系複式簿記」森山書店			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	簿記原理 a 簿記原理 a 簿記原理	担当者	湯田 雅夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション： 講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第1章 簿記の意義と目的； 第2章 資産・負債・資本と貸借対照表 4. 第2章 東京商会の事例解説； 第3章 収益・費用と損益計算書 5. 第4章 取引；第5章 勘定 6. 第6章 仕訳と転記 7. 第7章 帳簿 8. 第8章 簿記一巡の手続き 9. 第9章 現金預金 10. 第10章 商品売買 11. 第10章 商品売買 12. 第11章 有価証券； 第12章 売掛金と買掛金 	
◆評価方法			
<p>期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』 中央経済社</p>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	簿記原理 b 簿記原理 b 簿記原理	担当者	湯田 雅夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第13章 その他の債権・債務 2. 第14章 手形 3. 第15章 貸倒れと貸倒引当金 4. 第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金 5. 第18章 収益・費用の繰延と見越 6. 第19章 決算予備手続 7. 第19章 決算予備手続 8. 第20章 例題解説 9. 第20章 決算本手続 10. 第20章 決算本手続 11. 総合問題 12. 本講義の結びとして、 「簿記学習の継続」の必要性を指摘。 	
◆評価方法			
<p>期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』 中央経済社</p>			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	数学 a 数学 a 数学	担当者	遠藤 信
◆講義目的、講義概要 経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。 前期では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。後期では、微分を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。		◆授業計画 1. 行列の定義 行列の演算 2. 行列の演算 3. 行列の性質 4. 行列式の定義 5. 行列式の計算 6. 行列式の性質 7. 行列式の性質と行列式の計算 8. 余因子とその性質 9. 余因子とその性質 10. 余因子を用いて逆行列を求める方法 11. 連立1次方程式 Cramerの公式 12. 補充とまとめ	
◆ 評価方法 秋期 b の欄を参照すること。			
◆テキスト、参考文献 秋期 b の欄を参照すること。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	数学 b 数学 b 数学	担当者	遠藤 信
講義目的と講義概要は春期 a を参照すること。		◆授業計画 1. 関数と関数の極限 2. 関数の極限 関数の連続 3. 微分係数と導関数の定義 4. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分 5. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分 6. 関数の極大・極小 7. 関数の極大・極小 8. 高次導関数 平均値の定理 9. 偏微分の定義 偏微分の計算 10. 偏微分の計算 11. 微分の社会科学への応用 12. 補充とまとめ	
◆評価方法 出席状況と授業中におこなう演習での平常点と、授業中におこなう何回かのまとめのテストの成績を総合して成績評価をする。数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者（全授業数の3分の1以上を欠席した者）は単位が取れない。			
◆受講者への要望 第1回目の授業（bだけの者は後期の第1回目の授業）には必ず出席して、大切な注意事項をよく聞くこと。第1回目から授業を行います。			
◆テキスト 特に定めない。必要に応じて、プリント使用。			
◆参考文献 参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	高齢化社会論 a 高齢化社会論 a 高齢化社会論	担当者	奥山 正司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。</p> <p>人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>人口高齢化、寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、高齢社会の全体像の一部を明らかにする。</p>		<p>第1～2週 高齢期について。 老化の社会的側面及び高齢者観について</p> <p>第3～4週 人口高齢化と高齢化社会・エイジズム</p> <p>第5～6週 高齢者と家族、老親子の居住形態 高齢期の人間関係</p> <p>第7～8週 ライフ・サイクル、家族周期と老年期</p> <p>第9～10週 高齢者と生計 高齢期の収入、年金などについて</p> <p>第11週 高齢者と就業・雇用、定年退職</p> <p>第12週 サクセスフル・エイジング 幸福な老いの研究 多様化するライフスタイルなど</p>	
◆ 評価方法			
出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業のはじめに指示する			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	高齢化社会論 b 高齢化社会論 b 高齢化社会論	担当者	奥山 正司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。</p> <p>人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>老人福祉の在宅福祉サービス及び施設福祉サービス、老後保障、介護保険、北欧、イギリス、アメリカなどの保健福祉サービスなどにて講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。</p>		<p>第1～2（13～14）週 高齢者と住宅環境 住宅にとっての高齢者、住宅水準の状況、</p> <p>第3～4（15～16）週 高齢者と生涯学習、社会参加について。</p> <p>第5～6（17～18）週 高齢者と保健・医療 死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向</p> <p>第7～8（19～20）週 高齢者と在宅福祉及び施設福祉</p> <p>第9～10（21～22）週 高齢者と介護保険制度</p> <p>第11（23）週 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出</p> <p>第12（24）週 諸外国の高齢者対策 福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>	
◆ 評価方法			
出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業のはじめに指示する			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	精神衛生論 a 精神衛生論(通年) 精神衛生論	担当者	中野隆史
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間2万人から3万人へと激増した。精神衛生(=精神保健=メンタルヘルス)の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 精神衛生(精神保健)とは何か、精神保健を学ぶ意味 2 精神保健の実践の対象—健全者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見 3 精神医学の基本的知識(1) 精神障害の概念・成因・分類 4 精神医学の基本的知識(2) 心因性精神障害 神経症(不安障害など)、心因反応(PTSDなど) 5 精神医学の基本的知識(3) 内因性精神障害 うつ病(気分障害)、統合失調症 6 精神医学の基本的知識(4) 精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション 7 ライフサイクルから見た精神保健(1) 乳幼児期 基本的信頼感、分離個体化、精神遅滞、広範性発達障害 8 ライフサイクルから見た精神保健(2) 児童期 社会化、注意欠陥/多動障害(ADHD)、行為障害 9 ライフサイクルから見た精神保健(3) 思春期・青年期 自我同一性、モラトリアム、不登校、非行、統合失調症 10 ライフサイクルから見た精神保健(4) 成人期 職場不適応、ストレス反応、うつ病、自殺 11 ライフサイクルから見た精神保健(5) 老年期 老化、喪失体験、うつ病、痴呆(アルツハイマー病など) 12 まとめ 	
◆評価方法			
出席、レポート、試験の成績による。			
◆テキスト、参考文献			
テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	精神衛生論 b 精神衛生論(通年) 精神衛生論	担当者	中野隆史
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>精神保健(メンタルヘルス)や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会(虐待、いじめ、リストラ……)では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健全者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神衛生論(健康学)aを踏まえて、生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理(精神的健康の維持増進)、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生活の場から見た精神保健(1) 家族の精神保健(1) 家族の形態と機能、社会の変化と家族機能の変化 2 生活の場から見た精神保健(2) 家族の精神保健(2) 夫婦関係、親子関係、育児不安、育児支援 3 生活の場から見た精神保健(3) 学校の精神保健(1) 小 中高校—学校精神保健、スクールカウンセラー 4 生活の場から見た精神保健(4) 学校の精神保健(2) 大 学—保健センター、チューデントアパシー、摂食障害、 対人恐怖、パニック障害、統合失調症、うつ病 5 生活の場から見た精神保健(5) 職場の精神保健(1) 労働安全衛生法、メンタルヘルスケア、うつ病、心身症 6 生活の場から見た精神保健(6) 職場の精神保健(2) 産業保健サービスシステム、復職システム 7 生活の場から見た精神保健(7) 地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源 8 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ 9 精神障害の予防と健康管理(1) 心の健康づくり、ストレスとその対処法 10 精神障害の予防と健康管理(2) 専門機関、専門家 11 精神障害の予防と健康管理(3) 医療システム、保健システム、福祉システム 12 まとめ 	
◆評価方法			
出席、レポート、試験の成績による。			
◆テキスト、参考文献			
テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以降	医療・福祉概論 a 医療・福祉概論 a 医療福祉概論	担当者	藤井賢一郎
◆講義目的、講義概要 平成16年度政府予算案では、社会保障関係費は19兆7900億円で、一般会計82兆1100億円の4分の1近くにのぼっている。少子高齢化が進む中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。 この講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の負担と給付のあり方を探ると共に、医療、年金、介護制度を理解し、今後の社会保障制度のあり方を議論することである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 なお、春学期は、社会保障の負担と給付及び年金制度を中心に授業を実施する。		◆授業計画 1 ガイダンス 2 超高齢社会を迎えるわが国 3 少子化と女性の社会参加 4 社会保障の国際比較（1） 5 社会保障の国際比較（2） 6 税と社会保険料 7 社会保障制度まとめ 8 年金制度（1）制度改革のゆくえ 9 年金制度（2）女性と年金 10 厚生行政とレントシーキング（1）（薬害エイズ問題を素材として） 11 厚生行政とレントシーキング（2）（薬害エイズ問題を素材として） 12 春学期のまとめ	
◆ 評価方法 試験のみによる。ただし、授業での発表、レポート等を付加点として勘案する。		※選択希望者は、第1回目に、必ず出席すること。第1回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。	
◆テキスト、参考文献 三菱総合研究所「図説 福祉・介護ハンドブック」東洋経済新報社			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以降	医療・福祉概論 b 医療・福祉概論 b 医療福祉概論	担当者	藤井賢一郎
◆講義目的、講義概要 平成16年度政府予算案では、社会保障関係費は19兆7900億円で、一般会計82兆1100億円の4分の1近くにのぼっている。少子高齢化が進む中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。 この講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の負担と給付のあり方を探ると共に、医療、年金、介護制度を理解し、今後の社会保障制度のあり方を議論することである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 なお、秋学期は、医療制度及び介護制度を中心に授業を実施する。		◆授業計画 1 ガイダンス 2 医療保険の仕組み（1）（TVCMの民間保険に加入する必要があるの？） 3 医療保険の仕組み（2）（あなたの入っている保険はなに？） 4 医療保険の仕組み（3）（病院にかかるとどのくらい払う必要があるの？） 5 わが国の医療の課題（1） 6 わが国の医療の課題（2） 7 医療事故がなぜ起きるか 8 医療制度のまとめ 9 介護保険制度（1）（介護保険制度の概要） 10 介護保険制度（2）（要介護認定とケアマネジメント） 11 介護保険制度（3）（サービスの内容） 12 秋学期のまとめ	
◆ 評価方法 試験のみによる。ただし授業での発表、レポート等を付加点として勘案する。		※選択希望者は、第1回目に、必ず出席すること。第1回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。	
◆テキスト、参考文献 三菱総合研究所「図説 福祉・介護ハンドブック」東洋経済新報社、（他1冊、出版予定）			

03 年度以降 (春) 現代文化論 a			
01-02 年度 (春) 現代文化論 a		担当者	柴崎 信三
00 年度以前 現代文化論			
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>私たちは何気なく「文化」ということばを使うが、その指し示す領域は広く深い。固有の言葉や習慣、衣食住といった個人の暮らしに直接かわるものから、芸術や思想、宗教といった人間の内面を動かす抽象的な価値にとどまらず、例えば企業や社会を支えるルールや価値観なども、それぞれの地域や民族、歴史など空間的、時間的制約の下で異なった現れ方みせる。現代社会は米国などが主導する「文化」の世界的な統合と共通化が広がる一方で、地域や民族、伝統、宗教など固有の価値が対立や葛藤を繰り返す時代である。</p> <p>ジョセフ・ナイは軍事力に代わって冷戦後の世界を主導する文化の力を「ソフトパワー」と呼んだ。春学期の授業では世界秩序をリードする「新しい帝国」として米国が繰り返すグローバリゼーションの波を巡って、その文化的な統合と反発のかたちをさまざまな領域に探り、日本を含めた世界が直面する問題を考える。政治や経済、ビジネスから社会システムやモラルのありかたにも踏み込んで考察をすすみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに イラク戦争と世界 2 米国という鏡 その成り立ち 3 米国という鏡 大量生産 4 米国という鏡 民主主義 5 米国という鏡 戦争と覇権 6 冷戦後の世界 国際関係 7 冷戦後の世界 ビジネス 8 冷戦後の世界 人種と国家 9 冷戦後の世界 消費 10 冷戦後の世界 大衆文化 11 冷戦後の世界 ルールと価値 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況やレポートの実績を加味して評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>特に指定しない。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』(ちくま新書)を参考文献とする。</p>			

03 年度以降 (秋) 現代文化論 b			
01-02 年度 (秋) 現代文化論 b		担当者	柴崎 信三
00 年度以前 現代文化論			
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>秋学期の授業では近代以降の「日本」を一つの文化モデルと考え、社会制度や人々の価値観の変容や、ビジネスのルールから大衆文化に至るその表象を通して「日本型システム」と呼ばれるしくみがもたらした文化的な意味とその功罪を、グローバル化の流れのなかで考える。</p> <p>近代の日本は「脱亜入欧」をスローガンに欧米モデルの近代化を急いできたが、その結果として敗戦による国家の破綻とその後の経済大国としての成功を経験した。そこでは日本型システムと呼ばれる固有の社会の仕組みや人々の価値観が、時に高いパフォーマンスをもたらし、時に手痛いダメージにつながった。</p> <p>授業ではこの「日本」というモデルを政策決定や競争システム、底流をなす人々の価値観や芸術表現の推移など、異なった角度からとらえ直し、構造改革などで現在日本が直面する問題の在処を探りながら、文化の特殊性と普遍性という二重化された構造を学んで行きたい。映像や文学作品なども理解の助けとしてとりあげてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 日本問題とは何か 2 日本システム 起源 3 日本システム 展開と挫折 4 日本システム 再構造化 5 日本システム 成功 6 日本システム 破綻と再生 7 日本の表象と世界 脱亜入欧 8 日本の表象と世界 集団主義・天皇制 9 日本の表象と世界 トヨタ・SONY 10 日本の表象と世界 礼賛・バッシング 11 日本の表象と世界 消費・家族・表現 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末の定時試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を加味して評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>特に指定しないが、参考文献として夏目漱石の『三四郎』など文芸作品をよむことを課す。</p>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	青木 雅明
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的</p> <p>経済学の基本的な英文が読めるようになる。</p> <p>講義概要</p> <p>下記テキストの①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の提出、④訳文の講評、⑤その他からなる翻訳教室である。</p> <p>毎回、中型英和辞書を持参のこと。</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆評価方法			
翻訳文、出席・遅刻による。欠席4回を超えると単位権を喪失する。(遅刻3回で欠席1回の扱い)			
◆テキスト、参考文献			
Stiglits, J.E. (1997) "Economics 2 nd Edition", W.W.Norton			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	青木 雅明
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的</p> <p>経済学の基本的な英文が読めるようになる。</p> <p>講義概要</p> <p>下記テキストの①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の提出、④訳文の講評、⑤その他からなる翻訳教室である。</p> <p>毎回、中型英和辞書を持参のこと。</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆評価方法			
翻訳文、出席・遅刻による。欠席4回を超えると単位権を喪失する。(遅刻3回で欠席1回の扱い)			
◆テキスト、参考文献			
Stiglits, J.E. (1997) "Economics 2 nd Edition", W.W.Norton			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語 Ia 経済・経営外国語 Ia 経済・経営外国語	担当者	阿部正浩
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英文の経済・ビジネス雑誌を正確に速く読めるようなスキルを、受講者に身につけてもらうための授業である。</p> <p>授業では、まず速読するために必要な英文法および英語文型を徹底的に学習すると同時に、語彙力の養成にも力を入れる。</p> <p>この授業は単なる講義形式ではなく、受講者の主体的な発表と自習を中心に進める。</p> <p>英語（読解力）をもう一度勉強したいと思っている諸君は是非受講されたい。</p>		<p>第1回目の授業で教科書を指示します。</p> <p>この教科書に沿って授業を行います。毎回必ず予習をして来て下さい。予習したことを授業で毎回発表してもらいます。この発表内容により成績をつけます。また、毎回プリントを配り、時間内に英文和訳をしてもらいます。ただし、この点数は成績に反映しません。12回の授業を受講できれば、ある程度の英文を和訳することは難しくなくなっているはずです。詳細については第1回目の授業で説明します。</p>	
◆ 評価方法			
授業中の発表内容と期末試験により決める。			
◆テキスト、参考文献			
最初の授業で指示する。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語 Ib 経済・経営外国語 Ib 経済・経営外国語	担当者	阿部正浩
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>上記を参照のこと。</p> <p>なお、秋学期の授業は主として輪読中心のスタイルで行う。</p>		<p>毎回配布するプリントを読み、プリントの内容について受講者が報告を行う。</p> <p>授業中に発言しない受講者は出席とみなさないことがある。</p>	
◆ 評価方法			
授業中の発表と期末試験により決める。			
◆テキスト、参考文献			
プリントを配布する。			

03 年度(春) 01~02 年度(春) 00 年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>大リーグやサッカーなど海外が近くなった印象がありませんか。 実はビジネスの世界では、ずいぶん前から近くなっているわけです。より近くするにはご承知のとおり語学力を身につける必要があります。 この講義では、基本的には経済・経営の比較的易しいテキストを用いて、受講される皆さんと読み進めていきます。 方法としては、①皆さんに必要な単語等を調べてもらう、②それにもとづき指名された箇所に葉をつけて、発表する、③内容の理解が進むよう、こちらで講義したり、新聞や雑誌でフォローする等です。 また、お願いは単なる講義というよりは、皆さんに事前に学習してもらうことが前提です。ということは出席が重要となります。受講にあたって、その責任が果たせることを条件としておきます。</p>		<p>1 講義を始めるにあたってのイントロダクション</p> <p>2 マネジメントとは</p> <p>3から12にかけては皆さんの訳をもとにしてテキスト等を読み進めていきます。</p>	
◆ 評価方法			
出席が重視されます。			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します			

03 年度(秋) 01~02 年度(秋) 00 年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経済・経営外国語 I a を受講された方を前提としています。 引き続き、経済・経営に関するテキスト、具体的には NPO・非営利組織に関連するテーマを読み進めていきます。 方法は、①皆さんに必要な単語等を調べてもらう、②それにもとづき指名された箇所に葉をつけて、発表する、③内容の理解が進むよう、こちらで講義したり、新聞や雑誌でフォローする等です。 また、機会があれば、皆さんの英文履歴書を作成することにもチャレンジしましょう。海外指向の方にとってはあるいは大半の方は作ったことがないでしょうから、将来に役立つはず。 最後に、講義科目ですが、ゼミのような雰囲気のあるクラスにしたいと思っています。</p>		<p>1 講義を始めるにあたってのイントロダクション</p> <p>2 から 12 は担当者に予習の上、訳をつけてもらい進行していきます。 また、概要でふれた英文履歴書については書き方を講義した上で、皆さん自身のものを作成してもらうことにします。</p>	
◆ 評価方法			
出席が重視です。			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します。			

<p>経済・経営外国語 I a</p>	<p>担当者</p>	<p>伊藤爲一郎</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 経済ニュースや学術論文を読み、読解力・専門用語の理解等を深めることを目標とします。</p> <p>講義概要 教材に沿って内容を深く理解できるように解説します。教材の一部を受講者が論読する形で進めます。</p> <p>◆評価方法</p> <p>前期：平常点と期末試験の成績を加味して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時にプリントを配布します。</p>	<p>◆授業計画</p>	

<p>経済・経営外国語 I b</p>	<p>担当者</p>	<p>伊藤爲一郎</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>後期：前期と同じ。</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 01～02年度 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要 <p>本講義の目標は、主として英国の社会保障分野の専門書を講読し、その内容を理解した上で討論することにあります。さしあたりテキストの輪読を行います。翻訳することが目的ではなく、内容の検討が主要目標であることを十分に認識して下さい。区切れごとに、あるいは適宜、トピックなどを取り上げて、ディスカッションやディベートすることを予定しています。</p> <p>英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定です。さしあたり社会保障改革をめぐる経済・社会環境の変化を検討するため、制度の構造や環境などを時間をかけて検討します。</p> <p>社会保障とくに年金や医療について論及されることが多いので、基本理論について別途学習する機会を設けます。</p>		◆授業計画 <p>本年度は1998年のイギリスのグリーン・ペーパーを用いて、英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定です。</p> <p>参考書などは必要に応じて紹介しますが、特にこの分野は日本語の文献も多く、勉強し易いと思います。英国政府と国民との新しい福祉契約に関しては新しい考え方も入っていますので、図書館などで各自探してみてください。英国の基本的な社会保障制度の概要などについての参考文献は豊富です。</p>	
◆ 評価方法 <p><u>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</u></p>			
◆テキスト、参考文献 <p>テキストは初回にいくつか紹介しますが、受講者の希望により変更することもあり得ます。</p>			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要 <p>秋学期も引き続き英国の社会保障関連の文献を読んで制度の解説を行います。春学期とは独立したテーマを選びます（秋学期からの受講者を配慮して）。</p> <p>将来必ず考えなければならない年金問題などを社会保障の先進国（日本への影響が大きい）と比較して、より深く検討します。</p> <p>なお、私的な企業年金に関しては、日本は英国より米国の影響を受けていますので、米国の制度も考察対象とします。とくに401kを素材とすることを予定しています。</p>		◆授業計画 <p>春学期と同様の手順で講義を進めます。ただし、場合によってはトピックを挿入したり、CDによる簡単なリスニング（1文1行程度の短文）を行って、実践的な英語の習得を培うことも考えています。CDを聞きながら表現力を養えるような時間を設けたいと思います。</p>	
◆ 評価方法 <p><u>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</u></p>			
◆テキスト、参考文献 <p>テキストは初回にいくつか紹介しますが、受講者の希望により変更することもあり得ます。</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語	担当者	奥山 正司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>21世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。</p>		<p>日本における高齢化の状況と基本的な社会経済的な動向と関連させながら学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口高齢化の側面 人口高齢化の要因及び状況 世帯・家族の変化と人口 2. 高齢化の側面と社会経済的な状況 労働力、世代間扶養 3. 社会保障、高齢者への保健福祉、 	
◆ 評価方法			
出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業のはじめに指示する			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語	担当者	奥山 正司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>21世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。</p>		<p>日本における高齢化の状況と基本的な保健福祉について、学ぶ。</p> <p>高齢者福祉の歴史 明治時代から昭和の20年代までの 高齢者福祉について</p> <p>老人福祉法制定以降の高齢者福祉について 在宅福祉サービス 施設福祉サービス 介護保険サービスなどについて</p>	
◆ 評価方法			
出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業のはじめに指示する			

03年度以降（春） 経済・経営外国語Ⅰa 01～02年度（春） 経済・経営外国語Ⅰa 00年度以前 経済・経営外国語	担当者	金井繁雅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計は様々な問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした国際会計基準の設定がある。会計基準は、それぞれの国において独自の経済、法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業の公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成されている。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに、会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくる。この科目では、国際会計に関する英語の基礎的なテキストを精読し、会計の国際的側面を多角的に検討することにする。単なる和訳に終わることなく内容の理解に努める。</p> <p>◆評価方法</p> <p>定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行うが、出席を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時にコピーを配布する。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降（秋） 経済・経営外国語Ⅰb 01～02年度（秋） 経済・経営外国語Ⅰb 00年度以前 経済・経営外国語	担当者	金井繁雅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計は様々な問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした国際会計基準の設定がある。会計基準は、それぞれの国において独自の経済、法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業の公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成されている。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに、会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくる。この科目では、国際会計に関する英語の基礎的なテキストを精読し、会計の国際的側面を多角的に検討することにする。単なる和訳に終わることなく内容の理解に努める。</p> <p>◆評価方法</p> <p>定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行うが、出席を重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時にコピーを配布する。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	黒川文子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスの習慣に関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とする。</p> <p>グローバル企業で働くためには、外国人とのコミュニケーション能力が必須となる。しかし、ビジネス英語の能力には、単なる会話能力だけでなく、相手の国の文化や、習慣、エチケットに関する知識まで含まれる。異文化を理解した上で国際ビジネスに携わるならば、ビジネスで成功することがより容易となるであろう。</p> <p>現在、外資系企業や海外の日系企業で働く機会が増加しつつある。国内の日本企業で働いていても、ビジネス英語を身につけておく必要性が大きくなりつつある。本講義ではそのようなニーズに答えるために、ビジネスに関する英語の読解、英会話、英作文の勉強をしていきます。</p>		<p>1 Globalization in Business and Culture</p> <p>2 Business Manners: Body Language</p> <p>3 Names, Titles, and Terms of Respect</p> <p>4 Business Etiquette</p> <p>5 Individualism and Group Spirit</p> <p>6 Working Overseas</p> <p>7 Coping with Language and Culture Shock</p> <p>8 Hospitality and Friendship</p> <p>9 Negotiations: Cultural Differences</p> <p>10 Negotiating for "Win-Win" Solutions</p> <p>11 Articles of International Business (1)</p> <p>12 Articles of International Business (2)</p>	
◆評価方法			
平常点、出席、試験を総合的に判断して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
M. Shishido and B. Allen, "Global Understanding, Success in International Business", SEIBIDO, 2003.			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	黒川文子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。</p> <p>この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。</p> <p>経営に関する基本的文献を、まずテキストを使って輪読する。ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、英文雑誌や新聞から抜粋した経営に関する論文や記事を配布して、講義を進める。</p>		<p>1 US and Japanese Business: A Case Study</p> <p>2 Marketing, Advertising, and Distribution</p> <p>3 Communication in the "Thumb Generation"</p> <p>4 Women in the International Workplace</p> <p>5 Changes in Employment Systems</p> <p>6 Establishing Trust in International Business</p> <p>7 International Business and the Internet</p> <p>8 Business and the Law: Foreign Lawsuits</p> <p>9 Questions about Globalization and Free Trade</p> <p>10 What is Success in the Global business World?</p> <p>11 Articles of International Business (1)</p> <p>12 Articles of International Business (2)</p>	
◆評価方法			
平常点、出席、試験を総合的に判断して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
M. Shishido and B. Allen, "Global Understanding, Success in International Business", SEIBIDO, 2003.			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧な翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。</p> <p>講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』）を持参して授業に臨んでください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状態、予習の程度、報告（翻訳）内容、期末テスト。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>M. Blackford. <i>The Rise of Modern Business in Great Britain, the United States, and Japan.</i></p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧な翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。</p> <p>講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』）を持参して授業に臨んでください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状態、予習の程度、報告（翻訳）内容、期末テスト。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>M. Blackford. <i>The Rise of Modern Business in Great Britain, the United States, and Japan.</i></p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降(春) 経済・経営外国語 I a	担当者	小林 進
01～02年度(春) 経済・経営外国語 I a		
00年度以前 経済・経営外国語		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。</p> <p>評価方法</p> <p>平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する</p> <p>テキスト</p> <p>未定(プリント配布の予定)</p>	<p>授業計画</p> <p>受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる</p>	

03年度以降(秋) 経済・経営外国語 I b	担当者	小林 進
01～02年度(秋) 経済・経営外国語 I b		
00年度以前 経済・経営外国語		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。</p> <p>評価方法</p> <p>平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する</p> <p>テキスト</p> <p>未定(プリント配布の予定)</p>	<p>授業計画</p> <p>受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる</p>	

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要 経済関係のニュースを、英語で収集分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 ニュースの中には、国内での報道と海外のジャーナリズムによる報道とで大きな視点の差異があるものが多い。たとえば、2003年のイラク戦争をめぐる論調、WTOなどをめぐる反グローバリゼーション運動などは、国内（および米国）の報道とヨーロッパの報道で大きなズレがあった典型である。また日本の金融当局の為替政策や不良債権処理に関する評価も、かなり異なる。世界的な事態の正確な把握には、是非とも複数の視点の異なるニュースソースをチェックする必要がある。 とはいえ、基本は日本語の新聞記事をきちんと理解し、基礎的な英語力をつけることから始めなければならない。本講義では英字新聞や雑誌の記事の読解を中心に、英語ニュースを理解するための単語力、リスニング力などを含めた総合的な英語力養成をめざす。		◆授業計画 1. 英語のニュース・日本語のニュース 2. サバイバル英語のすすめ 3. News in the world business 4. News in the world business 5. Multinational companies: The U.S 6. Multinational companies: EU 7. Multinational companies: Japan 8. World economy :The U.S. 9. World economy :The U.S. 10. World economy :Asian economies 11. World economy :Japan 12. Presentation	
◆ 評価方法 毎回の小テストを含めた平常点+定期試験			
◆テキスト、参考文献 Business Week 各号 マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要 経済関係のニュースを、英語で収集分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 本講義はできるだけ通年での受講を希望する。後期は、各自テーマを設定し、自分で英語のソースにあたり、発表するスキルを養成する。		◆授業計画 1. IT industries : The U.S. 2. IT industries : The U.S. 3. IT industries: EU 4. IT industries: EU 5. IT industries: Asian economies 6. IT industries: Asian economies 7. IT industries: Japan 8. Globalization 9. Globalization 10. Globalization 11. Globalization 12. Globalization	
◆ 評価方法 			
◆テキスト、参考文献 			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	齋藤正章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近、海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されたりもします。また、インターネットの急速な進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験の結果に出席率、平常点を加味して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 開講時に指示します。 (経営をとりあげたテキストや雑誌の予定)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>開講時に示します。</p> <p>授業の進め方 (参考) 経営関係の外国書を読むにはスピードと正確性が要求されます。しかし、この2つをバランスよく両立させることはなかなか容易ではありません。そこで、講義の始めに正確性を重視した読解を行い、次にスピードを重視した読解をし、また最後に正確性の読解をトレーニングする3部構成をとります。</p> <p>講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことがあります。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。</p>	

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	齋藤正章
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近、海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されたりもします。また、インターネットの急速な進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験の結果に出席率、平常点を加味して評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 開講時に指示します。 (経営をとりあげたテキストや雑誌の予定)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>開講時に示します。</p> <p>授業の進め方 (参考) 経営関係の外国書を読むにはスピードと正確性が要求されます。しかし、この2つをバランスよく両立させることはなかなか容易ではありません。そこで、講義の始めに正確性を重視した読解を行い、次にスピードを重視した読解をし、また最後に正確性の読解をトレーニングする3部構成をとります。</p> <p>講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことがあります。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。</p>	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	塩田 尚樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済学の専門書や原著論文を読むために必要な、英語と数学の基礎力の習得を目指します。 事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。 担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。なお、英語を身につけるためには音読が不可欠であると考えますので、音読の巧拙も評価の対象とします。 参加意識を高めるため、座席を固定します。 なお、授業態度のよくない人は退出してもらいます。 授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当部分の報告 50 点, 定期試験 50 点, 欠席一回 10 点, 遅刻一回 5 点減点.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Chiang, A.C.(1984) <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i>, McGraw-Hill</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Matrices and Vectors 2 Matrix Operations 3 Notes on Vector Operations 4 Commutative, Associative, and Distributive Laws 5 Identity Matrices and Null Matrices 6 Transposes and Inverses 7 Conditions for Nonsingularity of a Matrix 8 Test of Nonsingularity by Use of Determinant 9 Basic Properties of Determinants 10 Finding the Inverse Matrix 11 Cramer's Rule 12 Leontief Input-Output Models 	

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	塩田 尚樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済・経営外国語 I a からの継続履修を前提とします。 経済学の専門書や原著論文を読むために必要な、英語と数学の基礎力の習得を目指します。 事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。 担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。なお、英語を身につけるためには音読が不可欠であると考えますので、音読の巧拙も評価の対象とします。 参加意識を高めるため、座席を固定します。 なお、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>担当部分の報告 50 点, 定期試験 50 点, 欠席一回 10 点, 遅刻一回 5 点減点.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Chiang, A.C.(1984) <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i>, McGraw-Hill</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Some Examples of Linear Programming 2 General Formulation of Linear Programming 3 Convex Sets and Linear Programming 4 The Simplex Method 5 Finding the Extreme Points 6 Finding the Optimum 7 Further Notes on the Simplex Method 8 Duality 9 Economic Interpretation of a Dual 10 Activity Analysis: Micro Level 11 Activity Analysis: Macro Level 12 Some Concluding Remarks 	

03年度以降 01~02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	清水絹代
◆講義目標、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標: 第1の目標は、大量の英文を読むために必要な英文の効率的な読み方そのものを扱い、基礎力の向上をはかることにあります。第2の目標は、英語によるビジネス・プランを作成するプロセスの中で、経営に関する基礎理論やその応用を英文の資料に基づいて考える能力を養うことにあります。第3の目標は、自身で考えたことに自信を持って、英語で表現する能力を獲得することにあります。</p> <p>講義概要: 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々な課題が出されます。最終回はテストでビジネス・プラン・プレゼンテーション・コンテストとし、全員、スーツで参加します。毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のものは無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。遅刻厳禁。携帯電話、PHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。欠席は原則2回まで許可されます。</p>		<p>1) テーマ: 講義の流れを掴む 内容: シラバスを元に取り扱い事項、課題の把握</p> <p>2) テーマ: ビジネス・プランの構成 内容: 実際に取り組む事業を決め、その全体像を把握</p> <p>3) テーマ: 人前で「英語で話す」ことに慣れる 内容: コンテスト「我が社のビジョン」</p> <p>4) テーマ: ビジョンとは何か 内容: 日本人の時間感覚の理解</p> <p>5) テーマ: ミッションとは何か 内容: 自社のミッションを考える</p> <p>6) テーマ: 自社の製品をアピールしよう 内容: 製品紹介プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>7) テーマ: 目標とは何か 内容: 目標を設定するまでのプロセスを掴む</p> <p>8) テーマ: 戦略とは何か 内容: 戦略とは何かを考え、代表的なモデルを使って市場分析を行なう</p> <p>9) テーマ: 自社の目標と戦略を英語で表現してみよう 内容: ビジネス・プラン・プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>10) テーマ: 計画とは何か 内容: 計画に関わる諸問題を考え、現実的な計画を立案する</p> <p>11) テスト: プレゼンテーション・コンテスト (スーツ着用)</p> <p>12) 総まとめ 半期間、ウエップを使ったビジネス・シミュレーション・ゲームを行ないます。ゲームにはチームで参加しますので、協調性のある方の履修を希望します。</p>	
出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。			
◆テキスト、参考文献			
Horan, J. (1998). <i>The One Page Business Plan</i> . CA: The One Page Business Plan Company. (インターネット等で自力で購入)			

03年度以降 01~02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	清水絹代
◆講義目標、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標: 第1の目標は、ビジネスに関わる様々な事柄を英語で表現する能力を養うことにあります。第2の目標は、国際ビジネスの現場で効果的な協働を行なうために必要なコミュニケーション能力を養うことにあります。</p> <p>講義概要: 上記目標達成のため、様々な課題が出されます。最終回はテストでビジネス・プラン・プレゼンテーション・コンテストとし、全員、スーツで参加します。経済・経営外国語 I a 同様、講義フィードバックを毎回書き、縮小コピーを次週の講義で配ります。</p> <p>*本講義の履修希望者は、前期に行なわれる清水の経済・経営外国語 I a を必ず履修して下さい。遅刻厳禁。携帯電話やPHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。欠席は原則2回まで許可されます。</p>		<p>1) テーマ: 夏期休業で得た成果をシェアする 内容: ブック・レポート</p> <p>2) テーマ: 自社の製品紹介を工夫する 内容: 効果的なアピールの方法を考える</p> <p>3) テーマ: 他者にプラスの印象を与える表現 内容: 自社製品紹介プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>4) テーマ: ビジョンとは何か 内容: 自社ビジョンの見直し</p> <p>5) テーマ: ミッションのトレンド 内容: 自社のミッションについて再度考える</p> <p>6) テーマ: 自社のビジネス・プランを考える 内容: プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>7) テーマ: 目標と自分自身、チームに向きあう 内容: これまでの目標設定及び成果を振り返る</p> <p>8) テーマ: 適切な戦略 内容: 現在のマーケットのトレンドと自社戦略の適合性を考える</p> <p>9) テーマ: 自社の目標と戦略を振り返る 内容: 成果報告プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>10) テーマ: 計画と自分自身、チームに向きあう 内容: 計画に関わる自身の諸問題を考え、現実的な計画を立案する</p> <p>11) テスト: ビジネス・プラン・プレゼンテーション・コンテスト (スーツ着用)</p> <p>12) 総まとめ 半期間、ウエップを使ったビジネス・シミュレーション・ゲームを行ないます。ゲームにはチームで参加しますので、協調性のある方の履修を希望します。</p>	
経済経営外国語 a に同じ			
◆テキスト、参考文献			
経済経営外国語 a に同じ			

03年度以降(春)	経済・経営外国語 I a	担当者	千葉啓司
01~02年度(春)	経済・経営外国語 I a		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。</p> <p>講義概要 簿記および会計学の基礎概念と貸借対照表(Balance Sheet)の内容について学習する。英文に慣れてもらうために多くの文章を読んでもらうことになる。そのため比較的平易な文章のテキストが選ばれている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Basic Concepts 2 Elements of Balance Sheet 3 Assets, Liabilities and Equity 4 Dual-Aspect Concept 5 Money-Measurement Concept Entity Concept 6 Going-Concern Concept 7 Assets-Management Concept 8 Balance Sheet Items Assets 9 Balance Sheet Items Liabilities 10 Balance Sheet Items Current Ratio 11 Balance Sheet Items Equity 12 Key Points to Remember 	
◆ 評価方法			
<p>ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>R.N.Anthony and L.K.Breitner <i>Core Concepts of Accounting</i> Peason Prentice Hall,2003</p>			

03年度以降(春)	経済・経営外国語 I b	担当者	千葉啓司
01~02年度(春)	経済・経営外国語 I b		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。</p> <p>講義概要 資産・負債の分類といった貸借対照表項目にかかわる事柄、損益計算書にかかわる事柄、簿記にかかわる事柄について学習する。簿記の基本的な体系の英語表現を解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Current Assets 2 Noncurrent Assets 3 Current Liabilities 4 Noncurrent Liabilities 5 Balance Sheet Changes 1 6 Balance Sheet Changes 2 7 Income Measurement 8 The Account 9 Debit and Credit 10 The Ledger and The Journal 11 The Closing Process 12 Key Points to Remember 	
◆ 評価方法			
<p>ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>R.N.Anthony and L.K.Breitner <i>Core Concepts of Accounting</i> Peason Prentice Hall,2003</p>			

03年度以降 01~02年度 (春) 00年度以降	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要 講義目的： 1. 英文の意味内容を的確に理解すること。 2. 専門用語をできるだけ覚える。 3. 辞書は最新の辞書を使い、事象を毎日引く習慣をつける。 講義概要： 本講座では、アメリカのビッグ・ビジネスの代表的な企業を選び、それらの企業がどのようにして世界を制覇するようなビッグ・ビジネスになったかについて、英文購読を通じて学ぶことを主眼としている。 ファーストフードのマクドナルド、自動車のフォード、ドリンクのコカコーラ、航空機のボーイングを代表的な企業として選び、アメリカのトップ企業の企業戦略とその歴史的発展をカラー写真イラストを見ながら読んでいく。 授業の進め方は、順番に担当者を割り当てて輪読していく方法をとるが、全員があらかじめ予習してこなくてはならない。		◆授業計画 1. The adventure of business 2. " 3. " 4. McDonald's(マクドナルド社) 5. " 6. " 7. " 8. FORD(フォード社) 9. " 10. " 11. COCA-COLA (コカコーラ社)	
◆ 評価方法 出席重視(20%)、購読・発表(20%)、定期試験(60%) 総合評価。			
◆テキスト、参考文献 "BUSINESS IN ACTION" by William Gould (SEIBIDO)			

03年度以降 01~02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要 同上。		◆授業計画 1. BOEING (ボーイング社) 2. " 3. " 4. " 5. IBM(IBM社) 6. " 7. " 8. " 9. Xerox (ゼロックス社) 10. " 11. " 12. " (その他、AT&M)	
◆ 評価方法 同上。			
◆テキスト、参考文献 同上。			

03年度以降(春)	経済・経営外国語Ⅰa	担当者	波形昭一
01～02年度(春)	経済・経営外国語Ⅰa		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>あらゆる分野についていえることだが、経済学・経営学についても基礎的知識の習得が重要である。基礎がしっかりしていないと、その後の発展が望めないからである。その意味で本講義では、特に経済学の基礎を外国語(英語)で習得することに目標をおく。下記の教科書は経済学の基礎を平明な英語で解説しており、本講義の目的にかなっていると思われる。学生諸君の輪読を中心に授業を進めていきたい。当たり前のことだが、予習を必ずやることを義務づける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chap.1 A Matter of Choice 2. 3. 4. 5. Chap.2 Meaning of Micro 6. 7. 8. 9. Chap.3 Meaning of Macro 10. 11. 12. 	
◆評価方法			
定期試験に平常授業中の熱意(出席状況、発表状況)を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
John Tilmant 著(新井恵理注解)『Economics in Our Life』成美堂			

03年度以降(秋)	経済・経営外国語Ⅰb	担当者	波形昭一
01～02年度(秋)	経済・経営外国語Ⅰb		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的およびその概要は前期と同様。前期授業を受けていなければ理解できないというわけではないが、前期授業を受けていたほうが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chap.4 Politics & Policy 2. 3. 4. 5. Chap.5 At Least in Theory 6. 7. 8. 9. Chap.6 The International Arena 10. 11. 12. 	
◆評価方法			
前期と同じ。			
◆テキスト、参考文献			
前期と同じ。継続使用。			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I	担当者	野村容康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済英書において特に頻繁に使用される専門用語に慣れ、経済学の専門的内容が英語でどのように表現されているかについて理解を深める。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 	
◆ 評価方法			
出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
Arleen J. Hoag & John H. Hoag (2002) <i>Introductory Economics 3rd ed.</i> World Scientific			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I	担当者	野村容康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済英書において特に頻繁に使用される専門用語に慣れ、経済学の専門的内容が英語でどのように表現されているかについて理解を深める。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 	
◆ 評価方法			
出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
Arleen J. Hoag & John H. Hoag (2002) <i>Introductory Economics 3rd ed.</i> World Scientific			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	本田浩邦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>語学力はわれわれが生きていく上での大きな武器です。講義の目的は、経済英語をつうじて英語に親しみ、基礎的な力を身につけることです。週1回という限られた時間ですが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Grammar 毎回授業のはじめに簡単な文法テストをします。 ■ Listening 繰り返しリスニングをします。1年続けるだけでもかなり聞き取れるようになります。 ■ Reading 経済関連の記事を速読します。 ■ 学期末にPresentation 英語に関する事柄を調べてきて発表します。一人10分程度。 <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、毎回の小テストその他平常点</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>随時配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>授業構成は3つの部分で構成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Grammar (15min) ② Listening (30min) ③ Reading (30min) <p>毎回必ず英和中辞典を持参して下さい。</p>	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	本田浩邦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上記 I a 参照</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>上記 I a 参照</p>	

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要 テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BAI plus の英文マニュアルに挑戦する。受講生は電卓を購入し、電卓とマニュアルのセットで受講することとなる。電卓操作をマスターしたのちに、さまざまな経済計算に移る。教材の電卓は高価なので、一年間、落ち着いてじっくり学習することができる受講生を希望する。		◆授業計画 1 基本操作 2 基本操作 3 基本操作 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 8 複利と単利 9 割引現在価値 10 割引現在価値 11 投資 12 投資	
◆評価方法 出席50%、試験50%			
◆テキスト、参考文献 TI社製関数電卓 BAI Plus			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要 前期に引き続き電卓操作の習得を目標とする。		◆授業計画 1 償還 2 償還 3 償還 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 7 基本操作 8 対数と指数 9 対数と指数 10 三角関数 11 三角関数 12 まとめ	
◆評価方法 出席50%、試験50%			
◆テキスト、参考文献 TI社製関数電卓 BAI Plus			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語	担当者	松本栄次
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済地理または環境経済関係の外国書（英文）または論文をテキストに、英文の読解力を高める。とくに、単なる直訳ではなく、内容のイメージを的確に把握できるような能力を養う。毎回、無差別に、できるだけ多数の人に訳出を担当してもらう。</p> <p>◆ 評価方法 出席、2～3回の小テスト、および期末に提出するレポートにより総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語	担当者	松本栄次
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>aと同じ。</p> <p>◆ 評価方法 出席、2～3回の小テスト、および期末に提出するレポートにより総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降(春)	経済・経営外国語 I a	担当者	御園生 眞
01~02年度(春)	経済・経営外国語 I a		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経済英語に慣れると同時に、読解力の向上を目指す。</p> <p>毎回ランダムに当て、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>定期試験を実施するとともに、簡単な小テストを頻繁に実施する予定。</p> <p>(注意) 毎回しっかり予習して出席すること。 辞書を毎回必ず持参すること。 授業のマナーを守り遅刻しないこと。</p>			
◆ 評価方法			
<p>出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価。3回以上欠席した場合は単位が認定されない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリントを使用する予定。辞書などについては第1回の授業で説明する。</p>			

03年度以降(秋)	経済・経営外国語 I b	担当者	御園生 眞
01~02年度(秋)	経済・経営外国語 I b		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春期に同じ。</p>			
◆ 評価方法			
<p>春期に同じ。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>春期に同じ。</p>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語	担当者	百瀬 房徳
◆講義目的、講義概要 <p>ヨーロッパ経済共同体が1993年より形成され、現在では欧州連合（EU）として拡大している。この形成のために種々の制度が統一されてきた。そのうちの付加価値税を通じて、統一過程を理解する。</p> <p>ヨーロッパで発展した付加価値税が日本において消費税として導入された。その意味で、付加価値税について知識を得ておくことは意義があろう。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 The European Economic Community 2 The Aims of the European Community 3 The White Paper 4 The Community's Institutions The European Parliament 5 The Community's Institutions The Council of Ministers 6 The Community's Institutions The Court of Justice 7 The Financial Means of The Community 8 The Value Added Tax 9 VAT in The Community 	
◆ 評価方法 <p>テスト</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Ernst & Young : VAT in Europe</p>			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語	担当者	百瀬 房徳
◆講義目的、講義概要 <p>付加価値税がヨーロッパ経済共同体の財源になって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について理解する。この付加価値税の考え方は、日本の消費税の基礎となっている。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 Harmonization of VAT in The European Community General 2 Harmonization of VAT in The European EC Council Directive 3 The Proposals for Future Harmonization 4 Commission's Proposals for a Single Market 5 The 1987 Proposals for The Commission Removal of Fiscal Barriers 6 The 1987 Proposals for The Commission The Clearing System 7 The 1987 Proposals for The Commission The Approximation of VAT Rates 8 The 1987 Proposals for The Commission Services 	
◆ 評価方法 <p>テスト</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Ernst & Young : VAT in Europe</p>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語Ⅰa 経済・経営外国語	担当者	森 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>先ず、辞書なしで読む訓練をしてもらう。テレビや新聞でよく取り上げられているような事柄に関する英文経済社会記事を可能な限り用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して大意を掴む（当て推量する）ことに専念する。そうすれば知らない単語の意味もかなり正しく予想できるようになる。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感が薄れ、集中して論理を追う習慣が出来る。辞書の引き方も効率的になり、適切な訳語を探し当てるのがうまくなる。その段階で今度は徹底的に辞書（薄い辞書を持参すること）を引き、記事論文を分析する。また、教員も周辺の問題について解説を行う。</p> <p>この講義を通じて、英文経済解説記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくことが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。</p>		<p>特記するような計画は持たないが、授業の後半には内容がより高度な教材を選択することになる。</p>	
◆評価方法			
<p>普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリントを配布する。</p>			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語Ⅰb 経済・経営外国語	担当者	森 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>先ず、辞書なしで読む訓練をしてもらう。テレビや新聞でよく取り上げられているような事柄に関する英文経済社会記事を可能な限り用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して大意を掴む（当て推量する）ことに専念する。そうすれば知らない単語の意味もかなり正しく予想できるようになる。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感が薄れ、集中して論理を追う習慣が出来る。辞書の引き方も効率的になり、適切な訳語を探し当てるのがうまくなる。その段階で今度は徹底的に辞書（薄い辞書を持参すること）を引き、記事論文を分析する。また、教員も周辺の問題について解説を行う。</p> <p>この講義を通じて、英文経済解説記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくことが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。</p>		<p>特記するような計画は持たないが、授業の後半には内容がより高度な教材を選択することになる。</p>	
◆評価方法			
<p>普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリントを配布する。</p>			

科目名	経済経営外国語 I	担当者	
-----	-----------	-----	--

科目名		経済経営外国語 I a	担当者	山越徳	
			担当者		
講義目的および講義概要	この課目は、外国語（英語）を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講では、ニュービジネス、新商品、技術変化、グローバル化、産業集積、地域活性化、雇用問題などの中から、いくつかのペーパーを選び出し、それを読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れるよう、多くのペーパーに取り組みたい。		授業計画	なるべく多くの論文を読み進めるため、1回につき4～5頁は読み進めていきたい。	
	評価方法	課題ペーパー（講義中に配布）を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および出席と授業の受け答えによる。			
	テキスト参考文献	順次、ペーパーのコピーを授業で配布			

科目名		経済経営外国語 I b	担当者	山越徳	
			担当者		
講義目的および講義概要	I a の課題のペーパーを更に読み進めていく。したがって I a を受け継いで履修するのが望ましい。		授業計画	同上	
	評価方法	同上			
	テキスト参考文献	同上			

03年度以降(春)	経済・経営外国語 1a	担当者	山本 美樹子
01~02年度(春)	経済・経営外国語 1a		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英字新聞を読む。 日々接している日本経済の姿、世界の経済の姿を英字新聞の記事を読みながら、基礎的認識を深めていく。プリントは毎回配る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーションと翌週のプリントを配る。 2、前の州に配ったプリントを読んでいく。 3、同上 4、同上 5、同上 6、同上 7、同上 8、同上 9、同上 10、同上 11、同上 12、まとめと簡単なテスト 	
◆評価方法			
出席、予習回数、試験			
◆テキスト、参考文献			
プリントは前の週最近の英字新聞の記事をコピーしたものを配る。			

03年度以降(秋)	経済・経営外国語 1b	担当者	山本 美樹子
01~02年度(秋)	経済・経営外国語 1b		
00年度以前	経済・経営外国語		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英字新聞を読む。 日々接している日本経済の姿、世界の経済の姿を英字新聞の記事を読んでいく。秋学期は張る楽器の基礎を踏まえて、多少経済的に高度な記事を選んで読んでいく。プリントは毎回配る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーションと翌週のプリントを配る。 2、前の州に配ったプリントを読んでいく。 3、同上 4、同上 5、同上 6、同上 7、同上 8、同上 9、同上 10、同上 11、同上 12、まとめと簡単なテスト 	
◆評価方法			
出席、予習回数、試験			
◆テキスト、参考文献			
プリントは前の週最近の英字新聞の記事をコピーしたものを配る。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰ a 経済・経営外国語Ⅰ a 経済・経営外国語Ⅰ	担当者	米山昌幸														
◆講義目的、講義概要		◆授業計画															
<p>この授業では、経済学部にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 a」「ミクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。</p> <p>春学期は、テキストのミクロ経済学の基礎的な範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。</p> <p>受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容(Chapter:テキストの範囲)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 2 3</td> <td>1. WHAT IS ECONOMICS ALL ABOUT?</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2. HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS</td> </tr> <tr> <td>5 6 7</td> <td>3. SUPPLY AND DEMAND: PART ONE</td> </tr> <tr> <td>8 9</td> <td>4. SUPPLY AND DEMAND: PART TWO</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>18. THE THEORY OF DEMAND 24. EFFICIENCY AND REGULATION</td> </tr> <tr> <td>11 12</td> <td>17. ELASTICITY</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容(Chapter:テキストの範囲)	1 2 3	1. WHAT IS ECONOMICS ALL ABOUT?	4	2. HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS	5 6 7	3. SUPPLY AND DEMAND: PART ONE	8 9	4. SUPPLY AND DEMAND: PART TWO	10	18. THE THEORY OF DEMAND 24. EFFICIENCY AND REGULATION	11 12	17. ELASTICITY
週	内容(Chapter:テキストの範囲)																
1 2 3	1. WHAT IS ECONOMICS ALL ABOUT?																
4	2. HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS																
5 6 7	3. SUPPLY AND DEMAND: PART ONE																
8 9	4. SUPPLY AND DEMAND: PART TWO																
10	18. THE THEORY OF DEMAND 24. EFFICIENCY AND REGULATION																
11 12	17. ELASTICITY																
◆ 評価方法																	
定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。																	
◆テキスト、参考文献																	
Wessels, Waite J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.																	

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰ b 経済・経営外国語Ⅰ b 経済・経営外国語Ⅰ	担当者	米山昌幸										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画											
<p>この授業では、経済学部にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 b」「マクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。</p> <p>秋学期は、テキストのマクロ経済学の基礎的な範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。</p> <p>受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容(Chapter:テキストの範囲)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 2 3</td> <td>5. MEASURING NATIONAL OUTPUT</td> </tr> <tr> <td>4 5 6</td> <td>6. INFLATION AND UNEMPLOYMENT</td> </tr> <tr> <td>7 8 9 10</td> <td>7. INTRODUCTION TO MACROECONOMICS: OUTPUT, GROWTH, AND CAPITAL</td> </tr> <tr> <td>11 12</td> <td>8. AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容(Chapter:テキストの範囲)	1 2 3	5. MEASURING NATIONAL OUTPUT	4 5 6	6. INFLATION AND UNEMPLOYMENT	7 8 9 10	7. INTRODUCTION TO MACROECONOMICS: OUTPUT, GROWTH, AND CAPITAL	11 12	8. AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS
週	内容(Chapter:テキストの範囲)												
1 2 3	5. MEASURING NATIONAL OUTPUT												
4 5 6	6. INFLATION AND UNEMPLOYMENT												
7 8 9 10	7. INTRODUCTION TO MACROECONOMICS: OUTPUT, GROWTH, AND CAPITAL												
11 12	8. AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS												
◆ 評価方法													
定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。													
◆テキスト、参考文献													
Wessels, Waite J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.													

03年度以降(春) 経済・経営外国語(ドイツ語) I a 01~02年度(春) 経済・経営外国語(ドイツ語) I a 00年度以前 経済・経営外国語(ドイツ語)	担当者	大西健夫																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ドイツ語の文献・資料の購読を通じて経済学・経営学におけるドイツ的な考え方が理解できるようになることを目的とする。 経済学の基礎である経済循環図を読み取る作業からはじめて、新聞の記事が読めるように授業を組み立て、指導する。 学期前半は、経済体制に関するテキストを購読するが、学期後半のテキスト選択には学生諸君の希望を取り入れたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>購読への参加度と期末試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業で配布</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="877 302 1380 952"> <tr><td>1</td><td>Wirtschaftskreislauf</td></tr> <tr><td>2</td><td>Erweiterter Model</td></tr> <tr><td>3</td><td>Freie Marktwirtschaft</td></tr> <tr><td>4</td><td>Zentralverwaltungswirtschaft</td></tr> <tr><td>5</td><td>Mischformen</td></tr> <tr><td>6</td><td>Soziale Marktwirtschaft</td></tr> <tr><td>7</td><td>Oekologisch-Soziale Marktwirtschaft</td></tr> <tr><td>8</td><td>Wirt.-und Gesellschaftsordnung</td></tr> <tr><td>9</td><td>Zitungsartikel</td></tr> <tr><td>10</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> <tr><td>11</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> <tr><td>12</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> </table>		1	Wirtschaftskreislauf	2	Erweiterter Model	3	Freie Marktwirtschaft	4	Zentralverwaltungswirtschaft	5	Mischformen	6	Soziale Marktwirtschaft	7	Oekologisch-Soziale Marktwirtschaft	8	Wirt.-und Gesellschaftsordnung	9	Zitungsartikel	10	Zeitungsartikel	11	Zeitungsartikel	12	Zeitungsartikel
1	Wirtschaftskreislauf																									
2	Erweiterter Model																									
3	Freie Marktwirtschaft																									
4	Zentralverwaltungswirtschaft																									
5	Mischformen																									
6	Soziale Marktwirtschaft																									
7	Oekologisch-Soziale Marktwirtschaft																									
8	Wirt.-und Gesellschaftsordnung																									
9	Zitungsartikel																									
10	Zeitungsartikel																									
11	Zeitungsartikel																									
12	Zeitungsartikel																									

03年度以降(秋) 経済・経営外国語(ドイツ語) I b 01~02年度(秋) 経済・経営外国語(ドイツ語) I b 00年度以前 経済・経営外国語(ドイツ語)	担当者	大西健夫																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ドイツ語の文献・資料の購読を通じて経済学・経営学におけるドイツ的な考え方が理解できるようになることを目的とする。 経済学の基礎知識である経済循環図を読み取る作業からはじめて、新聞の経済記事を読めるように授業を組み立て、指導する。 学期前半は、経済循環、経済政策に関する内容のテキストを購読するが、学期後半の授業テキスト選択には学生諸君の希望を取り入れたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>購読への参加度と期末試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業で配布</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="885 1344 1348 2004"> <tr><td>1</td><td>Wirtschaftskreislauf</td></tr> <tr><td>2</td><td>Erweiterter Model</td></tr> <tr><td>3</td><td>Waehrungspolitik der Zentralbank</td></tr> <tr><td>4</td><td>Deutsche Bundesbank</td></tr> <tr><td>5</td><td>Europaeische Zentralbank</td></tr> <tr><td>6</td><td>Staatshaushalt</td></tr> <tr><td>7</td><td>Ausgabenpolitik</td></tr> <tr><td>8</td><td>Steuerpolitik</td></tr> <tr><td>9</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> <tr><td>10</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> <tr><td>11</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> <tr><td>12</td><td>Zeitungsartikel</td></tr> </table>		1	Wirtschaftskreislauf	2	Erweiterter Model	3	Waehrungspolitik der Zentralbank	4	Deutsche Bundesbank	5	Europaeische Zentralbank	6	Staatshaushalt	7	Ausgabenpolitik	8	Steuerpolitik	9	Zeitungsartikel	10	Zeitungsartikel	11	Zeitungsartikel	12	Zeitungsartikel
1	Wirtschaftskreislauf																									
2	Erweiterter Model																									
3	Waehrungspolitik der Zentralbank																									
4	Deutsche Bundesbank																									
5	Europaeische Zentralbank																									
6	Staatshaushalt																									
7	Ausgabenpolitik																									
8	Steuerpolitik																									
9	Zeitungsartikel																									
10	Zeitungsartikel																									
11	Zeitungsartikel																									
12	Zeitungsartikel																									

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰa（中国語） 経済・経営外国語Ⅰa（中国語） 経済・経営外国語Ⅰ（中国語）	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。</p> <p>最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて配布する。			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅰb（中国語） 経済・経営外国語Ⅰb（中国語） 経済・経営外国語Ⅰ（中国語）	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>中国語や中国経済をもっと深く勉強する。中国経済が抱えているいろいろな問題を、原典から理解できるように授業を進めていきたい。</p> <p>経済・経営外国語Ⅰbも春学期の授業である。</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて配布する。			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マクロ経済学の基本的な理論の取得を目標とします。</p> <p>「一国全体の経済活動をどのようにとらえるか」ということからスタートし、その指標となるGDP、利子率などがどのような要因によって決定されるのか検討します。なお、右の計画は最速の場合を想定しています。</p> <p>分析ツールとして、行列、対数、極限、微分などの数学的概念を使用します。高校の「数学I」までの理解は前提とします。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業方針の確認など 2 国民所得統計(1) 3 国民所得統計(2) 4 GDPの決定(1) 5 GDPの決定(2) 6 資産市場(1) 7 資産市場(2) 8 IS/LMモデル(1) 9 IS/LMモデル(2) 10 IS/LMモデル(3) 11 オープン・エコノミーのマクロ経済学(1) 12 オープン・エコノミーのマクロ経済学(2) 	
◆評価方法			
定期試験のみで評価します。ただし、授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。			
◆テキスト、参考文献			
吉川 洋 (2001) 『マクロ経済学 (第2版)』 岩波書店。			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>今年度の「マクロ経済学 a」の内容の理解を前提として進めます。履修しなかった人は、独習してください。</p> <p>前期の進度に応じて授業計画を変更する場合がありますので、第一回目の授業には必ず出席してください。</p> <p>物価の変動を考慮した、より複雑なモデル、および、景気循環・経済成長などの動学的な問題も取り扱う予定です。</p> <p>分析ツールとして、前期に加えて、差分方程式、微分方程式などの数学的概念を使用します。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業方針の確認など 2 失業とインフレーション/デフレーション(1) 3 失業とインフレーション/デフレーション(2) 4 新古典派マクロ経済学(1) 5 新古典派マクロ経済学(2) 6 消費・貯蓄と投資(1) 7 消費・貯蓄と投資(2) 8 景気循環(1) 9 景気循環(2) 10 経済成長(1) 11 経済成長(2) 12 経済成長(3) 	
◆評価方法			
定期試験のみで評価します。ただし、授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。			
◆テキスト、参考文献			
吉川 洋 (2001) 『マクロ経済学 (第2版)』 岩波書店。			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	松本正信
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「経済学」(1年必修)の基礎を前提に、マクロ経済学の通論を講義します。講義の概要は「授業計画」をご覧あれ。ここでは、以下、私の講義方針と受講する学生諸君へのメッセージを記すことにします。経済学は何の為にある。答はそう簡単ではない。政策責任者はそれを識っていても用いない。識らないか、あるいは誤って用いる。経済・景気の適格な判断は、経営トップの重要な要件の1つである。優れた経営者もそうでない経営者も経済学を識らない人が多い。理論と現実とは異なるということもある。ことによると経済学を識らない方がよいかも知れない。経済学は何の為に学ぶ。学生諸君にとって、必修・重要科目だから。これは当たらない。株で儲けるため。これも当たらない。経済学者、同じ意味だがエコノミスト、あるいは経済学愛好者の趣味の為に。これは或る程度当たっている。先進国の多くが歴史上経験した経済成長について、N. カルドアは「定形化された事実」を共通した重要な現象として抽出し、立証した。いわく、労働1人当りGNPも資本ストックも長期的に上昇もしくは増加し続けた。利潤率は短期的には変動しても長期的に平均すればほぼ一定であった。資本一産出高比率も一定。等々。このカルドアの「定形化された事実」(マクロ経済学bへ)</p>		<p>年間を通じて、すなわち春学期のマクロ経済学aと秋学期のマクロ経済学bを通じて、次のような内容の講義をします。講義の進め方によっては多少順序を変更するかも知れません。その際は、受講生に予め予告し承解を得たいと思います。また、マクロ経済学aとbの区分は講義の進捗状況で多少の変更がありますから、これも予めご承知いただきたい。</p> <p>序論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の概観と見方、私の考え方 2. マクロ経済学の短期と長期、その2つの意味 <p>第I部 マクロ経済学と景気循環論</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 景気変動の歴史的・学說的素描 4. ケインズ学派の変動理論とハロッド=ドマーの均衡成長論とその不安定性 5. サミュエルソンの乗数と加速度の原理 6. ヒックスの景気循環論 7. ヒックス=ハンセンのIS-LM分析(閉鎖経済)とマンデル=フレミングモデル(開放経済) 8. マネタリストと合理的期待形成派ルーカスの批判とそのモデル <p>(マクロ経済学bへ続く)</p>	
春学期末定期試験の結果によります。			
◆テキスト、参考文献			
特定の教科書は指定しません。各自が原則自由に選択し、少なくとも複数、できれば3冊以上を読んでほしいものです。参考書は講義の際に2, 3例を掲げることしましょう。			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	松本正信
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(マクロ経済学aより)の帰結として最も大切な事実は賃金率が長期的に上昇し続けた事である。これを説明する理論として、Solow Modelで充分である。と云ったとしよう。理論は現実の経済現象を説明するための充分条件でしか過ぎない。したがって、1つの現象を説明する理論モデルが幾つも生まれるのは当然である。経済学は伝承され受け継がれる。送り手も勿論だが、受け手ももっと優れたよい理論を創造したいと思っても不思議ではないはずだ。諸君、挑戦してみたいか。最後に、歴史上過去において経済学の知識の有無にかかわらず見事な経済政策の成果を上げた政治指導者・政策責任者は数多くいた。しかしながら、現代においては経済学の知識がより多くの人達に理解され、普及していくことは社会をよくするための必要な条件であるに違いない。そのわけは、講義で直接皆さんにお話します。時代が変わると経済学が希求するパラダイムも変わり、したがって新しい経済学も誕生することになります。その担い手は諸君の中にいる筈です。講義は歴史的出来事や現在生起しつつある事象も織り交ぜながら、出来得れば政治経済の未来像の姿・形やパラダイムやビジョンを暗示させるような講義の進め方をしたいものです。</p>		<p>(マクロ経済学aより続く)</p> <p>第II部 マクロ経済学と経済成長論</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 新古典派成長論のソロー・モデル 10. R&Dモデルと人的資本蓄積論とその内生的進化論的考え方 11. 消費関数論、ライフ・サイクル仮説、恒常所得仮説、ランダム・ウォーク仮説、資産効果 12. 投資関数論、トービンのq、将来の期待収益の不確実性論 13. インフレーションと失業の現代的問題 14. 金融政策と財政・税政策 <p>(以上)</p>	
◆評価方法			
秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験結果を加味して評価します。詳細は講義の際にお話しします。			
◆テキスト、参考文献			
マクロ経済学aと同じ			

03年度以降(春)	ミクロ経済学 a	担当者	小林 進
01～02年度(春)	ミクロ経済学 a		
00年度以前	ミクロ経済学		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p> <p>評価方法 学期末試験</p> <p>テキスト 使用しない。参考文献は講義の中で指示する</p>		<p>授業計画</p> <p>最初の講義のときにプリント配布 (完全競争を中心にして講義)</p>	

03年度以降(秋)	ミクロ経済学 b	担当者	小林 進
01～02年度(秋)	ミクロ経済学 b		
00年度以前	ミクロ経済学		
<p>講義目的、講義概要</p> <p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p> <p>評価方法 学期末試験</p> <p>テキスト 使用しない。参考文献は講義の中で指示する</p>		<p>授業計画</p> <p>最初の講義のときにプリント配布 (不完全競争を中心にして講義)</p>	

03 年度以降(春)	ミクロ経済学 a	担当者	藤山英樹
01~02 年度(春)	ミクロ経済学 a		
00 年度以前	ミクロ経済学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義の目的> ミクロ経済学の基礎を習得する。より具体的には、第1 に諸概念の直感的な理解を得る。第2 に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。以上は専門課程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠となる。</p> <p><講義の方針> できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。春期は不完全競争市場についての講義をする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクションおよび最大化の計算の仕方。 2 独占市場：利潤を最大にする価格設定 3 ナッシュ均衡：駆け引きのとらえ方 4 ゲーム理論 1 (戦略形)：ジャンケン型のゲーム 5 ゲーム理論 2 (展開形)：時間をともなうゲーム 6 他のゲーム理論の応用例 7 寡占市場 1：生産量での競争 8 寡占市場 2：価格での競争 9 不確実性について 10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 	
◆ 評価方法			
試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。			
◆テキスト、参考文献			
参考書：『新しい教養のすすめ 経済学』大西・三土編 昭和堂 (1800 円)			

03 年度以降(秋)	ミクロ経済学 b	担当者	藤山英樹
01~02 年度(秋)	ミクロ経済学 b		
00 年度以前	ミクロ経済学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的・方針ともに、前期と同じである。秋期は完全競争市場についての講義をする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 消費者行動 1：消費者の選好の理論 3 消費者行動 2：効用最大化問題（需要関数の導出） 4 消費者行動 3：需要関数による財の特徴づけ 5 企業行動 1：生産の理論 6 企業行動 2：利潤最大化問題（供給関数の導出） 7 企業行動 3：費用関数について 8 市場の分析 1：部分均衡分析（政策の影響） 9 市場の分析 2：一般均衡分析（神の見えざる手） 10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 	
◆ 評価方法			
前期と同じである。			
◆テキスト、参考文献			
参考書：『新しい教養のすすめ 経済学』大西・三土編 昭和堂 (1800 円)			

03 年度以降 (春) 経済統計論 a 01~02 年度 (春) 経済統計論 a 00 年度以前 経済統計論	担当者 松本正信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあつて実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p> <p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠</p> <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは授業計画を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがつて、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p> <p>◆評価方法</p> <p>春学期末定期試験によって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト ・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年(21刷)</p> <p>参考文献 ・講義の都度指示。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>以下の、序論を含めた 19 の項目を前期・後期を通じて 1~3 回にわたる講義で進める予定である。</p> <p>序 論</p> <p>経済と経済統計と経済学</p> <p>第Ⅰ部 指数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指数について (指数理論) 2 平均値について 3 物価指数と数量指数 4 消費者物価指数 (付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式) 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター 6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例 <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国民所得統計と国民所得分析 2 社会会計の考え方とマトリックス (2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制) 3 新 SNA 4 産業連関表 5 産業連関分析とその応用 <p>(経済統計論 b へ)</p>

03 年度以降 (秋) 経済統計論 b 01~02 年度 (秋) 経済統計論 b 00 年度以前 経済統計論	担当者 松本正信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(経済統計論 a と同じ)</p> <p>◆評価方法</p> <p>秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(経済統計論 a と同じ)</p>	<p>◆授業計画</p> <p>(経済統計論 a より)</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 時系列データとその解析 2 時系列分析——トレンド (趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動—— 3 時系列分析の方法——移動平均法、趨勢線のあてはめ、他—— 4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス—— 5 回帰分析と回帰方程式 6 計量経済学の方法 7 構造推計と将来予測 <p>付 論 OR の話；オペレーション・リサーチとゲームの理論</p>

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済政策論 a 経済政策論 a 経済政策論	担当者	阿部正浩
◆講義目的、講義概要 <p>今年度から講義内容を一新し、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をしていきます。</p> <p>このシラバスを書いている時点において、青色発光ダイオードを開発した中村修二氏に日亜化学工場が二百億円支払うよう東京地方裁判所は命じています。この背景には、経済学的にどのような問題があるのでしょうか。他にも、マンション景観問題や知的財産所有権問題など、最近では法と経済学の狭間に重要な問題が生じています。</p> <p>この講義では、法と経済、あるいはそれに関する諸政策を分析するための基礎的枠組みを講義します。具体的内容は右側の授業計画を見てください。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 情報の経済学（その1） 3. 情報の経済学（その2） 4. モラルハザード（その1） 5. モラルハザード（その2） 6. 予備日 7. アドバースセクション（その1） 8. アドバースセクション（その2） 9. アドバースセクション（その3） 10. インセンティブ契約（その1） 11. インセンティブ契約（その2） 12. インセンティブ契約（その3） 	
◆ 評価方法 <p>授業中のレポートおよび期末試験で決めます。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>授業中に指示します。</p>			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済政策論 b 経済政策論 b 経済政策論	担当者	阿部正浩
◆講義目的、講義概要 <p>今年度から講義内容を一新し、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をしていきます。</p> <p>このシラバスを書いている時点において、青色発光ダイオードを開発した中村修二氏に日亜化学工場が二百億円支払うよう東京地方裁判所は命じています。この背景には、経済学的にどのような問題があるのでしょうか。他にも、マンション景観問題や知的財産所有権問題など、最近では法と経済学の狭間に重要な問題が生じています。</p> <p>この講義では、法と経済、あるいはそれに関する諸政策を分析します。具体的内容は右側の授業計画を見てください。なお、この講義を受講する学生は必ず今年度の経済政策論 a を受講してください。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 法と経済学 2. コミットメントと完備契約（その1） 3. コミットメントと完備契約（その2） 4. 情報開示 5. 情報開示 6. 予備日 7. 契約法の経済学（その1） 8. 契約法の経済学（その2） 9. 契約法の経済学（その3） 10. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス（その1） 11. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス（その2） 12. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス（その3） 	
◆ 評価方法 <p>授業中のレポートおよび期末試験で決めます。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>授業中に指示します。</p>			

03年度以降(春)	経済開発論 a	担当者	千代浦昌道
01~02年度(春)	経済開発論 a		
00年度以前	経済開発論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p> <p>講義概要 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済開発論をなぜ学ぶか、授業の進め方、参考文献/統計資料の紹介 2 経済開発論の基礎的概念(経済開発/発展/成長の意味、経済開発論の経済学上の位置づけ) 3 発展途上国の基本問題(低開発の歴史的背景、産業構造の変化、貧困と所得分配、A. センの思想) 4 発展の非経済的側面 I (政治的側面、社会文化的要因、社会学的把握) 5 発展の非経済的側面 II (家族単位、階級構造、民族、人種、宗教) 6 先進工業国経済発展の教訓 I (工業化とその波及、イギリス/フランスの工業化) 7 先進工業国経済発展の教訓 II (ドイツ/アメリカ/ロシア/日本の工業化) 8 人口と経済発展(人口爆発、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策) 9 都市と農村(農村・都市間移住とトコロ理論、都市のスラム化とインフォーマル部門、政治と都市) 10 雇用と失業(失業と低雇用、ヌルクセの偽装失業理論、ルイスの2部門モデル) 11 教育と発展 I (教育と発展、人的資源、教育機会と貧困) 12 教育と発展 II (教育と人口問題/国内移住、頭脳流出、知的従属、教育と農村開発) 	
◆評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>原洋之介『開発経済論』岩波書店、1996 絵所秀紀『開発の政治経済学』日本評論社、1997</p>			

03年度以降(春)	経済開発論 b	担当者	千代浦昌道
01~02年度(春)	経済開発論 b		
00年度以前	経済開発論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p> <p>講義概要 経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済発展のモデル I (古典派、K. マルクス、ハロッド=ドマー理論、ロストウ、シュンペーター) 2 経済発展のモデル II (新古典派、チェネリー、従属理論、E.F. シューマッハー、新自由主義) 3 農業と発展(植民地経済とモノカルチャー、人口都市化、農地改革と農村開発) 4 工業化と開発戦略(均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替・輸出促進工業化) 5 貿易と発展 I (重商主義とアダム・スミス、比較生産費の理論) 6 貿易と発展 II (GATT と WTO、プレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論、新国際経済秩序) 7 貿易と発展 III (アジア NIES の発展、関税と為替レート、FTA と地域経済統合) 8 多国籍企業と発展途上国(直接投資理論、多国籍企業の利害得失) 9 国際収支と途上国債務問題(国際収支構造と経済発展、累積債務問題) 10 途上国債務問題への国際的対応(冷戦終結の影響、世銀/IMFへの批判、債務=環境スワップ) 11 国際援助と経済開発 I (途上国援助の歴史と現状、基本的ニーズ、構造調整融資) 12 国際援助と経済開発 II (参加型援助と女性の役割、草の根援助と NGO、国際援助の展望) 	
◆評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>西垣、下村『開発援助の経済学』、有斐閣、1997 宮崎他編『世界経済読本[7版]』東洋経済新報、2002</p>			

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	環境政策論 a 環境政策論 a	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「ミクロ経済学」の理論を応用して、環境問題にアプローチします。</p> <p>環境問題は、経済学的にどのようにとらえることができるのか？ そのような問題がなぜ生じるのか？ 解決に向けて何が必要なのか？ について考察します。</p> <p>分析ツールとして、微分・積分などの数学的概念を使用します。高校の「数学Ⅰ」までの知識は前提とします。</p> <p>履修者の知識に合わせてミクロ経済学の復習のための時間を設定しますので、第一回目の授業には必ず出席してください。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 地球環境と経済 2 環境政策の構造 3 経済活動のとらえ方 4 最適化問題の解法(1) 5 最適化問題の解法(2) 6 企業行動(1) 7 企業行動(2) 8 家計行動(1) 9 家計行動(2) 10 市場均衡 11 資源配分の効率性(1) 12 資源配分の効率性(2) 	
◆ 評価方法			
定期試験のみで評価します。ただし、授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。			
◆テキスト、参考文献			
三橋規宏(2002)『環境経済入門』日本経済新聞社			

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	環境政策論 b 環境政策論 b	担当者	塩田 尚樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>今年度の「環境政策論 a」の内容の理解を前提として進めます。履修しなかった人は、独習してください。</p> <p>この講義では、環境税の有効性と限界に関する議論に特に焦点を当てたいと考えています。ただし、前期の進度に応じて授業計画を変更する場合がありますので、第一回目の授業には必ず出席してください。</p> <p>前期と同様に、微分・積分などの数学的概念を使用します。高校の「数学Ⅰ」までの知識は前提とします。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学における環境問題のとらえ方 2 外部性がある場合の各主体の行動 3 外部性と市場の失敗 4 法的規制 5 課税と補助金 6 当事者間の自発的交渉 7 排出許可証取引制度 8 預託金払い戻し制度 9 公共財としての地球環境 10 炭素税の実際 11 炭素税の効果と課題 12 日本における環境税の論点 	
◆ 評価方法			
定期試験のみで評価します。ただし、授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。			
◆テキスト、参考文献			
三橋規宏(2002)『環境経済入門』日本経済新聞社			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	日本経済史 a 日本経済史 a 日本経済史	担当者	奈倉 文二
◆講義目的、講義概要 <p>本講義は、戦前日本の財閥などの大企業システムはどのような特徴をもっていたのか、それは日本資本主義の形成発展過程のあり方とどのような関連を持っていたのか、ということを明らかにすることを目的とする。</p> <p>国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の成立発展過程（とくに独占資本形成確立過程）を概観した上で、1920年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし（全体構造及び財閥・紡績独占・国家資本の類型別）、さらに鉄鋼独占についてやや詳述する。</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 幕末維新期の経済 3 日本資本主義の形成（1870年代～90年代） 4 同（その2） 5 資本主義の確立と帝国主義転化（1900年前後） 6 独占資本の形成確立過程（1907年頃～1920年代） 7 同（その2） 8 戦前日本型大企業システム （財閥・紡績独占・国家資本） 9 同（その2） 10 同（その3） 11 鉄鋼独占（その1） 12 同（その2） <p>（項目・順序は場合により変更することがあり得る。）</p>	
◆ 評価方法 <p>筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画も考慮する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>随時講義資料を配付する。 適宜参考文献を指示する。</p>			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	日本経済史 b 日本経済史 b 日本経済史	担当者	奈倉 文二
◆講義目的、講義概要 <p>本講義は、現代日本の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかをメイン・テーマとする。</p> <p>まず戦前日本型大企業システムの変容を、昭和恐慌・準戦時経済・戦時経済の展開と関連させながら明らかにする。さらに財閥解体の内容と意義を明らかにした上で、日本資本主義の復興・再建と「高度成長」を概観しつつ、企業集団の形成・発展過程、寡占資本間競争と重化学工業化のメカニズムなどを明らかにし、戦後日本型大企業システムとしての企業集団体制の内容・特徴に及ぶ。</p> <p>「日本経済史 a」の受講をしていることが、講義内容理解の上で望ましい。</p> <p>また、「日本経済史 a」同様、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 金解禁・昭和恐慌と準戦時経済（1931～36） 3 旧財閥の転換と新興コンツェルン 4 戦時統制経済（1937～45）の特徴 5 戦時「重化学工業化」と独占資本 6 戦後改革と財閥解体 7 日本資本主義の復興・再建 8 企業集団の形成 9 日本経済の「高度成長」と寡占資本間競争 10 重化学工業化と鉄鋼独占 11 企業集団の発展 12 企業集団体制の定着（と変容） <p>（項目・順序は場合により変更することがあり得る。）</p>	
◆ 評価方法 <p>筆記試験。質疑応答への積極的参画も考慮する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>随時講義資料を配付する。 適宜参考文献を指示する。</p>			

03 年度以降 (春)	西洋経済史 a	担当者	御園生 眞
01~02 年度 (春)	西洋経済史 a		
00 年度以前	西洋経済史		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>イギリスは、産業革命を達成して 19 世紀中葉に世界経済の中心国となる。しかし、19 世紀後半になるとイギリス経済は衰退過程に入る。講義では、このイギリス経済の衰退について、多面的に考えてみたい。</p> <p>(注意)</p> <p>最新のシラバスは、第 1 回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しないこと。 このシラバスの予定は変更される場合がある。</p>		<p>1 ガイダンスと序論</p> <p>2~5 「世界の工場」としてのイギリス</p> <p>6~9 イギリス経済衰退の諸要因</p> <p>10~12 19 世紀後半の世界経済とイギリス</p>	
◆ 評価方法			
<p>単位認定の条件は、8 回以上の授業出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>第 1 回の授業で説明する。</p>			

03 年度以降 (秋)	西洋経済史 b	担当者	御園生 眞
01~02 年度 (秋)	西洋経済史 b		
00 年度以前	西洋経済史		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>イギリス経済を 19 世紀後半から衰退に向かわせた要因の 1 つは、ドイツ、アメリカなどの後発諸国の急速な工業化であった。講義では、後発諸国の工業的発展を対象として、その特徴と問題点を考えてみたい。昨年度はドイツを対象として講義した。</p> <p>(注意)</p> <p>最新のシラバスは第 1 回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しないこと。 このシラバスの予定は変更される場合がある。</p>		<p>1 ガイダンスと序論</p> <p>2~4 後発国工業化の前提条件</p> <p>5~8 後発国の工業化過程とその特徴</p> <p>9~12 後発国の工業化の問題点</p>	
◆ 評価方法			
<p>春期に同じ。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>春期に同じ。</p>			

03 年度以降 01～02 年度 (春) 00 年度以前	国際経済論 a 国際経済論 a 国際経済論	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的事項を講義します。講義の中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の事項なので厳密な展開を心がけたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 入門 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーオン定理 4 ヘクシャー・オリーオン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際生産要素移動 9 国際生産要素移動 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
定期試験 80%、出席 20%			
◆テキスト、参考文献			
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店			

03 年度以降 01～02 年度 (秋) 00 年度以前	国際経済論 b 国際経済論 b 国際経済論	担当者	益山光央
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>前期に扱った貿易理論とともに国際経済学の柱である国際収支調整メカニズムに関する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。前期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際資本移動と財政・金融政策 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
定期試験 80%、出席 20%			
◆テキスト、参考文献			
未定			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	日本経済論 a 日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形昭一
◆講義目的、講義概要 現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。		◆授業計画 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 12. スタグフレーションと日本経済の構造転換	
◆評価方法 学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。			
◆テキスト、参考文献 主に統計表などのプリントを配布。			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	日本経済論 b 日本経済論 b 日本経済論	担当者	波形昭一
◆講義目的、講義概要 1980年代から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、80年代における日本経済の構造変化とその結果としての「失われた10年」について論述し、そのうえで最近における日本経済の再建論議の当否を議論してみたい。		◆授業計画 1. スタグフレーションとトリレンマ 2. レーガノミクス 3. グローバル化の波 4. 日本経済のバブル化 5. バブル経済の発生原因 6. バブル崩壊と複合不況 7. 「失われた10年」(1) 8. 「失われた10年」(2) 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 「第三の道」論 12. まとめ 日本経済の現状	
◆評価方法 学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。			
◆テキスト、参考文献 主に統計表などのプリントを配布。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	アメリカ経済論 a アメリカ経済論 a 北アメリカ経済論	担当者	本田浩邦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「ニューディールと現代」というテーマで、いくつかの柱をもうけてお話しします。ニューディールというのは、1930年代の大不況の中でとられた経済政策を指しますが、それ以降、アメリカ経済はいわばさまざまな面で今日的な編成をとるようになります。今日のアメリカの経済問題を考える手がかりにもなりますので、多少むずかしいところもあるかもしれませんが、継続的に出席して聞いてください。</p> <p>できるだけ秋学期とあわせて履修してください。</p>		<p>以下のテーマをそれぞれ2回程度で講義します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大恐慌のイメージ 2. 大恐慌の原因に関する論争 3. ルーズヴェルトとアメリカ社会 4. ニューディール 5. 金本位制と管理通貨制 6. 成果と限界——経済構造の何がか変わったか <p>参考文献 フレデリック・アレン『シンス・イエスタディ』ちくま学芸文庫 キンドルバーガー『大不況下の世界』1982年、東京大学出版会(原著1973年) テミン『大恐慌の教訓』1994年、東洋経済新報社(原著1989年)</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果			
◆テキスト、参考文献			
随時資料を配布します。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	アメリカ経済論 b アメリカ経済論 b 北アメリカ経済論	担当者	本田浩邦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>戦後のアメリカ経済の特徴をいくつかの側面からとらえていきたいと思ひます。 むずかしい用語が出てきても、自分なりに経済用語辞典などで調べながら聞いてください。</p> <p>できるだけ春学期とあわせて履修してください。</p>		<p>以下のテーマをそれぞれ2回づつ程度で講義します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに——いくつものアメリカ経済観 2. 経済成長の段階的特徴 3. 資本形成のパターン 4. 所得分配の長期的変化 5. 資金調達 6. マネーフロー <p>参考文献 W.カール ビブン『誰がケインズを殺したか——物語で読む現代経済学』2002年、日経ビジネス人文庫、800円 日本経済新聞社『経済新語辞典』各年度版、1900円</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果			
◆テキスト、参考文献			
随時資料を配付します。			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	ラテンアメリカ経済論 a ラテンアメリカ経済論 a ラテンアメリカ経済論	担当者	松本栄次
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。</p> <p>ラテンアメリカ経済の特徴をもたらした自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程について通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験の成績と出席状況を総合して行う。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ラテンアメリカの地域と経済の特徴 2 ラテンアメリカ経済の自然的基盤（1）土地条件と資源・災害 3 ラテンアメリカ経済の自然的基盤（2）農牧林業環境 4 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（1）先住民文化とその影響 5 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（2）ヨーロッパ人による植民地の開発 6 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（3）住民と社会の形成 7 ラテンアメリカ経済の発展過程（1）植民地期の経済 8 ラテンアメリカ経済の発展過程（2）輸出経済期の経済 9 ラテンアメリカ経済の発展過程（3）輸入代替工業化期の経済 10 現代のラテンアメリカ経済（1）債務危機と「失われた10年」 11 現代のラテンアメリカ経済（2）構造調整下のラテンアメリカ経済 12 まとめ 	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	ラテンアメリカ経済論 b ラテンアメリカ経済論 b ラテンアメリカ経済論	担当者	松本栄次
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域の経済について考察する。</p> <p>おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特異な産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン流域地域を事例としてとりあげ、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性について解説し、あわせて、国際的関心の高いこの地域の経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験の成績と出席状況を総合して行う。</p> <p>◆ テキスト、参考文献 M. グールディング他著（山本・松本訳）『恵みの洪水ーアマゾン沿岸の生態と経済』 同時代社、2001年</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ブラジル経済の地理的基盤 2 ブラジルの産業史の特質ーブームとバーストの産業サイクルー 3 ブラジルの諸地域と経済（1）先進経済地域ー南東部・南部地方 4 ブラジルの諸地域と経済（2）開発停滞期域ー北東部地方 5 ブラジルの諸地域と経済（3）開発途上地域ー北部・中西部地方 6 アマゾニア地方の自然生態的基盤 7 アマゾニア地方の住民と居住の歴史 8 アマゾニア地方における地域開発政策 9 アマゾニア地方における地域開発と環境問題（1） 10 アマゾニア地方における地域開発と環境問題（2） 11 アマゾニア地方における経済開発と生態系保全調和の道 12 まとめ 	

03年度以降(春) 西ヨーロッパ経済論 a 01～02年度(春) 西ヨーロッパ経済論 a 00年度以前 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西健夫																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 世界経済における西ヨーロッパ経済の位置付けから出発し、国際経済秩序の枠内における地域経済共同体としての EU の特徴を解説する。</p> <p>講義概要 先ず国際経済秩序を概説し、西ヨーロッパ経済を地域経済として分析する方法を解説する。その後、西ヨーロッパ経済の中核である EU 経済を様々な視点から紹介する。</p> <p>◆評価方法 期末に論文形式の試験を行い、これに基づき評価する</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="845 246 1340 896"> <tr><td>1</td><td>戦後国際経済秩序の形成</td></tr> <tr><td>2</td><td>西ヨーロッパ経済の形成</td></tr> <tr><td>3</td><td>国際貿易秩序</td></tr> <tr><td>4</td><td>国際決済秩序</td></tr> <tr><td>5</td><td>GATT/WTO における地域経済統合</td></tr> <tr><td>6</td><td>貿易取引と地域統合経済</td></tr> <tr><td>7</td><td>国際収支表にみる西ヨーロッパ経済</td></tr> <tr><td>8</td><td>西ヨーロッパの産業構造</td></tr> <tr><td>9</td><td>西ヨーロッパの主要企業</td></tr> <tr><td>10</td><td>西ヨーロッパの雇用問題</td></tr> <tr><td>11</td><td>西ヨーロッパの金融市場</td></tr> <tr><td>12</td><td>統合ヨーロッパ経済</td></tr> </table>		1	戦後国際経済秩序の形成	2	西ヨーロッパ経済の形成	3	国際貿易秩序	4	国際決済秩序	5	GATT/WTO における地域経済統合	6	貿易取引と地域統合経済	7	国際収支表にみる西ヨーロッパ経済	8	西ヨーロッパの産業構造	9	西ヨーロッパの主要企業	10	西ヨーロッパの雇用問題	11	西ヨーロッパの金融市場	12	統合ヨーロッパ経済
1	戦後国際経済秩序の形成																									
2	西ヨーロッパ経済の形成																									
3	国際貿易秩序																									
4	国際決済秩序																									
5	GATT/WTO における地域経済統合																									
6	貿易取引と地域統合経済																									
7	国際収支表にみる西ヨーロッパ経済																									
8	西ヨーロッパの産業構造																									
9	西ヨーロッパの主要企業																									
10	西ヨーロッパの雇用問題																									
11	西ヨーロッパの金融市場																									
12	統合ヨーロッパ経済																									

03年度以降(秋) 西ヨーロッパ経済論 b 01～02年度(秋) 西ヨーロッパ経済論 b 00年度以前 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西健夫																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 戦後ヨーロッパの経済安全保障として出発した石炭鉄鋼共同体が地域経済統合へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的な金融政策の一元化にまで進展した EU の構造と機能を明かにする。</p> <p>講義概要 先ず EU の統合過程を概説し、これに基づき EU における市場の拡大と深化が西ヨーロッパ経済の再生を実現してゆくメカニズム分析する。</p> <p>◆評価方法 期末に論文形式の試験を行い、これに基づき評価する</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="845 1344 1340 1993"> <tr><td>1</td><td>世界経済における西ヨーロッパ経済</td></tr> <tr><td>2</td><td>ヨーロッパ経済圏の形成</td></tr> <tr><td>3</td><td>ヨーロッパ統合の理念</td></tr> <tr><td>4</td><td>経済安全保障としての石炭鉄鋼共同体</td></tr> <tr><td>5</td><td>経済共同体と関税同盟</td></tr> <tr><td>6</td><td>域内貿易の進展</td></tr> <tr><td>7</td><td>共同市場と共通政策</td></tr> <tr><td>8</td><td>マーストリヒト条約と EU</td></tr> <tr><td>9</td><td>経済・通貨同盟</td></tr> <tr><td>10</td><td>EU の組織機構</td></tr> <tr><td>11</td><td>EU の法的地位</td></tr> <tr><td>12</td><td>EU 市場の拡大と深化</td></tr> </table>		1	世界経済における西ヨーロッパ経済	2	ヨーロッパ経済圏の形成	3	ヨーロッパ統合の理念	4	経済安全保障としての石炭鉄鋼共同体	5	経済共同体と関税同盟	6	域内貿易の進展	7	共同市場と共通政策	8	マーストリヒト条約と EU	9	経済・通貨同盟	10	EU の組織機構	11	EU の法的地位	12	EU 市場の拡大と深化
1	世界経済における西ヨーロッパ経済																									
2	ヨーロッパ経済圏の形成																									
3	ヨーロッパ統合の理念																									
4	経済安全保障としての石炭鉄鋼共同体																									
5	経済共同体と関税同盟																									
6	域内貿易の進展																									
7	共同市場と共通政策																									
8	マーストリヒト条約と EU																									
9	経済・通貨同盟																									
10	EU の組織機構																									
11	EU の法的地位																									
12	EU 市場の拡大と深化																									

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	東アジア・中国経済論 a 東アジア・中国経済論 a 東アジア・中国経済論	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>今日の世界経済において東アジアの重みが増していると言われている。なかでも中国経済の動向は21世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>中国経済の歴史、発展可能性などを学ぶ。1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中国経済の全般的な動向 (1) 2 中国経済の全般的な動向 (2) 3 目覚めた巨龍はどこへ? (1) 4 目覚めた巨龍はどこへ? (2) 5 社会主義市場経済とは何か? (1) 6 社会主義市場経済とは何か? (2) 7 技術進歩なき成長か? (1) 8 技術進歩なき成長か? (2) 9 国有企業改革は失敗したか? (1) 10 国有企業改革は失敗したか? (2) 11 農村はいかに変化したか? (1) 12 農村はいかに変化したか? (2) 	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する			
◆テキスト、参考文献			
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001年			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	東アジア・中国経済論 b 東アジア・中国経済論 b 東アジア・中国経済論	担当者	駒形 哲哉
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国経済の発展をめぐる内的な課題と、中国と東アジア経済とのかかわりについて、最新の状況をふまえながら、実証的に論ずる。また、中国にとって日本は最大の貿易パートナーであり、日本企業の中国戦略も変化していることにかんがみ、貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。 2. 講義は下記テキストを基本として進める。 3. 東アジア・中国経済論 a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 失業率は本当に低いのか? - 体制維持の最大課題 2 金融は中国経済のアキレス腱か? 3 輸出は成長のエンジンか? (1) 4 輸出は成長のエンジンか? (2) 5 外資は何をもたらしたか? (1) 6 外資は何をもたらしたか? (2) 7 中国は国際社会にとって脅威か? 8 日中関係はいかにあるべきか? 9 何か成長を制約するか? (1) 10 何が成長を制約するか? (2) 11 改革の果実は誰の手に? 12 21世紀東アジア経済と中国経済 	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001年			

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	オセアニア経済論 a オセアニア経済論 a 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森 健												
<p>(目的、概要) 近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。同国は1989年にAPEC(アジア太平洋経済協力会議)の開催を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ、多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口(自然条件、歴史的条件、文化的背景、政治社会体制、国際環境、経済条件など)から解明する。春期ではこの内、自然条件、歴史的条件、および、多文化主義政策を採用する以前の文化的背景をとりあげる。</p> <p>◆評価方法 定期試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1 講義の目的の確認。ビデオ</td></tr> <tr><td>2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(1)・・・(講義全体を理解する上で特に重要)</td></tr> <tr><td>3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(2)</td></tr> <tr><td>4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展</td></tr> <tr><td>5 歴史：金発見とその影響(1)</td></tr> <tr><td>6 歴史：金発見とその影響(2)</td></tr> <tr><td>7 歴史：仲間主義(mateship)の起源と特徴：長期経済ブーム</td></tr> <tr><td>8 歴史：1890年代の恐慌とその影響</td></tr> <tr><td>9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)</td></tr> <tr><td>10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2)：経済ナショナリズム</td></tr> <tr><td>11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー</td></tr> <tr><td>12 文化：アボリジニ</td></tr> </table>		1 講義の目的の確認。ビデオ	2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(1)・・・(講義全体を理解する上で特に重要)	3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(2)	4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展	5 歴史：金発見とその影響(1)	6 歴史：金発見とその影響(2)	7 歴史：仲間主義(mateship)の起源と特徴：長期経済ブーム	8 歴史：1890年代の恐慌とその影響	9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)	10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2)：経済ナショナリズム	11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー	12 文化：アボリジニ
1 講義の目的の確認。ビデオ															
2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(1)・・・(講義全体を理解する上で特に重要)															
3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(2)															
4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展															
5 歴史：金発見とその影響(1)															
6 歴史：金発見とその影響(2)															
7 歴史：仲間主義(mateship)の起源と特徴：長期経済ブーム															
8 歴史：1890年代の恐慌とその影響															
9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)															
10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2)：経済ナショナリズム															
11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー															
12 文化：アボリジニ															

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	オセアニア経済論 a オセアニア経済論 a 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森 健												
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(講義目的および概要は春期「オセアニア経済論 a」に同じ。ただし、秋期では、講義の切り口を、多文化主義政策採用以降の社会文化環境、政治社会体制、国際環境、経済条件などから解明する。)</p> <p>◆評価方法 定期試験</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1 前期講義の復習をかねた歴史概観(1)</td></tr> <tr><td>2 前期講義の復習をかねた歴史概観(2)</td></tr> <tr><td>3 社会構造と問題</td></tr> <tr><td>4 労働問題</td></tr> <tr><td>5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策</td></tr> <tr><td>6 政治構造</td></tr> <tr><td>7 労働党政権と保守連立政権</td></tr> <tr><td>8 産業構造</td></tr> <tr><td>9 対外経済関係</td></tr> <tr><td>10 社会経済改革と経済パフォーマンス</td></tr> <tr><td>11 外交と国際関係(1)</td></tr> <tr><td>12 外交と国際関係(2)</td></tr> </table>		1 前期講義の復習をかねた歴史概観(1)	2 前期講義の復習をかねた歴史概観(2)	3 社会構造と問題	4 労働問題	5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策	6 政治構造	7 労働党政権と保守連立政権	8 産業構造	9 対外経済関係	10 社会経済改革と経済パフォーマンス	11 外交と国際関係(1)	12 外交と国際関係(2)
1 前期講義の復習をかねた歴史概観(1)															
2 前期講義の復習をかねた歴史概観(2)															
3 社会構造と問題															
4 労働問題															
5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策															
6 政治構造															
7 労働党政権と保守連立政権															
8 産業構造															
9 対外経済関係															
10 社会経済改革と経済パフォーマンス															
11 外交と国際関係(1)															
12 外交と国際関係(2)															

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	アフリカ経済論 a アフリカ経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 世界の中でも現在経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。</p> <p>講義概要 アフリカ大陸の全体像、アフリカ経済の歴史的背景に次いで、第二次大戦後に独立を迎えたアフリカ諸国の経済発展と経済の現状について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、参考文献の紹介など 2 アフリカ概観Ⅰ (アフリカと世界、世界史におけるアフリカ、現在アフリカの国々) 3 アフリカ概観Ⅱ (アフリカの気候/地理/天然資源/住民と文化/宗教/民族と言語) 4 アフリカ概観Ⅲ (アフリカの地域区分/現在のアフリカ諸国/政治情勢/地域統合の現状) 5 アフリカ概観Ⅳ (アフリカの経済発展/農業/鉱工業/貿易/外国人投資) 6 アフリカ経済の歴史的背景Ⅰ (15世紀以前のアフリカ: 先史時代、アフリカ諸王国の興亡) 7 アフリカ経済の歴史的背景Ⅱ (奴隷貿易時代: 大航海時代と重商主義、大西洋三角貿易) 8 アフリカ経済の歴史的背景Ⅲ (アフリカの植民地化: 間接統治と同化政策の実態) 9 アフリカ経済の歴史的背景Ⅳ (独立と国家建設: 多民族モザイク国家の形成、開発独裁の問題) 10 現在アフリカの経済Ⅰ (国際政治経済とアフリカ: アフリカ社会主義、東西冷戦終結とアフリカ) 11 現在アフリカの経済Ⅱ (アフリカの構造調整: 債務問題、世銀/IMFのアフリカ支援) 12 現在アフリカの経済Ⅲ (アフリカ政治・経済の将来) 	
◆評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>小田英郎他著『アフリカ』自由国民社、1999 『アフリカを知る事典』平凡社、1999</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	アフリカ経済論 b アフリカ経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 世界の中でも現在経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。</p> <p>講義概要 アフリカ地域についての最重要課題である食糧・人口・都市・難民・環境等についてテーマ別に講義する。日本をはじめとする先進諸国の対アフリカ経済協力の現状についても述べる。アフリカ各国別の詳しい経済事情についてはあまり多くの時間を割くことはできないが、南ア、マダガスカル、カメルーン、ブルキナファソ、アルジェリアの5カ国を取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アフリカの食糧問題 (農業と気候条件、植民地農業と一次産品輸出、食糧援助・輸入問題) 2 アフリカの人口問題 (貧困と人口、幼児死亡率、文化・教育と人口、女性の社会的地位と人口) 3 アフリカの都市問題 (都市と農村、スラム化とインフォーマル部門、政治権力と都市住民) 4 アフリカの難民問題 (ルワンダ、エチオピア、スーダン、ソマリア、エリトリア、シエラレオネなど) 5 アフリカの環境問題 (干ばつ・砂漠化の原因、木材輸出と森林乱伐、都市公害) 6 対アフリカ国際協力の現状 (DAC諸国の経済協力、国際諸機関の援助体制、NGO活動) 7 アフリカの地域経済統合 (ECOWAS、UEMOA、SADC、COMESA、CEEAC)、AU (アフリカ連合) と NEPAD (アフリカ開発のための新パートナーシップ) 8 アフリカ経済と日本 (貿易、援助、NGO、直接投資) 9 アフリカ各国の経済Ⅰ (南アフリカ共和国) 10 アフリカ各国の経済Ⅱ (マダガスカル、アルジェリア) 11 アフリカ各国の経済Ⅲ (カメルーン、ブルキナファソ) 	
◆評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>小田英郎他著『アフリカ』自由国民社、1999 『アフリカを知る事典』平凡社、1999</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	中東経済論 a 中東経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	平井文子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 中東は、前近代におけるイスラムの栄光と停滞を引きずったまま、その政治地理的位置、大量の石油生産・埋蔵のゆえに、西欧植民地主義により暴力的にシステムの変容を迫られてきた。それに対する抵抗および域内、国内権力闘争が中東を1世紀以上もの間戦争と紛争の絶えることのない地域とさせている。本講義では、伝統と近代化のせめぎあうポストコロニアル時代における中東の政治経済社会の推移を国際問題と絡めてわかりやすく説明することにより、学生諸君の世界認識の一助とさせたい。</p> <p>講義概要 はじめに、中東の歴史・政治的、宗教的、文化的、民族的特質を正確に把握する。ついで、中東理解に欠かせないパレスチナ問題と、石油問題について講義する。 できる限り、ビデオ等を使用するとともに、必要な資料をプリントして配布することにより、学生諸君の理解を深めるよう試みる。</p>		<p>1、授業の進め方、参考文献の紹介等。 2、中東に関する基礎知識①——地理、諸民族、諸言語、諸宗教、文化 3、中東に関する基礎知識②——イスラムの栄光の歴史、植民地化、独立まで、中東諸国体制 4、中東理解①——牟田口義郎「われわれの中東認識は確かか」を読む 5、中東理解②——後藤明「アラブは西欧中心史観を揺るがす」を読む 6、中東理解③——大塚和男「問い直される日本人の宗教観」を読む 7、パレスチナ問題の起源 8、イスラエル誕生をめぐって 9、アラブ・イスラエル戦争、パレスチナ民族の権利、パレスチナと平和について 10、中東石油をめぐる争奪戦 11、武藤幸治「中東石油経済のうらおもて」を読む 12、予備日</p>	
◆評価方法			
期末試験による。			
◆テキスト、参考文献			
板垣雄三編『中東パースペクティブ』、第三書館、1990。 他			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	中東経済論 b 中東経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	平井文子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 中東経済論 a と同じ。</p> <p>講義概要 中東の開発というテーマに接近する。 開発とは、単に経済成長にとどまらず、生活の質の向上を意味する。ポストコロニアル時代の中東の抱える開発問題を経済成長、構造変化、人口問題、教育問題、水問題、開発と女性等の項目別に見て行き、中東地域全体にたいするより確かな認識を深めることを目指す。講師のエジプト滞在中の調査研究、社会体験を十分伝えられればと願っている。</p>		<p>1、開発とは何か。 2、冷戦時代の中東諸国の開発戦略 3、グローバリゼーションと中東 4、中東諸国の経済事情 I 5、中東諸国の経済事情 II 6、中東諸国の経済事情 III 7、人口問題 8、教育問題 9、水問題 10、開発と女性 I 11、開発と女性 II 12、予備日</p>	
◆評価方法			
期末試験による			
◆テキスト、参考文献			
平井文子「中東の開発」、土生長穂編『開発とグローバリゼーション』、柏書房、2000。 他			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	金融経済論 a 金融経済論 a 金融経済論	担当者	斉藤美彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(目的) 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論が理解できることを目標とする。</p> <p>(概要) 講義は金融の基本原則からはじまり、金融取引における金利の役割、さらにマクロ的に貨幣供給はどのように行われているのか、それと銀行業を中心とする決済システムは如何にかかわっているのか等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融のフローとストック (1) *なぜ金融が必要か? 2. 金融のフローとストック (2) *金融業の役割 3. 金融のフローとストック (3) *金融ストックの形成 4. 金融のフローとストック (4) *金融取引・金融資産の全体図 5. 金利・資産価格・利回り (1) *シグナルとしての金利 6. 金利・資産価格・利回り (2) *資産市場における金利 7. 金利・資産価格・利回り (3) *株式と株価 8. 金利・資産価格・利回り (4) *金利を動かしているもの 9. マネー (貨幣) と銀行業 (1) *現代のマネーと決済システム 10. マネー (貨幣) と銀行業 (2) *銀行の信用創造機能 11. マネー (貨幣) と銀行業 (3) *マネーの価値とインフレーション 12. マネー (貨幣) と銀行業 (4) *マネーの変遷 	
◆評価方法			
期末試験およびレポートによる。			
◆テキスト、参考文献			
辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995年			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	金融経済論 b 金融経済論 b 金融経済論	担当者	須藤時仁
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解を持つことができるようになることを目的とする。</p> <p>金融政策の基本から近年話題となっているデフレーション下における金融政策のあり方、国際金融の基本、近年の金融に関わる諸問題等を幅広く解説する。</p> <p>受講生への要望</p> <p>新聞、経済誌等を読み、生の経済・金融情報に親しむよう努めること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中央銀行の役割 (1) *内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説 2. 中央銀行の役割 (2) *金融政策の目的と波及経路 3. 中央銀行の役割 (3) *金融政策の手段と準備預金制度 4. 中央銀行の役割 (4) *デフレーションと金融政策 5. 金融の国際的側面 (1) *為替相場の形成 6. 金融の国際的側面 (2) *為替相場の形成 7. 金融の国際的側面 (3) *国際通貨制度の変遷 8. 金融問題 (1) *金融自由化の進展 9. 金融問題 (2) *金融の「証券化」 10. 金融問題 (3) *派生商品市場の発展 11. 金融問題 (4) *リーテイルとホールセール 12. 金融問題 (5) *銀行の収益とリスク 	
◆評価方法			
期末試験による。			
◆テキスト、参考文献			
辻信二『新版金融と銀行』学文社、1995年			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	金融システム論 a 金融システム論 a 金融システム論	担当者	斉藤美彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(目的) 世界各国の金融システムはそれぞれの国の歴史等を反映して個性的なものとして発展してきた。そしてそれらはグローバル化の進展の過程で変化しつつあることを理解することを目的とする。</p> <p>(概要) 近代的な銀行業・金融システムが世界で最も早く発達し、今日においても世界の金融の中心のひとつであるイギリスの金融システムについて幅広く解説する。講義では預金取扱金融機関および機関投資家だけでなく、金融法制、監督体制についても解説を行う。最後のまとめには他国の金融システムとの比較も行うこととする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> イギリスの金融システム (1) * 金融システムの長期的傾向 イギリスの金融システム (2) * 金融サービス法から金融サービス・市場法へ イギリスの金融システム (3) * 商業銀行の再編 イギリスの金融システム (4) * マーチャントバンクとウィンプルドン現象 イギリスの金融システム (5) * 住宅金融組合 イギリスの金融システム (6) * 信託貯蓄銀行 イギリスの金融システム (7) * 国民貯蓄銀行 イギリスの金融システム (8) * 年金基金 イギリスの金融システム (9) * 保険会社 イギリスの金融システム (10) * 投資信託 金融システムの諸相 (1) * EUの金融統合 金融システムの諸相 (2) * アメリカ・その他諸国 	
◆ 評価方法			
期末試験およびレポートによる。			
◆テキスト、参考文献			
斉藤美彦『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』 日本経済評論社、1999年			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	金融システム論 b 金融システム論 b 金融システム論	担当者	須藤時仁
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本の金融システムおよび監督制度の特性を理解し、近年の金融システム関連の諸問題を理解できるようになることを目的とする。</p> <p>日本の金融システムの特徴および各金融機関の概要について解説し、近年において生じている種々の問題点についても解説する。</p> <p>受講生への要望 新聞、経済誌等を読み、生の経済・金融情報に親しむよう努めること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 日本の金融システム (1) * 専門金融機関制度 日本の金融システム (2) * 普通銀行等預金取扱金融機関 日本の金融システム (3) * 保険会社・ノンバンク 日本の金融システム (4) * 証券会社と証券市場 日本の金融システム (5) * 公的金融機関と財政投融资制度 日本の金融システム (6) * 金融監督機関と新たな監督体制 日本の金融システム (7) * 銀行業への新規参入 日本の金融システム (8) * 高度成長期の金融システム 日本の金融システム (9) * 金融制度改革とビッグバン 日本の金融システム (10) * 金融危機と金融再生法 日本の金融システム (11) * 金融大再編と不良債権処理 日本の金融システム (12) * 預金保険制度 	
◆ 評価方法			
期末試験による。			
◆テキスト、参考文献			
別途指定する。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	財政学 a 財政学 a 財政学	担当者	野村容康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。</p> <p>講義概要 前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。</p> <p>受講者への要望 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 財政政策の理論① 6. 財政政策の理論② 7. 公共財の理論① 8. 公共財の理論② 9. わが国財政の現状 10. 公債の制度と理論 11. 公的高齢年金① 12. 公的高齢年金② 	
◆ 評価方法			
<p>前期・後期の試験の成績で評価する。 出席は考慮しない。</p> <p>テキスト 里中恆志・八巻節夫『新財政学』文真堂 参考書 大島通義・神野直彦・金子勝『日本が直面する財政問題』八千代出版</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	財政学 b 財政学 b 財政学	担当者	野村容康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(財政学 a 参照)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性と中立性 4. 租税の転嫁と帰着 5. 包括的所得税論 6. 支出税と最適課税の考え方 7. 二元的所得税の考え方 8. 個人所得課税 9. 法人所得課税 10. 間接消費課税 11. 資産課税 12. グローバル化と課税 	
◆ 評価方法			
<p>(財政学 a 参照)</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>(財政学 a 参照)</p>			

公共経済学 a	担当者	伊藤爲一郎																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によってささえられています。上下水道、ごみ処理、教育、福祉、警察、消防、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるか。公的規制はどうあるべきか。公共部門の活動を活性化するためにはどうしたらよいか。国民の福祉問題にどう対応するべきか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが講義の目的です。</p> <p>講義概要 公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図表を多用しながら講義を進める予定です。国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきましたが、その経過をたどることによって現代の政府活動の特徴を明らかにします。</p> <p>◆評価方法 期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します</p> <p>◆テキスト、参考文献 講義のはじめに指示します</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>はじめに。日本財政の現状と課題 文献紹介</td></tr> <tr><td>2</td><td>経済の発展と財政の膨張 政府（中央・地方）の範囲</td></tr> <tr><td>3</td><td>公共部門存在の経済的根拠—公共財・外部性・市場の失敗・ 政府の失敗・公的供給と公的生産</td></tr> <tr><td>4</td><td>政府の機能—資源配分</td></tr> <tr><td>5</td><td>政府の機能—所得分配と福祉政策</td></tr> <tr><td>6</td><td>政府の機能—経済安定・経済成長・フィスカルポリシー</td></tr> <tr><td>7</td><td>公共部門の支出政策—支出の拡大と発展</td></tr> <tr><td>8</td><td>公共投資と経済発展</td></tr> <tr><td>9</td><td>公共部門の歳入構造</td></tr> <tr><td>10</td><td>地方政府と地方財政の発展</td></tr> <tr><td>11</td><td>財政危機の構造</td></tr> <tr><td>12</td><td>まとめ—公共部門の課題</td></tr> </table>	1	はじめに。日本財政の現状と課題 文献紹介	2	経済の発展と財政の膨張 政府（中央・地方）の範囲	3	公共部門存在の経済的根拠—公共財・外部性・市場の失敗・ 政府の失敗・公的供給と公的生産	4	政府の機能—資源配分	5	政府の機能—所得分配と福祉政策	6	政府の機能—経済安定・経済成長・フィスカルポリシー	7	公共部門の支出政策—支出の拡大と発展	8	公共投資と経済発展	9	公共部門の歳入構造	10	地方政府と地方財政の発展	11	財政危機の構造	12	まとめ—公共部門の課題	
1	はじめに。日本財政の現状と課題 文献紹介																									
2	経済の発展と財政の膨張 政府（中央・地方）の範囲																									
3	公共部門存在の経済的根拠—公共財・外部性・市場の失敗・ 政府の失敗・公的供給と公的生産																									
4	政府の機能—資源配分																									
5	政府の機能—所得分配と福祉政策																									
6	政府の機能—経済安定・経済成長・フィスカルポリシー																									
7	公共部門の支出政策—支出の拡大と発展																									
8	公共投資と経済発展																									
9	公共部門の歳入構造																									
10	地方政府と地方財政の発展																									
11	財政危機の構造																									
12	まとめ—公共部門の課題																									

公共経済学 b	担当者	伊藤爲一郎																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によってささえられています。上下水道、ごみ処理、教育、福祉、警察、消防、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるか。公的規制はどうあるべきか。公共部門の活動を活性化するためにはどうしたらよいか。国民の福祉問題にどう対応するべきか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが講義の目的です。</p> <p>講義概要 公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図表を多用しながら講義を進める予定です。国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきましたが、その経過をたどることによって現代の政府活動の特徴を明らかにします。後期においては特に公共部門の活動に必要な財源について講義をします。</p> <p>◆評価方法 期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します</p> <p>◆テキスト、参考文献 講義のはじめに指示します</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>はじめに 日本財政の現状と課題 文献紹介</td></tr> <tr><td>2</td><td>公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か</td></tr> <tr><td>3</td><td>公平な租税とは—租税原則と租税配分</td></tr> <tr><td>4</td><td>わが国の租税構造の変遷とその特徴</td></tr> <tr><td>5</td><td>現代の租税体系と分類 所得に課せられる税</td></tr> <tr><td>6</td><td>消費に課せられる税</td></tr> <tr><td>7</td><td>資産に課せられる税</td></tr> <tr><td>8</td><td>公債の累増—租税国家の危機</td></tr> <tr><td>9</td><td>地方政府の発展と財政危機 地方経済の自立は可能か</td></tr> <tr><td>10</td><td>高齢化社会と財政—年金財政の破綻</td></tr> <tr><td>11</td><td>環境問題と財政</td></tr> <tr><td>12</td><td>まとめ—日本経済の再生と財政再建</td></tr> </table>	1	はじめに 日本財政の現状と課題 文献紹介	2	公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か	3	公平な租税とは—租税原則と租税配分	4	わが国の租税構造の変遷とその特徴	5	現代の租税体系と分類 所得に課せられる税	6	消費に課せられる税	7	資産に課せられる税	8	公債の累増—租税国家の危機	9	地方政府の発展と財政危機 地方経済の自立は可能か	10	高齢化社会と財政—年金財政の破綻	11	環境問題と財政	12	まとめ—日本経済の再生と財政再建	
1	はじめに 日本財政の現状と課題 文献紹介																									
2	公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か																									
3	公平な租税とは—租税原則と租税配分																									
4	わが国の租税構造の変遷とその特徴																									
5	現代の租税体系と分類 所得に課せられる税																									
6	消費に課せられる税																									
7	資産に課せられる税																									
8	公債の累増—租税国家の危機																									
9	地方政府の発展と財政危機 地方経済の自立は可能か																									
10	高齢化社会と財政—年金財政の破綻																									
11	環境問題と財政																									
12	まとめ—日本経済の再生と財政再建																									

03 年度以降 (春) 01～02 年度 (春) 00 年度以前	環境経済学 a 環境経済学 a 環境経済学	担当者	浜本 光紹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。</p> <p>「環境経済学 a」では、環境経済学の理論的基礎、環境資源の貨幣的評価とその手法、および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション…環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。 2 環境と開発…経済開発と環境問題をめぐる「効率」と「衡平」について考察する。 3 環境評価手法…経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。 4 環境問題の調整のあり方と環境政策…環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。 <p>注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。</p>	
◆ 評価方法			
定期試験による。			
◆テキスト、参考文献			
植田和弘『環境経済学』岩波書店 および講義中に配布するプリント			

03 年度以降 (秋) 01～02 年度 (秋) 00 年度以前	環境経済学 b 環境経済学 b 環境経済学	担当者	浜本 光紹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>「環境経済学 b」では、日本や米国、欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら、地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。この講義は、環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので、これを既習のうえで受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の環境政策…日本の公害問題とその対策について、1960～70 年代の環境政策を中心に検討する。 2 米国の環境政策…米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。 3 地球温暖化…地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し、京都メカニズムの課題について考察する。 4 環境税制改革…欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。 <p>注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。</p>	
◆ 評価方法			
定期試験による。			
◆テキスト、参考文献			
講義中に配布するプリント、および 植田和弘『環境経済学』岩波書店			

03年度以降(春)	経済地理学 a	担当者	犬井 正
01~02年度(春)	経済地理学 a		
00年度以前	経済地理学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p> <p>講義概要</p> <p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各1回(それぞれ4000字程度)の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>		<p>1 オリエンテーションを行い、受講者数を決定する</p> <p>2 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する</p> <p>3 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用方法について</p> <p>4 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する</p> <p>5 農業生産と農業労働力、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する(小論提出)</p> <p>6 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する</p> <p>7 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する</p> <p>8 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する</p> <p>9 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する</p> <p>10 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施(日曜日に振り替えて実施する)</p> <p>11 同上</p> <p>12 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出</p>	
◆ 評価方法			
レポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト： D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会			

03年度以降(春)	経済地理学 b	担当者	犬井 正
01~02年度(春)	経済地理学 b		
00年度以前	経済地理学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p> <p>講義概要</p> <p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各1回(それぞれ4000字程度)の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>		<p>1 日本の農業の特色と農業地域の概観</p> <p>2 首都圏の農業地域の構造と特色</p> <p>3 輸送園芸農業地域の構造と特色</p> <p>4 米作地域の農業経営の特色と問題点(小論提出)</p> <p>5 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる</p> <p>6 イギリスの農業の特色と農業地域の概観</p> <p>7 イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する</p> <p>8 イギリスの工業化する農業と農業地域の特色</p> <p>9 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察する</p> <p>10 同上</p> <p>11 パネルディスカッションの実施</p> <p>12 まとめと評価 <パネルディスカッションのレポート提出></p>	
◆ 評価方法			
レポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト： D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	交通経済論 a 交通経済論 a 交通経済論	担当者	岡田 博
◆講義目的、講義概要 交通経済論は交通を研究対象とし、これを経済学の分析ツールを用いて分析し、交通問題の解明を追求するものである。 現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを提供する交通システムも現代社会経済活動を支えている重要な経済システムである。 本講義では、とくに交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について解明していきたい。交通の基礎理論を講ずるとともに現代の交通問題に対しても交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。 授業では、何回かレポートを提出してもらおう。度々レポートを書くことによって、交通問題に対しても自ずから考えることを習慣づけてもらうためである。		◆授業計画 1 交通経済論について、研究の方法等 2 交通需要Ⅰ 交通需要の特性、交通需要の弾力性について 3 交通需要Ⅱ 交通需要の予測とその方法 4 交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給の史的概観 5 交通サービスの供給Ⅱ 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化 6 交通市場 交通市場の特性等 7 運賃理論Ⅰ 運送価値説 8 運賃理論Ⅱ 独占運賃と差別運賃 9 運賃理論Ⅲ 運賃費用説 10 運賃理論Ⅳ 限界費用運賃Ⅰ 11 運賃理論Ⅴ 限界費用運賃Ⅱ 12 まとめ	
◆ 評価方法 レポート、期末試験を主として評価を行なう。			
◆テキスト、参考文献 参考書：岡野行秀編 交通の経済学 有斐閣			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	交通経済論 b 交通経済論 b 交通経済論	担当者	岡田 博
◆講義目的、講義概要 交通経済論は交通を研究対象とし、これを経済学の分析ツールを用いて分析し、交通問題の解明を追求するものである。 現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを提供する交通システムも現代社会経済活動を支えている重要な経済システムである。 本講義では、とくに交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について解明していきたい。交通の基礎理論を講ずるとともに現代の交通問題に対しても交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。 授業では、何回かレポートを提出してもらおう。度々レポートを書くことによって、交通問題に対しても自ずから考えることを習慣づけてもらうためである。		◆授業計画 1 交通の社会的費用Ⅰ 交通の社会的費用の概念 2 交通の社会的費用Ⅱ 交通の社会的費用の実態と対策 3 交通の社会的費用Ⅲ 交通の社会的費用の内部化 4 交通投資と資金調達Ⅰ 交通投資の経済効果 5 交通投資と資金調達Ⅱ 資金調達の方法について 6 国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長、近年におけるGDPと輸送量の乖離およびその要因 7 国民経済と交通Ⅱ 交通の発達と地域開発 8 国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化 9 国民経済と交通Ⅳ 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点 10 交通政策Ⅰ 交通政策の理論 11 交通政策Ⅱ 交通安全政策 12 おわりに	
◆ 評価方法 レポート、期末試験を主として評価を行なう。			
◆テキスト、参考文献 参考書：岡野行秀編 交通の経済学 有斐閣			

03年度以降(春)	経営学原理 a	担当者	黒川文子
01~02年度(春)	経営学原理 a		
00年度以前	経営学原理		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日の問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。</p> <p>講義では、経営学説の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理 a では、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業経営とは何か 2 変貌する現代のビジネス 3 企業とビジネスの関係 4 ニュービジネスの登場と経営革新 5 現代の会社制度と企業経営 6 資本主義経済と株式会社 7 経済のグローバル化と株式会社の機構改革 8 企業の目的と業績評価 9 業績評価尺度 10 多角化企業と競争環境 11 持続的競争優位と戦略 12 職務とは何か 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>高橋宏幸・丹沢安治・坂野友昭著『現代経営・入門』有斐閣ブックス、2002年。</p>			

03年度以降(秋)	経営学原理 b	担当者	黒川文子
01~02年度(秋)	経営学原理 b		
00年度以前	経営学原理		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経営学原理 b では、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT 革新とネットワーク組織」についても見ていく。</p> <p>次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 機能別組織とプロセス組織 2 事業別組織とカンパニー制 3 IT 革新とネットワーク組織 4 伝統的な組織間関係 5 日本的な企業グループと系列 6 伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産 7 モジュール組立方式とセル生産 8 トヨタのカンバン方式とリーン生産 9 マーケティング戦略 10 人的資源戦略 11 経営倫理 12 イノベーションとベンチャー 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>高橋宏幸・丹沢安治・坂野友昭著『現代経営・入門』有斐閣ブックス、2002年。</p>			

03年度以降 (春) 01~02年度 (春) 00年度以前	経営学原理 a 経営学原理 a 経営学原理	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。</p> <p>講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者 (CEO) の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春期講義計画の概要 2 (経営学方法論) 経営学の対象 3 マネジメント経営学の方法 4 実践経営学の方法 5 (経営理念) 現代企業の目的 6 経営理念 7 経営倫理、経営社会責任 8 (経営リーダーシップ論) 最高経営機関とその機能 9 株主総会、取締役会 10 CEO (最高経営責任者) COO (最高業務執行者) 11 コーポレート・ガバナンス 12 春期講義のまとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験の結果と、授業出席状況による</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理』学文社</p>			

03年度以降 (秋) 01~02年度 (秋) 00年度以前	経営学原理 b 経営学原理 b 経営学原理	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。</p> <p>講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者 (CEO) の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋期講義計画の概要 2 (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 テイラーとフォード 3 ファヨールとフォレット 4 バーナードとサイモン 5 (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス 6 問題解決と意思決定 7 戦略策定技法、計画技法、コントロール技法 8 (経営組織論) 組織構造と組織過程 9 組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任 10 リーダーシップ 11 経営組織の活性化 12 秋期講義のまとめ 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験の結果と、授業出席状況による</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理』学文社</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	企業論 a 企業論 a 企業論	担当者	西川純子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。講義は歴史的な考察と理論的な検討を2本の軸としてすすめる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「見えざる手と見える手」 その1 2. 「見えざる手と見える手」 その2 3. 所有と支配 その1 4. 所有と支配 その2 5. 大量生産と大量消費 その1 6. 大量生産と大量消費 その2 7. 大企業と中小企業 その1 8. 大企業と中小企業 その2 9. 不在所有の制度 その1 10. 不在所有の制度 その2 11. 技術革新 その1 12. 技術革新 その2 	
◆ 評価方法			
筆記試験			
◆テキスト、参考文献			
特に定めない。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	企業論 b 企業論 b 企業論	担当者	西川純子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。講義は歴史的な考察と理論的な検討を2本の軸としてすすめる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と国家 2. 自由と規制 その1 3. 自由と規制 その2 4. 企業の多国籍化 その1 5. 企業の多国籍化 その2 6. 企業のグローバル化 7. 企業統治 その1 8. 企業統治 その2 9. 非営利組織 その1 10. 非営利組織 その2 11. 企業と環境問題 その1 12. 企業と環境問題 	
◆ 評価方法			
筆記試験			
◆テキスト、参考文献			
特に定めない。			

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	会計学 a 会計学 a 会計学	担当者	内倉 滋
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粋形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に(それゆえ、少なくとも「簿記原理 a」を修得していることが望ましい)、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後展開される会計学における「語用論」(＝経営分析論等の応用・専門学科目)への1つの橋渡しとなるものだ、とも言える。</p> <p>なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学 a」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルールの概要説明をしていきたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>昨年はレポート試験で評価していたが、本年は期末試験を評価の中心としたい。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>山浦久司・廣本敏郎 編著、『ガイドンス企業会計入門』(白桃書房)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の目的等 2 テキスト第1章:決算書から見える世界[≒会計学の2つの領域] 3 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その1 4 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その2 5 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その3 6 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その4 7 テキスト第3章:決算書のルール…その1 8 テキスト第3章:決算書のルール…その2 9 テキスト第3章:決算書のルール…その3 10 テキスト第3章:決算書のルール…その4 11 テキスト第4章:製造会社の決算書[≒原価計算論]…その1 12 テキスト第4章:製造会社の決算書[≒原価計算論]…その2 	
03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	会計学 b 会計学 b 会計学	担当者	内倉 滋
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「会計学 a」の知識を前提として「会計学 b」では、“会計監査論”“管理会計論”“経営分析論”“税務会計論”といった領域の諸問題を、テキストブックに沿った形で講義していきたい</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>「会計学 a」と同様</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「会計学 a」と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト第5章:決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論]…その1 2 テキスト第5章:決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論]…その2 3 テキスト第6章:決算書の内部利用[≒管理会計論]…その1 4 テキスト第6章:決算書の内部利用[≒管理会計論]…その2 5 テキスト第7章:決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その1 6 テキスト第7章:決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その2 7 テキスト第7章:決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その3 8 テキスト第7章 補論書: キュッシュフロー計算書の作成 9 テキスト第8章:決算書と税金[≒税務会計論]…その1 10 テキスト第8章:決算書と税金[≒税務会計論]…その2 11 テキスト第8章:決算書と税金[≒税務会計論]…その3 12 特論(03年度は「1株当たり利益」の問題を取り上げた) 	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	応用統計学 a 応用統計学 a 応用統計学	担当者	本田 勝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。</p> <p>多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも EXCEL や SAS などのプログラムパッケージを使用する。</p> <p>したがって、<u>コンピュータの操作はもちろんのこと EXCEL についても熟達している必要がある</u>ので、受講の際は注意すること。</p> <p>また受講は統計学の既習者か同程度の統計学の知識を持っている学生に限る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 多変量解析とは何かについての概観を行う。 2 統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図) 3 統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化) 4 行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法) 5 行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル) 6 単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法) 7 単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数) 8 実例データを各自用意し、演習を行う。(分散分析表の見方、決定係数) 9 重回帰分析への拡張を行う。(係数の推定と検定) 10 実例データによる重回帰分析の演習を行う。(データの収集) 11 回帰分析演習(結果の解釈) 12 回帰分析における変数選択の方法について述べる。 	
◆ 評価方法			
定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価			
◆テキスト、参考文献			
講義時に指示			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	応用統計学 b 応用統計学 b 応用統計学	担当者	本田 勝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>応用統計学 a と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 2 P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 3 実例データを用いた例題と主成分の解釈。(寄与率、累積寄与率) 4 実例データを各自用意し、演習を行う。(データの収集と入力) 5 分析結果の解釈および検討 6 2変量判別分析の考え方とその定式化 7 実例データを用いた判別分析の演習 8 P変量判別分析の定式化 9 実例データによるP変量判別分析の演習 10 実例データを各自用意し、P変量判別分析の演習を行う。 11 分析結果の解釈および検討 12 クラスター分析など他の多変量解析手法の概略を述べる。 	
◆ 評価方法			
定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価			
◆テキスト、参考文献			
講義時に指示			

03 年度以降 (春) 01~02 年度 (春) 00 年度以前	標本調査論 a 標本調査論 a 標本調査論	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われているが、調査の実態は何であろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査の問題点を整理してみる。</p> <p>講義では調査の歴史から始まり、授業計画に見られるような抽出法に関連した様々な問題を取り扱う。</p> <p>本講義の特色は応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果を多く取り入れ、理解の助けとしていくことである。そのため、演習などによる数値計算の作業が多いが、それらを厭わないことが大切である。</p> <p>出席と演習への貢献を大きく評価するので受講を考える学生はその点に留意していただきたい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>講義中の演習と出席。期末のレポート。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを配布。インターネット上にも資料をのせている。松井敬「標本調査論」、内田老鶴圃。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標本調査とは何か、その意味や方法、問題点など。講義の進め方 - 方針と受講生への要請。 2. 良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための歴史的な試み。有意抽出法。 3. 母集団と標本(サンプル)の枠組み。母集団特性値と標本との関係。無作為抽出法の意味するところ。 4. 単純無作為抽出法 - 復元と非復元抽出法。単純無作為標本のつくり方。乱数。 5. 単純無作為抽出法の例。推定量と標本分布。推定量の性質。 6. 誤差の評価。母平均と母集団総計の推定量。その分散と標準誤差。有限母集団補正。 7. 標準誤差の意味。推定量の精度(誤差)、推定量の相互比較(効率)。母集団比率の推定。 8. 標本の大きさを決める際の考え方。 9. 層化無作為抽出法。抽出の方法。層化抽出法で問題となる点。構造模型。 10. 層化抽出法におけるサンプルの配分 - 比例配分と最適配分。推定量とその分散。抽出法の比較。 11. 層化抽出法における層の作り方、層の数。 12. 層化抽出法で調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。 	

03 年度以降 (秋) 01~02 年度 (秋) 00 年度以前	標本調査論 b 標本調査論 b 標本調査論	担当者	松井 敬
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義の目的は、「標本調査論 a」で述べたことと同じである。</p> <p>本講義でも、現在実際に行われている幾つかの抽出法を取り上げ、その方法や特徴を説明したい。シミュレーションや演習を通してそれぞれの手法をより深く理解してもらおうとする試みも同じである。基本的な概念や用語などの説明はすでに「標本調査論 a」で済んでいるので、「標本調査論 b」のみの受講は「a」の基本的な内容について十分に理解しておく必要がある。そのためにはインターネット上にテキストや用語集、Q&Aを含めた諸情報が展開されているので、参考にされたい。</p> <p>秋学期には、現在行われている諸抽出法の全体像がつかめてくるので、右の授業計画の順序にかかわらず、具体的なトピック(たとえば、視聴率やRDD法など)を取り上げ講義の中の抽出法との関連で解説したい。</p> <p>◆評価方法</p> <p>講義中の演習と出席。期末のレポート。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを配布。インターネット上にも資料をのせている。松井敬「標本調査論」、内田老鶴圃。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統抽出法。意味と方法。推定量とその分散。 2. 系統抽出法が有効な事例、条件など。他の抽出法との関連。 3. 比推定の考え方と推定量。抽出法の実際。 4. 回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。 5. 抽出確率が一定でない抽出法。抽出確率が等しくない場合を通して - 究極の抽出法は? 6. 1段集落(クラスター)抽出法。1段目を等確率抽出した場合。推定量の特徴と比較。 7. 1段集落(クラスター)抽出法。1段目が確率比例抽出の場合。比率の場合。 8. 2段集落(クラスター)抽出法。考え方。この抽出法にかかわる問題点の整理。構造模型。 9. 2段集落(クラスター)抽出法。1段目の抽出が等確率の場合。 10. 2段集落(クラスター)抽出法。2段目の抽出が確率比例抽出による場合。抽出法の例 11. 抽出法再考 - 様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。実際の標本調査における問題。 12. 標本調査関連のQ&A、まとめ。課題。 	

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	データベース論 a データベース論 a データベース論	担当者	高柳敏子
◆講義目的、講義概要 <p>はじめに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。</p> <p>続いて、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ、使われている関係データベースのもっとも単純な例として、身近な表計算ソフト(MS-Excel)のデータベース機能を利用し、実習しながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。</p> <p>表計算ソフトは大変多彩な機能を持ったソフトで、データベース機能も充実しており、データベースおよび検索処理の入門および基礎を学習するには十分である。</p> <p>実際のデータベースとしては国勢調査の結果の人口情報と、古くから日本人が親しんでいる百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。</p>		◆授業計画 1 ガイダンス、データベースとは(1) データベース概観 2 データベースとは(2) 簡単な歴史、データベースモデル(航海型、関係型、次世代型) 3 データベースとは(3) データベースの三層アーキテクチャとデータベース管理システム、 4 データベースの実際(1) レコード、項目、フィールド 5 データベースの実際(2) レコードの分類と集計 6 データベースの実際(3) 実習(1)レコードの分類と集計 7 データベースの実際(4) レコードの抽出、条件検索と条件設定 8 データベースの実際(5) 実習(2)レコードの抽出、条件検索(1) 9 データベースの実際(6) 実習(3)条件検索(2) 10 データベースの実際(7) クロス集計 11 データベースの実際(8) 実習(4)クロス集計 12 データベースの実際(9) 実習(5)まとめおよび問題	
◆評価方法 定期試験、2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windowsによる情報活用』共立出版、2002			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	データベース論 b データベース論 b データベース論	担当者	高柳敏子
◆講義目的、講義概要 <p>この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。関係データベースモデルの理論と実際を実習を通して学習する。</p> <p>はじめに、1970年 E.F.Codd により提案され、現在テキストベースのデータベースとして最も普及している関係データベースの特徴を順に解説していく。その基礎となっている関係代数、二次元の表として表現される関係を示すデータ構造、専用言語 SQL について、実際に専用ソフト(MS-Access)を使用しながら順に理解していく。</p> <p>使用する主なデータベースは、表計算ソフト(MS-Excel)上に用意されている国勢調査の結果を利用した人口情報と百人一首の情報である。これらが関係データベースとして専用ソフト上でどのように取り扱われるか、また要求する検索が SQL 言語を使用してどのように表現されるか等を通して関係データベースの実際を学ぶ。</p>		◆授業計画 1 関係データベース(1) 関係データベースモデル、タプル、アトリビュート、ドメイン、キー 2 関係データベース(2) 関数従属、関係の正規化 3 関係データベース(3) 関係代数と演算(1) 和、差、積、直積 4 関係データベース(4) 関係代数と演算(2) 選択、射影、結合、商 5 関係データベースの実際(1) 設計(1) Excel 上の表の正規化と Access へのインポート 6 関係データベースの実際(2) 設計(2) 関係の確認、主キーの設定、関係間の関連付 7 関係データベースの実際(3) 設計(3) 実習(1) 設計の実際 8 関係データベースの実際(4) 管理(1) 実習(2) クエリの表現 QBE と SQL 9 関係データベースの実際(5) 管理(2) 実習(3) QBE による検索 10 関係データベースの実際(6) 管理(3) SQL と関係代数の演算 11 関係データベースの実際(7) 管理(4) 実習(4) SQL による検索 12 関係データベースの実際(8) 管理(5) 実習(5) SQL のデータベース定義、更新処理、まとめ	
◆評価方法 定期試験、2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windowsによる情報活用』共立出版、2002			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	コンピュータシミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論	担当者	市川 新
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>情報処理の応用コースとして開設された科目である。</p> <p>「情報処理概論」、「コンピュータ入門」、「情報処理」で学習した「Excel」、あるいは、「プログラミング論」で学習した「Visual Basic」、各自が学習したコンピュータ言語を経営管理の問題解決に利用することを実習する。</p> <p>具体的には、意思決定問題と経営科学の考え方についても、コンピュータシミュレーションの手法をとおして学習する。</p> <p>パソコンの実践的利用法について実習するとともに、各自の興味に応じてコンピュータシミュレーションの作品を作成する。</p> <p>必ず、第1回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかを判断すること。</p> <p>出席状況、レポート内容、作品内容</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プログラム言語の参考書は各自用意のこと</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要・受講に必要な基礎知識・受講上の注意・その他 2 管理のためのシミュレーション 3 経済変動と時系列データ 4 需要予測と時系列分析 5 在庫の発生と費用 6 在庫管理法とABC分析 7 在庫管理シミュレーション 8 日程管理とPERT 9 日程管理シミュレーション 10 待ち行列と待ち時間 11 待ち行列シミュレーション 12 シミュレーションの応用 	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	コンピュータシミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論	担当者	市川 新
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>情報処理の応用コースとして開設された科目である。</p> <p>「情報処理概論」、「コンピュータ入門」、「情報処理」で学習した「Excel」、あるいは、「プログラミング論」で学習した「Visual Basic」、各自が学習したコンピュータ言語を経営管理の問題解決に利用することを実習する。</p> <p>具体的には、意思決定問題と経営科学の考え方についても、コンピュータシミュレーションの手法をとおして学習する。</p> <p>パソコンの実践的利用法について実習するとともに、各自の興味に応じてコンピュータシミュレーションの作品を作成する。</p> <p>必ず、第1回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかを判断すること。</p> <p>出席状況、レポート内容、作品内容</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プログラム言語の参考書は各自用意のこと</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要・受講に必要な基礎知識・受講上の注意・その他 2 経営のためのシミュレーション 3 コンピュータサイコロ 4 モンテカルロ法とシステムダイナミックス法 5 シミュレーションモデルの作成手順 6 組織構造と要因関連構造 7 価格戦略経営シミュレーション 8 生産戦略経営シミュレーション 9 販売戦略経営シミュレーション 10 競争力決定構造とシミュレーションゲーム 11 ビジネスゲームの事例 12 シミュレーションの応用 	

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要 マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、DVDなどで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、画像編集などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、WordやPower Pointで利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法について実習する。また、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。		◆授業計画 1 マルチメディアの基礎：講義 年間予定、授業方法、マルチメディアについて説明 2 情報のデジタル表現：講義 デジタル化のメリット、2進法、文字の表現 3 静止画像の作成：講義と実習 静止画作成ソフトの利用 4 画像ソフトとファイル形式：講義 解像度、画像圧縮、ファイル形式 5 静止画の作成：講義と実習 レイヤーの利用、ファイル形式と記憶容量 6 スキャナーの利用：講義と実習 スキャナーのタイプ、解像度、取り込み、加工 7 デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 画像の取り込みと処理、画像の合成 8 ワープロによるマルチメディアの処理：実習 ワープロによる静止画、音声処理 9 アニメーション作成（1）：講義と実習 GIFアニメーションソフトの解説と実習 10 プレゼンテーションツールの利用：実習 プレゼンテーションツールで静止画の処理 11 プレゼンテーションツールの利用：実習 音声、アニメーションの処理 12 マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成	
◆評価方法 出席 20%、試験 40%、レポート 40%			
◆テキスト、参考文献 立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版			

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要 インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行なう。また、先輩の作成した作品を紹介する。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。3Dに関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングなどを実習する。また、ビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義とデモンストレーションを行い、動画編集を行なう。最後に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。		◆授業計画 1 インターネットとマルチメディア：講義 インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介 2 音声取り込みと処理：実習 オーディオファイル作成、音声出力 3 音楽作成と編集：講義と実習 音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類 4 音楽作成と編集：講義と実習 音の合成 5 ホームページ作成（1）：講義と実習 タグを用いたホームページと静止画 6 ホームページ作成（2）：講義と実習 複数のホームページの作成と音声 7 ホームページ作成（3）：講義と実習 ホームページ作成ソフトによる作成 8 アニメーション作成：講義と実習 Flashによるアニメーション 9 アニメーション作成：講義と実習 図形を変化させる 10 3D画像作成：講義と実習 モデリングとレンダリング 11 ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入 12 マルチメディア作品作成：実習 インターネット上に作品発表	
◆評価方法 出席 20%、試験 40%、レポート 40%			
◆テキスト、参考文献 立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版			

03年度以降(春) 01-02年度(春) 00年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	森 園 子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。</p> <p>講義概要: 前期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROMなどで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word やPowerPoint で利用する。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても講義とデモンストレーションを通して実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルチメディアの基礎: 年間予定、授業方法についての説明。 マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて 2. 情報のデジタル表現: アナログとデジタル、デジタル化のメリット、2進文字の表現 3. 静止画: ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式 4. 画像ソフトとファイル形式: マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。 5. 静止画の作成: 大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。 6. スキャナー取り込みと画像処理: スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。 7. デジカメ取り込みと画像処理: デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理 8. ワープロによる画像処理: ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。 9. アニメーション作成(1): 静止画像とアニメーション、GIF アニメーション、ソフトウェアの解説と実習 10. アニメーションの作成(2): バナー作成、写真の効果、トランジション 11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う: プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。 12. マルチメディア作品作成: マルチメディア作品を作成する。 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>後期: 定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。</p>			

03年度以降(春) 01-02年度(春) 00年度以前	マルチメディア論 b マルチメディア論 b マルチメディア論	担当者	森 園 子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。</p> <p>講義概要: 後期はインターネット上でマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するために、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作し、インターネット上に発表する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットとマルチメディア: インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。 2. 音声取り込みと処理: オーディオファイル作成、ワープロで音声出力 3. 音楽作成と編集: 音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。 4. オーサリングソフトウェア(1): プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。 5. オーサリングソフトウェア(2): 大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。 6. ネットワーク: ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 7. 3D の概要: 3D ソフトウェアの解説。インターネット上で3Dを用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いたWeb ページの紹介。 8. 3D ソフトウェアの利用: 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。 9. 動画取り込みと編集: ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。 10. 動画処理: 動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成 11. 作品作成: 静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。 12. 作品発表: 受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>後期: 定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	プログラミング論 a プログラミング論 a プログラミング論	担当者	高柳敏子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>はじめに、コンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観する。続いて、シミュラタを利用して、仮想のコンピュータとその上で動くアセンブラ言語(COMET II および CASL II)のプログラミング および実習を通じて、ライマン型コンピュータの動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>ライマン型コンピュータは1945年に von Neumann によって提案され、実現されたプログラム内蔵方式の電子計算機であるが、現在大型機からパソコンに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがライマン型であり、見かけの進化に対してコンピュータの内部構造は50年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずプログラム内蔵方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびプログラミングの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的なコンピュータと言語がむしろ向いている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、コンピュータの歴史(1) ハードウェア、ライマン型および世代論と記憶素子 2 コンピュータの歴史(2) ソフトウェア、プログラミング言語、オペレーティングシステム 3 ライマン型コンピュータの構成と COMET II 五大装置、語・ビット構成、アドレッシング、命令語、レジスタ 4 情報の表現(1) 整数と2の補数表記、2進法、16進法 5 CASL II プログラミング (1) CASL II の命令(アセンブラ、マクロ、機械)、プログラム形式 6 CASL II プログラミング (2) ロード・ストア命令、加減算命令、定数定義と領域の確保 7 CASL II シミュラタとその実行 実習(1) プログラムの入力、編集、アセンブル、実行、記憶 8 CASL II プログラミング (3) 実習(2) 乗除算処理、シフト演算 9 CASL II プログラミング (4) 実習(3) 比較演算、分岐処理 10 CASL II プログラミング (5) 実習(4) 繰り返し処理 11 CASL II プログラミング (6) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASL II プログラミング (7) 実習(5) 総合問題、まとめ 	
◆評価方法			
定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
随時必要な資料を提示する。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	プログラミング論 b プログラミング論 b プログラミング論	担当者	高柳敏子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ここでは、上記「プログラミング論 a」の既習すなわちライマン型のコンピュータの基礎を理解していることが前提になる。</p> <p>その上で主にコンパイラ言語 C++ をプログラミング言語として使用し、プログラミングの基礎から、問題解決のためのアルゴリズムの実現へと、講義内容を加速的に広げていくことにより、プログラミングによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。</p> <p>Windows マシンの応用ソフトを使用している限り、中でのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてソフトの内部にも思いを寄せてみることができよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アセンブラとコンパイラ 実習(1) 例題プログラムの翻訳、連係編集、実行 2 C++言語とは 基本事項、文、ブロック、コメント、整数の四則演算 3 C++プログラミング (1) 情報の表現(1) 実数 4 C++プログラミング (2) 実習(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++プログラミング (3) 実習(3) 繰り返し処理、配列 6 C++プログラミング (4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++プログラミング (5) 関数、メインプログラムとサブプログラム 8 C++プログラミング (6) 実習(4) 関数の作成と利用 9 プログラミングの応用(1) 基本的な整列 10 プログラミングの応用(2) 探索処理 11 プログラミングの応用(3) ファイル処理 12 プログラミングの応用(4) 実習(5) 総合問題、まとめ 	
◆評価方法			
定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
随時必要な資料を提示する。			

03 年度以降(春) 01~02 年度(春) 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論 a プログラミング論	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 4 簡単なプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 5 簡単なプログラム作成 (2):講義と実習 四則演算 6 簡単なプログラム作成 (3):講義と実習 キャッシュレジスター 7 選択のあるプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8 選択のあるプログラム作成 (2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理 9 選択のあるプログラム作成 (3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 10 選択のあるプログラム作成 (4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 11 繰り返しのあるプログラム作成 (1):講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し 12 繰り返しのあるプログラム作成 (2):講義と実習 Case 文、While 文 13 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する 	
◆ 評価方法			
出席 20%、レポート 40%、試験 40%			
◆テキスト、参考文献			
立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店			

03 年度以降(秋) 01~02 年度(秋) 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論 b プログラミング論	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図形の処理 (1):講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2 図形の処理 (2):講義と実習 円を描く、色を塗る 3 図形の処理 (3):講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用 4 図形の処理 (4):講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 音声・動画の処理:講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7 プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8 ファイルの利用 (1):講義と実習 テキストファイルの読み込み 9 ファイルの利用 (1):講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 	
◆ 評価方法			
出席 20%、レポート 40%、試験 40%			
◆テキスト、参考文献			
立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店			

03年度以降(春) 01-02年度(春) 00年度以前	プログラミング論 a プログラミング論 a プログラミング論	担当者	森 園 子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的：現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらがどのように開発されているかを理解し、実際のプログラミングについて理解する。使用言語は、Visual Basic である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成等についても理解していく。</p> <p>講義概要：コンピュータが、現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うとともに、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期：レポート：70% ネットワーク上に提出 定期試験：30%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>立田ルミ “教育システム情報とVisual Basic”朝倉書店</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説： ハードウェア及び、システムの構成と概略 2. ソフトウェアの歴史と概略： ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略 3. プログラム開発手順： PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ 4. Visual Basic の概略： イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略 5. 簡単なプログラム作成(1)： アプリケーション開発手順、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成(2)：四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成(1)： アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成(2)： 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成(3)： オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成(4)： リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成： If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題作成：いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。 	

03年度以降(春) 01-02年度(春) 00年度以前	プログラミング論 b プログラミング論 b プログラミング論	担当者	森 園 子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的：現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際のプログラミングを理解する事を目標としている。使用プログラミング言語はVisual Basicである。このプログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルとの関連内容、Windows の他のアプリケーションとの連携、ネットワーク対応のプログラム作成についても理解する。</p> <p>講義概要：コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらのプログラミングについて講義と演習を行う。 最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>後期：レポート:60% ネットワーク上に提出 定期試験：40%</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>立田ルミ “教育システム情報とVisual Basic”朝倉書店</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図形の処理(1)：講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎 2. 図形の処理(2)：講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る 3. 図形の処理(3)：講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用 4. 図形の処理(4)：講義と実習 マウスイベント及び、ドラッグアンドドロップ操作 5. 音声・動画の処理：講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション 6. 配列とコントロール配列：講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列 7. プルダウンメニュー：実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. メニューエディタの利用：実習 メニューエディタの編集と利用、ポップアップメニューの取り扱い 9. ファイルの利用(1)：講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用 10. ファイルの利用(2)：講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用； 11. インターネットの利用：講義と自習 Visual Basic とホームページとのリンク 12. まとめ：講義と実習 課題の説明と作成 	

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	法学 a 法学 a 法学（通年）	担当者	内山 良雄
◆講義目的、講義概要 法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穩・円滑な営みを支えている。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありえない。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合も冷静かつ的確に対応することが必要となるが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのである。 そこで本講義では、まず最初に法の基本概念を解説したうえで、主として憲法に規定された基本原理や人権についての議論を概観する。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていきたい。		◆授業計画 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7. 憲法の基本原理（2）－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8. 国の統治機構 9. 平等権 10. 自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 11. 自由権（2）－人身の自由－ 12. 社会権 * 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがある。進度が遅れた場合、補講を行うことがある。あらかじめご了承ください。	
◆ 評価方法 定期試験の答案に基づいて評価する。			
◆テキスト、参考文献 大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂 コンパクトな六法を必ず携行すること。			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	法学 b 法学 b 法学（通年）	担当者	内山 良雄
◆講義目的、講義概要 法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穩・円滑な営みを支えている。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありえない。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合も冷静かつ的確に対応することが必要となるが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのである。 そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観する。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていきたい。法の基本的な事柄は、「法律学概説Ⅰ」で取り扱うので、「法律学概説Ⅰ」を受講してから本講義を受講することが望ましい。		◆授業計画 1. 裁判の仕組み 2. 財産関係と法 3. 経済取引と法 4. 家族と法 5. 犯罪と法 6. 刑罰と法 7. 労働と法 8. 事故と法 9. 社会保障・社会福祉 10. 医療と法（1）－医療提供の理念－ 11. 医療と法（2）－医療過誤－ 12. 情報化社会と法 * 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがある。進度が遅れた場合、補講を行うことがある。あらかじめご了承ください。	
◆ 評価方法 定期試験の答案に基づいて評価する。			
◆テキスト、参考文献 大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂 コンパクトな六法を必ず携行すること。			

03年度以降 01～02年度 春 00年度以前	政治学総論 a 政治学総論（通年） 政治学総論（通年）	担当者	杉田 孝夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>わたしたち市民の教養としての政治学という実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて、検討する。なお下記のテキストを予習復習用の教科書として用いる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の筆記試験によって評価する。</p> <p>◆ テキスト</p> <p>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（New Liberal Arts Selection）有斐閣, 2003.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p>有賀弘・阿部齊・齋藤真『政治-個人と統合』（第2版）（UP選書, 東京大学出版会）1994. 伊藤光利（編）『ポリティカル・サイエンス始め』（新版）有斐閣, 2003. マックス・ウェーバー『職業としての政治』（岩波文庫</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに なにがデモクラシーを支えるのか 2. 政策の対立軸 3. 政治と経済 4. 自由と自由主義 5. 福祉国家 6. 国家と権力 7. 市民社会と国民国家 8. 国内社会と国際関係 9. 国際関係における安全保障 10. 国際関係における富の配分 11. 議会 12. 執行部 13. 官僚制 	

03年度以降 01～02年度 秋 00年度以前	政治学総論 b 政治学総論（通年） 政治学総論（通年）	担当者	杉田 孝夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>わたしたち市民の教養としての政治学という実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて、検討する。なお下記のテキストを予習復習用の教科書として用いる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の成績によって評価する。</p> <p>◆ テキスト</p> <p>久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』（New Liberal Arts Selection）有斐閣, 2003.</p> <p>◆ 参考文献</p> <p>有賀弘・阿部齊・齋藤真『政治-個人と統合』（第2版）（UP選書, 東京大学出版会）1994. 伊藤光利（編）『ポリティカル・サイエンス始め』（新版）有斐閣, 2003. マックス・ウェーバー『職業としての政治』（岩波文庫</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中央地方関係 2. 国際制度 3. 政策過程 4. 対外政策の形成 5. 制度と政策 6. デモクラシー 7. 投票行動 8. 政治の心理 9. 世論とメディア 10. 選挙と政治参加 11. 利益団体と政治 12. 政党 	

03年度以降 01～02年度 00年度以前	民法 ab 民法 民法 (春学期完結 週2コマ授業)	担当者	遠藤研一郎
◆講義目標		◆授業計画	
<p>本講義は、(1)「民法総則」および「物権(担保物権を除く)」に関する諸制度、各条文の理解を深めるとともに、(2)民法の導入科目として、民法の全体像をも理解させることを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 民法導入(1) 契約 2. 民法導入(2) 所有権, 人 3. 民法導入(3) 債務不履行, 強制執行, 担保 4. 民法導入(4) 相続 5. 総則基礎(1) 自然人① 6. 総則基礎(2) 自然人②, 物 7. 総則基礎(3) 法律行為総説, 無効・取消 8. 総則基礎(4) 意思表示① 9. 総則基礎(5) 意思表示② 10. 総則基礎(6) 代理① 11. 総則基礎(7) 代理② 12. 総則基礎(8) 法人 13. 総則基礎(9) 時効① 14. 総則基礎(10) 時効② 15. 物権基礎(1) 物権の基礎概念 16. 物権基礎(2) 物権変動① 17. 物権基礎(3) 物権変動② 18. 物権基礎(4) 占有権 19. 物権基礎(5) 所有権 20. 物権基礎(6) 用益物権 21. 展開(1) 民法総則・物権に関する諸問題① 22. 展開(2) 民法総則・物権に関する諸問題② 23. 展開(3) 民法総則・物権に関する諸問題③ 24. 展開(4) 民法総則・物権に関する諸問題④ 	
◆講義概要			
<p>授業は、以下のとおり、およそ3段階に分けて段階的に実施する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①第1段階(導入)・・・民法の全体構造・基本原理の理解 ②第2段階(基礎)・・・民法「総則」・「物権(担保物権を除く)」の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解 ③第3段階(展開)・・・「民法総則」「物権(担保物権を除く)」に関する基本的論点の検討 			
◆受講生への要望			
<p>なお、(ここが「大学」である以上)講義以外の学習は、自分の目標に応じて自己責任の下で行なうことを原則とするが、教員の方でも、やる気のある者を対象に、任意提出のレポート作成、補講等の実施を計画する。講義の際に適宜指示する。</p>			
◆評価方法			
<p>期末試験を原則とするが、加点対象・任意提出のレポートを受付ける(詳細は、講義の際に説明)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>遠藤浩他『民法(1)総則』・『民法(2)物権』 (有斐閣双書)</p>			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	民法 ab 民法 民法	(春学期完結 週2コマ授業)	担当者	藤田 貴宏
-----------------------------	-------------------	----------------	-----	-------

◆講義目標

本講義では、「人」、「物」、「法律行為」といった民法の基本概念、及び、所有権に関する法制度について、基礎的知識の修得を目指します。

◆講義概要

◆受講生への要望

◆評価方法

・学期末試験

◆テキスト、参考文献

大村敦志『基本民法Ⅰ』（有斐閣）

◆授業計画

1. 民法の全体像と基本概念
2. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性 (1)
3. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性 (2)
4. 法律行為の無効・取消と第三者保護 (1)
5. 法律行為の無効・取消と第三者保護 (2)
6. 代理制度 (1)
7. 代理制度 (2)
8. 行為能力と法定代理 (1)
9. 行為能力と法定代理 (2)
10. 時効制度 (1)
11. 時効制度 (2)
12. まとめと補充
13. 民法における人と物
14. 財産法の全体像
15. 所有権とは何か
16. 物権変動論 (1)
17. 物権変動論 (2)
18. 物権変動論 (3)
19. 所有権の取得要件
20. 所有権の効力 (1)
21. 所有権の効力 (2)
22. 共同所有
23. 法人
24. まとめと補充

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	商法 a 商法(通年) 商法	担当者	潘 阿憲
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。</p>		<p>第1週 企業形態と会社 第2週 会社の設立(1) 第3週 会社の設立(2) 第4週 株式(1) 第5週 株式(2) 第6週 株式(3) 第7週 株主総会(1) 第8週 株主総会(2) 第9週 株主総会(3) 第10週 取締役と取締役会(1) 第11週 取締役と取締役会(2) 第12週 取締役と取締役会(3) 第13週 監査役と監査役会(1) 第14週 監査役と監査役会(2) 第15週 大会社に関する特例</p>	
◆評価方法			
後期の筆記試験の成績による			
◆テキスト、参考文献			
森淳二郎=吉本健一『会社法(第8版)』(有斐閣、2004年4月末出版予定) 平成16年版の六法			

03年度以降(秋) 01-02年度(秋) 00年度以前	商法 a 商法(通年) 商法	担当者	潘 阿憲
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。</p>		<p>第16週 株式会社の計算(1) 第17週 株式会社の計算(2) 第18週 株式会社の計算(3) 第19週 新株発行(1) 第20週 新株発行(2) 第21週 定款の変更 第22週 資本の減少 第23週 社債 第24週 営業譲渡・営業全部の譲受け 第25週 会社の合併 第26週 会社の分割 第27週 株式交換・株式移転 第28週 会社の解散 第29週 会社の清算 第30週 合名会社・合資会社・有限会社</p>	
◆評価方法			
後期の筆記試験の成績による			
◆テキスト、参考文献			
森淳二郎=吉本健一『会社法(第8版)』(有斐閣、2004年4月末出版予定)			

03年度以降（春） 総合講座 a 01～02年度（春） 総合講座（1） a 00年度以前 総合講座（1）	担当者	経済学部
<ul style="list-style-type: none"> ● 講義目的および講義概要 「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、学外から著名な分野の方々を招いて、講義をしてもらう。学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、学際的な先端の動向などを詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも得させてくれるであろう。 総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。 ● 評価方法 出席・授業態度・遅刻は認めない。 ● テキスト・参考文献 それぞれの講師が講義レジュメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。 	授業計画	学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。 また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。
03年度以降（秋） 総合講座 b 01～02年度（秋） 総合講座（1） b 00年度以前 総合講座（1）	担当者	経済学部
<ul style="list-style-type: none"> ● 講義目的および講義概要 「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、学外から著名な分野の方々を招いて、講義をしてもらう。学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、学際的な先端の動向などを詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも得させてくれるであろう。 総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。 ● 評価方法 出席・授業態度・遅刻は認めない。 ● テキスト・参考文献 それぞれの講師が講義レジュメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。 	授業計画	学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。 また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	特殊講義 a「経済学入門」 特殊講義 A「経済学入門」（通年） 特殊講義 A「経済学入門」（通年）	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート，期末試験。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示しますが、宮崎勇・本庄真『日本経済図説』岩波新書などを参考に予定です。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>最初の講義のときに説明します。</p>	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	特殊講義 b「経済学入門」 特殊講義 A「経済学入門」（通年） 特殊講義 A「経済学入門」（通年）	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート，期末試験。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>最初の講義のときに説明します。</p>	

03年度以降（春）特殊講義 a 「経営学科でなにが学べるか」 01～02年度（春）特殊講義 B 「経営学科でなにが学べるか」 00年度以前 特殊講義 B	担当者	経営学科
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この講義は、経営学科の新生生に対して、本学4年間で学ぶ学問領域の鳥瞰を得てもらうことを目的としています。従って全員受講することが望ましい。</p> <p>諸君は大学受験から開放されほっとしていることと思いますが、就職活動までの時間は残念ながら多くありません。大学生活をエンジョイすると同時に、1人1人が経営学科学生としてなにを主に学ぶか、どのように効率よく学ぶか、その学問は将来どのように役に立つかなどをまず考えながら教科を選択し、学問を身につけて社会に巣立っていく必要があります。この科目はそのための判断材料や情報を毎回2名の経営学科教員が提供します。</p> <p>なにをやったら良いのか、2年生からどのようなゼミを選択したらよいか、など戸惑いや不安を解消するために積極的に参加して、大学生活の見通しを良くしてください。また疑問があれば質問をしてください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業開始時に説明する</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ビジネスコース (1) 3 ビジネスコース (2) 4 情報コース (1) 5 情報コース (2) 6 情報コース (3) 7 マネジメントコース (1) 8 マネジメントコース (2) 9 会計コース (1) 10 会計コース (2) 11 会計コース (3) 12 まとめ、科目選択、ゼミ登録など教務関係 	

	担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	特殊講義 a 「経済と法」 特殊講義 B 「経済と法」 特殊講義 B 「経済と法」	担当者	住田 裕子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>法律は、縁遠いものではなく、社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において、法律がどのように使われているかを学びます</p> <p>経済学部の学生のための、わかりやすい実践的な法律を修得する場です</p> <p>春学期は、民法・刑法の基本を中心とします</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席（適宜アンケートを取ります）、試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>なし（当日、プリント配布）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法制度（民事責任・刑事責任） 民法、刑法の基礎知識 2 錯誤・詐欺など 3 契約の始まりと終わり 4 物の貸し借り（使用貸借と賃貸借） 5 不動産の貸し借り（賃貸借・借地借家） 6 金銭の貸し借り（消費貸借） 7 不法行為（交通事故など） 8 労働法 9 親族・相続法 10 その他特別法 	

04年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	特殊講義 b 「企業と法」 特殊講義 B 「企業と法」 特殊講義 B 「企業と法」	担当者	住田 裕子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>法律は、縁遠いものではなく、社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において、法律がどのように使われているかを学びます</p> <p>経済学部の学生のための、わかりやすい実践的な法律を修得する場です</p> <p>秋学期は、特別法を中心とし、より、応用的な事例について、説明します</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席（適宜アンケートを取ります）、試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>なし（当日、プリント配布）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民法、刑法の基本思想と概念 2 経済犯罪のいろいろ 3 消費者契約法など消費者保護法 4 著作権・特許権など知的財産法 5 労働法 6 電子商取引法 7 会社法 8 労働法 	

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	特殊講義 a「ビジネス法のケーススタディ」(春) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(春) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(春)	担当者	住田 裕子
◆講義目的、講義概要 社会生活を送る上で、知っておくべき法律、知っているると便利な法律・・・これらを単に、知識としてではなく、生きる知恵として、身につけることを目指します 少人数講義の利点を活かして、今、問題となっている事例や判例などを配布された論文、記事、レジュメ等をもとに、各自の意見を述べ、ときには、討論をしながら、進めます さまざまな意見を受けつつ、多様な観点からその問題に迫っていき、多面的な思考力を養っていきます		◆授業計画 (最初は、基礎的な法律知識を知る) 1 法律のいろいろ、法制度の概要 2 刑罰とはなにか・・・特に、死刑制度や性犯罪について 3 民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について (以後は、経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・・時事問題を中心に) 売買、不動産の貸借、金銭の貸借、消費者保護、労働関係(パート労働等を含む)、電子商取引、交通事故等のケースなどを扱います	
◆ 評価方法 出席(適宜アンケートを取ります)、試験			
◆テキスト、参考文献 なし(当日ないしは、事前にプリント等を配布)			

04年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	特殊講義 b「ビジネス法のケーススタディ」(秋) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(秋) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(秋)	担当者	住田 裕子
◆講義目的、講義概要 社会生活を送る上で、知っておくべき法律、知っているると便利な法律・・・これらを単に、知識としてではなく、生きる知恵として、身につけることを目指します 少人数講義の利点を活かして、今、問題となっている事例や判例などを配布された論文、記事、レジュメ等をもとに、各自の意見を述べ、ときには、討論をしながら、進めます さまざまな意見を受けつつ、多様な観点からその問題に迫っていき、多面的な思考力を養っていきます		◆授業計画 (最初は、基礎的な法律知識を知る) 1 法律のいろいろ、法制度の概要 2 刑罰とはなにか・・・特に、死刑制度や性犯罪について 3 民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について (以後は、経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・・時事問題を中心に) 売買、不動産の貸借、金銭の貸借、消費者保護、労働関係(パート労働等を含む)、電子商取引、交通事故等のケースなどを扱います	
◆ 評価方法 出席(適宜アンケートを取ります)、試験			
◆テキスト、参考文献 なし(当日ないしは、事前にプリント等を配布)			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	特殊講義 a 「ライフスタイルと日本経済」 特殊講義 B 「ライフスタイルと日本経済」 特殊講義 B 「ライフスタイルと日本経済」	担当者	森永卓郎
◆講義目的、講義概要 <p>経済の動きは、供給側から語られることが多い。しかし、本当に経済の動きを決めるのは、消費側の行動である。</p> <p>本講義では、供給側の論理が通用した高度成長期、消費者が供給側の論理を否定し始めた低成長期、そして消費者が欲しいものを発言し始めた現代という三つの時代に分けて、日本の消費市場に何がおこったのかを検証する。</p> <p>また、消費者行動の変化の背景となるライフスタイル変化とインターネット技術の影響についても、検証を行う。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度経済成長はなぜ実現したのか 2. 高度成長を支えたライフスタイル 3. 低成長期に進んだ多品種少量生産 4. 需要は飽和するのか 5. 明治中期までの経済システムとライフスタイル 6. 標準世帯の確立と非婚化の進展 7. 専業主婦は優遇されているのか 8. 通商産業ビジョンとIT革命 9. リストラと成果主義 10. ネットオークションと共同購入の可能性 11. アメリカ型システムと日本型システム 12. フリーターと日本経済 13. 新階級社会の到来 <p>※授業計画は、講義を行うなかで、柔軟に変更します</p>	
◆評価方法 <p>学期末試験</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>講義のなかで紹介する</p>			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	特殊講義 b 「現代日本の経済政策」 特殊講義 B 「現代日本の経済政策」 特殊講義 B 「現代日本の経済政策」	担当者	森永 卓郎
◆講義目的、講義概要 <p>10年にわたるデフレ経済は、戦後どの国も経験していない異常な経済現象である。</p> <p>本講義では、なぜ世界のなかで日本だけがデフレに陥ったのかを、金融政策の意図的な「失敗」に求める。</p> <p>長期間継続するデフレによって、日本経済に何が起ったのかを検証することで、政策を牛耳る人々が、どのような意図を持ってデフレ政策を採用してきたのか、また今後の日本経済にどのようなことが起こるのかを明らかにする。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. デフレとは何か 2. 世界恐慌とアメリカ経済 3. 日本経済低迷の原因 4. 日本銀行は何をしているのか 5. バブル経済はなぜ起きたのか 6. 土地担保主義は悪者か 7. 構造改革は経済の救世主となるのか 8. 清算主義とリフレ政策 9. 銀行悪者論とハゲタカファンド 10. アメリカのバブルと市場原理主義 11. インフレーターゲットとは何か 12. 逆バブルの発生 13. 金融再生プログラムと銀行国有化 14. 日本経済の将来展望 <p>※授業計画は、講義を行うなかで、柔軟に変更します</p>	
◆評価方法 <p>学期末試験</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>講義のなかで紹介する</p>			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経営戦略論 a 経営戦略論 a 経営戦略論	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要 <p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 春期講義計画の概要 2 (経営戦略の基礎) 経営環境と経営戦略 3 環境に含まれる機会と脅威 4 (経営戦略の構造) 戦略策定の関連変数 5 経営目標、経営環境、経営資源 6 効果的な経営戦略の要件 7 (経営戦略の類型) 類型化の方法 8 全社戦略 9 事業戦略、競争戦略 10 (経営戦略の策定過程) 問題解決思考 11 戦略策定過程の一般化 12 春期講義のまとめ 	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果と、授業出席状況による</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>河野重榮『マネジメント要論』八千代出版</p>			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経営戦略論 b 経営戦略論 b 経営戦略論	担当者	富田忠義
◆講義目的、講義概要 <p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 秋期講義計画の概要 2 (成長戦略の策定) 事業拡大化戦略 3 事業多角化戦略 4 (製品ライフサイクル戦略) 製品寿命 5 成熟期に移行する業界の経営戦略 6 (リストラ戦略) リストラの必要性 7 リストラ戦略の策定 8 (事業ポートフォリオ・マネジメント) 9 多産業型企業の事業選択戦略 10 (ポーターの競争戦略論) 競争戦略の基本型 11 競争優位の構築、価値連鎖 12 秋期講義のまとめ 	
◆ 評価方法 <p>期末試験の結果と、授業出席状況による</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>河野重榮『マネジメント要論』八千代出版</p>			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	経営管理論 a 経営管理論 a 経営管理論	担当者	黒川文子																								
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																									
<p>経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえは経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。</p> <p>経営管理論 a では、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>今日の企業制度</td></tr> <tr><td>2</td><td>現代企業のコーポレート・ガバナンス</td></tr> <tr><td>3</td><td>現代社会の変化と企業経営</td></tr> <tr><td>4</td><td>企業組織のマネジメント機能について</td></tr> <tr><td>5</td><td>現代における経営者（CEO）の機能と責任</td></tr> <tr><td>6</td><td>テイラーの科学的管理法</td></tr> <tr><td>7</td><td>ファヨールの管理論</td></tr> <tr><td>8</td><td>管理過程学派</td></tr> <tr><td>9</td><td>人間関係論とホーソン実験</td></tr> <tr><td>10</td><td>従来の管理機能論の枠組み</td></tr> <tr><td>11</td><td>クーンツ理論</td></tr> <tr><td>12</td><td>管理機能論の新展開</td></tr> </table>		1	今日の企業制度	2	現代企業のコーポレート・ガバナンス	3	現代社会の変化と企業経営	4	企業組織のマネジメント機能について	5	現代における経営者（CEO）の機能と責任	6	テイラーの科学的管理法	7	ファヨールの管理論	8	管理過程学派	9	人間関係論とホーソン実験	10	従来の管理機能論の枠組み	11	クーンツ理論	12	管理機能論の新展開
1	今日の企業制度																										
2	現代企業のコーポレート・ガバナンス																										
3	現代社会の変化と企業経営																										
4	企業組織のマネジメント機能について																										
5	現代における経営者（CEO）の機能と責任																										
6	テイラーの科学的管理法																										
7	ファヨールの管理論																										
8	管理過程学派																										
9	人間関係論とホーソン実験																										
10	従来の管理機能論の枠組み																										
11	クーンツ理論																										
12	管理機能論の新展開																										
◆ 評価方法																											
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>																											
◆テキスト、参考文献																											
<p>佐久間信夫・坪井順一編著『現代の経営管理論』学文社、2002年。</p>																											

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	経営管理論 b 経営管理論 b 経営管理論	担当者	黒川文子																								
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																									
<p>経営管理論 b では、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。</p> <p>最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、経営者の役割を再確認していく。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>動機づけの諸理論</td></tr> <tr><td>2</td><td>マグレガーの X 理論と Y 理論</td></tr> <tr><td>3</td><td>マズローの欲求段階論</td></tr> <tr><td>4</td><td>動機づけ—衛生理論</td></tr> <tr><td>5</td><td>期待理論</td></tr> <tr><td>6</td><td>リーダーシップ論の多様な発展</td></tr> <tr><td>7</td><td>オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム</td></tr> <tr><td>8</td><td>マネジリアル・グリッド論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業文化と経営</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営組織の編成原理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営組織の活性化</td></tr> <tr><td>12</td><td>経営組織の革新</td></tr> </table>		1	動機づけの諸理論	2	マグレガーの X 理論と Y 理論	3	マズローの欲求段階論	4	動機づけ—衛生理論	5	期待理論	6	リーダーシップ論の多様な発展	7	オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム	8	マネジリアル・グリッド論	9	企業文化と経営	10	経営組織の編成原理	11	経営組織の活性化	12	経営組織の革新
1	動機づけの諸理論																										
2	マグレガーの X 理論と Y 理論																										
3	マズローの欲求段階論																										
4	動機づけ—衛生理論																										
5	期待理論																										
6	リーダーシップ論の多様な発展																										
7	オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム																										
8	マネジリアル・グリッド論																										
9	企業文化と経営																										
10	経営組織の編成原理																										
11	経営組織の活性化																										
12	経営組織の革新																										
◆ 評価方法																											
<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。</p>																											
◆テキスト、参考文献																											
<p>佐久間信夫・坪井順一編著『現代の経営管理論』学文社、2002年。</p>																											

<p>03年度以降(春) 経営組織論 a 01~02年度(春) 経営組織論 00年度以前 経営組織論</p>	<p>担当者 高松和幸</p>
<p>◆ 講義目的および講義概要 この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題を取りあげて論述する。</p> <p>講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論を取りあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題を取りあげて講義する。</p> <p>◆ 評価方法 期末定期試験・平常授業の課題など</p> <p>◆ テキスト・参考文献 高松和幸著『経営組織論講義(増補版)』創成社、2003.</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 伝統的組織論①…伝統的組織論は、古典的組織論の特徴を明らかにする。 2 伝統的組織論②…フランスのファヨールやクーーンツの理論を取りあげる。 3 近代組織論①…近代組織論の内容を検討し、もって現代における組織論の特徴を明らかにする。 4 近代組織論②…マーチ=サイモン理論を取りあげる。 5 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデルの形態について検討する。 6 組織とモチベーション理論①…モチベーション理論を取り上げて検討する。 7 組織とモチベーション理論②…モチベーション理論の問題を取りあげる。 8 組織とコンティンジェンシー理論①…コンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。 9 協働システムとしての組織①…他人との協同によって目的達成をする組織について検討する。 10 協働システムとしての組織②…協働システムの問題を取りあげる。 11 意思決定システムとしての組織①…意思決定のシステムとしての組織について検討する。 12 意思決定システムとしての組織②…意思決定の問題を取りあげる。

<p>03年度以降(秋) 経営組織論 b 01~02年度(秋) 経営組織論 b 00年度以前 経営組織論</p>	<p>担当者 高松和幸</p>
<p>◆ 講義目的および講義概要 この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題を取りあげて論述する。</p> <p>講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論を取りあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題を取りあげて講義する。</p> <p>◆ 評価方法 期末定期試験・平常授業の課題など</p> <p>◆ テキスト・参考文献 高松和幸著『経営組織論講義(増補版)』創成社、2003.</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 組織均衡の理論①…組織の均衡問題について検討し、組織の存続と成長の理論を明らかにする。 2 組織均衡の理論②…組織均衡問題を取りあげる。 3 ゴーイング・コンサーンとしての組織①…この概念によって表される多様性を検討する。 4 ゴーイング・コンサーンとしての組織②…ゴーイング・コンサーンの問題を取りあげる。 5 組織とコンフリクト…コンフリクトの発生のメカニズムから分類・解消まで取り上げる。 6 組織とサイバネティクス①…サイバネティクスと組織との関係について検討する。 7 組織とサイバネティクス②…組織とサイバネティクスの問題を取りあげる。 8 生存可能システムとしての組織①…生存可能システムとして組織に関する諸問題を取り扱う。 9 生存可能システムとしての組織②…生存可能システムを取りあげる。 10 組織のカタストロフィー・モデル…組織サイバネティクスとの関連において取り上げる。 11 組織と必要多様性の法則…「多様性」の概念と「必要多様性」の原理と法則を解明する。 12 組織における自律性の概念…「自律性」の概念を取りあげて検討する。

03 年度以降 (春)	経営財務論 a	担当者	細田 哲
01~02 年度 (春)	経営財務論 a		
00 年度以前	経営財務論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。</p> <p>講義概要 各週別の講義予定を見たい。</p>		<p>1.1. 企業の目的と財務政策 a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b) 企業による市場を通じる価値創造</p> <p>2.1. 企業の目的と財務政策 c) 資本市場の役割 d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク</p> <p>3.2. 資産の価値をどう評価するか a) 現在価値の評価</p> <p>4.2. 資産価値をどう評価するか b) 債権の評価</p> <p>5.3. 株式の価値はどう決まる a) 配当割引モデルの考え方 b) 一定成長配当割引モデルと株価収益率</p> <p>6.3. 株式の価値はどう決まる c) 配当割引モデルの応用、d) 日本の株価水準と期待収益率</p> <p>7.4. リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度</p> <p>8.4. リスクをどう測るか b) ポートフォリオのリスク</p> <p>9.4. リスクをどう測るか c) ベータ値と資本資産評価モデル</p> <p>10.5. 資本コストとは何か a) 資本コストとは、b) 投資のキャッシュ・フロー</p> <p>11.5. 資本コストとは何か c) 資本コストの推計方法</p> <p>12.5. 資本コストとは何か d) 日本企業の資本コストの計算例 e) 資本コストと資金コスト</p>	
◆ 評価方法			
<p>期末試験の結果による。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務論入門」（日本経済新聞社）</p>			

03 年度以降 (秋)	経営財務論 b	担当者	細田 哲
01~02 年度 (秋)	経営財務論 b		
00 年度以前	経営財務論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。</p> <p>講義概要 各週別の講義予定を見たい。</p>		<p>1.6. 望ましい資本構成とは a) 完全資本市場における資本構成と企業価値</p> <p>2.6. 望ましい資本構成とは b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響</p> <p>3.6. 望ましい資本構成とは c) 企業価値の最大化と株価の最大化 d) 資本構成決定の現実的な考慮点 e) 日本企業の資本構成の動向</p> <p>4.7. 配当政策の考え方 a) 配当政策の理論、b) 配当政策をめぐる問題点</p> <p>5.7. 配当政策の考え方 c) 株式配当と株式分割、d) 日米企業の配当政策</p> <p>6.8. 自社株取得 a) 自社株取得の本質、b) 自社株取得の利用動機</p> <p>7.8. 自社株取得 c) 自社株取得と株価評価 d) 自社株取得をめぐる我が国の現状</p> <p>8.9. リスク管理とデリバティブの利用 a) デリバティブとは何か</p> <p>9.9. リスク管理とデリバティブの利用 b) デリバティブを利用した金利リスク管理 c) 企業財務とリスク管理</p> <p>10.10. 企業の合併・買収</p> <p>11.11. 日本の伝統的な金融システムの特色と問題点</p> <p>12.12. 日本企業の財務政策の課題</p>	
◆ 評価方法			
<p>期末試験の結果による。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務論入門」（日本経済新聞社）</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	国際経営論 a 国際経営論 a 国際経営論	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要 現代経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。情報技術革命の時代にあつて、現代企業は財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など各分野での技術革新と、情報技術の発達により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。本講義では、こうした企業の国際化に伴う諸問題を、包括的に議論していく。 本講義は通年受講が前提である。前半では、グローバル化・情報化のなかで新しい競争の時代を迎えている現代企業像の概要を解説する。		◆授業計画 1. はじめに 資本主義世界経済と企業活動 2. 現代経済における多国籍企業 グローバル化と情報化 3. 現代企業の理論 巨大企業と「豊かな」社会 4. 現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変貌 5. 現代企業の理論 生産システムの革新 6. 現代企業の理論 多国籍業と直接投資 7. 現代企業の理論 情報技術革命と企業組織 8. 多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成 9. 情報技術革命と日米企業 IT革命とデジタル・エコノミー 10. 情報技術革命と日米企業 経営戦略・経営組織の変貌 11. 情報技術革命と日米企業 ITと新しい「ビジネスモデル」 12. 情報技術革命と日米企業 日本の経営と「グローバルスタンダード」	
◆ 評価方法 小レポートおよび定期試験			
◆テキスト、参考文献 授業中に適宜指示する			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	国際経営論 b 国際経営論 b 国際経営論	担当者	小林 哲也
◆講義目的、講義概要 後半では、日本とアメリカの企業を中心に多国籍企業の経営組織および経営戦略のケーススタディを進める。		◆授業計画 1. 日本企業の国際化 システムとしての日本企業 2. 日本企業の海外進出 戦後復興から 1990年代まで 3. 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 4. 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 5. 日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 6. 日本企業の海外進出 「世界の工場」中国 7. 日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 8. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業 9. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 自動車 10. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的所有権 11. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題 12. まとめ	
◆ 評価方法 小レポートおよび定期試験			
◆テキスト、参考文献 授業中に適宜指示する			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経営史 a 経営史 a 経営史	担当者	柳 敦
◆講義目的、講義概要 欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで、英国における産業革命の特徴と企業経営の問題を検討する。		◆授業計画 1 経営史の課題と問題 2 ヨーロッパ前近代における企業と経営（1） 3 ヨーロッパ前近代における企業と経営（2） 4 ヨーロッパ前近代における企業と経営（3） 5 重商主義とアダム・スミス 6 資本主義とその精神 7 英国産業革命とその特徴（1） 8 英国産業革命とその特徴（2） 9 英国産業革命期の企業経営（1） 10 英国産業革命期の企業経営（2） 11 工場制の導入と規律の変化 12 英国産業衰退の問題	
◆ 評価方法 期末試験の成績によって評価を行う。			
◆テキスト、参考文献 必要に応じて紹介する。			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経営史 b 経営史 b 経営史	担当者	柳 敦
◆講義目的、講義概要 欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら19世紀における企業経営のありかたを考察し、次いで、20世紀型企業経営の問題を考える。		◆授業計画 1 19世紀フランスにおける工業化とその特徴 2 19世紀フランス企業経営の特徴 3 19世紀ドイツにおける工業化とその特徴 4 19世紀ドイツ企業経営の特徴 5 19世紀からの小売業界における特徴 6 19世紀米国における工業化とその特徴 7 19世紀米国企業経営の特徴 8 ビッグビジネスの展開と独占禁止法 9 科学的管理法の展開 10 企業組織の問題 11 フォードとGM 12 産業エリートと教育	
◆ 評価方法 期末試験の成績によって評価を行う。			
◆テキスト、参考文献 必要に応じて紹介する。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	日本経営史 a 日本経営史 a 日本経営史	担当者	奈倉 文二
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では日本の大企業経営の形成発展過程について個別企業や創始者・経営者など具体的事例をあげながら明らかにする。</p> <p>まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。財閥・国有企業・外資系企業についてはやや立ち入った検討を加え、コーポレート・ガバナンスについてもその後の変化を念頭に置きつつ考察する。</p> <p>具体的イメージを持てるように、VTR (佐々木聡編『日本の企業家群像』(1)(2)など)も活用する予定。</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p> <p>講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 幕末維新の危機と政商 (小野組・島田組と三井) 3 外商の活動と外資規制 (グラバーと高島炭坑) 4 「近代化」・「工業化」とその担い手 (渋沢と岩崎) 5 会社制度の導入・発展 (紡績・鉄道・銀行) 6 官業払い下げ、「政商から財閥へ」 7 「番頭経営」と専門経営者 8 国有国営企業と軍事関連企業 9 外資系企業の進出 (英米系企業中心) 10 日本企業の中国進出 (満鉄と在華紡) 11 財閥コンツェルンと持株会社 (財閥のコーポレート・ガバナンス) 12 外資系会社とコーポレート・ガバナンス (日本製鋼所を中心に) <p>(項目・順序は場合により変更することがある。)</p>	
◆ 評価方法			
筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。			
◆テキスト、参考文献			
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』(有斐閣)、その他適宜指示する。随時資料も配付する。			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	日本経営史 b 日本経営史 b 日本経営史	担当者	奈倉 文二
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、戦前から戦後にかけての大企業経営の変遷とその特徴について具体的事例をあげながら明らかにする。</p> <p>まず、大企業経営のあり方が1930年代に変化したことを、官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式 (旧財閥との比較)、外資系企業の展開と規制、軍需産業の展開などについて明らかにする。</p> <p>さらに、戦後大企業システムの形成発展について、戦後改革と高度成長との関連に留意しながら明らかにする。具体的には、財閥解体の経営史的意義、企業集団の形成、「日本型企业システム」「日本的経営」「日本的経営者支配」の内容、重化学大企業 (鉄鋼・家電・自動車) の発展様式、企業集団とコーポレート・ガバナンスなどについて述べ、現代の大企業再編についても展望する。</p> <p>春学期同様、質疑応答方式を取り入れる予定。また、VTR (佐々木聡編『日本の企業家群像』(1)(2)など)も活用する予定。</p> <p>講義内容を理解する上で「日本経営史 a」「日本経済史 ab」をも受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 日本製鉄の設立と官民関係 3 新興コンツェルン (日産など) と旧財閥 4 外資系企業の展開と規制 (石油・自動車) 5 軍需産業の展開 (三菱重工と中島飛行機) 6 財閥解体 (集排法・独禁法含む) の経営史的意義 7 企業集団形成 (株式持合・社長会・系列融資) 8 「日本型企业システム」・「日本的経営」・「日本的経営者支配」 9 耐久消費財 (家電・自動車) 大企業の発展 (松下・トヨタ、等) 10 鉄鋼寡占資本間の競争と協調 (新日鉄) 11 企業集団・系列とコーポレート・ガバナンス 12 展望：持株会社解禁・「経営統合」・4大メガバンクと企業集団の変容 <p>(項目・順序は場合により変更することがある。)</p>	
◆ 評価方法			
筆記試験。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。			
◆テキスト、参考文献			
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』(有斐閣)、その他適宜指示する。随時資料も配付する。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	マーケティング論 a マーケティング論 a マーケティング論	担当者	大久保 貞義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マーケティング活動は、自由主義経済における企業活動の基本を示すものである。企業はマーケティング活動に失敗すると倒産に追い込まれるし、成功すれば繁栄する企業となることが出来る。</p> <p>マーケティングの基本原理は、“人間の欲求を充足するための交換過程”を研究する学問であるということが出来よう。しかし、人間の欲求は多種多様であり、その欲求充足の方法は日進月歩である。</p> <p>したがって、この複雑な欲求充足のプロセスに対する学問的アプローチは、心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問成果が応用されている。最近のマーケティングの研究は、このような行動科学的手法で研究されている。</p> <p>社会構造は刻々と変化している。変換機能を果たす市場の構造も変化しているし、人間の欲求もまた時代と共に変化している。企業は、この変化を見逃さず対処しなければならない。企業のマーケティング戦略は進歩の連続であると言って良い。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 繁栄する企業と衰退する企業 (マーケティングの成功と失敗から) 2 マーケティングとは何か？ (その定義と研究分野について) 3 社会の発展と人間欲求の変化 (豊かさ与人間の価値観) 4 高齢化社会の出現と人口減少社会 (縮小する経済社会) 5 消費者行動の分析 (文化的・社会的な特性) 6 新製品の採用プロセス (認知から採用までの5段階) 7 マーケット・セグメンテーション (デモグラフィック要因とジオグラフィック要因) 8 マーケティングと国家体制 (官僚主義と国家の衰退) 9 自由競争の原理と官僚主義 (クロネコヤマトとGEのマーケティング戦略) 10 企業の栄枯盛衰 (企業の寿命と人間の寿命) 11 資本主義の発展と業界の栄枯盛衰 12 グローバル化した社会のマーケティング (メガ・マーケティングの発展) 	
◆ 評価方法			
レポート、テストによる。3回以上欠席がある場合、テストを受けられない場合もある。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指示する。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	マーケティング論 b マーケティング論 b マーケティング論	担当者	大久保 貞義
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>伝統的なマーケティングでは商品を対象としてきた。最近では、製造業よりもサービス業が高い位置を占めるようになると、商品のマーケティングよりサービスのマーケティングが重視され始めた。</p> <p>サービス・マーケティングではコンサルティング・セールス・マーケットや、カスタマー・サティスファクション・マーケティング等が登場してきた。いかに人間がサービスを展開してクライアントの満足を獲得するかということが重視され始めた。</p> <p>そして、企業活動が利益中心の企業展開ばかりでなく、社会貢献活動が重視され始めると、ソーシャル・マーケティングが重視され始めた。</p> <p>そのソーシャル・マーケティングの技術は非営利企業のマーケティングとして、大学、軍隊、地方公共団体等の団体で使われ始めた。こうしてマーケティング技術は自由競争社会の各団体の戦略形成に応用され始めたのである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業の人材育成 企業トップの能力養成 2 セールスマンシップの養成 (セールスマンは人格を売る) 3 駄目なセールスマンと成功するセールスマン 4 セールス成功の一瞬 クロージングへのプロセス 5 ストック・マーケットの発展 歴史的発展とバブルの崩壊 6 百万長者になる方法 (株価の変動予測と利益獲得の方法) 7 マーケティング戦略と計画の作成 セールスフォースとセールスプロモーション 8 新製品のマーケティング戦略 9 高齢化社会のマーケティング (生まれた時の社会と死ぬ時の社会の対比) 10 利益追求主義から社会貢献型の企業へ 11 非営利企業のマーケティング マーケティングの国家政策への応用 12 マーケティングの新しい応用 民主主義の理念とマーケティング 	
◆ 評価方法			
レポート、テストによる。3回以上欠席がある場合、テストを受けられない場合もある。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に指示する。			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	広告論 a 広告論 a 広告論	担当者	川又 祥平
◆講義目的、講義概要 広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。（ここでは事業者向け広告をひとまず別において考える） この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。		◆授業計画 1 オリエンテーション～広告を学ぶ意義 2 マーケティングの新しい潮流と広告 3 マーケティング・プランニングにおける意思決定と、そのためのデータベース活用 4 広告の発展の歴史、広告の概念の変化、日本の広告費 5 広告の社会的・経済的機能、広告の種類 6 広告会社の役割と広告組織 広告業の起源とあゆみ、広告ビジネスの企業群の変化 7 広告主と広告会社のビジネスの実際 8 広告管理のしくみ、広告目標と予算 9 広告のプランニング～ターゲティングとポジショニング 「広告で伝えるべきこと」をどう決めていくか。 10 消費者インサイトの発見とマーケティング調査の歴史と展望 11 広告作品の制作～良いクリエイティブとは、表現アイデアの発見、時代の人気広告事例 12 まとめ	
◆ 評価方法 出席、レポート、試験による。			
◆テキスト、参考文献 岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、八巻俊雄・梶山皓著、読本シリーズ「広告読本」（第2版）、東洋経済新報社 1995年			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	広告論 b 広告論 b 広告論	担当者	川又 祥平
◆講義目的、講義概要 広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。 この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。		◆授業計画 1 情報環境の変化とメディア・オーディエンスの捉え方 2 消費者の購買行動と意志決定プロセス、その中で の広告の効果 3 マス媒体の特徴とメディアプランニング 4 SP、インタラクティブ・メディアの特徴と 媒体計画 5 イベント、コンパニオンが変える広告コミュニケーション 6 広告表現の評価、広告効果の把握 7 コミュニケーション過程と広告効果①～理論編 8 コミュニケーション過程と広告キャンペーン 効果②～事例編 新製品広告キャンペーンのケース 既存製品の販売促進キャンペーンのケース 9 ブランド構築の重要性と広告の役割、 ブランド・コミュニケーションの方法論 10 ブランド・コミュニケーション～事例 11 グローバル広告の可能性 12 まとめ	
◆ 評価方法 出席、レポート、試験による。			
◆テキスト、参考文献 岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、八巻俊雄・梶山皓著、読本シリーズ「広告読本」（第2版）、東洋経済新報社 1995年			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	行動科学論 a 行動科学論 a 行動科学論	担当者	大久保 貞義
◆講義目的、講義概要 行動科学は心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問的成果を応用し、社会問題を分析し研究する学問である。 まず、はじめに、心理学、社会学、文化人類学の基礎を学ぶ。各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問の成果をどのように総合化するかを学ぶ。 人間の行動は、どのような意識の元で意思を決定し行動するかを、人間の進化、価値観、文化等の面から分析する。 人間の行動は、宗教・文化によって大きく制約される。その規制内容をグローバルな世界の中で検証する。 グローバルな世界では、お互いに意見の交換が必要になる。そのコミュニケーションの効果と機能を分析する。		◆授業計画 1 学問の発展段階＝学問の美しさ、発展の法則性は何か。隣接科学の用語の説明。 2 「人間」「組織」「社会」に対する心理学、社会学、文化人類学に対するアプローチの方法 3 経済発展に伴う人間の行動パターンの変化 4 人間の価値観を規制する宗教（仏教、キリスト教、イスラム教、神道の比較分析） 5 西洋のビジネス、東洋のビジネス（ユダヤ教の知恵、儒教の教え） 6 日本人企業経営者の思惟方法と行動 7 コミュニケーションの理論：マス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーション 8 コミュニケーションの二段の流れ（オピニオン・リーダーの役割の重要性） 9 メッセージの伝達方法（一次元的伝達と二次元的伝達） 10 社会構造と機能分析（農業社会～初期工業化社会～大変化社会～脱工業化社会） 11 資本主義発展と共に変化する人間行動 12 生き甲斐の変化と人間行動	
◆ 評価方法 レポート、試験による。追試は行わない。3回以上欠席すると試験を受けられない場合もある。			
◆テキスト、参考文献 授業時に指示する。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	行動科学論 b 行動科学論 b 行動科学論	担当者	大久保 貞義
◆講義目的、講義概要 人間行動は知識によって影響される。知識は人間の創造性によって作り出される。人間の創造性のメカニズムを解明し、創造力豊かな人間になるにはどうすれば良いか、その方法を紹介する。 そして、近代的な知識は力を持ってきた。知のマーケットが形成され、大学のあり方にまで影響を与えるようになった。 人間の作った知識が社会を発展させ、国家の繁栄は知識に左右されるようになった。ビジネス経営の方法も発展し、ナレッジマネジメントが開発され、これによって不断の企業の内部のイノベーションを起こすメカニズムが形成されるようになった。 地の形成は、人間の行動を左右する大きなファクターである。知とビジネス行動との関連を分析する。		◆授業計画 1 創造性とは何か＝既知の要素の組み合わせ、その本質は反逆である。 2 ブレインストーミングの方法論。チェック・ポイントとその開発と応用。 3 未来予測の重要性。古くからあった星占い。 4 予測の面白さは不確定要素の多い分野にあり、予測を形成する努力によって変動してくる。 5 予測の勝負が企業の栄枯盛衰を決定する。いかに予測するかが企業の勝負になる。 6 知の世界へ突入する大学教育 高等教育の社会的役割と国家の繁栄 7 知のマーケット形成：知識社会における大学の役割とベンチャー企業 8 人間の知がもたらす社会の発展（農業社会～工業化社会～脱工業化社会の変化の要因） 9 ナレッジ・マネジメントの発想法：哲学の流れが古代哲学から近代哲学へ：二大潮流 10 企業の知恵の生かし方とイノベーションへの活用方法 11 行動科学とビジネスマネジメント 12 ビジネス・戦略形成の要点	
◆ 評価方法 レポート、試験による。追試は行わない。3回以上欠席すると試験を受けられない場合もある。			
◆テキスト、参考文献 授業時に指示する。			

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	保険論 a 保険論 a 保険論	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業を分析する能力を取得することにあります。</p> <p>春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができるようになるでしょう。</p> <p>例えば、多くの大手生保会社が保険業法に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であるため、株式会社にはない特徴が多々あることは意外と知られていないと思います。</p>		<p>1 講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど。</p> <p>2 リスクの一般理論について。</p> <p>3 保険の歴史について。</p> <p>4 期待効用に基づく保険モデルの解説。</p> <p>5 保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観。</p> <p>6 保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念</p> <p>7 保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」および「損害填補の一般原則」とその例外について。</p> <p>8 保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者が守るべき各種の義務について。</p> <p>9 保険各論（1）：生命保険の仕組みや機能について。</p> <p>10 保険各論（2）：自動車保険、火災保険について。</p> <p>11 保険各論（3）：傷害保険、責任保険について。</p> <p>12 春学期のまとめ。</p>	
◆ 評価方法			
定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。			
◆テキスト、参考文献			
主としてプリントを配布して講義しますが、欠席者には再配布しませんので注意して下さい。			

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	保険論 b 保険論 b 保険論	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>秋学期は保険会社の経営についての講義を主とします。具体的には保険業の収益構造および保険市場の構造的変化を講義します。</p> <p>収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益の源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融を巡る環境変化が経済全体の流れを悪くし、デフレスパイラルが発生しています。このような金融・経済の環境変化に対応できない会社は自然淘汰（ダーウィニズム）されるのですが、自然淘汰とは弱肉強食を意味するのではなく、「自然環境の変化に順応できない種は滅びる」と言うことを意味しており、現代の経営学に通じるものです。さて、保険業はどのような生き残りを演じるのでしょうか？</p>		<p>1 秋学期の講義目的や内容について</p> <p>2 保険経営の特徴</p> <p>3 保険市場の概要と主要な問題</p> <p>4 保険企業の形態（保険相互会社と保険株式会社）</p> <p>5 保険経営の特殊性（1）：価値循環の転倒性、保険技術的危険などについて。</p> <p>6 保険経営の特殊性（2）：保険料の算定、アンダーライティング、カルテル料率などについて。</p> <p>7 保険の限界とその拡張。（ART を含む）</p> <p>8 損害保険の収益構造。（コンバインドレシオ等）</p> <p>9 生命保険の収益構造。（二大収益、三利源等）</p> <p>10 保険規制をめぐる問題。価格競争と非価格競争</p> <p>11 保険における消費者保護の現状。セーフティネットの構造と機能。</p> <p>12 秋学期のまとめ。</p>	
◆ 評価方法			
定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。			
◆テキスト、参考文献			
主としてプリントを配布して講義しますが、欠席者には再配布しませんので注意して下さい。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	貿易論 a 貿易論 a 貿易論	担当者	米山昌幸																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																											
<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1章 リカードの比較生産費説 1.1 モデルの設定(2国2財1要素モデル) 1.2 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.3 閉鎖経済の均衡相対価格の決定</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1.4 絶対優位と比較優位</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1.5 生産点の決定と貿易パターン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>補論 最適消費点の決定—無差別曲線分析—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1.6 社会的無差別曲線と貿易利益</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第2章 ヘクシャー＝オリーン理論—固定投入係数のケース— 2.1 モデルの設定(2国2財2要素モデル) 2.2 生産フロンティアの導出 2.3 要素賦存量と生産構造</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2.4 要素賦存量と貿易構造</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2.5 財の相対価格と要素価格(所得分配)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第3章 国際貿易の基礎理論 3.1 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>3.2 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡 3.3 比較優位と貿易パターン</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3.4 オフファー曲線と交易条件の決定</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容	1	第1章 リカードの比較生産費説 1.1 モデルの設定(2国2財1要素モデル) 1.2 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出	2	1.3 閉鎖経済の均衡相対価格の決定	3	1.4 絶対優位と比較優位	4	1.5 生産点の決定と貿易パターン	5	補論 最適消費点の決定—無差別曲線分析—	6	1.6 社会的無差別曲線と貿易利益	7	第2章 ヘクシャー＝オリーン理論—固定投入係数のケース— 2.1 モデルの設定(2国2財2要素モデル) 2.2 生産フロンティアの導出 2.3 要素賦存量と生産構造	8	2.4 要素賦存量と貿易構造	9	2.5 財の相対価格と要素価格(所得分配)	10	第3章 国際貿易の基礎理論 3.1 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定	11	3.2 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡 3.3 比較優位と貿易パターン	12	3.4 オフファー曲線と交易条件の決定
週	内容																												
1	第1章 リカードの比較生産費説 1.1 モデルの設定(2国2財1要素モデル) 1.2 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出																												
2	1.3 閉鎖経済の均衡相対価格の決定																												
3	1.4 絶対優位と比較優位																												
4	1.5 生産点の決定と貿易パターン																												
5	補論 最適消費点の決定—無差別曲線分析—																												
6	1.6 社会的無差別曲線と貿易利益																												
7	第2章 ヘクシャー＝オリーン理論—固定投入係数のケース— 2.1 モデルの設定(2国2財2要素モデル) 2.2 生産フロンティアの導出 2.3 要素賦存量と生産構造																												
8	2.4 要素賦存量と貿易構造																												
9	2.5 財の相対価格と要素価格(所得分配)																												
10	第3章 国際貿易の基礎理論 3.1 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定																												
11	3.2 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡 3.3 比較優位と貿易パターン																												
12	3.4 オフファー曲線と交易条件の決定																												
◆ 評価方法																													
定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。評価基準は第1回目の授業で説明する。																													
◆テキスト、参考文献																													
配布プリントに沿って授業を行う。参考文献は第1回目の授業で紹介する。																													

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	貿易論 b 貿易論 b 貿易論	担当者	米山昌幸																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																											
<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や地域経済統合、コメの輸入自由化、環境と貿易、緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ・ダンピング措置など個別テーマを理論的に考察する。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第4章 貿易政策とは 4.1 貿易政策の目的</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4.2 貿易政策の手段</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>補論 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第5章 貿易政策の基礎理論 5.1 部分均衡分析による貿易利益</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5.2 貿易政策の効果—部分均衡・小国モデル—</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5.3 輸出国の貿易政策—部分均衡・小国モデル—</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5.4 貿易政策の効果—部分均衡・大国モデル—</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第6章 コメの輸入自由化—関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析—</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第7章 幼稚産業保護論</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第8章 地域経済統合</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第9章 環境資源問題と貿易政策</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第10章 自由貿易と保護貿易—グローバリゼーションと貿易紛争—</td> </tr> </tbody> </table>		週	内容	1	第4章 貿易政策とは 4.1 貿易政策の目的	2	4.2 貿易政策の手段	3	補論 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—	4	第5章 貿易政策の基礎理論 5.1 部分均衡分析による貿易利益	5	5.2 貿易政策の効果—部分均衡・小国モデル—	6	5.3 輸出国の貿易政策—部分均衡・小国モデル—	7	5.4 貿易政策の効果—部分均衡・大国モデル—	8	第6章 コメの輸入自由化—関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析—	9	第7章 幼稚産業保護論	10	第8章 地域経済統合	11	第9章 環境資源問題と貿易政策	12	第10章 自由貿易と保護貿易—グローバリゼーションと貿易紛争—
週	内容																												
1	第4章 貿易政策とは 4.1 貿易政策の目的																												
2	4.2 貿易政策の手段																												
3	補論 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—																												
4	第5章 貿易政策の基礎理論 5.1 部分均衡分析による貿易利益																												
5	5.2 貿易政策の効果—部分均衡・小国モデル—																												
6	5.3 輸出国の貿易政策—部分均衡・小国モデル—																												
7	5.4 貿易政策の効果—部分均衡・大国モデル—																												
8	第6章 コメの輸入自由化—関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析—																												
9	第7章 幼稚産業保護論																												
10	第8章 地域経済統合																												
11	第9章 環境資源問題と貿易政策																												
12	第10章 自由貿易と保護貿易—グローバリゼーションと貿易紛争—																												
◆ 評価方法																													
定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。評価基準は第1回目の授業で説明する。																													
◆テキスト、参考文献																													
配布プリントに沿って授業を行う。参考文献は第1回目の授業で紹介する。																													

03年度以降(春)	証券市場論 a	担当者	高橋元
01~02年度(春)	証券市場論 a		
00年度以前	証券市場論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>我が国経済は、所謂バブルの発生と崩壊を経て、長くその後遺症に悩んできた。そうした中で、証券や証券市場は、バブルの発生から崩壊後の今日に至るまで、経済社会に多大な影響を与えてきた。一方、国際化や金融構造改革の進展に伴い、金融資本市場の変化は著しく、その機能充実が一段と求められる方向にある。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化する流れの中で、証券市場の存在意義はこれまで以上に高まりつつある。</p> <p>本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶと共に、今日的な状況に関わる実践的な解説を適宜施すことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。</p> <p>「証券市場論 a」では、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基礎的な領域の知識涵養に努める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要・進め方、評価方法などの説明 2. 戦後の日本経済の発展と証券市場 3. 金融ビッグバンと証券市場 4. 株式会社制度の意義 5. 証券概念と資産流動化の進展 6. 証券市場の沿革 (1) 戦前の証券市場 7. 証券市場の沿革 (2) 戦後の証券市場 8. 債券発行市場 9. 債券流通市場 10. 株式発行市場 11. 株式流通市場 12. 金融派生商品市場 	
◆評価方法			
出席状況、レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し、評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『入門現代の証券市場第2版』佐藤昇・木村由紀雄・高橋元・相澤幸悦/著、東洋経済/刊(2003年)			

03年度以降(秋)	証券市場論 b	担当者	高橋元
01~02年度(秋)	証券市場論 b		
00年度以前	証券市場論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>我が国経済は、所謂バブルの発生と崩壊を経て、長くその後遺症に悩んできた。そうした中で、証券や証券市場は、バブルの発生から崩壊後の今日に至るまで、経済社会に多大な影響を与えてきた。一方、国際化や金融構造改革の進展に伴い、金融資本市場の変化は著しく、その機能充実が一段と求められる方向にある。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化する流れの中で、証券市場の存在意義はこれまで以上に高まりつつある。</p> <p>本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶと共に、今日的な状況に関わる実践的な解説を適宜施すことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。</p> <p>「証券市場論 b」では、基礎的な知識を踏まえて、より専門的且つ高度な知識の習得と理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 株価指数の種類と特徴 2. 証券評価の基礎理論 (1) 投資と投機 3. 証券評価の基礎理論 (2) 基本的な評価尺度 4. 証券評価の基礎理論 (3) 評価モデルの考え方 5. ポートフォリオ理論 (1) リスクとリターン 6. ポートフォリオ理論 (2) 分散投資の効果 7. 投資信託の仕組み 8. 投資家を巡る諸問題 9. 証券会社と証券業務 10. 証券取引システム 11. 証券税制と証券規制 12. 総括——証券市場の現状と課題 	
◆評価方法			
出席状況、レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し、評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『入門現代の証券市場第2版』佐藤昇・木村由紀雄・高橋元・相澤幸悦/著、東洋経済/刊(2003年)			

03年度以降(春)	ベンチャー・ビジ初論 a	担当者	上坂卓郎
01~02年度(春)	ベンチャー・ビジ初論 a		
00年度以前	ベンチャー・ビジ初論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。</p> <p>その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の内容などを理解していく。</p> <p>この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし、将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識の習得をめざす。また、起業に関心はなくても、意欲ある企業人や社会人になろうとする人は受講してほしい。他学部の学生も大歓迎です。</p> <p>本科目では原則として出席はとりませんが、経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にあるようです。自分で判断のうえ受講してください。</p> <p>なお、春学期の経済学部総合講座でベンチャー企業の経営者の講演も3回程度予定しています。必ず聴講すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 会社とはなにか 2 会社の誕生(1) 3 会社の誕生(2) 4 会社の設立 5 会社の成長と組織 6 会社の資金調達 7 ベンチャー企業支援政策 8 ベンチャー企業と知財(特許)戦略 9 資本市場の仕組み 10 ベンチャー企業と上場市場の活用 11 外部講師講演(1) 12 まとめと課題 	
◆評価方法			
定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください(特に4年生)。			
◆テキスト、参考文献			
松田修一『ベンチャー企業』日経文庫2001 適宜資料を配布する			

03年度以降(秋)	ベンチャー・ビジ初論 b	担当者	上坂卓郎
01~02年度(秋)	ベンチャー・ビジ初論 b		
00年度以前	ベンチャー・ビジ初論		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ベンチャー・ビジ初論 a と同様だが、少し実務的な話題を盛り込んだ内容とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ベンチャー企業と資金繰り 2 ベンチャーキャピタルの役割(1) 3 ベンチャーキャピタルの役割(2) 4 ベンチャー企業評価 5 起業家にとっての資本政策 6 ベンチャー企業とビジネスリスク 7 リビング・デッドとプライベートエクイティ 8 産業動向とベンチャー企業、社内ベンチャー企業 9 ビジネスエンジェルの役割 10 経営再起とベンチャー企業 11 外部講師講演(2) 12 まとめと課題 	
◆評価方法			
定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください(特に4年生)。			
◆テキスト、参考文献			
松田修一『ベンチャー企業』日経文庫2001 適宜資料を配布する			

03年度以降（春） 非営利組織マネジメント論 a 01～02年度（春） 非営利組織マネジメント論 a 00年度以前 協同組合論	担当者	高松和幸
<p>◇ 講義目的および講義概要</p> <p>NPO（非営利組織）は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p> <p>◇ 評価方法 出席・レポート・試験</p> <p>◇ テキスト・参考文献 高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。</p>	授業計画	1NPOとは何か：意味・ボランティア組織・フィランソロピー・NGO・市民セクター 2NPOの成立：第2次世界大戦後のボランティア活動・NPOの萌芽 3NPOの発展：ボランティア革命 4NPOの規模：構造・分類・公益法人制度 5NPOの形態：NPO法人制度・その他市民活動団体 6NPOの成立基盤：NPOの制度化・活動資金 7NPOの経営環境：NPOと外部環境・NPOサポートセンター・NPOと政府との関係 8NPOの経営管理：NPO法人の管理機構・意思決定 9NPOの管理手法：NPOの経営戦略・業績管理・業績管理手法・情報開示 10NPOの会計制度：NPOの会計書類・会計基準 11NPOの予算管理：NPOの予算制度・収支計算書 12まとめ

03年度以降（秋） 非営利組織マネジメント論 b 01～02年度（秋） 非営利組織マネジメント論 b 00年度以前 協同組合論	担当者	高松和幸
<p>◇ 講義目的および講義概要</p> <p>NPO（非営利組織）は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p> <p>◇ 評価方法 出席・レポート・試験</p> <p>◇ テキスト・参考文献 高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。</p>	授業計画	1NPOの業績評価：NPOの経営分析・ 2NPOの業績評価方法：NPOの業績管理手法・財務情報と非財務情報 3NPOの国際比較：世界のNPO 4アメリカのNPO 5イギリスのNPO 6ドイツのNPO 7フランスのNPO 8中国のNPO 9その他の国のNPO：ハンガリー・トルコなど 10NPOのIT化：NPOの変化・組織の価値など 11NPOの今後 12まとめ

03年度以降 01年度～02年度(春)	企業文化論 a 企業文化論 a	担当者	齊藤善久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1) 企業文化は企業の固有の風土・社風・創業者の考え方など歴史的な蓄積を表す場合があります</p> <p>2) 近年、企業の文化社会面での貢献をメセナとよび、また広くコーポレート・シチズンシップの概念が生れてきました。</p> <p>3) 最近では経済の成熟が進み、企業活動そのものが文化的価値を消費者に提供していかないと支持を獲得できない時代になってきました。</p> <p>4) さらに NPO の発展は行政のみならず企業の文化活動にも大きな影響を与えてきています。</p> <p>以上の流れで授業を進めます。受講する皆さんにはつぎの3点を期待しています。</p> <p>①企業を見る目を養うこと ②企業文化を創りあげた独創性を学ぶこと ③自分の仕事を文化の視点から考え、実行できるキャリア戦略を身につけていただきたい</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・レポート・試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>参考「ファンタスティック・コーポレーション」 岡田芳郎 1992年 日本マンパワー出版 他</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1) 企業文化とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業文化の概念 ・事例 欧米企業 ・事例 日本企業 ・演習 グループで発想法を学ぶ <p>2) 企業の文化・社会貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メセナとコーポレート・シチズンシップ ・事例 欧米企業 ・事例 日本企業 ・演習 グループで発想法を学ぶ <p>3) 企業活動そのものの文化化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化資本経営とは ・事例 日本と米国 <p>4) 企業文化の今後の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO の文化活動が企業・行政に与える影響 ・演習 皆さんのキャリア戦略と企業文化論 	

	企業文化論 b は休講	担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 01～02年度 (春)	研究開発マネジメント a 研究開発マネジメント a	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>情報技術、バイオテクノロジー、新素材、ナノテクノロジー等の技術革新は、経済・社会、産業、経営、個人に大きな影響を与えつつある。企業発展の原動力はこうした企業の研究開発(R&D)によって支えられており、いかに競争優位の研究開発マネジメントシステムを構築するかは、企業経営の重大な関心事である。</p> <p>本講義では、技術革新の動向、技術革新を引き起こすための研究開発マネジメントの基本的な諸視点を事例を交えながら学習する。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。</p> <p>将来、社会人として、新商品、新サービス、新事業の開発に関わりたいと考えている人は、技術に関わる経営の戦略的マネジメント(技術経営: Management of Technology)の理解は必須となろう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験を中心に、小テスト、レポート、出席状況を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しない。参考文献を開講時に紹介する。必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、企業の未来と研究開発:「明日の経営と技術- Web アンケート調査」から 2 環境変化と研究開発マネジメント1: 日本企業の研究開発とその課題 3 環境変化と研究開発マネジメント2: 技術革新モデルと研究開発マネジメント 4 技術革新の潮流1: 「技術の未来ロードマップ」エレクトロニクス、コンピュータ、通信インフラ、医療・バイオ、自動車、素材産業 5 技術革新の潮流2: 技術のライフサイクルとマネジメント 6 経営戦略と技術戦略1: 経営戦略の枠組み、技術開発戦略 7 経営戦略と技術戦略2: 技術戦略の視点、事例にみるイノベーション 8 事業創造: 事業のライフサイクルと技術・商品開発 9 商品開発1: 新しいパラダイム、プロダクト・イノベーションの諸概念と分析技法 10 商品開発2: ヒット商品開発 11 研究開発組織: 研究開発の諸特性と組織形態 12 研究開発と人材育成 	
03年度以降 01～02年度 (秋)	研究開発マネジメント b 研究開発マネジメント b	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的は前期に同じ。</p> <p>後期は、研究開発に関わる重要なトピックスについて、その現状と課題を出来るだけ事例をまじえながら紹介する。</p> <p>講義は春季講義 a (基礎概念) の履修を前提に進める。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末試験を中心に、小テスト、レポート、出席状況を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しない。参考文献は開講時に紹介する。必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究開発と環境マネジメント 2 環境経営に向けた自動車産業の研究・技術開発 3 研究開発と地域産業 4 研究開発とグローバル化 5 研究開発と情報システム 6 研究開発における知財戦略 7 研究開発とアライアンス戦略 8 研究開発と産学協同 9 研究開発プロジェクトの評価 10 研究開発マネジメントにおける経営システム工学の役割 11 研究開発マネジメントの実践に向けて 12 企業における研究開発マネジメントの取り組み(講演予定) 	

03年度以降(春) 01～02年度(春) 00年度以前	会計学原理 a 会計学原理 a 会計学原理	担当者	内倉 滋
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、“制度としての会計”の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。</p> <p>授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。</p> <p>なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を発生させるため、「簿記原理 a・b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の目的等 2 テキスト第1章：会計と会計理論 3 テキスト第2章：企業会計と関係法規 4 テキスト第3章：企業会計原則 5 テキスト第4章：貸借対照表 6 テキスト第5章：損益計算書 7 テキスト第6章：キャッシュ・フロー会計 8 テキスト第7章：流動資産 9 テキスト第8章：有価証券 10 テキスト第9章：固定資産 11 テキスト第10章：固定資産の減損と時価評価 12 テキスト第11章：繰延資産 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>平井克彦・石津寿恵、『損益計算と情報開示』(白桃書房)</p>			

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 00年度以前	会計学原理 b 会計学原理 b 会計学原理	担当者	内倉 滋
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「会計学原理 a」の、伝統的な会計学領域に関する知識を前提として「会計学原理 b」では、「連結財務諸表」「税効果会計」「外貨換算」「デリバティブ」といった、比較的新しい問題(ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域)を講義の対象としたい。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト第12章：負債…その1 2 テキスト第12章：負債…その2 3 テキスト第13章：引当金 4 テキスト第14章：資本…その1 5 テキスト第14章：資本…その2 6 テキスト第15・16章：収益・費用の認識方法 7 テキスト第17章：連結会計 8 テキスト第18章：税務会計 9 テキスト第19章：税効果会計 10 テキスト第20章：外貨換算会計 11 テキスト第21章：デリバティブ会計 12 テキスト第22章：リース会計 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>「会計学原理 a」と同様</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「会計学原理 a」と同じ</p>			

03年度以降 01~02年度 (春) 00年度以前	財務会計論 a 財務会計論 a 財務会計論	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要 <p>本講座は、1, 2年で簿記を勉強し、いよいよ会計理論を学ぼうとするための講座です。例えば、簿記で純財産を増加させるのは、資本の増加と利益の増加です。一体両者はどのように異なるのか。費用は純財産を減少させます。資本の減少も純財産を減少させます。両者はどう異なるのか。会計理論は、『なぜそうなるのかを』解明することです。簿記は会計理論が解明した決定にしたがって、計算するシステムです。ある取引が資産の増減か、損益の増減かは会計理論が決定するのです。会計は、企業で発生するいろいろな経済的事象をある決められた基準に従って貨幣的言語で測定し、伝達するシステムであるから、ある事象をどのように測定し、どのようにそれを伝達するかの基準を学ぶことがこの講座の目的です。</p> <p>授業のつど、毎回講義のレジュメを配布します。出席しない場合には、レジュメは配布しません。また、理論ばかりでなく、実際に企業でどのように会計が行なわれているかを新聞、雑誌の記事によって説明したい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計(学)は、どのような学問か。 2. (1)企業会計の理論的構造とは何か。 (2)企業会計の計算構造とは何か。 3. (1)日本の企業会計制度の仕組みを理解する。 (2)米国の企業会計制度の仕組みを理解する。 4. 「企業会計原則」の構造を学ぶ。 5. 「企業会計原則」の一般原則を学ぶ。 6. 資産会計 (1)資産の意義・概念 (2)資産の分類 (3)資産の評価 7. 流動資産の意義・分類・評価 8. 当座資産の概念・分類・評価 9. 有価証券の概念・分類・評価 10. 固定資産の概念・分類・評価・償却 11. 繰延資産の概念・種類・評価・償却 12. 無形固定資産の概念・評価・償却 <p>春学期は、会計の基礎的理論から資産会計の各論までを学びます。本書は、[貸借対照表→損益計算書→貸借対照表]という一連の流れから、先ず、資産会計を学び、それから損益会計を学ぶところが特徴です。</p>	
◆ 評価方法 <p>出席・レポート提出 (20%) 定期試験 (80%)</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>新井清光著・加古宜士(補訂)『現代会計学』(第7版)、中央経済社</p>			

03年度以降 01~02年度 (秋) 00年度以前	財務会計論 b 財務会計論 b 財務会計論	担当者	中村泰將
◆講義目的、講義概要 <p>秋学期は、貸借対照表の貸方側の負債会計、資本金会計を学びます。それから損益計算書の借方側の費用と貸方側の収益を学びます。資産、負債、資本は、企業の財政状態を表示しますが、費用、収益は企業の業績や分配可能な利益を表示しますが、これらの項目をどのように測定し、どのような科目で表示するかを学ぶことが重要になります。</p> <p>右の授業計画にもありますが、貸借対照表も損益計算書も法的実体によって計算する個別の財務諸表ですが、親会社と子会社を連結する連結財務諸表も時間があれば学びたいと思います。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 負債会計(1) 概念・分類・評価 2. 負債会計(2) 引当金の会計 3. 資本金会計(1) 意義・範囲・分類 4. 資本金会計(2) 払込資本、増資・減資の会計 5. 資本金会計(3) 評価替え資本の会計 受贈資本の会計 6. 資本金会計(4) 稼得資本の会計 配当可能利益の計算 7. 損益会計(1) 意義・範囲・区分 8. 損益会計の諸原則(2) (1)費用収益対応の原則 (2)費用配分の原則 (3)発生主義の原則 9. 損益会計の諸原則(3) (1)収益の認識基準 (2)実現主義と発生主義 10. 財務諸表の種類とその意義 11. 連結財務諸表(1) 連結貸借対照表の作成 12. 連結財務諸表(2) 連結損益計算書の作成 	
◆ 評価方法 <p>春学期と同じ。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>春学期と同じテキスト。</p>			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	原価計算論 a 原価計算論 a 原価計算論	担当者	齋藤正章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。</p> <p>講義概要 「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 原価計算総説－イントロダクション。原価計算論とはどういう学問か会計学の周辺領域との関係について解説。 2. 原価とは何か－原価計算における原価の本質、諸概念について解説。 3. 原価計算の基礎手続き－原価計算の基本的な流れに関する解説。財務会計との有機的結合について説明。 4. 原価の費目別計算(1)－材料費の計算について解説。 5. 原価の費目別計算(2)－労務費の計算について解説。 6. 原価の費目別計算(3)－経費の計算についての解説と費目別計算のまとめ。 7. 原価の部門別計算(1)－原価部門、部門費の分類、部門共通費の配賦について解説。 8. 原価の部門別計算(2)－補助部門費の配賦について解説。 9. 原価の部門別計算(3)－前回の続きおよび製造部門費の配賦についての解説。部門別計算のまとめ。 10. 個別原価計算(1)－今回から原価の製品別計算の解説に入る。個別原価計算の意義、手続について解説。 11. 個別原価計算(2)－原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係について解説。 12. 個別原価計算(3)－仕損費の計算と処理、作業屑の処理について解説。個別原価計算のまとめ。 	
◆ 評価方法			
出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。			
◆テキスト、参考文献			
『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一・奥村雅史著) 中央経済社			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	原価計算論 b 原価計算論 b 原価計算論	担当者	齋藤正章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。</p> <p>講義概要 「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合原価計算(1)－総合原価計算の意義、手続について個別原価計算と対比しながら解説。単純総合原価計算における期末仕掛品原価の評価に関する解説。 2. 総合原価計算(2)－前回の続きおよび仕損、減損の処理について解説。 3. 総合原価計算(3)－工程別総合原価計算、加工費工程別総合原価計算に関する解説。 4. 総合原価計算(4)－組別総合原価計算、等級別総合原価計算に関する解説。 5. 総合原価計算(5)－連産品の処理と副産物の処理について解説。総合原価計算のまとめ。 6. 標準原価計算(1)－標準原価計算の意義と手続に関する解説。および原価差異の算定と差異分析の方法について解説。 7. 標準原価計算(2)－前回の続きと標準原価計算の記帳方法について解説。 8. 直接原価計算(1)－直接原価計算の意義を全部原価計算のそれと対比しながら解説。あわせて直接原価計算の手続について解説。 9. 直接原価計算(2)－損益分岐点と損益分岐点分析に関する解説。 10. 特殊原価調査(1)－特殊原価調査の意義と特殊原価概念とその利用方法(意思決定)について解説。 	
◆ 評価方法			
出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。			
◆テキスト、参考文献			
『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一・奥村雅史著) 中央経済社			

03 年度(春) 01~02 年度(春) 00 年度以前	上級簿記 a(商業) 上級簿記 a(商業) 上級簿記	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>簿記原理を履修された方を前提としています。簿記原理は、簿記の基礎的な部分をカバーしたものです。日本商工会議所が主催する検定試験 3 級が簿記原理とすると、それは個人企業を主として対象としていました。</p> <p>上級簿記は、日本商工会議所が主催する検定試験 2 級の一部に相当し、中小規模の会社での簿記ということになります。したがって、重複する部分もあり、あるいは発展的な部分もあります。</p> <p>よって、基礎的な部分は事前に復習しておくことを期待しています。</p> <p>また、公認会計士や税理士、国税専門官、米国会計士を目指して学習されている方もいるでしょう。少しでも一助となるような講義を心がけます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義を始めるにあたってのイントロダクション 2 現金預金 3 手形 4 有価証券 5 偶発債務・その他 6 一般商品売買 7 特殊商品売買 8 特殊商品売買② 9 固定資産 10 引当金 11 税金 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
出席 40%、試験 50%、その他 10%			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します			

03 年度(秋) 01~02 年度(秋) 00 年度以前	上級簿記 a(商業) 上級簿記 a(商業) 上級簿記	担当者	井 出 健二郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>上級簿記 a を受講された方を前提としています。引き続き、必要な処理について講義していきます。一つの目標として、日本商工会議所簿記検定 2 級を視野に入れながら、新しい内容を理解しながらも、問題を解いていくなど実践的な講義としていきます。</p> <p>すなわち、電卓をそばにおいて問題を考えてもらうこととなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義を始めるにあたってのイントロダクション 2 株式会社会計 3 株式会社会計② 4 社債 5 決算 6 決算② 7 本支店会計 8 本支店会計② 9 帳簿組織① 10 帳簿組織② 11 伝票会計 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
出席 40%、試験 50%、その他 10%			
◆テキスト、参考文献			
開講時に指示します。			

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	上級簿記(工業)a 上級簿記(工業)a 上級簿記	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。 簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。		◆授業計画 1. Chapter1 イントロダクション Chapter2 原価計算のアウトライン 2. Chapter3 工業簿記の構造(1) 3. Chapter4 材料費会計 I 材料費の分類と会計処理 4. II 材料費の計算方法 5. III 予定価格による材料費の会計処理 IV 材料副費の予定計算 6. Chapter5 労務費会計 I 労務費の分類 II 支払賃金の会計処理 7. III 消費賃金の会計処理 IV 予定賃金による賃金の会計処理 8. Chapter6 経費会計 9. 工業簿記の構造(2) 10. Chapter7 個別原価計算の基礎 I 個別原価計算の考え方 11. II 製造間接費の実際配賦 III 製造間接費の予定配賦 12. Chapter8 個別原価計算の応用	
◆ 評価方法 試験 100点、プリント・とおるゼミ 10点			
◆テキスト、ワークブック TAC 出版『とおるテキスト日商簿記2級工業簿記』 『とおるゼミ日商簿記2級工業簿記』			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	上級簿記(工業)b 上級簿記(工業)b 上級簿記	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。 簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。 この上級簿記(工業)bは、上級簿記(工業)aで残された個別原価計算以降を練習します。		◆授業計画 1. 工業簿記の構造復習 2. Chapter8 個別原価計算の応用 I 製造間接費の部門別計算 II 製品への配賦と帳簿記入 3. III 製造間接費の部門別予定配賦 IV 仕損の会計処理 V 作業くずの会計処理 4. Chapter9 総合原価計算の基礎 I 総合原価計算の方法 II 原価配分の方法 5. III 等級別総合原価計算 IV 組別総合原価計算 6. Chapter10 総合原価計算の応用 I 工程別総合原価計算 II 仕損減損の処理 III 追加材料の処理 IV 副産物の処理 7. Chapter11 営業費会計と本社工場会計 8. Chapter12 標準原価計算 I 標準原価計算のポイント II 標準原価計算の流れ 9. III 標準原価計算の分析 10. Chapter13 直接原価計算 I CVP関係の分析 II 直接原価計算 11. III 固定費調整 IV 原価予測の方法 12. まとめ	
◆ 評価方法 試験 100点、プリント・とおるゼミ 10点			
◆テキスト、ワークブック TAC 出版『とおるテキスト日商簿記2級工業簿記』 『とおるゼミ日商簿記2級工業簿記』			

03年度以降 01～02年度（春）	国際会計論 a 国際会計論 a	担当者	五十嵐則夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. 講義目的 現在、わが国およびわが国の企業は、他国に渡り事業活動を行い、多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS）への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。 海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に、EU（欧州連合）諸国が、IASの導入に熱心であり、2005年よりEU所国内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は（IASB）は、会計基準の世界統一（convergence）を、目指して活動している。アメリカのFASB（財務会計基準委員会）もIASBと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、日本では企業会計基準委員会（ASB）が設置された。会計基準は、まさに統一化へ動こうとしている。</p> <p>2. 講義の概要 こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。</p> <p>評価方法—授業の出席率と成績で評価する。</p> <p>テキスト参考文献—開講時に指定する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際会計基準の概要—国際会計基準委員会の組織、基準の設定手続きなど 2. 財務諸表の構成、表示および開示—IASが対象にしている財務諸表の範囲、作成・表示・開示に関する基本的基準 3. 連結財務諸表—意義、連結範囲、作成基準、個別財務諸表における子会社投資の会計など 4. 関連会社投資に対する会計一定義、範囲、投資の会計処理方法、持分法の具体的な適用方法など 5. ジョイント・ベンチャーに対する持分の財務報告—意義、共同支配の事業、JV共同支配企業とJVとの取引の会計処理など 6. キャッシュ・フロー計算書—内容の理解、株主、経営者、投資家などにとってのキャッシュ・フローの重要性の理解 7. セグメント情報—セグメント情報の重要性の理解、マネージメント・アプローチ、開示セグメントの決定（重要性基準） 8. 外貨換算—外貨建て取引の会計、為替差額の認識、在外事業活動体の財務諸表の換算・開示 9. 関連当事者取引—特定の利害関係を有する関連当事者との取引の報告の重要性を理解する。 10. 収益の認識基準一定義と適用範囲、工事契約収益の認識、米国SECの収益認識基準の考え方 11. 借入費用—会計処理、資産化の要件、資産化するべき借入費用の額、資産化の期間 12. その他 	

03年度以降 01～02年度（秋）	国際会計論 b 国際会計論 b	担当者	五十嵐則夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. 講義目的 現在、わが国およびわが国の企業は、他国に渡り事業活動を行い、多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS）への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。 海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に、EU（欧州連合）諸国が、IASの導入に熱心であり、2005年よりEU所国内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は（IASB）は、会計基準の世界統一（convergence）を、目指して活動している。アメリカのFASB（財務会計基準委員会）もIASBと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、日本では企業会計基準委員会（ASB）が設置された。会計基準は、まさに統一化へ動こうとしている。</p> <p>2. 講義の概要 こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。</p> <p>評価方法—授業の出席率で成績評価する。</p> <p>テキスト・参考文献—開講時に指定する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融商品一定義、認識および測定、認識の中止、金融資産の金融負債の測定、有価証券、債権の評価（貸倒引当金）、デリバティブ、ヘッジ会計 2. 有形固定資産—有形および無形固定資産の認識、当初測定、減価償却、評価、除却・処分など 3. 減損会計—意義、減損の兆候、減損の認識・測定、洗い替えと切り離し法など 4. リース会計一定義と分類、キャピタル・リースとオペレーティング・リース、借手側の会計処理、貸手側の会計処理、セールス・アンド・リースバック取引 5. 年金会計—給付アプローチ、年金債務の種類（PBO, ABO, VBO）、回廊方式、厚生年金基金の代行部分の返上の米国基準の会計処理、IAS/USGAAP/JAPANの差異 6. 法人所得税—税効果会計の意義、資産負債法、繰延税金資産の実現可能性、IAS/USGAAP/JAPANの差異 7. 企業結合—「取得」と「持分の結合」、取得の会計処理（パーチェス法）、持分の結合（持分プーリング）の会計処理 8. ストック・オプションの会計—費用の認識、測定基準日、失効の取り扱い、測定の取り扱い、費用認識の時期 9. 研究開発費一定義、構成要素、認識、開発費の償却 10. 一株当たり利益—意義、投資家にとっての重要性、国際的企業・日本企業の実例 11. 財務諸表表示の国際比較 12. その他 	

03年度以降 (春)	経営数学 a	担当者	本田 勝
01~02年度 (春)	経営数学 a		
00年度以前	経営数学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講義は「経営数学」という名前になってはいるが、経済学や経営学とその周辺の学問を学ぶにあたって必要な数学の基本的な部分を習得することを目的とする。</p> <p>回帰分析の手法や目的関数の最適化などを行うには微分や行列の概念が必要であるし、産業構造の把握に欠かせない産業連関分析にも行列論の概念が使われる。また広い意味の情報科学の中では、データ構造やアルゴリズムを考える上ではいわゆる離散数学の考え方も必要である。</p> <p>講義にあたってはテキストを中心に、ときにはプリントを配布し、できるだけ平易に解説することにする。また理解を深めるためには、受講者自身の演習を取り入れたり、コンピュータによる考え方の提示なども取り入れていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 講義を始めるにあたって 2 集合とは何か 集合の演算 3 命題と命題算 4 証明の方法 5 ベクトルとベクトルの演算 (ベクトルの定義、ベクトル空間) 6 行列の定義 (基本演算、単位行列) 7 行列の基本変形 (逆行列、行列の階数) 8 連立1次方程式 (ガウスの消去法) 9 行列式の定義とその性質 10 行列と1次変換 11 固有値と固有ベクトル 12 まとめと演習 	
◆評価方法			
演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価			
◆テキスト、参考文献			
石田望ほか『経済・経営のための基礎数学』 新版 実教出版			

03年度以降 (秋)	経営数学 b	担当者	本田 勝
01~02年度 (秋)	経営数学 b		
00年度以前	経営数学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
経営数学 a と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 行列の応用 (線形計画法) 2 行列の応用 (シンプレックス法) 3 行列の応用 (産業連関表) 4 行列の応用 (産業連関の分析) 5 関数の極限 (数列の極限、関数の連続性) 6 導関数と微分 (微分の意味、高階導関数) 7 微分の計算 (微分法、媒介変数の微分) 8 多変数関数とその微分 (偏微分、全微分) 9 微分の応用 (極大極小、ラグランジェ未定係数法) 10 差分と差分方程式 11 微分方程式とその応用 (成長曲線、均衡価格安定性) 12 まとめと演習 	
◆評価方法			
演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価			
◆テキスト、参考文献			
石田望ほか『経済・経営のための基礎数学』 新版 実教出版			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	情報システム論 a 情報システム論 a 情報システム論	担当者	今福 啓
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>個人が天気予報を見てその日の行動を決定したり、企業が製品の売り上げをもとに生産管理を行うように、情報は行動決定において、たいへん重要な役割を持っています。このような情報を効率よく的確に収集し、処理して発信することで、個人や企業が現代社会における活動を支援するためのシステムを、情報システムといいます。必要となる情報を、より適した形で利用するには、業務についての知識だけでなく、情報システムにおいて使用されているコンピュータやネットワーク、業務システムの分析法やモデル化手法や設計手法といった、幅広い知識が必要となります。情報システム論 a においては、情報システムについての全体像を把握し、情報システムに関連する個々の基礎技術についての理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. 情報システムの基礎－全体像を見る 3. 社会における情報システムの具体例 4. 情報システムの構成要素 1－コンピュータハードウェア 5. 情報システムの構成要素 2－コンピュータソフトウェア 6. 情報システムの構成要素 3－コンピュータネットワーク 7. 情報システムにおける情報処理方式 8. 情報システム設計の基礎手法－業務のモデル化とモデル化手法 9. 構造化手法とオブジェクト指向手法 10. オブジェクト指向アプローチの基礎 11. オブジェクト指向による分析・設計方法 12. 授業のまとめ 	
◆ 評価方法			
課題、期末試験の結果を総合して判断します。			
◆テキスト、参考文献			
特に指定しません。			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	情報システム論 b 情報システム論 b 情報システム論	担当者	今福 啓
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>情報システム論 b では、情報システムを構築する際に必要となる知識を身につけることを目的とします。具体的には、情報システムの要求分析、設計、実現にいたるプロセスのそれぞれについて、学習していきます。また、実際にどのような場面で、こういった形で情報システムを利用すれば、より業務の効率を向上させられるのかという点についても理解することを目指します。これらを理解することで、情報システムの構築と、利用形態の双方についての知識を互いに組み合わせて、より良い情報システムを構築できるようになることを目標とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報システム構築のアプローチ 1－ライフサイクル 2. 情報システム構築のアプローチ 2－ウォーターフォール型モデルとプロトタイプモデル 3. 情報システムの分析－現状の把握と問題解決の手順 4. システムのモデル化手法について 5. 情報システムの設計 1－情報システムの全体像の構想 6. 情報システムの設計 2－情報システムの仕様決定 7. UML (Unified Modeling Language) とは 8. UML によるシステム開発 1－クラス図 9. UML によるシステム開発 2－シーケンス図 10. UML によるシステム開発 3－ステートチャート図 11. 情報システムの保守・管理 12. 授業のまとめ 	
◆ 評価方法			
課題、期末試験の結果を総合して判断します。			
◆テキスト、参考文献			
特に指定しません。			

03年度以降 01-02年度（春） 00年度以前	情報社会論 a 情報社会論 a	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要 <p>情報技術（IT）の広がり変える社会のしくみをさまざまな領域からとらえ、個人の暮らしと企業・組織や行政などに及ぼす影響を功罪の両面から問い直してゆくの講義の狙いである。</p> <p>春学期の授業では「もの作り」を中心にした近代社会が「情報」を中心にしたしくみに転換するなかで、企業組織や経済社会の原理がどのような変化の波に洗われているかを考える。</p> <p>コンピューターネットワークを核にした情報技術の革命は、製造業中心の旧来の伝統的な産業社会をコストや組織の面からだけでなく、資産や労働などに対する資本主義社会の「常識」を根幹から変える要素を含んでいる。いわゆるニューエコノミー論は、電子商取引などによる情報の支配力が旧来の収益構造を変えて、ITが企業に飛躍的な成長をもたらすものと位置づけたが、米国のエンロンやワールドコム破綻はこうした仮説を裏切る結果となった。とはいえ、IT化が現実を大きく変えつつあることに変わりはない。情報が動かす経済社会のありかたを考える。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 情報社会の前史 3 メディアと情報化 4 ネットが変える企業組織 5 ニューエコノミー論の虚実 6 IT化とバブル経済 7 IT化とアジア金融危機 8 知的財産の優位性と企業 9 近代化モデルとIT 10 情報格差（デジタルデバイド） 11 エンロン破綻の意味 12 まとめ 	
◆評価方法 <p>提示の試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を加味して評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）を前期の参考文献とする。</p>			

03年度以降 01-02年度（秋） 00年度以前	情報社会論 b 情報社会論 b	担当者	柴崎 信三
◆講義目的、講義概要 <p>IT化はこれまでの個人の生活や社会システムの統治のしくみを揺るがす変革でもある。ユビキタス（どこでも）社会は暮らしに大きな利便をもたらす反面、プライバシーをはじめとする個人の情報や資産が容易に盗まれる可能性があり、これに対するリスク管理や新たな自由に見合った規制の仕組みも重要な課題である。</p> <p>個人と個人を結ぶネットワークの効果は新たな市場を育てる傍ら、中間プロセスの省略による時間やコストの削減など経済的な効果を生む。その一方で、既存の雇用機会の喪失や「なりすまし」などによる犯罪も容易になり、個人情報や資産を巡るこうした社会的リスクへの対応が現実的な課題になっている。</p> <p>著作物の流通がネット上で自在に広がり、行政の効率化をめざす電子政府や電子マネーによる決済が日常化すれば、行政機構や貨幣といった実体に依存した暮らしがネット上に置き換えられることで、人々はどんな現実を手にするようになるのか。IT社会の実像と課題を探りたい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 雇用とIT 3 電子政府と住基ネット 4 個人情報保護 5 ネット犯罪 6 電子マネーと認証制度 7 著作権保護とIT 8 ネットが変える政治 9 消費とIT 10 表現の自由とサイバー情報 11 エシユロンーITと安全保障 12 まとめ 	
◆評価方法 <p>定時試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を加味して評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>特に指定せず。西垣通『IT革命』（岩波新書）を参考文献とする。</p>			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

03年度以降 01～02年度 (秋)	コンピュータアーキテクチャ (秋期完結科目) コンピュータアーキテクチャ (秋期完結科目)	担当者	今福 啓
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講義では、現在のコンピュータのハードウェアの基本構造と、その動作原理を理解することを目的としています。これらを理解し、コンピュータに何が出来て何が出来ないのかについて把握することで、コンピュータを利用する上での手助けとなる知識が得られることを目指しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 コンピュータの基本構造－5つの装置（入力装置、出力装置、演算装置、制御装置、記憶装置） 3 コンピュータの基本動作 4 データの表現（整数、実数、文字） 5 コンピュータにおける演算 6 演算装置と制御装置の動作 7 演算装置と制御装置の構造－高速な演算のための構造について 8 コンピュータの命令語とプログラム 9 CASLによる命令語の実習（その1） 10 CASLによる命令語の実習（その2） 11 記憶装置－主記憶装置、補助記憶装置、外部記憶装置 12 授業のまとめ 	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">課題、期末試験の結果を総合して判断します。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">特に指定しません。</div>			

03年度以降 01～02年度 (春)	情報と職業 a 情報と職業 a	担当者	小林 哲也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータとネットワークの融合が、IT革命の核心である。この情報技術における革命は、経済の仕組みや企業系絵インドに大きな影響を与えているだけでなく、渡したに生活・教育・職業などのあり方にも、大きな変化を迫ってきている。</p> <p>本講義では、1990年代以降の情報技術革命の推移とそのインパクトを解説してゆく。ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的な側面についても、詳しく解説してゆく。また情報教育に携わる上で必須の情報社会の問題点や情報倫理のあり方についても、多面的にふれてゆく。</p> <p>情報社会を巡るテーマについて各自が研究発表のプレゼンテーションを行うことも、必須である。</p> <p>本講義は、高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持った学生の受講を希望する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>近藤勲編著『情報と職業』丸善</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：情報と職業 ---情報技術革命のインパクト 2. インターネットの「爆発」 3. インターネットと「市民」 4. IT革命と企業組織 5. IT革命と企業経営 6. IT革命後のビジネス環境 7. デジタル革命と知的所有権 8. パブリック・ドメイン 9. 情報をめぐる分権と集権 10. 国境を越えるIT空間 人材開発・モノ作り・流通の国際化 11. 20世紀の工業化・21世紀の工業化 12. 情報化社会の基盤と情報倫理 	

03年度以降 01～02年度 (秋)	情報と職業 b 情報と職業 b	担当者	小林 哲也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、1990年代以降の情報技術革命の推移とそのインパクトを解説してゆく。ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的な側面についても、詳しく解説してゆく。また情報教育に携わる上で必須の情報社会の問題点や情報倫理のあり方についても、多面的にふれてゆく。</p> <p>後期は主として情報社会の問題点を提示し、各自が研究発表のプレゼンテーションを行うことを主とする応用編となる。</p> <p>本講義は、高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持った学生の受講を希望する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期の授業計画 2. 情報化社会の諸問題 新しいネットワーク理論 3. 情報化社会の諸問題 市場化と智能化 4. 情報化社会の諸問題 デジタル・デバイド 5. 情報化社会の諸問題 情報倫理 6. 情報化社会の諸問題 知的財産権 7. 情報化社会の諸問題 情報産業 新しい職種 8. 情報化社会の諸問題 情報開示 プライバシー権 9. プレゼンテーション演習 10. プレゼンテーション演習 11. プレゼンテーション演習 12. プレゼンテーション演習 	

03年度以降 01～02年度 (春)	アルゴリズム論 a アルゴリズム論 a	担当者	木村昌史
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アルゴリズムとは狭い意味では、コンピュータを用いて問題解決をするためのプログラミングの前段階である処理手順を意味する。それは人間の思考による処理のプロセスとは必ずしも同一ではなく、コンピュータ独特のものも多い。ここではコンピュータ科学の基礎として、すでに確立されている典型的、定型的なアルゴリズムについて学ぶことを目的とする。</p> <p>前期にはそもそも問題解決とは何かという考えから始め、結果が予想できる問題について、アルゴリズムの視覚化、図示化を行いながらその基本構造を理解する。基本アルゴリズムは複雑な問題を解決する上で要素的な手法であり、多くの分野に適用がきく手法でもある。講義とパソコン実習を取り入れながら進める。プログラミングの知識は前提にはしないが、Excelを用いた基本的な処理（関数やグラフの利用）ができることが望ましい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特に指定しない。 授業時にテキスト資料・データなどを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アルゴリズムとは何か コンピュータによる問題解決の方法 2 条件判断・分岐・繰り返し Excel の関数の例 3 アルゴリズムの図示化 JIS フローチャート、UML 4 データ構造とアルゴリズム データの表現方法 5 整列のアルゴリズム ソートの各種の手法 6 整列と計算量 アルゴリズムの効率の評価 7 探索のアルゴリズム 線形探索法、二分探索法 8 ハッシュ法 効率的な探索法 9 木構造・索引付け 二分木、B 木 10 文字列の探索 KMP 法、BM 法 11 グラフの表現 グラフによる最短経路 12 前期のまとめ 実習のまとめ、補足 	

03年度以降 01～02年度 (春)	アルゴリズム論 b アルゴリズム論 b	担当者	木村昌史
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期には定型的な狭い意味でのアルゴリズムについて学んだが、後期には非定型なより広い意味でのアルゴリズムについて学ぶことを目的とする。</p> <p>問題解決の方法が確立していない問題に対しては、コンピュータによる処理を適用する以前に、問題に対する深い分析や洞察が必要となる。方法が確立されていない例としては、たとえばゲームの必勝法とか確率的な現象の予測のようなものがあり、アプローチする方法としては、発見法的方法や数値的なシミュレーションがある。ただ、こうした方法はあくまで「近似的」な手段であり、真の解決とは異なることを理解する。それでも実用的な価値は十分である場合も少なくない。ここでは経済学部であることも鑑みて、経済・経営に関連する話題も例題としてとり入れながら進める。前期と同様に講義とパソコン実習を取り入れながら進める。Excel の応用も兼ねて VBA を活用した実習も行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>特に指定しない。 授業時にテキスト資料・データなどを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高次方程式の近似解法 解の公式とは役に立つのか？ 2 ゲームの理論 ゲームに勝つための最善手とは？ 3 モンテカルロ法 いわゆるシミュレーションの方法とは？ 4 ランダムパッキング 駐車場に停められる車の台数は？ 5 動的計画法 品物をナップザックに詰め込む方法は？ 6 巡回商人問題 NP 完全問題とは何か？ 7 待ち行列の問題 サービス窓口の効率、通信量の問題とは？ 7 在庫管理の問題 商品の売行きと仕入れ発注のタイミングは？ 8 株価の変動 株価の変動はどのようなふるまいか？ 9 産業連関分析 産業の構造はどのようにつり合うのか？ 10 ロジスティック曲線とカオス 小さな差異が予測不能の結果を導く？ 11 フラクタル カオスに含まれる自己相似的な構造とは？ 12 後期のまとめ、補足 	

03 年度以降 01～02 年度 (春)	著作権法 a 著作権法 (通年)	担当者	長塚真琴
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>著作権法は、本や CD、写真やコンピュータソフトなどの「中身」を、他人による模倣から保護する法律である。この法は最近、理論的にも実務的にも注目を集めており、巷では著作権法不要論も含む様々な議論が交わされるようになってきた。</p> <p>この講義は、実定法に関する基礎知識を身につけ、著作権法をめぐる議論において、自分なりの考えを持てるようになることを目的とする。</p> <p>レジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。全体の流れをつかみたい人は、参考文献の 1) を通読するとよい。講義には、著作権法の載っている、最新の六法を携帯すること。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/less0080/</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験による。レポートか小テストを課すこともある。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>参考書：1) 半田正夫『インターネット時代の著作権』（丸善ライブラリー350）、2) 『著作権判例百選（第3版）』（有斐閣・別冊ジュリスト156）</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 著作物 1 著作物の定義 3 著作物 2 著作物の定義（続き） 4 著作物 3 言語著作物等 5 著作物 4 美術著作物等 6 著作物 5 映画著作物等 7 著作物 6 プログラム著作物等 8 著作者と著作権者 1 原則 9 著作者と著作権者 2 職務著作 10 著作者の権利 1 総論・公表権 11 著作者の権利 2 氏名表示権・同一性保持権 12 著作者の権利 3 複製権等 	

03 年度以降 01～02 年度 (秋)	著作権法 b 著作権法 (通年)	担当者	長塚真琴
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>著作権法は、本や CD、写真やコンピュータソフトなどの「中身」を、他人による模倣から保護する法律である。この法は最近、理論的にも実務的にも注目を集めており、巷では著作権法不要論も含む様々な議論が交わされるようになってきた。</p> <p>この講義は、実定法に関する基礎知識を身につけ、著作権法をめぐる議論において、自分なりの考えを持てるようになることを目的とする。</p> <p>レジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。全体の流れをつかみたい人は、参考文献の 1) を通読するとよい。講義には、著作権法の載っている、最新の六法を携帯すること。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/less0080/</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験による。レポートか小テストを課すこともある。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>参考書：1) 半田正夫『インターネット時代の著作権』（丸善ライブラリー350）、2) 『著作権判例百選（第3版）』（有斐閣・別冊ジュリスト156）</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 著作者の権利 4 上演・演奏権等 14 著作者の権利 5 公衆送信権等 15 著作者の権利 6 二次的著作物の利用権等 16 著作権の制限 1 私的複製等 17 著作権の制限 2 引用等 18 著作権の制限 3 教育目的の制限等 19 著作権の制限 4 その他の制限 20 著作権の変動 譲渡・利用許諾等 21 著作者隣接権 実演家等の権利 22 著作権の侵害 1 民事上の責任等 23 著作権の侵害 2 侵害とみなされる行為等 24 権利の集中処理機構 JASRAC 等 	

03年度以降（春） 01～02年度（春） 英語Ⅰ講読（再履修） 00年度以前 英語Ⅰ講読（再履修）	担当者	沼隆三
◆講義目的、講義概要 <p>① 英語読解力養成を主眼とする。</p> <p>② 英文を正確に読んで、内容を理解する基礎的学習に重点を置く。</p> <p>③ 必要に応じ、文法や修辞に関し解説する。特に省略、倒置、隠喩など。</p> <p>④ 内容把握に必要な風俗、習慣、歴史、文化など教養教育的な面も重視する。</p> ◆評価方法 <p>① 定期試験（前期・後期）②平素の学習状況</p> <p>② 出席状況などから、総合的に評価する。</p> ◆テキスト、参考文献 <p>未定、授業開始に間に合うようにします。</p>	◆授業計画 <p>① 第1回目は 授業の進め方、辞典の利用の仕方などの説明をする。</p> <p>② 第2回目以降は1回の授業で約3頁進み、年間24回で約70頁進む。</p> <p>③ 学生諸君に音読と和訳をしてもらった後、解説と訂正訳をする。</p>	

03年度以降（秋） 01～02年度（秋） 英語Ⅰ講読（再履修） 00年度以前 英語Ⅰ講読（再履修）	担当者	沼隆三
◆講義目的、講義概要 ◆評価方法 ◆テキスト、参考文献	◆授業計画	

03 年度以降 (春)

01~02 年度 (春) 英語 I 会話 (再履修)

00 年度以前 英語 I 会話 (再履修)

担当者

本田謙介

◆講義目的、講義概要

視聴覚教材を使い、ビデオを見て、あるいはテープを聴いての聞き取り、書き取り、及び会話を練習する。さらに、毎回英字新聞の記事を読むので必ず英和辞書を持ってくること。

なお5回以上(全授業数の1/3以上)欠席した学生には定期試験の受験資格を与えない。

◆評価方法

出席、小テスト、定期テストを総合的に評価する

◆テキスト、参考文献

Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English
Macmillan Languagehouse

◆授業計画

- (1) Ch.1 Where do I get the bus?
- (2) Ch.2 Do you have a reservation ma'am?
- (3) Ch.3 Could you repeat that?
- (4) Ch.4 I'll take the Wrangler Convertible
- (5) Ch.5 Would you like soup or salad?
- (6) Ch.6 Where's the fitting room?
- (7) Ch.7 Would you mind taking my picture?
- (8) Ch.8 Good to see you!
- (9) Ch.9 I enjoyed my stay
- (10) Ch.10 Aisle seat, please
- (11) 予備日
- (12) 春学期授業内容に関する質疑応答

03 年度以降 (秋)

01~02 年度 (秋) 英語 I 会話 (再履修)

00 年度以前 英語 I 会話 (再履修)

担当者

本田謙介

◆講義目的、講義概要

視聴覚教材を使い、ビデオを見て、あるいはテープを聴いての聞き取り、書き取り、及び会話を練習する。さらに、毎回英字新聞の記事を読むので必ず英和辞書を持ってくること。

なお5回以上(全授業数の1/3以上)欠席した学生には定期試験の受験資格を与えない。

◆評価方法

出席、小テスト、定期テストを総合的に評価する

◆テキスト、参考文献

Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English
Macmillan Languagehouse

◆授業計画

- (1) Ch.11 You are one of the family now
- (2) Ch.12 I want to help!
- (3) Ch.13 So, what's your major?
- (4) Ch.14 I'll try to do my best
- (5) Ch.15 When do I have to return this?
- (6) Ch.16 Do you have any ID?
- (7) Ch.17 How about sea mail?
- (8) Ch.18 Would you like to join us?
- (9) Ch.19 I have a sore throat
- (10) Ch.20 Let's keep in touch, OK?
- (11) 予備日
- (12) 秋学期授業内容に関する質疑応答

01～02年度 (春) 00年度以前	英語Ⅱ講読 (再履修)	担当者	福田有美
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学生が読むに十分な知的刺激のある内容の英文を読みこなす力をつける。 英語圏で実際に放映された科学番組を題材とした教材を読み、内容理解を確認するドリルを行う。番組のビデオを見て、内容理解の一助とする。 また、随時インターネットのHP等から生情報(主に経済関連記事)を教材として、実践的英文読解力の向上を目指す。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画 英文HPを読む 2. テキスト Unit 1 3. テキスト Unit 1、英文HP紹介 4. テキスト Unit 2 5. テキスト Unit 2、英文HP紹介 6. テキスト Unit 3 7. テキスト Unit 3、英文HP紹介 8. テキスト Unit 4 9. テキスト Unit 4、英文HP紹介 10. テキスト Unit 5 11. テキスト Unit 5、英文HP紹介 12. 補助教材 	
<p>◆評価方法</p> <p>定期試験 (70%) 小テスト・課題・授業活動全般 (30%)</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Science for Inquiring Minds</i>(ビデオで学ぶ暮らしの科学)、Masakazu Someya & Fred Ferrasci, 2004,成美堂</p>			

01～02年度 (秋) 00年度以前	英語Ⅱ講読 (再履修)	担当者	福田有美
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大学生が読むに十分な知的刺激のある内容の英文を読みこなす力をつける。 英語圏で実際に放映された科学番組を題材とした教材を読み、内容理解を確認するドリルを行う。番組のビデオを見て、内容理解の一助とする。 また、随時インターネットのHP等から生情報(主に経済関連記事)を教材として、実践的英文読解力の向上を目指す。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. テキスト Unit 6 14. テキスト Unit 6、英文HP紹介 15. テキスト Unit 7 16. テキスト Unit 7、英文HP紹介 17. テキスト Unit 8 18. テキスト Unit 8、英文HP紹介 19. テキスト Unit 9 20. テキスト Unit 9、英文HP紹介 21. テキスト Unit 10 22. テキスト Unit 10、英文HP紹介 23. テキスト Unit 11 24. テキスト Unit 11、英文HP紹介 	
<p>◆評価方法</p> <p>定期試験 (70%) 小テスト・課題・授業活動全般 (30%)</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Science for Inquiring Minds</i>(ビデオで学ぶ暮らしの科学)、Masakazu Someya & Fred Ferrasci, 2004,成美堂</p>			

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	英語Ⅱ講読（再履修） 英語Ⅱ講読（再履修）	担当者	佐竹由帆
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>読解力を高めることがこの講義の第一の目的です。様々な話題を扱った比較的読みやすい約2ページの英文を毎回読みながら、基礎的な文法、単語を確認します。準拠テープを使い、リスニングもあわせて行い、総合的な英語力を高めることも目的とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験で評価します。3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>New Interactive Reader. Kinseido</i></p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 Unit 1 2 Unit 2 3 Unit 3 4 Unit 4 5 Unit 5 6 Unit 6 7 Unit 7 8 Unit 8 9 Unit 9 10 Unit 10 11 Unit 11 12 Unit 12</p>	

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	英語Ⅱ講読（再履修） 英語Ⅱ講読（再履修）	担当者	佐竹由帆
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>読解力を高めることがこの講義の第一の目的です。様々な話題を扱った比較的読みやすい約2ページの英文を毎回読みながら、基礎的な文法、単語を確認します。準拠テープを使い、リスニングもあわせて行い、総合的な英語力を高めることも目的とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験で評価します。3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p><i>New Interactive Reader. Kinseido</i> テキスト終了後、プリント使用</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>1 Unit 13 2 Unit 14 3 Unit 15 4 Unit 16 5 Unit 17 6 Unit 18 7 Unit 19 8 Unit 20 9 プリント 10 プリント 11 プリント 12 プリント</p>	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 英語Ⅱ講読(再履修) 00年度以前 英語Ⅱ講読(再履修)	担当者	三浦郁代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>健康と新技術という重要なテーマをビジネスの視角でとらえたテキストを学ぶ。 この方面のポキアブライーを身につける機会を持つのは、英字新聞などを読む上でも意味あることと思う。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席、予習状況、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>ジョン・ペロケティ他著: HEALTH AND BUSINESS (南雲堂 2001年)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康情報に気を付けよう! 2. 健康情報に気を付けよう! 3. 健康情報に気を付けよう! 音楽療法 4. 音楽療法 5. 音楽療法、遺伝子検査 6. 遺伝子検査 7. 遺伝子検査 8. 身体をささえるカルシウム 9. 身体をささえるカルシウム 10. 身体をささえるカルシウム 11. ガン治療とタンパク質 12. ガン治療とタンパク質 	

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 英語Ⅱ講読(再履修) 00年度以前 英語Ⅱ講読(再履修)	担当者	三浦郁代
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>健康と新技術という重要なテーマをビジネスの視角でとらえたテキストを学ぶ。 この方面のポキアブライーを身につける機会を持つのは、英字新聞などを読む上でも意味あることと思う。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席、予習状況、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>ジョン・ペロケティ他著: HEALTH AND BUSINESS (南雲堂 2001年)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そばは栄養満点 2. そばは栄養満点 3. そばは栄養満点、ダイエットに要注意 4. ダイエットに要注意 5. ダイエットに要注意 6. 肥満治療の最前線 7. 肥満治療の最前線 8. 肥満治療の最前線、カロリーと新陳代謝 9. カロリーと新陳代謝 10. カロリーと新陳代謝 11. 睡眠をあんどうきな! 12. 睡眠をあんどうきな! 	

03年度以降(春)
01~02年度(春) 英語Ⅱ総合(再履修)
00年度以前 英語Ⅱ総合(再履修)

担当者 工藤政司

◆講義目的、講義概要

海外留学・旅行に際して必要な表現と
その他を英作文の演習を通じて修得する
ことを目的とする。

◆評価方法

テストの得点及び平常の発表成績により
評価する。

◆テキスト、参考文献

(I) Richard H. Schnepf 及び Toshikuni Muraishi 著 Creative English Composition for Overseas Study or Travel
(II) 中田清一・田辺正美著 Communicative English Writing

◆授業計画

- (I) 1 To go or not to go 2 Step by Step 3 Don't forget
4 Fasten your seat belts 5 Passport, please
6 Glad to meet you 7. Have a nice stay
8 Sunny side up 9 Rates of Exchange
10 Unlimited Mileage 11 I'm a stranger Here.
12 Turn down that stereo 13 Repeat After Me
14 Check it out 15 Things Japanese
16 Right at Home 17 It's Party Time
18 I'd Love to 19 Sticks 'em up 20 Cash or
Charge? 21 Japan, please 22 Smoking or
Non-smoking?

- (II) 1. My Major at College 6. Japan in the 21st Century
2. Driving to School 7. Japan
3. Classes 8. Nihongo Explosion
4. Dictionaries 9. Friends
5. Media 10. Telephone

03年度以降(秋)
01~02年度(秋) 英語Ⅱ総合(再履修)
00年度以前 英語Ⅱ総合(再履修)

担当者 工藤政司

◆講義目的、講義概要

海外留学・旅行に際して必要な表現と
その他を英作文の演習を通じて修得する
ことを目的とする。

◆評価方法

テストの得点及び平常の発表成績により
評価する。

◆テキスト、参考文献

(I) Richard H. Schnepf 及び Toshikuni Muraishi 著 Creative English Composition for Overseas Study or Travel
(II) 中田清一・田辺正美著 Communicative English Writing

◆授業計画

- (I) 1 To go or not to go 2 Step by Step 3 Don't forget
4 Fasten your seat belts 5 Passport, please
6 Glad to meet you 7. Have a nice stay
8 Sunny side up 9 Rates of Exchange
10 Unlimited Mileage 11 I'm a stranger Here.
12 Turn down that stereo 13 Repeat After Me
14 Check it out 15 Things Japanese
16 Right at Home 17 It's Party Time
18 I'd Love to 19 Sticks 'em up 20 Cash or
Charge? 21 Japan, please 22 Smoking or
Non-smoking?

- (II) 1. My Major at College 6. Japan in the 21st Century
2. Driving to School 7. Japan
3. Classes 8. Nihongo Explosion
4. Dictionaries 9. Friends
5. Media 10. Telephone

01～02年度 (春) 00年度以前	英語 II 総合 (再履修) 英語 II 総合 (再履修)	担当者	豊田宣是
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>NHKのBSニュースをもとにしたビデオ教材を使います。 授業の目的は二つ。一つ目は、テレビのニュースが理解できるようになること。二つ目は、そこで使われている表現を使って自分の考えを表現できるようになることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 漫画、アメリカへ進出 3 漫画、アメリカへ進出 4 拉致被害者の思い 5 拉致被害者の思い 6 携帯---機能拡大 7 携帯---機能拡大 8 新型肺炎の影響 9 ペットとの会話 10 「禁煙大国日本」---最近の動き 11 日本の「食」の再認識 12 おもちゃは大人がターゲット 	
◆評価方法			
出席、小テスト、レポートによる。			
◆テキスト、参考文献			
山崎達朗『News Watch 3』(金星堂、2004年)			

01～02年度 (秋) 00年度以前	英語 II 総合 (再履修) 英語 II 総合 (再履修)	担当者	豊田宣是
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>NHKのBSニュースをもとにしたビデオ教材を使います。 授業の目的は二つ。一つ目は、テレビのニュースが理解できるようになること。二つ目は、そこで使われている表現を使って自分の考えを表現できるようになることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 酔わないビール 2 今度は本物 3 現代人と眠り 4 アイヌ民族の伝統楽器復活! 5 文字放送---裏方の苦勞 6 電動車椅子サッカー 7 成功するか自転車タクシー 8 竹のパワー 9 昆虫産業に注目! 10 不登校の問題---校内、もうひとつの居場所 11 雪国の慣わし 12 雪解水の効用 	
◆評価方法			
出席、小テスト、レポートによる。			
◆テキスト、参考文献			
山崎達朗『News Watch 3』(金星堂、2004年)			

01～02年度（春） 00年度以前	英語Ⅱ総合（上級）再履修 英語Ⅱ総合（上級）再履修	担当者	豊田宣是
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アメリカのABC放送局のニュース番組をもとにしたビデオ教材を使います。 授業の目的は二つ。一つ目は、テレビのニュースが理解できるようになること。二つ目は、そこで使われている表現を使って自分の考えを表現できるようにすることです。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 受験生が増える大学 3 受験生が増える大学 4 世界で反戦運動 5 世界で反戦運動 6 バグダッド陥落 7 バグダッド陥落 8 清潔な国、日本 9 清潔な国、日本 10 恐ろしいピーナッツアレルギー症 11 恐ろしいピーナッツアレルギー症 12 異常気象、寒い春 	
<p>◆評価方法</p> <p>出席、小テスト、レポートによる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>山根繁『ABC World News 6』（金星堂、2004年）</p>			

01～02年度（秋） 00年度以前	英語Ⅱ総合（上級）再履修 英語Ⅱ総合（上級）再履修	担当者	豊田宣是
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アメリカのABC放送局のニュース番組をもとにしたビデオ教材を使います。 授業の目的は二つ。一つ目は、テレビのニュースが理解できるようになること。二つ目は、そこで使われている表現を使って自分の考えを表現できるようにすることです。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都会の交通渋滞を解決するには 2 都会の交通渋滞を解決するには 3 ボランティア活動がピンチ 4 ボランティア活動がピンチ 5 クジラの大群、浜へ 6 クジラの大群、浜へ 7 宇宙旅行を夢見る人々 8 苦悩するニューヨーク経済 9 肥満は万病の元？ 10 国立公園でも交通渋滞 11 迷惑メールの退治法 12 メディカル・プライバシー 	
<p>◆評価方法</p> <p>出席、小テスト、レポートによる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>山根繁『ABC World News 6』（金星堂、2004年）</p>			

01～02年度 (春) 00年度以前	社会学 (通年)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で理解し、他者、自己、そして社会について、社会学的な視点から考えたい。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業のなかで指示する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史 (1) 3. 社会学の歴史 (2) 4. 社会の種類 (1) ——コミュニティとアソシエーション 5. 社会の種類 (2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 6. 社会の種類 (3) ——タテ社会とヨコ社会 7. アイデンティティ形成と社会 ——社会的役割について 8. 文化と社会 (1) ——シンボルと価値体系 9. 文化と社会 (2) ——意味とコミュニケーション 10. 社会問題を考える (1) 11. 社会問題を考える (2) 12. まとめ 	

01～02年度 (秋) 00年度以前	社会学 (通年)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>人間関係に悩んだとき、私たちは相手の言動をどう解釈するだろうか？ なんらかの決断を下すとき、私たちは何を基準にするだろうか？ 誰かに相談する、科学的なデータをかき集める、ハウツー本を熟読する、エンピツを転がす、占う…など、とにかくいろいろと試行錯誤してみるにちがいない。現代社会は、大小を問わずさまざまな問題を抱えている。しかし私たちは、そういった問題を単に眺めているだけではなく、なんとかして(ある程度)のリスクを覚悟したうえで)解決しようと試みるだろう。</p> <p>まず本講義の前半では、現代社会が生み出した諸問題を社会学的に分析する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、社会的な問題の解決方法がそれぞれの社会(文化)によってどのように異なるのかを見てゆく。</p> <p>なお、本講義は春学期「社会学 a」を基礎にしているので、できれば通年で履修してほしい。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業のなかで指示する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会学的な視点から見た「社会問題」 3. 社会構造の変化と文化変容 4. ボーダーレス社会とリスク 5. 現代社会の諸問題 (1) ——科学と宗教、死生観 6. 現代社会の諸問題 (2) ——移民の雇用 7. 現代社会の諸問題 (3) ——無国籍児童の保健 8. 現代社会の諸問題 (4) ——未定 9. 異文化間におけるリスク処理 (1) 10. 異文化間におけるリスク処理 (2) 11. 異文化間におけるリスク処理 (3) 12. まとめ 	

01～02年度（春）	日本国憲法（通年）	担当者	加藤 一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>憲法の人権論を中心にした勉強を行う。毎回、具体的ケース（判例）にもとづき、正確な条文解釈を行う。 なお、必ず六法をもってくること。出版社は問わない、</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>加藤・植村『現代憲法入門講義』（北樹出版） 吉田編『憲法重要判例』（敬文堂）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 六法全書の使い方。 3. 憲法三大原則 4. 人権の享有主体 5. 法の下での平等 6. 信教の自由 7. 学問の自由 8. 表現の自由（1） 9. 表現の自由（2） 10. 表現の自由（3） 11. 表現の自由（4） 12. 予備日 	

01～02年度（秋）	日本国憲法（通年）	担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的自由（1） 2. 経済的自由（2） 3. 人身の自由 4. 社会権（1） 5. 社会権（2） 6. 社会権（3） 7. 平和主義（1） 8. 平和主義（2） 9. 選挙権 10. 国会 11. 裁判所 12. 予備日 	

01～02年度（春） 00年度以前	文化人類学（通年）	担当者	井上 兼行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。aにおいては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを概括的に学ぶ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験期間中の試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはなし。参考文献は随時紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 前史（1） 4 前史（2） 5 前史（3） 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念（1） 8 対象としての「文化」の概念（2） 9 初期の視点——歴史的視点 10 視点の転換——現在の視点へ 11 方法としての実地調査（1） 12 方法としての実地調査（2） 	

01～02年度（秋） 00年度以前	文化人類学（通年）	担当者	井上 兼行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>aで学んだ事柄を基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化にも検討を加えることを学ぶ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験期間中の試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはなし。参考文献は随時紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。</p>	

01～02年度 (春) 00年度以前	心理学(通年)	担当者	増田 直衛
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部なのです。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義をします。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p> <p>心理学a(知覚・認知)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学b(行動・個性)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 心理学では心をどのように理解しようとしたか 2 個体と環境 心理学のもののとらえ方 3 物理的世界と心理学的環境 4 感覚の世界 5 主観のものさし 6 まとまりのある知覚世界 (1) 7 まとまりのある知覚世界 (2) 8 認知的判断 9 判断と意志決定 10 態度の形成とダイナミクス 11 社会的現実の構築 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>			

01～02年度 (秋) 00年度以前	心理学(通年)	担当者	増田 直衛
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。</p> <p>ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか考える。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p> <p>心理学b(行動・個性)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学a(知覚・認知)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行動を理解するために 2 環境への適応様式 3 生得的行動・獲得的行動 4 遺伝的に規定された行動 5 行動の変容(1)レスポナント行動 6 行動の変容(2)オペラント行動 7 行動分析学とその応用 8 個性をどのように理解するか 9 個性をいかに測定するか 10 パーソナリティのダイナミクス 11 個性はどのように発達するのか 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>			

01～02年度（春） 00年度以前	歴史学（日本史）（通年）	担当者	櫻井 彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>歴史学を学ぶ際には、様々な史料を利用し、その記載内容を検討することが基礎的な作業となる。そこで本講座では、中世史を研究する際に用いられる諸史料を具体的に紹介して、それらの利用方法を検討する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要に応じて、講義中に指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前提 2 紙以外の史料 3 古記録 1 4 古記録 2 5 二次史料 6 写本の形成 7 写本の諸相 8 絵画資料 1 9 絵画資料 2 10 古文書 1 11 古文書 2 12 総括 	

01～02年度（秋） 00年度以前	歴史学（日本史）（通年）	担当者	新井 孝重
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◎ 建武政権の特質を論ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建武政権の人々（楠本正成、名和長年、千種忠顕など） ・ 建武政権の問題点 ・ 後醍醐天皇の政治手法 ・ 室町幕府足利政権との対比 <p>◆ 評価方法</p> <p>試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要に応じてプリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 王家内部の争い（1） 2 王家内部の争い（2） 3 深まる天皇制の危機 4 討幕の計画、元弘挙兵 5 楠本正成、道祐、伊賀兼光 6 後醍醐天皇の政治手法 7 綸旨の効用、乱発される綸旨、令旨 8 建武政権の政策、官職私領状態の否定 9 上層貴族の人事異動、実務官僚化 10 北畠顕家の諫奏 11 「権威」の無力化 12 崩壊、武士の動向、足利政権 	

01～02年度 (春) 00年度以前	歴史学(日本史)(通年)		丸浜 昭
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1945年8月15日に終わった戦争のことを、日本人は普通なんと呼ぶだろうか。ここでは「15年戦争」と表現したが、他に「太平洋戦争」「アジア・太平洋戦争」「第二次世界大戦」そして「大東亜戦争」などがあがるだろう。戦争の呼称は、その戦争を基本的にどういう性格のものにとらえているかということと結びついている。いくつかの呼称は、この戦争が多様に認識されていることを示す。そこにどういう問題があるだろうか。</p> <p>戦後60年になろうとしているが、この戦争をどうとらえるかは現代日本社会の中で一つの争点であり、底流で日本社会のあり方を規定しているように思える。この戦争をさまざまな角度からとらえなおし、それを通して日本人の戦争認識のあり方を考えてみたい。</p> <p>なお、適宜、ビデオを使用する予定である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>論述試験を実施</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の中で紹介</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「15年戦争」の全体像をめぐって① 2 「15年戦争」の全体像をめぐって② 3 被害の認識①—空襲 4 被害の認識②—原爆 5 沖縄戦の体験から学ぶ 6 事実をどう認識するか①—731部隊 7 事実をどう認識するか②—南京事件 8 事実をどう認識するか③—強制連行と従軍慰安婦 9 兵士と民衆①—日本の軍隊 10 兵士と民衆②—満州・太平洋の島々で 11 兵士と民衆③—総動員体制下で 12 再び「15年戦争」の全体像をめぐって 	

01～02年度 (秋) 00年度以前	歴史学(日本史)(通年)		丸浜 昭
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「15年戦争」は、戦後60年に近づいた今日にでも、日本の社会に大きな影響を与えている。そして、そこには戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中で15年戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がある。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今日でも中国や韓国の人々から戦後補償の要求が噴出している背景には、この戦後の歴史がある。日本の民衆の戦争認識がどのように形成され、どのような課題をもっているかも考えてみたい。</p> <p>こうした「戦後史の中の15年戦争」を取りあげていくことで、現在の日本と「15年戦争」との関わりを考えたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>論述試験を実施</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の中で紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 戦争の終わり方と一億総ざんげ論 2 民主化と戦争責任論議 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 軍人恩給と日本遺族会 6 東南アジア諸国への賠償をめぐって 7 高度経済成長と日韓条約 8 ベトナム戦争の中で 9 日中国交回復への道のり 10 アジア民衆からの戦後補償要求 11 戦後50年の国会決議をめぐって 12 現代の戦争と過去の戦争 	

01~02年度 (春) 00年度以前	歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>(講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3 預言者ムハンマド (マホメット) の出現と、その時代背景について考える。 4 最初の4人のカリフ (正統カリフ) の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12 同 その2 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>毎回出席をとる。期末にレポート。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>とくにさだめない。授業で指示する。</p>			

01~02年度 (秋) 00年度以前	歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>(講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概観する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 まとめをおこなう 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>毎回出席をとる。期末にレポート。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>とくにさだめない。授業で指示する。</p>			

01～02 年度 00 年度以前	哲学（通年）	担当者	谷口 郁夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>哲学は哲学とは何かが問題になるというちょっと変わった学問です。 ほとんどの学生にとって哲学は未知の学問でしょうから、この学期では、哲学では何が論じられているのか紹介するとともに、それらの問題がわれわれにとって無縁のものではないということを皆さんに知っていただくことが第一の目標になります。したがって、それらについて自らの問題として考えていただかなければなりません。また、哲学ではまず読むこと、次に考えることが要求されますので、私も皆さんに読むことを要求することになります。最も易しい文献を選択しましたので、読んでみていただきたいと思います。主なテーマは愛、二元論、歴史、自由などです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プラトンのイデア論とエロス論を取り上げます。文献としては最もとつきやすい『饗宴』を読むことにします。 2. 前回の続き。 3. デカルトの『方法序説』を読みます。哲学には二元論的思考が頻りに登場しますが、デカルトは典型的な二元論だと言えるでしょう。 4. 前回の続き。 5. カント『啓蒙とは何か』を取り上げます。この小論は時代背景が重要ですから、その点に留意する予定です。 6. 前回の続き。 7. ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げます。この講義から4回連続で、歴史哲学について考えます。 8. 前回の続き。 9. マルクス&エンゲルスの『共産党宣言』と『空想と科学』を取り上げます。 10. 前回の続き。 11. 二十世紀初頭から「実存主義」「実存哲学」と呼ばれる思想が流行しました。その思想の特徴、なぜ流行したのか、などについてサルトルの『実存主義とは何か』を読んで考えます。 12. 前回の続き。 	
◆ 評価方法			
受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。			
◆テキスト、参考文献			
http://village.infoweb.ne.jp/~fwjel931/ から講義で使用する資料を配布します。			

01～02 年度 00 年度以前	哲学（通年）	担当者	谷口 郁夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>モンテーニュは『エッセー』のなかで「哲学とは死を学ぶことである」と述べました。なぜそんなことを言ったのでしょうか。哲学では様々な問題が論じられますが、生と死は哲学では最も重要な問題です。世界や生をどのようにとらえるかは、裏返せば死をどのようにとらえるかを意味します。人間はすべて死ななければなりません、それだけではなく、死ななければならぬことを知ってもいます。だからこそ、哲学的営みが始まったのだとも言えるでしょう。 ただ、この講義では「死の準備教育」や「ホスピス」、「生命倫理」などは取り上げませんので、ご注意ください。あくまでも哲学ですから、春学期同様、文献をじっくり読んで自分自身の問題として考えることが主要な課題となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学史には処刑された人物が登場します。その代表がソクラテスです。この学期を開始するに当り、まずソクラテスの裁判、死を前にした彼の態度、そして彼の死に方を見たいと思います。 2. 前回の続き。『ソクラテスの弁明』『クリトン』『パイドン』を読みます。 3. 前回の続き。 4. 新約聖書におけるイエスの死と復活。アウグスティヌスの『神の国』におけるキリスト教的な死について考えます。 5. 前回の続き。 6. パスカルの『パンセ』における人間の死の運命と、人間的な営みについて。 7. 前回の続き。 8. もっとも著名な悲観論的哲学者ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』『余禄と補遺』を取り上げます。彼の悲観論にはもちろん形而上学的な論拠がありますので、そこから考えて行きます。 9. 前回の続き。 10. エリアスの『死にゆく者の孤独』を取り上げます。 11. エルンスト・ベッカーの『死の否定』を取り上げます。彼は人間の行為は死を否定するためだと考えています。つまり、人間が進んで自己を犠牲にするような英雄的行為を行うのは自らの死を否定するためだと言うのです。 12. 前回の続き。 	
◆ 評価方法			
受講生が少ない場合にはレポート、多い場合には試験を行います。			
◆テキスト、参考文献			
http://village.infoweb.ne.jp/~fwjel931/ から講義で使用する資料を配布します。			

01～02年度 (春) 00年度以前	文学(日本文学) (通年)	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代文学のベストセラーを見てみるとスリラーやサイコパスと呼ばれる心理学的に問題のあるものを主題にしたものが主流となっている。また、その反面でやさしさを求めた癒しの文学も注目されている。双方とも現代社会の苦悩を反映したものである。春学期に「恐怖の日本文学」と題し、秋学期に「癒しの文学」と題して現代文学をブックレビュー的に紹介しながら、現代社会の複雑さとそこでの生き方や考え方を模索する時間とする。</p> <p>「恐怖の日本文学」では、①古典的な題材を含んだ作品、②超自然的事象の題材を含んだ作品、③心理学的な題材を含んだ作品、④社会派ミステリー、⑤スプラッター的ホラー、⑥パズラー的ミステリーの六分野から考察する。</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は必ず読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを味わってほしい</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <p>「恐怖の日本文学」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横溝正史「本陣殺人事件」ほか 2 荒俣宏「帝都物語」 3 坂東眞砂子「死国」「狗神」ほか 4 京極夏彦の世界 5 梅原克文「ソリトンの悪魔」ほか 6 瀬名秀明「パラサイト・イヴ」ほか 7 鈴木光司「リング」ほか 8 貴志祐介「黒い家」ほか 9 桐野夏生「OUT」ほか 10 宮部みゆきの世界 11 綾辻行人の世界 <p>まとめ</p>	

01～02年度 (秋) 00年度以前	文学(日本文学) (通年)	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代文学のベストセラーを見てみるとスリラーやサイコパスと呼ばれる心理学的に問題のあるものを主題にしたものが主流となっている。また、その反面でやさしさを求めた癒しの文学も注目されている。双方とも現代社会の苦悩を反映したものである。春学期に「恐怖の日本文学」と題し、秋学期に「癒しの文学」と題して現代文学をブックレビュー的に紹介しながら、現代社会の複雑さとそこでの生き方や考え方を模索する時間とする。</p> <p>「癒しの日本文学」では、①やさしさを題材にした作品、②タイムスリップを題材にした作品、③仲間意識を題材にした作品、④子供の世界、⑤アニメの世界の五分野から考察する</p> <p>受講生への要望 講義で紹介した作品は必ず読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを味わってほしい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <p>「癒しの日本文学」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近現代文学にみるやさしさの文学 2 宮本輝の世界 3 浅田次郎の世界① 4 浅田次郎の世界②ほか 5 重松清の世界① 6 重松清の世界②ほか 7 村上春樹の世界① 8 村上春樹の世界②ほか 9 児童文学の現状 10 宮崎駿の世界① 11 宮崎駿の世界② 12 まとめ 	

01～02年度 (春) 00年度以前	文学 (日本文学) (通年)	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本文学史は、上代 (奈良)・中古 (平安)・中世 (鎌倉・室町) 近世 (明治・大正・昭和) に区分される。今年度の講義では、上代から中古前期までの代表的な文学テキストを取り上げ、そのテキストが生み出された時代とテキストの持つ意味について話していく。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生多数の場合、履修者を抽選で定める場合がある。</p> <p>講義概要 受講生がいわゆる日本古典文学に触れる機会は、高校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高校の古文の授業は評判がよくないのが実情である。しかし古典を受験洋の教材でなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力を改めて見出すことができるだろう。講義の形態は、2時間で1つのテキストを取り上げ、1時間目にそのテキストの抜粋を読み、次の時間に解説するというかたちとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 古事記① 3 古事記② 4 万葉集① 5 万葉集② 6 風土記① 7 風土記② 8 古今和歌集・土佐日記① 9 古今和歌集・土佐日記② 10 伊勢物語① 11 伊勢物語② 12 おわりに 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験。 出席 (随時行う)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>特に定めない。プリント配布。</p>			

01～02年度 (秋) 00年度以前	文学 (日本文学) (通年)	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本文学史は、上代 (奈良)・中古 (平安)・中世 (鎌倉・室町) 近世 (明治・大正・昭和) に区分される。今年度の講義では、中古後期から中世までの代表的な文学テキストを取り上げ、そのテキストが生み出された時代とテキストの持つ意味について話していく。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生多数の場合、履修者を抽選で定める場合がある。</p> <p>講義概要 受講生がいわゆる日本古典文学に触れる機会は、高校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高校の古文の授業は評判がよくないのが実情である。しかし古典を受験洋の教材でなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力を改めて見出すことができるだろう。講義の形態は、2時間で1つのテキストを取り上げ、1時間目にそのテキストの抜粋を読み、次の時間に解説するというかたちとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 枕草子① 3 枕草子② 4 源氏物語① 5 源氏物語② 6 大鏡① 7 大鏡② 8 平家物語① 9 平家物語② 10 徒然草① 11 徒然草② 12 おわりに 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験。 出席 (随時行う)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>特に定めない。プリント配布。</p>			

01～02年度（春） 00年度以前	文学（世界文学）（通年）	担当者	野々山 ミチコ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>古典から現代まで幅広くスペイン文学を鑑賞する。前半はレポートを提出してもらい、よいものを皆で読む。文学の読み方のトレーニングを行なう。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>いわしの埋葬</p> <p>ドン・キホーテ</p> <p>ガルシーア・ロルカ</p> <p>詩 ジブシー歌集 三大悲劇</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>野々山、真輝帆編「いわしの埋葬」彩流社 セルバンテス「ドン・キホーテ」岩波文庫</p>			

01～02年度（秋） 00年度以前	文学（世界文学）（通年）	担当者	野々山 ミチコ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>19世紀モデルニズムの文学と、世界的に有名になった20世紀マジック・リアリズムの文学の主要作品を鑑賞する。</p> <p>各作品のレポートを提出してもらい、すぐれたものは皆で読む。文学の読み方のトレーニングを行なう。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>モデルニズムの文学</p> <p>ルベン・ダリオ オラシオ・キローガ等</p> <p>マジック・リアリズムの文学</p> <p>ボルヘス カルペンティエール コルタサス等</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>野々山、真輝帆編「いわしの埋葬」彩流社 セルバンテス「ドン・キホーテ」岩波文庫</p>			

01～02年度 (春) 00年度以前	文学 (世界文学) (通年)	担当者	宮谷 尚実
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 「文学」はどう読んで楽しめばいいでしょう？ 本講義では、「語り」「活字」「画像」「翻訳」「映像」、この5つの側面から文学とのより実り多いつきあい方を体得してもらえればと思います。</p> <p>講義概要 サンプルとして扱うテキストは、文学でも特に19世紀以来ジャンルとして確立し、上記5つのメディアを通して現代でも広く親しまれている〈メルヒェン〉です。 前期は、後半で「白雪姫」に焦点をあて、一編のメルヒェンがいかにかさまぎまな表情を見せるか、メディア毎の比較をしてみましょう。また、同じメディアを用いても異なった作品が生まれるのは何故でしょうか？ひとつひとつを自分の眼で確かめ、頭で考えながら、テキストとメディアとの関係を検討していきましょう。 あらゆる学問の基礎となる、テキストやデータと向き合う方法や基本姿勢を、「文学」を素材に身につけることが本講義の目指すところです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 「外国文学」とは何か？ 2 文学ジャンルとしてのメルヒェン その成立と「グリム童話」概論 3 「語り」とテキスト エーレンベルク稿 4 「活字」のテキスト 「グリム童話」初版から第7版まで 5 「画像」とテキスト ミュンヘン一枚絵 6 「翻訳」とテキスト(1) KHM 53 白雪姫 7 「翻訳」とテキスト(2) 明治期日本における白雪姫の各種翻訳 8 「映像」とテキスト(1) ディズニー版「白雪姫と7人のこびとたち」 9 「映像」とテキスト(2) コーン版「スノー・ホワイト」 10 「映像」とテキスト(3) トンプソン版「スノー・ホワイト」 11 時代とテキスト 現代における「白雪姫」の受容 ジェンダー論等をふまえて 12 まとめ 時代のメディアとメルヒェン 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験（筆記）を基本とし、出席、授業参加度、授業時間内の小レポートを合わせて評価します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>「グリム童話」（岩波文庫・ちくま文庫・他） プリントを随時配布</p>			

01～02年度 (秋) 00年度以前	文学 (世界文学) (通年)	担当者	宮谷 尚実
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 今まで「何となく知っている」程度のメルヒェンを、徹底的に「読み」直します。本講義では映像を多用しますが、活字離れを推奨するのでは全くなく、むしろ映像を手がかりに「文学」を「読む」おもしろさを見いだすことが目的です。</p> <p>講義概要 グリムのテキスト（本講義では翻訳を用いますが）にあたることはもちろん、一つのメルヒェンにいくつもある類話と比較し、それぞれの特徴を丁寧に確認します。また、活字だけでなく映像メディアである映画とテキストとの比較によって、メルヒェンの持つメッセージ性と現代におけるその可能性について考えます。 履修者数によっては、扱う作品について調べたことを発表形式で報告してもらう予定です。</p> <p>前期科目「文学 a」の履修は義務づけませんが、継続して履修するとメディアと文学との関わりについてより深い理解ができるのでお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 外国文学と狭義のメルヒェン（復習） 2 身近なメルヒェン(1) KHM 50 「いばら姫」とその類話(1) 3 身近なメルヒェン(2) KHM 50 「いばら姫」とその類話(2) 4 身近なメルヒェン(3) ディズニー版「眠れる森の美女」 5 メルヒェンの「読み」の多様性(1) KHM 21 「灰かぶり」とその類話 6 メルヒェンの「読み」の多様性(2) 明治期日本における「灰かぶり」の受容 7 メルヒェンの「読み」の多様性(3) ディズニー版「シンデレラ」 8 メルヒェンの「読み」の多様性(4) 映画「エヴァー・アフター」(1) 9 メルヒェンの「読み」の多様性(5) 映画「エヴァー・アフター」(2) 10 メルヒェンの「読み」の多様性(6) ディズニー版「シンデレラ II」 11 現代日本におけるメルヒェンの「読み」 「いばら姫」・「灰かぶり」 12 まとめ 現代における外国文学とメルヒェン 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験（筆記）を基本とし、出席、授業参加度、授業時間内の小レポートを合わせて評価します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>「グリム童話」（岩波文庫・ちくま文庫・他） プリントを随時配布</p>			

01～02年度（春） 00年度以前	国語（通年）	担当者	飯島一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会（国語という教科の授業）をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現（「話す」「聴く」）の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得していくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>上記したように、基本的に口頭表現のトレーニングを毎回行うのであるから、出席する諸君が一人一人積極的に参加せざるを得ない形態で授業は進められる。授業中に寝ている暇はないし、一回欠席するとその部分のトレーニングが欠落し、確実に後れをとることになる。意識の高い諸君の履修を求める。</p> <p>毎回次週のトレーニングのための準備となる課題が出される。これを行っておかないと次の回のトレーニングに参加することが出来なくなるし、いい加減な準備では効果も上がらない。</p> <p>また、それまでの日常的な口頭表現を見直すことが必然となるから、課題はそれまでの口頭表現に関する価値観を揺るがすことにもなる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「話す」「聴く」と「考える」 2 コミュニケーションの基本① 「聴く」ことの実践 3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル 4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと 5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ 6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ 7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ 8 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ 9 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ 10 コミュニケーションの実践 自分のコミュニケーションを振り返る 11 コミュニケーションの実践 再び「話す」「聴く」と「考える」 12 まとめ <p>◆テキスト、参考文献 なし</p>	

01～02年度（秋） 00年度以前	国語（通年）	担当者	飯島一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会（国語という教科の授業）をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現（「話す」「聴く」）の基本を習得していることを前提に、「伝える」「受け止める」力を基本から養っていくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>春学期開設の「ことばと思想（Ⅳ）（日本語口頭表現のトレーニング・コミュニケーション篇）」の単位を修得した学生のみ（02年度以前入学生の通年履修者を除く）の受講を許可する。</p> <p>コミュニケーションの基本を習得した後求められるのは、より豊かで深い表現力である。ここでいう表現力とは、口頭の日本語における多彩な言葉の表現、人により強く伝えることが出来る言葉の力のことである。</p> <p>日常の無意識の表現を超えて豊かで深い表現力を獲得するためには、意図的なトレーニングを必要とする。「話す」「聴く」ことを意識の上に明確にして、意図的な表現力の獲得をするために、様々なトレーニングを行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「受け止める」こと 2 何を「伝える」のか？① 自分の言葉、他人の言葉 3 何を「伝える」のか？② 他人の言葉を「理解」する。 4 何を「伝える」のか？③ 自分の言葉を「理解」してもらう 5 何を「伝える」のか？④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫 6 何を「伝える」のか？⑤ 「表現するとは何か？」を考える 7 表現の実践と評価① 8 表現の実践と評価② 9 表現の実践と評価③ 10 表現の実践と評価④ 11 何が「伝わる」のか？ 12 まとめ <p>◆テキスト、参考文献 なし</p>	

03年度以降(春) 01～02年度(春) 国語(通年) 00年度以前 国語	担当者	小島 幸枝
◆講義目的、講義概要 過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのは言葉の力である。しかし言葉はただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しい言葉、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。 今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、敬語法などを学ぶ。 ◆評価方法 平常点。(新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す) ◆テキスト、参考文献 岡田啓介『国語表現法』(おうふう)	◆授業計画 1 表現者(送り手)と理解者(受け手)の言葉におけるメカニズムを概説する 2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3 日本語の基礎知識ー日本語の音韻、アクセントの特徴 4 美しい言葉の条件ー正確さと品位をどのように獲得するか 5～7 スピーチ演習 8 ディベート(ビデオ鑑賞) 9 反省とまとめ 10～12 敬語について、文学作品の朗読と批評	

03年度以降(秋) 01～02年度(秋) 国語(通年) 00年度以前 国語	担当者	小島 幸枝
◆講義目的、講義概要 文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互に交換、添削をする。手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。(とくに、助詞、助動詞の基本的使用法を知る) ◆評価方法 平常点。(新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す) ◆テキスト、参考文献 岡田啓介『国語表現法』(おうふう)	◆授業計画 1～3 日本語の文と文章、文の構造、文章の種類 4 文章を書く手順 5 主題と題材 6 材料を集めるー説明文、報告文、論説文の特徴 7 材料を並べるーアウトラインの作成 8～9 文章を書く。文献資料を用いて文章を補強する 10 交換、批評し合う 11 推敲のポイントを学ぶ 12 まとめ	

01～02年度（春） 00年度以前	国語（通年）	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>メールはその簡便性から一般化されてきたが、その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性とか心配りが失われつつある。また、話し言葉もそれぞれの世代でその形が区分され、世代間のコミュニケーションが失われつつある。書き言葉の問題と話し言葉の問題について現状分析をしながら問題点を探っていく。共に人を説得する言葉、心に届く言葉の本質を考えて行く講義である。</p> <p>著名人の手紙文を紹介しながら、メールと呼ばれるツールが獲得したもの、失ったものを見て見る。近年の流行語を見ながら、世代間のコミュニケーションギャップの問題を考えてみる。</p> <p>連続する講義なので休んだ場合は、必ずノートを補っておくようになしてください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度、プリントを配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手紙文の約束事① 2 手紙文の約束事② 3 手紙文の解説・鑑賞① 4 手紙文の解説・鑑賞② 5 手紙文の解説・鑑賞③ 6 手紙文の解説・鑑賞④ 7 手紙文の解説・鑑賞⑤ 8 手紙文の解説・鑑賞⑥ 9 メール作成の問題点① 10 メール作成の問題点② 11 メール作成の問題点③ 12 まとめ 	

01～02年度（秋） 00年度以前	国語（通年）	担当者	佐藤 毅
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>メールはその簡便性から一般化されてきたが、その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性とか心配りが失われつつある。また、話し言葉もそれぞれの世代でその形が区分され、世代間のコミュニケーションが失われつつある。書き言葉の問題と話し言葉の問題について現状分析をしながら問題点を探っていく。共に人を説得する言葉、心に届く言葉の本質を考えて行く講義である。</p> <p>著名人の手紙文を紹介しながら、メールと呼ばれるツールが獲得したもの、失ったものを見て見る。近年の流行語を見ながら、世代間のコミュニケーションギャップの問題を考えてみる。</p> <p>連続する講義なので休んだ場合は、必ずノートを補っておくようになしてください。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>その都度、プリントを配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昭和 30 年代の世相と流行語 2 昭和 40 年代の世相と流行語 3 昭和 50 年代の世相と流行語① 4 昭和 50 年代の世相と流行語② 5 昭和から平成への転換点に見る世相と流行語 6 平成初年代の世相と流行語① 7 平成初年代の世相と流行語② 8 バブル経済崩壊後の世相と流行語① 9 バブル経済崩壊後の世相と流行語② 10 ギャル語とおやじギャグの問題 11 共通語の理想と現実 12 まとめ 	

01~02年度 (春) 00年度以前	国語 (通年)	担当者	千本 健一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><目的>日本人なら日本語を読み書きできるのは当然、と思いきや、としたり危うい。たとえば、自分のメモや日記をつけるだけのことなら問題はない。だが、いったん人に読ませるとなったら、自分勝手に書き散らし、ひとりで納得しているだけではすまなくなる。では、開かれた文章表現法を会得するには何が必要か。ここでは例文を読み、宿題を書くという行為を通して、日本語文章の表現力と読解力の向上をめざす。</p> <p><概要>文章を書くうえで心すべきことは正確さ、簡潔さ、それに明快さ。骨組みはこれだけだ。問題は、それをどう表現するかにある。授業では読むべき本を講読、あるいは提示しつつ、自分の考えを過不足なく他者に伝えるための文章表現を追究する。履修者には宿題などの形で、理にかなった読み書きの実際に触れてもらう。本講座では、作文(コンポジション)の基礎能力養成に主眼を置く。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 実践的文章論とトレーニング(基礎編) 7. } 8. } 9. } 10. }</p> <p>11. まとめ。レポート出題 12. レポート提出</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>期末に課するレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><テキスト>随時、提示する。 <参考文献>千本健一郎『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>			

01~02年度 (秋) 00年度以前	国語 (通年)	担当者	千本 健一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><目的>書く力の源泉は読む力にある。第一、他人の書いたものに興味や関心をもてない人が、なぜ自分の書いたものに他人が目を向けてくれるなどと思えるのだろう。というわけで、授業ではさまざまな文体、語り口をもった散文を読む。それによって文章の多様な型を知り、発想・表現・知識(情報)の面で学ぶべきものをさぐる。そのうえで、書く力は膨大な模倣の積み重ねから少しずつ得られる、という事実を体験する。</p> <p><概要>自分に伝えたいものがなければ、書くということ自体が成り立たない。だがその一方で、伝える内容さえあれば文章は粗雑でもいい、ということにはならない。この二つを両立させてはじめて、文章の名に値するものが生まれるのだ。そのための訓練として毎回、宿題を出す。主題を決め、それについて考え抜き、調べあげ、一字一字刻んでいく集中力と持続力をみがく。この講座では、作文(コンポジション)の応用力育成に主力を注ぐ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 実践的文章論とトレーニング(応用編) 7. } 8. } 9. } 10. }</p> <p>11. まとめ。レポート出題 12. レポート提出</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>期末に課するレポートによって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><テキスト>随時、提示する。 <参考文献>千本健一郎『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>			

01～02年度（春） 00年度以前	国語（通年）	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活に置いて必須となるレポート・論文の書き方とその手順を学ぶ。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、作業を通して、最終的にレポート（A4で5枚程度のもの）を完成させることを目標とする。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 問題意識 3 資料検索 4 序論① 5 序論② 6 引用・グラフ・表 7 本論① 8 本論② 9 本論③ 10 結論 11 注 12 まとめ 	
◆評価方法			
レポート 出席			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 『プラクティカル日本語 文章表現編』おうふう			

01～02年度（秋） 00年度以前	国語（通年）	担当者	福沢 健
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「話す」に焦点を絞り、問題演習を行いつつ、大学生活や社会人として要求される口頭発表（プレゼンテーション）の基礎知識及び基礎技能の習得を目指す。後半、「聞く」能力の訓練についても触れていきたいと考えている。</p> <p>講義概要 基本的な方法は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が中心となる。具体的には、課題を決めて、順番に発表をしてもらい、話し方について講評を加えていくというかたちである。 ただし、受講人数が多い場合、このようなかたちでの発表は不可能となるので、別のメニューを行うこととなる。 平常の作業が中心となるので、<u>出席を重視する。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 発音 3 朗読① 4 朗読② 5 プレゼンテーションの基礎知識① 6 プレゼンテーションの基礎知識② 7 発表① 8 発表② 9 発表③ 10 話を聞く① 11 話を聞く② 12 まとめ 	
◆評価方法			
レポート 出席			
◆テキスト、参考文献			
テキスト 『プラクティカル日本語 口頭発表編』おうふう			

01～02 年度 00 年度以前	地球環境論 (通年)	担当者	鈴木 滋
◆講義目的、講義概要 <p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？今何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史 4 地球環境の構造等：地球という惑星について 5 地球環境と地球システム 6 地球環境と資源（I）：資源の特性 7 地球環境と資源（II）：エネルギー 8 地球環境と材料：地球材料学とは 9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 11 地球環境問題概論 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
◆ 評価方法 <p>基本的には定期試験による。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>			

01～02 年度 00 年度以前	地球環境論 (通年)	担当者	鈴木 滋
◆講義目的、講義概要 <p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。</p>		◆ 授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) 3 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) 4 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) 5 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) 6 地球環境問題各論（I）：酸性雨 7 地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8 地球環境問題各論（II）：有害廃棄物越境移動 9 地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 10 地球環境問題各論（III）：野生生物減少、開発途上国公害など 11 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
◆ 評価方法 <p>基本的には定期試験による。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>			

01～02 年度 00 年度以前	地理学（通年）	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素（1） 4 環境の諸要素（2） 5 環境の諸要素（3） 6 熱帯地域（1）—自然的特質と伝統的農業 7 熱帯地域（2）—アジアの稲作 8 熱帯地域（3）—熱帯の開発と問題（1） 9 熱帯地域（4）—熱帯の開発と問題（2） 10 砂漠地域（1）—自然的特質とイスラム 11 砂漠地域（2）—石油資源と近代化 12 前期のまとめ 	
◆評価方法			
定期試験および出席状況			
◆テキスト、参考文献			
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す			

01～02 年度 00 年度以前	地理学（通年）	担当者	秋本 弘章
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 温帯地域（1）自然的特質 2 温帯地域（2）地中海森林地域 3 温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4 温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5 温帯地域（5）新大陸 6 冷帯地域 7 冷帯地域・寒帯地域 8 山地地域 9 世界の環境問題（1）人口 10 世界の環境問題（2）食料 11 世界の環境問題（3）温暖化と砂漠化 12 まとめ 	
◆評価方法			
定期試験および出席状況			
◆テキスト、参考文献			
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す			

01～02年度 (春) 00年度以前	地理学 (通年) 地理学		担当者 犬井 正
◆講義目的、講義概要 地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、日常生活している環境とは大きく異なる地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 オリエンテーションー地理学とはどのような学問か 2 環境の諸要素(1)地形環境 3 環境の諸要素(2)気候環境 4 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 5 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 6 沙漠地域(1) 自然的特色と伝統的経済活動、沙漠と世界宗教の起源地 7 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 8 亜寒帯森林地域、タイガの中の生活 9 ツンドラ地域と氷雪地域 10 山地地域の自然環境 11 山地地域の生活様式 12 自然環境と文化のまとめ	
◆テキスト、参考文献 テキスト：なし 参考文献：山本正三他著『自然環境と文化』(大明堂)			

01～02年度 (秋) 00年度以前	地理学 (通年) 地理学		担当者 犬井 正
◆講義目的、講義概要 近年、全国で「里山保全運動」が広がっている。里山は高度経済成長期前まで、農業や農村生活の再生産を維持し、人と自然の共生関係を育ててきた。身近な自然である全国の里山に目を注ぎながら、そのかわりの履歴を読み解いていく。各地の里山で展開してきた二次林文化を明らかにし、里山の豊かさが時空を超えて存在してきたことを明らかにし、「身近な自然を守る」ということはどのような意味をもつのか、里山での文化を、持続可能な社会システムを作る原理として現代の人々が何を学び取るべきかなどを考えていく。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 里山とは何か 2 里山と雑木林 3 里山の自然史ー氷期以降の自然 4 里山と生物の多様性(1) 5 里山と生物の多様性(2) 6 里山と農村生活 7 里山と農業 8 里山の諸相 9 里山と二次林文化ー循環型社会の原像 10 里山の開発ー東洋のアルカディアの崩壊 11 里山保全ー身近な自然を守るとは 12 まとめー市民による里山保全活動	
◆テキスト、参考文献 テキスト：犬井 正『里山と人の履歴』(新思索社)			

01～02年度（春） 00年度以前	スポーツ・健康論 a スポーツ・健康論（通年）	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自由時間とは その1</p> <p>第3回 自由時間とは その2</p> <p>第4回 生活時間の構成と自由時間の現状</p> <p>第5回 現代における自由時間の意味 その1</p> <p>第6回 現代における自由時間の意味 その2</p> <p>第7回 自由時間を過ごす能力の開発</p> <p>第8回 古典的解釈から知るレジャー その1</p> <p>第9回 古典的解釈から知るレジャー その2</p> <p>第10回 クオリティオブライフについて考える</p> <p>第11回 あなたのライフデザイン</p> <p>第12回 まとめ</p>	
◆評価方法			
出席状況（40%）、クイズ・学期末試験の結果（40%）、レポート（20%）			
◆テキスト、参考文献			
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒヤエル・エンデ、「モモ」、岩波書店			

01～02年度（秋） 00年度以前	スポーツ・健康論 b スポーツ・健康論（通年）	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>秋学期は、健康づくりやトレーニングについて具体的に科学的視点から学んでもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率</p> <p>第3回 身体計測の結果から</p> <p>第4回 肥満</p> <p>第5回 運動しない現代生活</p> <p>第6回 運動と栄養 ダイエット・サプリメント</p> <p>第7回 運動と栄養 いろいろな健康法</p> <p>第8回 トレーニングの基本</p> <p>第9回 エアロビクストレーニングについて その1</p> <p>第10回 エアロビクストレーニングについて その2</p> <p>第11回 筋力トレーニング</p> <p>第12回 まとめ</p>	
◆評価方法			
出席状況（40%）、クイズ・学期末試験の結果（40%）、レポート（20%）			
◆テキスト、参考文献			
特になし			

01～02年度 (春) 00年度以前	経済学史 a 経済学史	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p>講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想から、19 世紀末の経済思想までを通覧する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、期末試験.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会、2002.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 経済学史とはどのような学問か 2 ロックとヒューム 市場社会の成立を支えた思想 3 フランソワ・ケネー 人類最初のエコノミスト 4-5 アダム・スミス 市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6 ジェレミー・ベンサム 「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7 トーマス・ロバート・マルサス 市場社会における貧困と「人口の原理」 8 デイビッド・リカードウ 古典派経済学の体系化 9 ジョン・スチュアート・ミル 功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 10-11 カール・マルクス 資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 12 まとめ 	

01～02年度 (秋) 00年度以前	経済学史 b 経済学史	担当者	黒木 亮
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p>講義の概要 19 世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、将来を基礎づけるであろう経済思想までを通覧する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、期末試験.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会、2002.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 春季から秋季への橋渡し 2 グスタフ・シュモラー 新歴史学派の社会政策思想 3 カール・メンガー 主観主義のミクロ経済学 4 ジェヴォンズとワルラス 経済学の数理科学化 5-6 アルフレッド・マーシャル 「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 7-8 ソースティン・ヴェブレン 大量生産・大量消費社会の制度分析 9 ヨゼフ・シュンペーター 企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 10-11 ジョン・メイナード・ケインズ 貨幣経済のマクロ分析 12 まとめ 	

03年度以降(春) 01~02年度(春) 経済変動論 a 00年度以前 経済変動論	担当者	松本正信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p> <p>講義概要 詳しくは授業計画を御覧あれ。 はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。 また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p> <p>◆評価方法 春学期末定期試験によって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストはなし。私の「講義ノート」による。 参考文献は 講義の都度、指示する。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>以下の講義内容を春学期および秋学期の年間を通じて行なう。</p> <p>「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。</p> <p>序論 経済変動論の現代的課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環 2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題 3 経済変動の諸要因：その学説的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics, 修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊 5 経済変動要因の理論的類別 6 有効需要拡大の「拡大」解釈—グローバル化— <p>I 均衡成長とその不安定性論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーターの動態的経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義(経済変動論 b へ) 	

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 経済変動論 b 00年度以前 経済変動論	担当者	松本正信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(経済変動論 a と同じ)</p> <p>◆評価方法 秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 (経済変動論 a と同じ)</p>	<p>◆授業計画</p> <p>(経済変動論 a より)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論 3 独立投資と誘発投資 4 外生要因と内生要因 <p>II 景気循環のメカニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定常状態の経済 2 新投資の循環(更新投資循環) 3 在庫投資の循環 4 ヒックスの景気循環モデル 5 カレッキーの景気循環論 6 カルドアの景気循環論 7 景気変動への安定化要因 8 景気循環論の類型と循環の局面 9 景気循環と経済諸変量 10 景気の転換点と景気動向指数 <p>III 経済成長と景気循環</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成長経済における「定型化された事実」 2 新古典派成長理論の登場 3 新古典派の経済成長理論 4 技術進歩と資本蓄積(技術移転と資本移動) <p>IV 現代景気循環論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派 2 経済成長軌道は安定か不安定か 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題 4 これからの景気循環論への展望 	

03 年度以降(春) 01～02 年度(春) 00 年度以前	計量経済学 a 計量経済学	担当者	藤山英樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義の目的> 計量経済学の標準的な諸概念を習得する。理論的に得られた経済モデルと現実経済との距離を測るために計量経済学は不可欠なツールである。特に諸概念の理論的な意味を把握することが主たる目的となる。</p> <p><講義の進め方> 原則として、テキストに準拠して講義を進めてゆく。ただし、できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形となるようにする。春期に「Ⅰ基礎編：回帰分析」を講義する。</p> <p>参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習で計量経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。</p>		<p>1 計量経済学とは。</p> <p>2 から 4. 最小二乗法について。主たる内容は、直線のあてはめ。あてはまりの尺度。計算の手順など。</p> <p>5 から 9. 単純回帰分析。</p> <p>10 から 12. 多重回帰モデル。主たる内容は、多重回帰モデル、多重共線性、変数の過不足についての問題など。</p>	
◆評価方法			
試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。			
◆テキスト、参考文献			
山本拓『計量経済学』、新世社、1995 年。			

03 年度以降(秋) 01～02 年度(秋) 00 年度以前	計量経済学 b 計量経済学	担当者	藤山英樹
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>基本方針は前期と同じである。 秋期は「Ⅱ応用編：計量経済学」を講義する。</p>		<p>1 から 2. 多重回帰モデル。主たる内容は前期のものと同様である。(復習を兼ねて。)</p> <p>3 および 4. モデルの関数型と特殊な変数。</p> <p>5 および 6. F 検定と構造変化の検定。</p> <p>7 および 8. 分布ラグ・モデル。</p> <p>9 および 10. 不均一分散。</p> <p>11 および 12. 攪乱項の系列相関。</p> <p>もし時間があれば、説明変数と錯乱項の相関、同時方程式モデルについても解説する。</p>	
◆ 評価方法			
前期と同じである。			
◆テキスト、参考文献			
前期と同じである。			

01～02 年度 00 年度以前	国際金融論 a 国際金融論	担当者	山本 美樹子
◆講義目的、講義概要 金融とは借り手と貸し手との間でお金を仲介する手段である。これは国内金融であっても国際金融であっても同じである。が、国際金融では各国が独自の通貨をもっていることから派生する国際金融独特の問題がある。 春学期は国際金融上基礎的なテーマである為替レートにかかわる諸問題、国際収支、為替レートの決定について講義をする。 春学期、秋学期を通して目標とするのは、新聞、ニュースの国際金融にかかわる記事を理解できるようにすることである。		◆授業計画 1、 オリエンテーション 2、 第一章 国際収支とは何か ①国際収支表 3、 ② 経常収支の黒字の意味すること 4、 ③ 経常収支の金融的側面 5、 ④ いわゆる J カーブ効果と経常収支の調整過程上の問題 6、 第 2 章 外国為替と為替レート ①為替レートとは何か 7、 ② 為替レートの変動リスク回避行動 (i) 8、 (ii) 9、 ③ 為替投機(i) 10、 (ii) 11、 外国為替市場への介入行動 12、 前期のまとめ	
◆ 評価方法 学期末試験とアットランダムにとる出席			
◆テキスト、参考文献 テキストは特に定めない。 参考文献は講義時に適宜指示する。			

01～02 年度 00 年度以前	国際金融論 b 国際金融論	担当者	山本 美樹子
◆講義目的、講義概要 秋学期は、開放マクロ経済学（経済政策）、国際資本移動、最近の国際金融派生商品等、国際金融論の応用分野についての講義をする。 こうした応用的な話を踏まえて、今 21 世紀にあるべき国際通貨制度とはいかなるものなのかについて考えていきたい。		◆授業計画 1、 3 章 為替レートの決定理論と固定相場制 ①購買力平価説 2、 ②フローアプローチ対アセットアプローチ 3、 ③固定相場制とはないか 4、 ④IMF ブレトンウッズ体制と基軸通貨体制のサステナビリティ 5、 第 4 章 開放マクロ経済学 ① 外国貿易乗数 6、 ②固定相場制の開放マクロ経済政策 7、 ③マンデルフレミングモデルとポリシーミックス 8、 ④変動相場制の開放マクロ経済政策 9、 第 5 章 国際資本移動 ① 10、 ②金融デリバティブとオプショントレーディング 11、 ③途上国の累積債務問題 12、 最近の国際金融上の諸問題と 21 世紀の展望	
◆ 評価方法 学期末試験とアットランダムにとる出席			
◆テキスト、参考文献 テキストは特に定めない。 参考文献については講義時に適宜指示する。			

<p>地方財政論 a</p>	<p>担当者</p>	<p>伊藤爲一郎</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 地方財政は「行政のデパート」といわれるように、教育、福祉、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策など多様なサービスを提供しています。地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>講義概要 都道府県から市町村まで3200余もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等さまざまな条件が異なっており、一律に論ずることはできませんが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望します。</p> <p>◆評価方法</p> <p>期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義のはじめに指示します</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに。地方財政の現状と課題 文献紹介 2 経済の発展と地方財政の役割 地方政府と中央政府の範囲 3 地方財政の歴史の変遷と国際比較 4 地方財政の多様性 都道府県・市町村・社会経済条件の多様性 5 地方自治・財政の歴史 6 ショップ勧告から高度成長期の財政 7 低成長経済と地方財政による景気対策 オイルショック、80年代の財政、90年代の財政 8 地方支出の拡大と財政危機—バブルの崩壊その後 地方単独事業の膨張 9 地方財政の機能の変化 地方公共財の多様化と拡大 10 地方分権の推進—機関委任事務の廃止 11 地方主権と財源の再配分の実現は実現するか 地域の経済的活力をとりもどせるか 12 まとめ—地方財政の課題 	

<p>地方財政論 b</p>	<p>担当者</p>	<p>伊藤爲一郎</p>
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 地方財政は「行政のデパート」といわれるように、教育、福祉、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策など多様なサービスを提供しています。地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>講義概要 都道府県から市町村まで3200余もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等さまざまな条件が異なっており、一律に論ずることはできませんが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望します。</p> <p>◆評価方法</p> <p>期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義のはじめに指示します</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 地方財政の現状と課題 文献紹介 2 地方政府サービスと財源—財源配分をめぐる対立の歴史 3 地方税体系、地方税の構造 4 地方財政調整制度（1） 地方財源の偏在、地方交付税制度の役割 5 地方財政調整制度（2） 国庫支出金（補助金・負担金・委託金） 6 地方財政調整制度（3） 地方消費税・新たな財源をもとめて 7 地方税・地方公債以外の地方収入 受益者負担・各種料金・使用量・手数料・その他 8 地方債—地方債の累積 9 過密と過疎 都市の財政需要増と財政危機、農山村部の過疎化と生活危機 10 地方公営企業の現状 11 地方分権の流れ—行財政改革への取り組み 12 まとめ—地方財政の課題 	

01~02 年度 (春) 00 年度以前	産業組織論 a 産業組織論	担当者	青木雅明
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>経済学の一分野である産業組織論 (Industrial Organization) の基本的考え方と手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨・サービス、労働、資本の各市場において生産者または供給者と消費者または需要者の行動を研究しますが、それらに影響を与える市場の構造や政府の規制その他の条件を明らかにします。その成果を経済政策に応用します。</p> <p>産業組織論の基礎となっているのはミクロ経済学ですので、産業組織論を応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争政策または独占禁止政策ですが、近年その他の分野にも拡大しています。</p> <p>企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争の形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定刻出席の状況、テキストおよび講義内容に関する小レポートの提出によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社 1998 年</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業組織分析の基礎概念 3. 企業① 4. 企業② 5. 独占企業の行動① 6. 独占企業の行動② 7. 垂直的制限① 8. 垂直的制限② 9. 競争の形態 10. 市場参入① 11. 市場参入② 12. カルテル① 	

01~02 年度 (秋) 00 年度以前	産業組織論 b 産業組織論	担当者	青木雅明
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>産業組織論 b に引き続いて情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定刻出席の状況、テキストおよび講義内容に関する小レポートの提出によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社 1998 年</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カルテル② 3. 情報の非対称性と企業行動① 4. 情報の非対称性と企業行動② 5. 企業の戦略的行動 6. 技術進歩と研究開発競争① 7. 技術進歩と研究開発競争② 8. 知的財産権 9. 共同研究開発とネットワーク外部性 10. 貿易と直接投資 11. 規制と規制改革 12. まとめ 	

科目名	産業構造論 a	担当者	山越徳
科目名	産業構造論 a	担当者	山越徳
		担当者	
講義目的および講義概要	経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える有力な分析道具の1つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についてもデータを用いて見ていくことにする。	授業計画	1 経済成長、経済発展：経済成長とは、S、クズネツツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
			2 近代的経済発展：1人当り国民所得、GNP、労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命
			3 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース
			4 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、AMS分類
			5 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成、成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ
			6 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模
			7 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とNIES、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機
			8 産業連関表とはⅠ：新SNA、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係
			9 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析
			10 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性
			11 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別I-O表
			12 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域I-O表、国際I-O表、国際分業、公害I-O表
評価方法	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。		
テキスト参考文献	宮沢健一『産業の経済学』第2版(東洋経済新報社) 米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)		

科目名	産業構造論 b	担当者	山越徳
		担当者	
講義目的および講義概要	産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。	授業計画	1 産業構造の新しい方向Ⅰ：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標、
			2 産業構造の新しい指標Ⅱ：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ
			3 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：3つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と80年代、90年代の生産技術、技術波及
			4 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例
			5 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピューター、労働への影響分析
			6 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME革命とIT化、何がおきているか
			7 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力
			8 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性
			9 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働
			10 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業
			11 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取組みの事例
			12 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割
評価方法	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。		
テキスト参考文献	関満博『フルセット型産業構造を越えて』(中公新書) 清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』(日本経済新聞社)他		

03年度以降 01～02年度 (春) 00年度以前	管理会計論 a 管理会計論	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 黒字製品をたくさん作ったら利益が減った？在庫がたまるほど利益が増えた？不良在庫はいくらで処分するの？原価が変わるって本当ですか？などなど原価節減、利益拡大など企業はさまざまな問題に直面しています。このようなコスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにはキャッシュフローにもとづく会計情報を利用して分析しなければなりません。 管理会計論 a では、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準などの短期的利益計画・管理の問題についてケーススタディの演習をします。 履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の3級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人はぜひ持参してください。		◆授業計画 1. 管理会計とは、最近のトピックスから 2. 意思決定とキャッシュフロー、木村さんの場合[2.1] 3. テニスクラブの選び方[2-1-1][2-1-3] 4. 関連原価・無関連原価、ギャラリー綺羅[2.2] 5. 貢献利益とは、小金井工業[2.5][2.6] 6. 赤字製品と黒字製品、神奈川工業[2-1-7] 7. 減価償却費とキャッシュフロー、YG工業 8. Constraints(制約)の話、市場制約と生産能力制約 北村製作所 9. KAIZEN(改善)の効果[2.9][2-2-8] 10. 意思決定の問題のタイプ[3.1][3.2] 11. 意思決定の問題のタイプ、独立案[3.3][3-1-4] 12. 意思決定の問題のタイプ、排反案[3.4][3-2-1]	
◆ 評価方法 試験 1001 点、課題 10 点			
◆テキスト、参考文献 伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』中央経済社			

03年度以降 01～02年度 (秋) 00年度以前	管理会計論 b 管理会計論	担当者	香取 徹
◆講義目的、講義概要 管理会計論 b では、フリーキャッシュフローと企業価値、キャッシュフロー計算書、投資計画の評価基準など長期の利益計画問題を検討します。 Excel を使ってキャッシュフローのシミュレーション・モデルを作成して分析したいと思います。 履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の3級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人は大変便利です。ぜひ持参してください。		◆授業計画 1. 管理会計の最近のトピックス 2. フリーキャッシュフローと資金の時間価値 3. 現在価値と年価 4. フリーキャッシュフローと企業価値 5. 連結キャッシュフロー計算書 6. キャッシュフロー計算書の作成 7. 投資の経済性、FCFの最大化 8. 投資案の評価基準(1) 9. 投資案の評価基準(2) 10. 投資案の評価基準(3) 11. 投資の業績評価 12. キャッシュフロー経営・会計と経済性のまとめ	
◆ 評価方法 試験 1001 点、課題 10 点			
◆テキスト、参考文献 伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』中央経済社			

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	社会会計論 a 社会会計論	担当者	湯田 雅夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。 環境経営、環境会計は、21 世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計の内容を出来るだけわかりやすく、講義していきます。 皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事を出来るだけ読むように心がけてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 社会会計、環境会計、環境会計の学び方、研究対象 2 環境経営、環境会計の研究手法と関連領域 3 人類の歴史と環境問題 4 地球環境問題ならびに国際的取組み 5 国連の環境への取り組み① 6 国連の環境への取り組み② 7 循環型経済社会構築と諸課題 8 持続可能性と企業活動の 3 つの領域 9 環境会計の体系 3 つのアプローチ 10 環境会計アプローチの事例 11 環境会計アプローチに対する批判的考察 12 春学期のまとめ 	
◆ 評価方法			
レポートと出席状況から総合的に評価します。			
◆テキスト、参考文献			
湯田雅夫『ドイツ環境会計』2001 年版 参考文献はその都度指示します。			

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	社会会計論 b 社会会計論	担当者	湯田 雅夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期に引き続き、環境経営、環境会計の具体的内容を講義します。 物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることが出来ます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。 皆さん一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非、社会で実践してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期オリエンテーション 2 環境負荷計算 物量計算 3 環境原価計算 貨幣計算 4 環境原価と環境負荷を統合する環境経営 5 国際標準 ISO と EMAS の内容と課題 6 環境監査 内部監査と外部監査 環境審査員の役割 7 環境効率 環境効率革命に向けて 8 環境効率 企業の事例 9 環境報告書の基本構造ならびに入手方法 10 環境報告書の評価方法 11 秋学期のまとめ 12 授業のまとめと講評 	
◆ 評価方法			
期末試験と出席状況から総合的に評価します。			
◆テキスト、参考文献			
湯田雅夫『ドイツ環境会計』2001 年版 参考文献はその都度指示します。			

03年度以降 01～02年度(春) 00年度以前	会計監査論 a 会計監査論	担当者	米田正巳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(講義目的) 企業財務情報の開示制度は、株主等の保護を目的として、適正な会計基準の設定、会計監査の実施等が適切に運営されることにより成り立っている。</p> <p>本講義では、理論の説明とともに、企業の実際の財務諸表等を利用し現実の会計監査の事例を用いて、我が国及び米国の監査基準及び監査手続きを理解することを目標とする。</p> <p>(講義概要) 会計監査の講義はテキストを中心に実施するが、会計監査の理論は監査実務と関連しているため、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 監査の概要—監査の種類、情報開示制度と会計監査、CPA 監査 2 法定監査(1)—証券取引法監査制度 3 法定監査(2)—商法監査制度 4 職業監査の規範—監査基準 5 監査の実施に関わる基礎概念—監査要点、監査証拠 6 監査の実施に関わる基礎概念—監査手続、監査計画、監査調書 7 監査の実施における監査リスクと重要性—リスクアプローチ 8 内部統制の検討(1)—内部統制の構成要素等 9 内部統制の検討(2)—内部監査との関係等 10 試査の概念—サンプリングの基礎概念 11 取引サイクルの監査と決算監査 12 監査意見と監査報告書—適正、限定、不適正、意見差控 	
◆ 評価方法			
出席(30点)と試験(70点)による。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト及び参考文献は、前期開講時に指定する。			

03年度以降 01～02年度(秋) 00年度以前	会計監査論 b 会計監査論	担当者	米田正巳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(講義目的) 監査は会計と一体として考えるべきであり、会計があるところに監査がある。後期は前期に引き続いて、会計監査の実務的問題を説明し、理解を深めることにする。</p> <p>監査は企業会計だけでなく、非営利法人においても実施されている。特に公会計・監査として、地方自治体の監査の内容、監査の観点について、我が国の現況と英国の自治体監査を理解することを目標とする。</p> <p>(講義概要) 講義はテキストを中心に実施するが、後期の授業は監査実務と関連しているため、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 監査の歴史—我が国の CPA 監査の現状等 2 監査—中間監査基準、中間監査実施基準、中間監査報告基準、中間監査の課題 3 連結財務諸表の監査—セグメント情報の監査 4 決算監査の実務—実査、確認、立会 5 監査人の責任—不正・誤謬に対する責任、経営業務に対する責任、経営者による確認書 6 監査意見と監査報告書—ゴーイングコンサーン等 7 非営利法人の監査—公益法人、独立行政法人、学校法人、労働組合等の監査 8 地方自治体の監査—監査委員監査、外部監査等 9 パブリック監査の観点—監査の観点の内容、その変遷 10 英国の自治体監査—監査委員会、VFM 監査(3E 監査)、ベストバリュース監査 11 我が国の地方自治体の監査—包括外部監査 12 総括 	
◆ 評価方法			
出席(30点)と試験(70点)による。			
◆テキスト、参考文献			
テキスト及び参考文献は、後期開講時に指定する。			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	税務会計論 a 税務会計論	担当者	山田浩一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、会計と税務が相互に複雑に影響し合っている会計実践の状況を理解してもらうため、経済行為の実態そのものの理解から始めて、会計理論と税務理論の違いが、どのような制度的相違に結びついていくかといった点につき解説していきたい。</p> <p>税務会計論は実務的なテーマを多く取り扱うため、ややもすると税務計算ノウハウの習得といった内容に陥りがちな科目であるが、本講義では、できる限り様々な制度の理論的背景に焦点を当てていきたいと考えている。</p> <p>講義においては最新のニュース等からも題材を拾ってみたいと思う。</p> <p>なお、受講生には次の関連科目の受講をすることを要望する。 簿記、会计学、財政学、財務会計等</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 税務会計論の対象と方法 2 租税制度 3 制度会計の講造 4 法人税課税所得の計算構造 5 公正会計処理基準 6 売上収益の認識 7 金銭債権の評価 8 売上原価と棚卸資産 9 有価証券の会計と税務 10 受取配当金の益金不算入 11 有形固定資産と減価償却 12 リース会計 	
◆評価方法			
授業中の小テストとレポートの成績を累積して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
税務会計要論 中田信正(同文館)			

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	税務会計論 b 税務会計論	担当者	山田浩一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>前期に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 無形固定資産、繰延資産 2 圧縮記帳 3 引当金・準備金 4 給与・報酬・源泉徴収 5 交際費・寄付金 6 消費税と経理方式 7 税効果会計 8 申告・納税の概要 9 企業組織再編税制 10 企業集団課税 11 国際課税 12 講義ポイントの確認 	
◆評価方法			
授業中の小テストと期末定期試験の成績の累積による。			
◆テキスト、参考文献			
前期に同じ。			

01～02年度 (春) 00年度以前	経営分析論 a 経営分析論	担当者	百瀬房徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の实体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。歴史的発展過程を踏まえる形で、経済環境と分析技法の二面より考察し、全体像の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経営分析の現代における意義 2 米国の経済環境における手形市場の形成過程 3 手形市場、特に手形の割引に際しての銀行から見た信用分析の形成過程 4 信用分析の側面から見た財務諸表、特に貸借対照表を中心に 5 信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程 6 信用分析のケース・スタディ：ウォール、プリス 7 信用分析のケース・スタディ：ギルマン、ウォール、シュマルツ 8 収益性の分析および、その他の分析への発展 9 経営分析の意義とその限界 10 経営分析の主体とその目的 11 経営分析の種類 12 経営分析の体系 	
◆ 評価方法			
テスト			
◆テキスト、参考文献			
前林和寿「経営分析の基礎」森山書店			

01～02年度 (秋) 00年度以前	経営分析論 b 経営分析論	担当者	百瀬房徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 安全性の分析 (1) …比率分析 (レポート提出) 2 安全性の分析 (2) …資金移動表の解説 3 安全性の分析 (3) …資金移動表の作成 (レポート提出) 4 収益性の分析 (1) …各種資本利益率 5 収益性の分析 (2) …売上高利益率と資本回転率 (レポート提出) 6 収益性の分析 (3) …利益増減の原因分析 (レポート提出) 7 生産性の分析 (1) …付加価値の意義 8 生産性の分析 (2) …付加価値の計算と数値の意味 9 生産性の分析 (3) …付加価値表の作成 (レポート提出) 10 損益分岐点分析 (1) …損益分岐点の意義 11 損益分岐点分析 (2) …損益分岐点の計算と数値の意味 12 損益分岐点分析 (3) …損益分岐点の計算 (レポート提出) 	
◆ 評価方法			
レポートを中心に評価するが、レポートが理解されているかテストする。			
◆テキスト、参考文献			
前林和寿「経営分析の基礎」森山書店			

01～02年度 (春) 00年度以前	情報検索論 a 情報検索論	担当者	福田求
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表, 掲示等)を参照し, 不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に, コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を, 解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず, 情報検索に関する基礎的な概念について解説し, 情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報検索の定義 3 情報検索の種類, 歴史 4 データベースの定義, 意義, 構成要素, 種類, 歴史 5 索引語, シソーラス 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 情報検索関連作業のプロセス 8 検索式(1): 論理演算子 9 検索式(2): トランケーション 10 検索式(3): 位置演算子, フィールド演算子 11 検索結果の評価 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	

01～02年度 (秋) 00年度以前	情報検索論 b 情報検索論	担当者	福田求
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表, 掲示等)を参照し, 不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に, コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を, 解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】情報検索論 a での知識を踏まえた上で, 実際の情報検索技術に慣れ, 習熟するために, CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン, 商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり, 受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 CD-ROM 検索(1) 3 CD-ROM 検索(2) 4 WWW の検索エンジン(1): インターネット/WWW の基礎 5 WWW の検索エンジン(2): 種類 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 WWW の検索エンジン(3): ロボット 8 WWW の検索エンジン(4): インデックス 9 WWW の検索エンジン(5): 検索結果の表示 10 商用オンラインデータベースの検索(1) 11 商用オンラインデータベースの検索(2) 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	

01～02年度 (春) 00年度以前	情報通信ネットワーク a 特殊講義 A「情報通信ネットワーク」	担当者	今福 啓
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>市販の本を参考にするなどして、家庭内の数台のコンピュータを接続してネットワークを構成することは、容易に実現できます。しかし、コンピュータを設置して使用する環境ごとに、どのようなネットワークを構築すればよいのかは異なります。それぞれの環境にあわせて、より使いやすいネットワークを組み上げるには、ネットワークに関する基礎的な知識と、使用するハードウェアの知識、そして実際の機器を使用して作り上げる過程を経験することが必要であると考えます。</p> <p>この授業では、ネットワークに関する基礎的な知識と、実際にコンピュータとネットワーク機器を用いた実習の両方を行うことで、単に知識を得るだけではなく、実際にネットワークを組むためのノウハウを身に付けることを目標とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. TCP/IP と OSI 基本参照モデル 3. IP アドレスと MAC アドレス 4. グローバル IP アドレスと DNS の関係 5. グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスの変換-NAT と NAPT 6. ネットワークのセキュリティ-ファイアウォールについて 7. パケットのルーティングについて 8. 実習 1-ネットワーク機器とコンピュータの設置 9. 実習 2-IP アドレスの設定と LAN の構成 10. 実習 3-ブロードバンドルータの設定 11. 実習 4-Web サーバの立ち上げと設定 12. 授業のまとめ 	
◆ 評価方法			
提出課題と、期末試験により評価します。			
◆テキスト、参考文献			
特にありません。			

01～02年度 (秋) 00年度以前	情報通信ネットワーク b 特殊講義 A「情報通信ネットワーク」	担当者	三宅 真
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>携帯電話とインターネットに代表される情報通信の発達によって、時間と空間の制約を超えて自由にコミュニケーションができる時代となった。産業革命に匹敵する情報革命の時代と言われるゆえんである。デジタル情報通信ネットワークは、既に社会の重要なインフラストラクチャとして定着しており、今後、更に発展が期待されている。</p> <p>この講義は、21世紀に生きる受講生諸君が、無線通信ネットワークについての正しい見識を持つことを目標とする。通信(=コミュニケーション)の人的・社会的な側面にも言及しながら、デジタル無線通信ネットワークのシステム構成と発展動向を、実例に則して分かり易く概説する。最初に、実際の無線通信ネットワークのシステム構成と発展動向を講義する。次に、無線通信において情報が伝達される仕組みと技術についての基本的なことがらを、例題演習を交えながら解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の確認・決定、講義の目標と全体概要 2. デジタル無線通信概論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無線通信システムの歴史と最近の動向 (2) 無線通信の電気信号と周波数 (3) 電波と周波数管理 3. 移動通信ネットワーク <ol style="list-style-type: none"> (1) 移動通信システムの実際 (2) 移動通信の発展と最近の動向 (3) 大ゾーン方式と小ゾーン方式 (4) 携帯電話の通信プロトコル 4. 衛星通信ネットワーク <ol style="list-style-type: none"> (1) 衛星通信システムの特徴 (2) 衛星通信の発展 (3) 衛星軌道と静止衛星 (4) 衛星通信システムの実例 (5) 準天頂衛星通信システム 5. 情報の符号化と伝送 <ol style="list-style-type: none"> (1) Shannon の通信系モデル (2) アナログ情報のデジタル化 (3) 情報量 (4) 符号化と伝送 6. まとめ 	
◆ 評価方法			
出席とレポートによって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
テキストは講義中に配布する。参考文献は、 ・奥村、他『移動通信の基礎』電子情報通信学会			

03年度以降(春) 01~02年度(春) 00年度以前	オペレーションズ・リサーチ a オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺 勉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>オペレーションズ・リサーチ (Operations Research : 一般には、OR と呼ばれる) は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。OR の範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である (OR 手法の出番は、モデル化の後である)。</p> <p>本講義では、OR の基本となる考え方 (モデル化の重要性を含む) とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部 of 学生に興味のある話題を提供する積りである。</p> <p>受講者への要望 : 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。</p> <p>試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト / 小田中敏男、正道寺勉 : 「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店 (1993)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OR とは? <ul style="list-style-type: none"> OR の歴史、OR の発展、OR の定義 2. OR の考え方とモデル化の概念 <ul style="list-style-type: none"> モデル化の例、OR 手法の紹介 3. ランチェスターの法則 <ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦とランチェスター 4. アルゴリズム (1) <ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似 5. アルゴリズム (2) <ul style="list-style-type: none"> フィボナッチ数列と黄金分割 6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) <ul style="list-style-type: none"> AHP の概要 (曖昧な状況下での意思決定) 7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) <ul style="list-style-type: none"> AHP の整合性、応用例 8. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(3) <ul style="list-style-type: none"> 演習 9. マルコフ過程 (1) <ul style="list-style-type: none"> マルコフ過程の概要 10. マルコフ過程 (2) <ul style="list-style-type: none"> マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習 11. 線形計画法 (1) <ul style="list-style-type: none"> 線形計画法(LP)の概要、図による解法 12. 線形計画法 (2) <ul style="list-style-type: none"> 主問題と双対問題の関係、LP の一般形 <p>参考文献については、開講時に随時紹介する。</p>	

03年度以降(秋) 01~02年度(秋) 00年度以前	オペレーションズ・リサーチ b オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺 勉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期の講義「オペレーションズ・リサーチ a」に引き続き、経済学部 of 学生にとって有用な手法について分かりやすく講義し、演習を行うことで理解を深める。</p> <p>具体的な講義内容としては、マクロ経済学で必ず話題に上る「囚人のジレンマ」を初め、効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」、そして OR に関係の深い話題を扱った映画についても触れる予定である。</p> <p>受講者への要望 : 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ・リサーチ a」を履修していることが望ましいが、受講生の必要に応じて講義中に随時補足説明を行う。</p> <p>試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト / 小田中敏男、正道寺勉 : 「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店 (1993)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲームの理論 (1) <ul style="list-style-type: none"> ゲームの理論の概要、利得行列の戦略 2. ゲームの理論 (2) <ul style="list-style-type: none"> 混合戦略の考え方、演習 3. ゲームの理論 (3) <ul style="list-style-type: none"> 囚人のジレンマ、チキンゲーム、ほか 4. 線形計画法 (1) <ul style="list-style-type: none"> 線形計画問題の一般形、シンプレックス法 5. 線形計画法 (2) <ul style="list-style-type: none"> シンプレックス法の演習 6. 線形計画法 (3) <ul style="list-style-type: none"> 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法 7. 動的計画法 (1) <ul style="list-style-type: none"> 動的計画法(DP)の概要、最適性の原理 8. 動的計画法 (2) <ul style="list-style-type: none"> 多段意思決定、演習 9. 最短経路問題 (1) <ul style="list-style-type: none"> 最短経路問題の概要、グラフによる表現 10. 最短経路問題 (2) <ul style="list-style-type: none"> 最適性の原理、作図による解法、演習 11. PERT、CPM (1) <ul style="list-style-type: none"> PERT、CPM の概要、アローダイアグラム 12. PERT、CPM (2) <ul style="list-style-type: none"> クリティカルパスの求め方 <p>参考文献については、開講時に随時紹介する。</p>	

03年度以降(春) 01から02年度(春) システム・エンジニアリング a 00年度 システム・エンジニアリング	担当者	天笠美知夫
◆講義目的および講義概要 経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステム・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。 ①システム・エンジニアリングの基本概念 ②システム・エンジニアリングの方法論 尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。 ◆評価方法 事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。 ◆テキスト、参考文献 天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985	◆授業計画 1 オリエンテーション: 受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2 システム・エンジニアリングの基本概念(1) 発達とその背景、システムの定義と特徴 システム思考 3 基本概念(2): システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性、自然システムと人工システム、 4 システム・エンジニアリングの方法論(1) Ill-defined and well-defined problems 問題の設定、目標の設定、システム構成、システム分析、システムの評価と選定 5 方法論(2): システム開発の手順と組織 6 方法論(3): 問題の発見とシステムの構造化 7 構造モデルとグラフ理論(1) 8 構造モデルとグラフ理論(2) 9 構造モデルとKJ法 10 構造モデル事例演習(1) 11 構造モデル事例演習(2) 12 構造モデル事例演習(3)	

03年度以降(秋) 01から02年度(秋) システム・エンジニアリング b 00年度 システム・エンジニアリング	担当者	天笠美知夫
◆講義目的および講義概要 経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステム・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。 ①統計的手法によるシステム認識 ②システムの価値評価、意思決定と予測 尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはシステム・エンジニアリング a を履修しておくことが望ましい。 ◆評価方法 事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。 ◆テキスト、参考文献 天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985	◆授業計画 1 統計的手法によるシステム認識基礎 2 統計的手法によるシステム認識(1) 主成分分析法 3 統計的手法によるシステム認識(2) Questionnaireの作成、アンケート調査 4 アンケート調査、データの整理、パソコン入力 5 統計ソフトウェアを活用したシステム構造分析 (SPSSの活用) 6 システムの評価と意思決定(1) 価値と評価 7 システムの評価と意思決定(2) 効用理論 8 価値工学によるシステム評価(1) 9 価値工学によるシステム評価(2) 10 予測: デルファイ法とファジィデルファイ法 11 デルファイ法とファジィデルファイ法演習 12 スケジューリング: PERT, CPM	

01～02年度（春） 00年度以前	経営システム工学 a 管理工学	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>変化の時代には、時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、次々と出現する新たな問題を解決する「問題解決能力・意思決定能力」が重要になる。本講義では、経営システム工学を初めて学ぶ人を念頭に置いて、その体系と技法を分かりやすく説明し、企業経営をはじめとして実社会で役立つ実践的な問題解決能力を修得することをめざしている。</p> <p>前期は、外部環境変化と経営システムの課題、経営システム工学の概念と役割などの基本的な考え方、経営システム工学の典型的な問題解決技法を学ぶ。表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモを取り入れた講義を行う。講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（資料を配布する）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外部環境変化と経営システム工学 2 外部環境変化：サプライチェーンマネジメント（SCM）、環境経営 3 経営システム工学の概念 1：企業活動の諸側面と管理のサイクル、種々の個別管理 4 経営システム工学の概念 2：企業活動の諸側面、経営活動の体系的・構造的理解 5 経営システム工学の概念 3：意思決定とは、意思決定の類型、外部環境変化と意思決定 6 経営システム工学の概念 4：科学・技術・工学、システムと経営システム、経営システム工学 7 問題解決技法 1：諸概念、モデルの概念、最適化とシミュレーション 8 問題解決技法 2-品質管理-：QC7つ道具概説 9 問題解決技法 3-在庫管理-：考え方と技法、管理システム、POSシステム、シミュレーション 10 問題解決技法 4-線形計画法(LP)-：LPの問題構造、問題の定式化 11 問題解決技法 5-線形計画法：単体法の原理、単体表による解法 12 問題解決技法 6：線形計画法；グラフによる解法、エクセル・ソフトによる解法、双対問題 	
01～02年度（秋） 00年度以前	経営システム工学 b 管理工学	担当者	日下泰夫
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的は前期と同じ。</p> <p>後期は、実践の場で広く応用されている経済性工学（EE）と階層分析法（AHP）の技法を取りあげ、いくつかの演習を行う。次いで、春季の諸概念と諸技法、秋季の諸技法の理解を前提に、問題解決法を体系的に分析し、経営システム工学の役割を考察する。最後に、情報化・創造化時代と経営システム工学、21世紀に向けた経営システム工学の役割についての見解を述べ、将来、社会人として問題解決・意思決定の諸局面に遭遇するであろう皆さんへメッセージを送る。</p> <p>各講義の終わりには最新の経営トピックスも出来るだけ紹介する。講義は春季講義 a の履修を前提に進める。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（資料を配布する）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決技法 5-動的計画法(DP)-：DPとは、多段階決定問題、最適性の原理、定式化と解法 2 問題解決技法 6-分枝限定法(B&B)-：組合わせ最適化問題、効率的な解法、プログラミング、適用例 3 問題解決技法 7-経済性工学(EE)-：経済的な意思決定、諸概念、投資分析の基礎手法 4 問題解決技法 8-経済性工学-：エクセルを利用した設備投資の経済的意思決定 5 問題解決技法 9-階層分析法(AHP)-：階層分析法とは、理論的根拠、一対比較法、適用例 6 問題解決技法 10-階層分析法(AHP)-：自動車の購買行動の分析 7 問題解決法と経営システム工学 1：問題解決法の重要性、外部環境変化とパラダイム、従来の問題解決法 8 問題解決法と経営システム工学 2：問題解決の体系的・構造的分析、経営システム工学の役割 9 情報化・創造化時代と経営システム工学 1：意思決定と情報創造、ネットワーク経営 10 情報化・創造化時代と経営システム工学 2：SCM、技術経営（テクノロジー・マネジメント） 11 21世紀の経営システム工学：問題解決・意思決定における経営システム工学の役割 12 経営システム工学を学ぶ人へのメッセージ 	

03年度 (春)	English 112-a (再履修)	担当者	喜田慶文
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>新聞英語の基礎から多様な記事まで読める実力を養成する。 テキストに沿って授業を進めるが、時間の許す限りプリントにて授業当日、あるいはその週の英字新聞記事を読む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率 30%、平常点 30% (小テストを含む)、 期末試験 40%で総合評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1) 『よくわかるニュース英語』朝日出版 2) プリント</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>4月 新聞の見出し、リードの読み方</p> <p>5月 新聞英語文の構造、ニュースの5W1H</p> <p>6月 リードの特徴、国内ニュースの基礎</p> <p>7月 海外ニュースの基礎、まとめ、</p>	

03年度 (秋)	English 112-b (再履修)	担当者	喜田慶文
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>新聞英語の基礎から多様な記事まで読める実力を養成する。 テキストに沿って授業を進めるが、時間の許す限りプリントにて授業当日、あるいはその週の英字新聞記事を読む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率 30%、平常点 30% (小テストを含む)、 期末試験 40%で総合評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1) 『よくわかるニュース英語』朝日出版 2) プリント</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>9月 新聞英語文の特徴、国内ニュース</p> <p>10月 新聞英語の語彙、国内ニュース</p> <p>11月 新聞語彙の強化、海外ニュース</p> <p>12月 多様な記事を読む、海外ニュース</p>	

03年度以降 01～02年度 00年度以前	経済・経営外国語 II a 外国書講読	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要 本講義の目的は、外国の福祉制度、特に英国の福祉制度や社会保障のアウトラインを知ることにあります。 できるだけ平易な文章を選びますが、福祉をめぐる一般用語は専門用語のように一部難解というか普段耳にしない単語、あるいは知っている単語でも決まった専門訳がある単語が出てきますので、注意が必要です。ここを乗り切れば、内容的には我が国も制度とあまり変わりませんので、比較的とりつきやすいと思います。その理由は、日本自体が英国の制度を多く取り入れているからです。 なお、適宜トピックスなどを取り入れていきますので、関連書物（邦文）を図書館などで探して予習・復習することをお勧めします。		◆授業計画 参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思えます。 ただし、福祉関連の単語には固有の意味を持った専門用語が少なからずありますので、解説時に特に注意して指示します。	
◆ 評価方法 <u>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</u>			
◆テキスト、参考文献 初回に当方で用意しますが、利取捨と相談して変更することも可能です。			

03年度以降 01～02年度 00年度以前	経済・経営外国語 II b 外国書講読	担当者	岡村 国和
◆講義目的、講義概要 秋学期も基本的には春学期と同様の方法で講義を進めます。 ここでは特に年金問題を中心に日本と米英の制度や機能などを比較しつつ考えていきますが、福祉全般について興味がある履修者については相談の上、プレゼンテーションを導入することも考えています。 なお、秋学期は特にCDを使って実践的な短文のリスニングの練習を随時行うことを計画していますので、希望があればその旨お知らせ下さい。		◆授業計画 参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思えます。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。	
◆ 評価方法 <u>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</u>			
◆テキスト、参考文献 初回に当方で用意しますが、利取捨と相談して変更することも可能です。			

01～02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	清水絹代
<p>◆講義目標、講義概要</p> <p>講義目標 本講義の第一の目標は、国際ビジネスに関わる諸問題にはどのようなものがあるのか、それらの問題に対してどのような解決策が考えられるのか、英文のケースを通して考える力を養うことにあります。第二の目標は、ビジネス・シミュレーション・ゲームを通じて、ビジネスの現場で役立つ能力を獲得することにあります。第三の目標として、国際ビジネスの現場に必要なコミュニケーション能力の獲得を目指します。</p> <p>講義概要 講義中に使用する英文ケースは講義一週前に配ります。毎回講義が始まる前までに各自がケースを必ず読み、与えられた課題の回答を考えてきて下さい。ウエブを使ったビジネス・シミュレーション・ゲームも行ないます。ゲームにはチームで参加しますので、協調性のある方の履修を希望します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時にお知らせします。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義についての説明 2. シミュレーション・ゲーム説明 3. ケース・スタディ 4. ケース・スタディ 5. プレゼンテーション・コンテスト 6. ケース・スタディ 7. ケース・スタディ 8. プレゼンテーション・コンテスト 9. ケース・スタディ 10. ケース・スタディ 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 総まとめ <p>* 11回目の講義のコンテストには、全員、スーツで参加します。 * 毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のものは無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。 * 遅刻厳禁。 * 携帯電話、PHSの電源は切ること（マナーモードは禁止）。 * 履修希望者は初回講義に必ず出席すること。 * 欠席は原則2回まで許可されます。</p>	

01～02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱb 外国書講読	担当者	清水絹代
<p>◆講義目標、講義概要</p> <p>講義目標 前期に同じ</p> <p>講義概要 前期に同じ</p> <p>* 本講義の履修希望者は、前期に行なわれる清水の経済・経営外国語Ⅱaを必ず履修して下さい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時にお知らせします。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義についての説明 2. シミュレーション・ゲーム説明 3. ケース・スタディ 4. ケース・スタディ 5. プレゼンテーション・コンテスト 6. ケース・スタディ 7. ケース・スタディ 8. プレゼンテーション・コンテスト 9. ケース・スタディ 10. ケース・スタディ 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 総まとめ <p>* 11回目の講義のコンテストには、全員、スーツで参加します。 * 毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のものは無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。 * 遅刻厳禁。 * 携帯電話、PHSの電源は切ること（マナーモードは禁止）。 * 履修希望者は初回講義に必ず出席すること。 * 欠席は原則2回まで許可されます。</p>	

03年度以降 01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱa（中国語） 経済・経営外国語Ⅱa（中国語） 経済・経営外国語Ⅱ（中国語）	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要 <p>この授業では経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。</p> <p>中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。</p>		◆授業計画 <p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆ 評価方法 <p>出席状況と筆記試験によって評価する</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>今田好彦・梁春香編『新聞で読む21世紀の中国』白帝社、2003年</p>			

03年度以降 01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱb（中国語） 経済・経営外国語Ⅱb（中国語） 経済・経営外国語Ⅱ（中国語）	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要 <p>最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。</p> <p>経済・経営外国語Ⅱbも春学期の授業である。</p>		◆授業計画 <p>最初の授業時に説明する。</p>	
◆ 評価方法 <p>出席状況と筆記試験によって評価する</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>今田好彦・梁春香編『新聞で読む21世紀の中国』白帝社、2003年</p>			

01～02年度（春） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	野村容康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 私たちの生活に身近な存在である租税に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>初回の授業において指定、配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 	

01～02年度（秋） 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	野村容康
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 私たちの生活に身近な存在である租税に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>初回の授業において指定、配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 	

01~02年度 (春) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱ a 外国書講読	担当者	米山昌幸
◆講義目的、講義概要 この授業では、経済学部のすべて学生にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 a」「ミクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。 春学期は、テキストのミクロ経済学の範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。		週 内容(Chapter:テキストの範囲)	
◆テキスト、参考文献 Wessels, Waiter J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.		1 19. COST AND OUTPUT 2	
		3 20. COMPETITIVE SUPPLY 4 5	
		6 21. MONOPOLIES 7 8	
		9 22. BETWEEN MONOPOLY AND 10 COMPETITION 11	
		12 23. GAME THEORY	

01~02年度 (秋) 00年度以前	経済・経営外国語Ⅱ b 外国書講読	担当者	米山昌幸
◆講義目的、講義概要 この授業では、経済学部のすべて学生にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 b」「マクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。 秋学期は、テキストのマクロ経済学の範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。		週 内容(Chapter:テキストの範囲)	
◆テキスト、参考文献 Wessels, Waiter J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.		1 9. AGGREGATE DEMAND IN THE PRIVATE 2 SECTOR: THE KEYNSIAN MODEL	
		3 10. AGGREGATE SUPPLY AND GETTING TO 4 FULL EMPLOYMENT	
		5 11. FISCAL POLICY: GOVERNMENT 6 SPENDING AND TAXATION	
		7 12. THE SUPPLY OF MONEY 8 9	
		10 13. MONEY AND AGGREGATE DEMAND 11 12	

97年以前 (春)	国際法(通年)	担当者	広部和也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義目的】 国際社会の法である国際法の基礎的知識を学び、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。</p> <p>【講義概要】 国際法の基本に当るテキストの第Ⅰ部「国際法の特質と国際社会における法の支配」、及び、国際社会における行為者について説明する第Ⅱ部「国際法における行為主体」を学ぶ。 法律の基本的知識が必要な場合には、説明を加える。</p> <p>【受講生への要望】 国際社会の現象に関心がありかつ法律に興味のある者が選択すると良いと思われる。 予習をすることを薦めたい</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験による。出席等平常点も考慮する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「導入対話による国際法講義」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 解説条約集・第10版(石本泰雄・小田滋編)三省堂</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する説明・国際法の意義 2. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか) 3. 国際法の法源(国際法はどのような形式で存在するか、どのように形成されるのか) 4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか) 5. 国家の成立(国際法上、国家はどのように定義され、如何にして国際法上の存在となるのか) 6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか、特にその基本となる主権とはどのような権利か) 7. 外交使節(国家の対外関係はどのように維持されるのか、外交官および領事の地位・職務) 8. 国家責任(国家も違法行為を侵せば責任をとらなければならない) 9. 国際組織(国際組織はどのように形成されるか、どのような役割を果たしているのか) 10. 個人の地位(国際関係において国家と個人はどのように関連づけられているか) 11. 人権の国際的保護(国際社会において人権はどのように保護されているか) 12. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引き渡し制度) 	

97年以前 (秋)	国際法(通年)	担当者	広部和也
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【講義目的】 国際社会の法である国際法の基本的知識、及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ</p> <p>【講義概要】 国際法の基本的部分である領域に関するテキストの第Ⅲ部「知的管轄権の配分」、及び国際社会に生じる紛争の解決を扱う第Ⅳ部「国際紛争」を対象とする。</p> <p>【受講生への要望】 国際社会に関心のある者 予習をすること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験による。出席等平常点も考慮の予定。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「導入対話による国際法講義」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 「解説条約集・第10版」(石本泰雄・小田滋編)三省堂</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家領域(国家が支配する領域の法的地位はどのようなものか) 2. 日本の領土問題(北方領土、尖閣諸島、竹島) 3. 海洋の国際法制度(海洋法の成立と発展過程) 4. 領海制度(国家が支配する沿岸海域の法的地位と船舶の通航) 5. 公海制度(いずれの国の支配にも服しない海域の法的地位と船舶の地位・通航) 6. 海洋の資源1(排他的経済水域の法的地位) 7. 海洋の資源2(大陸棚・深海底) 8. 領空・航空機の地位 9. 宇宙法(宇宙の法的地位・人工衛星) 10. 国際環境法(環境の国際的保護に関する法制度はどうなっているか) 11. 国際紛争の平和的解決(国際紛争の解決方法・国際裁判) 12. 国際安全保障制度 	

03 年度以降 01～02 年度 (春) 00 年度以前	日本事情 a 日本事情 日本事情	担当者	櫻井 彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本が現在置かれている状況を知りつつ考察していくためには、様々な視点からのアプローチが考えられる。そうしたなかで現在、各政党が現行憲法について新たな取り組みを始めようとしていることは、現代日本が直面している環境を象徴的に示しているといえるであろう。そこで本講座では、近代日本がもった二つの憲法について成立過程と特徴を分析し、各国の憲法との比較なども交えながら、日本が今後の国際社会のなかで果たすべき役割を検討する。</p> <p>またあわせて、日本の伝統的な芸能・文化についてビデオなどを利用して具体的に紹介し、日本文化に対する理解を深める一助としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 前提 2 明治憲法 1 3 明治憲法 2 4 日本文化紹介 1 5 明治憲法 3 6 世界の憲法 7 日本文化紹介 2 8 日本国憲法 1 9 日本国憲法 2 10 日本文化紹介 3 11 日本国憲法 3 12 総括 	
◆ 評価方法			
出席・試験			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて、講義中に指示する。			

03 年度以降 01～02 年度 (秋) 00 年度以前	日本事情 b 日本事情 日本事情	担当者	新井 孝重
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アジアの中の日本の歴史を概観する。 中国、韓国など近隣諸国と日本との関係を双方向的に見ることによって日本の歴史を身近なものとして認識してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジアと日本列島 ・ 中世東アジアと日本の交易、文化 ・ アジア諸国と日本の封建制 ・ 日本の近代とアジア 		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本列島の形成、東アジアの自然環境 2 稲作、小国家、邪馬台国、中国国家 魏 3 古墳造営、朝鮮半島政治情勢、広開土王碑 4 日本の中の渡来文化、漢字、技術、宗教 5 中国隋・唐、政治制度、日本の律令制 6 日宋貿易、博多貿易都市、元寇 7 新安の沈没船、日本の輸出品、中国の輸出品 8 日明貿易、日本・朝鮮・中国沿岸海商の人々 9 文禄・慶長朝鮮侵攻、その後、文化の影響 10 江戸時代の対外政策 11 日本の近代、大日本帝国憲法、帝国主義、アジアの民族運動 12 アジアの中の日本を考える 	
◆ 評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	野村 美知子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義目的] クラス内外での各種活動を通して、知識を増やすとともに、その過程で日本語運用力の向上を図る。また、課題に取り組むことにより、課題達成の方法を自分で考え、工夫し、自律学習ができるようにする。</p> <p>[講義概要] ①インタビューの実施と報告 ②テレビ番組の録画の視聴による聴解練習 ③新聞・雑誌記事等の講読による読解練習 ④インターネット検索等による情報収集とプレゼンテーション ⑤課題をまとめて各自新聞あるいは文集を作成する。</p>		<p>以下の項目を授業の進行状況にあわせて扱う。</p> <p>①インタビューの実施と報告 準備（表現練習、資料収集・インタビュー項目の整理等）→インタビューの実施→レジюме・発表原稿作り→発表、質疑応答</p> <p>②テレビ番組（ニュース等）の視聴による聴解練習 （はじめは教師が録画ビデオと配布プリントを例として用意する。次からは、学生が持ち回りで用意する。）語句・表現の確認・学習、内容理解、背景情報の収集、討論</p> <p>③新聞・雑誌記事の講読による読解練習 （はじめは教師が録画ビデオと配布プリントを例として用意する。次からは、学生が持ち回りで用意する。）語句・表現の確認・学習、内容理解、背景情報の収集、討論</p> <p>④インターネット検索等による情報収集、発表情報収集→内容整理→レジюме・発表原稿作成→発表→討論</p> <p>⑤学期中の提出物をまとめて、各自新聞あるいは文集を作成する。</p>	
◆ 評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題提出、授業での発表 ・ 出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢 			
◆テキスト、参考文献			
新聞記事、録画ビデオ、プリント 等			

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	野村 美知子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義目的] クラス内外での各種活動を通して、知識を増やすとともに、その過程で日本語運用力の向上を図る。また、課題に取り組むことにより、課題達成の方法を自分で考え、工夫し、自律学習ができるようにする。</p> <p>[講義概要] ①インタビューの実施と報告 ②テレビ番組の録画の視聴による聴解練習 ③新聞・雑誌記事等の講読による読解練習 ④インターネット検索等による情報収集とプレゼンテーション ⑤課題に基づいて各自新聞あるいは文集を作成する。</p>		<p>以下の項目を授業の進行状況にあわせて扱う。</p> <p>①インタビューの実施と報告 準備（表現練習、資料収集・インタビュー項目の整理等）→インタビューの実施→レジюме・発表原稿作り→発表、質疑応答</p> <p>②テレビ番組（ニュース等）の視聴による聴解練習 （はじめは教師が録画ビデオと配布プリントを例として用意する。次からは、学生が持ち回りで用意する。）語句・表現の確認・学習、内容理解、背景情報の収集、討論</p> <p>③新聞・雑誌記事の講読による読解練習 （はじめは教師が録画ビデオと配布プリントを例として用意する。次からは、学生が持ち回りで用意する。）語句・表現の確認・学習、内容理解、背景情報の収集、討論</p> <p>④インターネット検索等による情報収集、発表情報収集→内容整理→レジюме・発表原稿作成→発表→討論</p> <p>⑤学期中の提出物をまとめて、各自新聞あるいは文集を作成する。</p>	
◆ 評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題提出、授業での発表 ・ 出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢 			
◆テキスト、参考文献			
新聞記事、録画ビデオ、プリント 等			

03 年度以降 01～02 年度 (春) 00 年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	東中川 かほる
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的) 論理的文章の読み／書き技能の養成。 〈講義概要〉 専門分野での勉学、研究に不可欠な論理的思考による理解、表現力の養成をめざしている。 論理的文章がどのようなものかということ、論理的文章を読み書きする力がつくようにしたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>中間試験、期末試験、課題提出、出席率</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『大学・大学院留学生の日本語』 『留学生のための論理的文章の書き方』</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『大学・大学院留学生の日本語』『留学生のための論理的文章の書き方』に従って進める。 専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的文章を読むための読解技能をまず学ぶ。これは、文章構造、文章の論理構造の知識である。 次に、読解スキルとして、前読み、段落読み、情報検索、アウトライン作成、あと読みなどの読解スキルを学ぶ。 次に書きの分野に入る。レポートを書くために必要な論理の組み立て方、文章の書き方をする。論理的な展開や表現のモデルを読みながら、これらを参考にして作文課題に取り組む。例えば段落の書き方、仕組みの説明、歴史的な経過説明、分類、定義、要約、比較対照、因果関係、論述、資料の利用などの作文課題に取り組む。</p>	

03 年度以降 01～02 年度 (秋) 00 年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	東中川 かほる
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>〈講義目的〉 留学生に日本語での発表、討論の技術を身につけさせる。 〈講義概要〉 留学生は人前での発表に慣れていない。できるだけ早く自己発表の技術を身につけ、ゼミや研究発表の場で日本の学生に伍して恐れず臆せず自分を表現してもらいたいと思う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>中間試験（口頭試験）、期末試験（討論）、出席率</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『日本語 口頭発表と討論の技術』</p>		<p>◆授業計画</p> <p>この学期の前半において、プレゼンテーション（発表）を行う。プレゼンテーションのためのレジュメの書き方を学ぶ。そして、報告発表、方法説明、情報指示発表、意見、提言的発表を学ぶ。 学期の後半は討論（ディベート）を学ぶ。学生の日本語の力量の相互性が要求される討論を練習する。資料に裏打ちされた自分の意見の展開、また、相手の意見を受けて説得的な反論のために主張、論述、説得を可能にする談話構成技術とそれに伴う表現形式を身につける。</p>	

科目名	日本語Ⅱ	
担当人名	斎藤 明	
授業形態	演習	単位数 2
授業期間	通年	対象学年 2 (留学生)

[1] 教材

公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。

[2] 授業のねらい

外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。

[3] 教授法

毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。

[4] 授業内容

- | | | |
|----|---------|--------------------|
| 1 | 文書と文章 1 | 文章を書くとはどういうことか |
| 2 | 文書と文章 2 | 文章の種類 |
| 3 | 文書と文章 3 | 文書の形式 |
| 4 | 文書と文章 4 | 文書の役割と目標 |
| 5 | 文書と文章 5 | 主題と与えられた課題 |
| 6 | 文書と文章 6 | 材料 参考書 メモ カード チャート |
| 7 | 表記の技術 1 | 現代版名遣い 常用漢字 送りがな |
| 8 | 表記の技術 2 | 地名 人名 数字 記号 |
| 9 | 表記の技術 3 | 図表 写真 |
| 10 | 表記の技術 4 | 原稿用紙 レポート用紙 ワード |
| 11 | 表記の技術 5 | 訂正 校正 |
| 12 | 文章の構成 1 | 文章の構成法 |
| 13 | 文章の構成 2 | 記述の順序 |
| 14 | 文章の構成 3 | 序論 本論 結論 |
| 15 | 表現と論理 1 | 表現の方法 |
| 16 | 表現と論理 2 | 論理の展開 |
| 17 | 表現と論理 3 | 題目 要約 キーワード |
| 18 | 表現と論理 4 | 文章の流れ |

- 19 表現と論理 5 ディスコース パラグラフ 段落
 20 事実と意見 1 事実とはなにか
 21 事実と意見 2 意見とはなにか
 22 わかりやすさ 1 明確な主張
 23 わかりやすさ 2 簡潔な表現
 24 わかりやすさ 3 句や節の接続
 25 わかりやすさ 4 破格文 ねじれ文

[5] 試験、クイズの頻度および課題、プロジェクト等の内容
 文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。

[6] 評価方法

前記 [5] のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。

[7] 参考図書

授業時間中に指示する。

[8] その他

この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。

体 育

体育シラバス

獨協大学

カテゴリーV 体育科目 目次

体 育 目 次

全学共通授業科目	2002年度以前入学者	科 目 名	担当教員	ページ
スポーツ・レクリエーション	体 育	アウトドアレクリエーション（夏季集中： アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	和田 智	1
スポーツ・レクリエーション	体 育	アウトドアレクリエーション （冬季集中：スケートトレーニング）	和田 智	2
スポーツ・レクリエーション	体 育	アウトドアレクリエーション （夏季集中：アウトドア山岳）	青柳 多恵子	3
スポーツ・レクリエーション	体 育	インラインスケート	和田 智	4
スポーツ・レクリエーション	体 育	インラインスケート・インラインホッケー	松原 裕	5
スポーツ・レクリエーション	体 育	コーディネーショントレーニング （冬季集中：スノースポーツ）	松原 裕	6
スポーツ・レクリエーション	体 育	硬式テニス	小山 さなえ	7
スポーツ・レクリエーション	体 育	硬式テニス	松原 裕	8
スポーツ・レクリエーション	体 育	硬式テニス	田中 茂宏	9
スポーツ・レクリエーション	体 育	ゴルフ	山中 邦夫	10
スポーツ・レクリエーション	体 育	ゴルフ	吉田 卓司	11
スポーツ・レクリエーション	体 育	サッカー	檜山 康	12
スポーツ・レクリエーション	体 育	サッカー	松本 光弘	13
スポーツ・レクリエーション	体 育	スポーツエクササイズ	梶野 克之	14
スポーツ・レクリエーション	体 育	ソフトボール	池垣 功一	15
スポーツ・レクリエーション	体 育	ソフトボール	太田 朝博	16
スポーツ・レクリエーション	体 育	ソフトボール	萩野 元祐	17
スポーツ・レクリエーション	体 育	卓球	奥野 忠枝	18
スポーツ・レクリエーション	体 育	卓球	本田 稔祐	19
スポーツ・レクリエーション	体 育	バスケットボール	勝瀬 武	20
スポーツ・レクリエーション	体 育	バスケットボール	蓬郷 尚代	21
スポーツ・レクリエーション	体 育	バドミントン	太田 朝博	22
スポーツ・レクリエーション	体 育	バドミントン	梶野 克之	23
スポーツ・レクリエーション	体 育	バレーボール	小川 又八朗	24
スポーツ・レクリエーション	体 育	バレーボール	小山 さなえ	25
スポーツ・レクリエーション	体 育	フットサル	松原 裕	26
スポーツ・レクリエーション	体 育	フリスビー	和田 智	27
スポーツ・レクリエーション	体 育	ボールルームダンス	青柳 多恵子	28

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育 I・II (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>[講義概要] 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。</p>		<p>1.授業の内容と計画についての説明</p> <p>2.仲間づくりの時間：グループゲーム</p> <p>3.仲間づくりの時間：グループゲーム 野外炊飯の計画</p> <p>4.仲間づくりの時間：アウトドアクッキング</p> <p>5.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>6.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>7.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>8.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>9.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>10.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>11.アウトドアレクリエーション種目</p> <p>12 合宿についてのオリエンテーション</p>	
◆評価方法			
出席と受講態度、レポート			
◆テキスト、参考文献			
なし			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜・ウインドサーフィン) (夏季集中) 体育 I・II (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウインドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページを見てください。日程・参加費は別に案内します</p> <p>[受講者への要望] 集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。</p>		<p>[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」 新潟県佐渡島 2004年7月後半4泊5日 費用¥35000程度(交通費別) 佐渡島赤泊の自然資源を生かしたレクリエーション活動の体験と地域の歴史、文化を学ぶ機会を提供します。皆さんは日常から離れた場所で、美しい自然、ゆったりとした時間の流れと温かい人の心に触れることができるでしょう。これらの経験をすることがこの授業の目的です。 カヤック、釣り、スキンドайビング、蛍狩り、農作業、地域見学、イカのひもの作り、食事作り(自分たちがとった魚や貝を使う)、奉仕活動などを予定しています。</p> <p>[集中授業] 「ウインドサーフィン」 千葉県館山市 2004年9月前半4泊5日 費用¥20000程度(交通費別) 浮力を持ったボードにセールを取り付け、舵の代わりにセールをさまざまな方向に動かし、風を利用して操作する水上の乗り物です。この授業では弱風域においてウインドサーフィンを操作できるようになることを目標とします。また、安全にマリンスポーツを楽しむことができるよう、風、潮流、生物、人間関係についての学習してもらいます。 初心者を対象に用具の使い方、組み立て方、海の安全知識、基本技術などから始め、弱い風の中ではセイリングできる程度のレベルまで多くの人が達しています。また、合宿生活となりますので、係分担、食事作りなどへの積極的参加を通じて意義ある人間関係をはぐくむことができます。毎年、この合宿生活も学生たちは楽しんでいきます。</p>	
◆評価方法			
出席と受講態度、レポート			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) (秋学期) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p>	
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (スケートトレーニング) (冬季集中) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p> <p>宿泊費ほか費用はかかりますが、必ず満足のいく内容となります。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 用具あわせ、基本動作</p> <p>第3回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第4回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第5回 ホッケーにチャレンジ その1</p> <p>第6回 ホッケーにチャレンジ その2</p> <p>第7回 バックストロークとバリエーション その1</p> <p>第8回 バックストロークとバリエーション その2</p> <p>第9回 フォアクロッシング その1</p> <p>第10回 フォアクロッシング その2</p> <p>第11回 バッククロッシング</p> <p>第12回 集中授業についてのオリエンテーション</p> <p>[集中授業] 「氷上スポーツ」 長野県軽井沢町 2005年2月中旬予定 費用¥28000程度 (交通費別)</p> <p>3泊4日を午前と午後の6コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。</p> <p>アイススケート4コマ、カーリング2コマの予定です。</p> <p>アイススケートは、技術の進捗度や天候によって内容を変えます。カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。</p> <p>詳細については、オリエンテーション時に説明します。</p>	
◆評価方法			
出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価			
◆テキスト、参考文献			
特になし			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション)	担当者	青柳 多恵子
2002 以前	体育 I・II (春学期および夏季集中)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。</p> <p>概要 自然と人間行動を十分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール (気象の読み方・地図の見方) を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>		<p>1: ガイダンス</p> <p>2: 基礎体力測定</p> <p>3: ゲームと班分け</p> <p>4: 気象図の見方と地図・志賀高原ルート・尾瀬の自然観察</p> <p>5: 山間を想定しての調理訓練 (1) 食材の選定とごみの処理の原則</p> <p>6: 自然の楽しみ方 1) 山野草観察・</p> <p>7: サバイバル体験の知識と危険度について</p> <p>8: 救急法</p> <p>9: キャンプ地での調理訓練 事前購入とキャンプ地の安全度</p> <p>10: テントの調整法と危険度について</p> <p>11: 山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフづくり</p> <p>12: 事前実施計画の最終検討・参加人員決定</p>	
◆ 評価方法			
出席重視・フィールドワーク			
◆テキスト、参考文献			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (アウトドア山岳)	担当者	青柳 多恵子
2002 以前	体育 I・II (春学期および夏季集中)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
		<p>[夏季集中授業] 7月24日 (土) ~ 7月28日 (水) 1案「志賀高原」にて合宿 2案「尾瀬」キャンプ トレッキング靴・雨具必携</p>	
◆ 評価方法			
出席重視・フィールドワーク			
◆テキスト、参考文献			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートa）	担当者	和田 智
2002 以前	体育Ⅰ・Ⅱ（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>【受講者への要望】 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから29センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション インラインスケートとは</p> <p>2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方</p> <p>3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>7 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>8 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション</p> <p>9 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション</p> <p>10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション</p> <p>11 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション</p> <p>12 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト			
◆テキスト、参考文献			
[テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートb）	担当者	和田 智
2002 以前	体育Ⅰ・Ⅱ（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>【受講者への要望】 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから29センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<p>1 久しぶりにインラインスケート</p> <p>2 自由な動き作り：カーブ</p> <p>3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン</p> <p>6 自由な動き作り：フォアクロス</p> <p>7 自由な動き作り：フォアクロス</p> <p>8 自由な動き作り：バッククロス</p> <p>9 自由な動き作り：バッククロス</p> <p>10 インラインホッケー・実技テスト</p> <p>11 インラインホッケー・実技テスト</p> <p>12 インラインホッケー まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト			
◆テキスト、参考文献			
[テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインスケート a）	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってインラインスケートが楽しめるように、基本技術と知識・マナーを学習し、楽しく実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもインラインスケートが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてインラインホッケーのゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。受講にふさわしい服装の準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 インラインスケートシューズ合せ。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 基本技術の確認と練習 フォア滑走、バック滑走、ストップ、ターンなど。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 インラインホッケーの基本技術の確認と練習</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 技術テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション（インラインホッケー b）	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II（通年）		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってインラインホッケーが楽しめるように、ゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてインラインホッケーのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。インラインホッケーの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やオフィシャルなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明</p> <p>2 基本技術の確認と練習 フォア滑走、バック滑走、ストップ、ターンなど。</p> <p>3 インラインホッケーの基本技術の確認と練習</p> <p>4 グループ編成とゲーム</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 グループ編成とゲーム（リーグ戦）</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (コーディネーショントレーニング) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松原 裕
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたって運動が楽しめるように、自己の心身についての基本知識を学習し、運動のコーディネーション能力を高め、実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でも運動が気軽楽しめるように、基礎的な動きの習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてスノースポーツが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。 受講にふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション (注意：春学期第1週の授業) 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 トレーニングルームの登録、体力測定。 (注意：秋学期第1週の授業)</p> <p>3 トランポリンと組み体操。</p> <p>4 バランストレーニング</p> <p>5 インラインスケート</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 "</p> <p>9 インラインホッケー</p> <p>10 "</p> <p>11 インラインスキートレーニング</p> <p>12 スノースポーツ理論Ⅰ</p> <p>13 スノースポーツ理論Ⅱ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (スノースポーツ) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松原 裕
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってスノースポーツが楽しめるように、数種類のスノースポーツを経験し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は秋学期の授業の継続。秋田県田沢湖スキー場にて2月下旬に実施。費用は宿泊と用具とリフト代で4万円と他に交通費。スキー・スノーボード・スノーブレード・ビッグフット・スノーシュー・ファンスキーを予定。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。スノースポーツへの興味と理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。団体生活への協力。</p>		<p>場 所：秋田県田沢湖スキー場グループ編成。</p> <p>期 間：2月第4週を予定。4泊5日 (注意：卒業年度在籍者は登録できない)</p> <p>費 用：4万円 内訳は4泊12食・用具・旅行傷害保険等 (ウェアは各自で用意か別途負担)</p> <p>指導者：授業担当+2名年生術の確認と練習 (受講者数により変更の可能性あり)</p> <p>日 程：午前2時間半・午後2時間半の各実習 夜1時間の講義</p> <p>*現地集合・現地解散</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育 I・II (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要] この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。 また、中級者・上級者は、応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 テニスにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。</p> <p>2 グループ編成、テニスのマナー、グリップの確認など。</p> <p>3 基本技術の確認と練習 グラウンドストローク、ボレー、サーブなど。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 サーブ&レシーブ、ルール、審判法を学習し、ダブルスのゲームにおけるフォーメーションを理解する。</p> <p>7 "</p> <p>8 ダブルスのゲーム (班別)</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育 I・II (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要] この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。 また、中級者・上級者は、応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 テニスにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明。 グループ編成</p> <p>2 基本技術の確認と練習 グラウンドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュの基本的な打ち方</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 サーブ&レシーブ、フォーメーションとポジショニングの学習</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦)</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a)	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってテニスが楽しめるように、テニスの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくダブルスゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもテニスが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。 テニスにふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 グループ編成、テニスのマナー、グリップの確認など。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 基本技術の確認と練習 グランドストローク、ボレー、サーブなど。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 サーブ&レシーブ、ルール、審判法の学習。 ダブルスのゲームにおけるフォーメーション。</p> <p>7 "</p> <p>8 ダブルスのゲーム (班別)</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 技術テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b)	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってテニスが楽しめるように、ダブルスゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてダブルスのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。ダブルスゲームの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やボールパーソンなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明 グループ編成。</p> <p>2 基本技術の確認と練習 グランドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュの基本的な打ち方</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 サーブ&レシーブ、フォーメーションとポジショニングの学習</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦)</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育 I・II (通年)	担当者	田中茂宏
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。</p> <p>3 基本技術の練習。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
◆評価方法			
<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育 I・II (通年)	担当者	田中茂宏
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。</p> <p>2 基本技術の練習。</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
◆評価方法			
<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	山中邦夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 ゴルフ競技の概要 (VTR と講義)</p> <p>3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)</p> <p>5 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>6 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>7 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。</p> <p>8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン)</p> <p>9 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>10 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>11 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン)</p> <p>12 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p>	
◆ 評価方法			
授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	山中邦夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<p>1 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン)</p> <p>2 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>3 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン)</p> <p>4 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>5 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>6 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9、7、5 番アイアン)</p> <p>7 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(")</p> <p>9 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>10 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>11 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p> <p>12 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)</p>	
◆ 評価方法			
授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田卓司
◆講義目的、講義概要 <p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		◆授業計画 1 オリエンテーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン (8、9、PW、SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する) 5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 7 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 8 ゴルフ練習場にて実習 (ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球) 9 (反復練習) 10 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 11 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 12 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)	
◆ 評価方法 出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。			
◆テキスト、参考文献 			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田卓司
◆講義目的、講義概要 <p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		◆授業計画 1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット (3、5、7、9、PW、SW) (個別指導とフォームのチェック) 3 1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習 4 ロングアイアン (3、4) ショット練習 5 ロングアイアン (3、4) ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 11 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 12 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習	
◆ 評価方法 出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。			
◆テキスト、参考文献 			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>【講義概要】</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>【受講者への要望】</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 服装はスポーツのできるものを身につけること。 アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション。 2 ボールに慣れること。試しのゲーム。 3 3対3もしくは4対4のゲーム。パスとサポート。 4 4対4もしくは5対5のゲーム。パスとサポート。 5 5対5もしくは6対6のゲーム。3人目の動き。 6 7対7もしくは8対8のハーフコートゲーム。3人目の動き。攻撃のリズム。 7 8対8もしくは9対9のハーフコートゲーム。プレッシャーのかけ方。 8 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方。 9 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方と全体の動き。 10 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
◆評価方法			
授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>【講義概要】</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>【受講者への要望】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ポストプレーについて①。 2 ポストプレーについて②。 3 ポストプレーからの展開について①。 4 ポストプレーからの展開について②。 5 ポストプレーを使って攻撃のリズムを作ることについて。 6 攻撃のリズムを作りながら、展開を変えていくことについて。 7 攻撃の幅について。 8 ポジションとシステムについて。 9 チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10 リーグ戦② 11 リーグ戦③ 12 リーグ戦④ 	
◆評価方法			
授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	松本光弘
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>【講義概要】 サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。</p> <p>【受講者への要望】 ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム</p> <p>3 技術練習とハーフゲーム</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 ルールの解説 (雨天時に割り当てる)</p> <p>7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム</p> <p>11 "</p> <p>12 サッカーの歴史 (雨天時に割り当てる)</p>	
◆評価方法			
出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
<p>【テキスト】「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社</p> <p>【参考文献】『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	松本光弘
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>【講義概要】 サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。</p> <p>【受講者への要望】 ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<p>1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム</p> <p>2 "</p> <p>3 "</p> <p>4 特殊戦術とフルゲーム</p> <p>5 "</p> <p>6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム</p> <p>7 "</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 フルゲーム、評価</p>	
◆評価方法			
出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
<p>【テキスト】「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社</p> <p>【参考文献】『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズ a)	担当者	梶野 克之
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、実施上の注意 2 トレーニングルームの使い方 体力測定について 3 トレーニングの理論と実践 筋力について (1) 4 トレーニングの理論と実践 筋力について (2) 5 トレーニングの理論と実践 筋力について (3) 6 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (1) 7 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (2) 8 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (3) 9 トレーニングの理論と実践 筋持久性について (1) 10 トレーニングの理論と実践 筋持久性について (2) 11 トレーニングの理論と実践 筋持久性について (3) 12 トレーニングの理論と実践 体力測定及び評価 	
◆ 評価方法			
出席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。			
◆テキスト、参考文献			
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズ b)	担当者	梶野 克之
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 トレーニングの理論と実践 食事について(1) 2 トレーニングの理論と実践 食事について(2) 3 トレーニングの理論と実践 食事について(3) 4 トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 5 トレーニングの理論と実践 心拍数について(1) 6 トレーニングの理論と実践 心拍数について(2) 7 トレーニングの理論と実践 心拍数について(3) 8 トレーニングの理論と実践 歩行について(1) 9 トレーニングの理論と実践 歩行について(2) 10 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(1) 11 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(2) 12 トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 	
◆ 評価方法			
同			
◆テキスト、参考文献			
同			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣功一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意ソフトボールの特質、ルール等について説明</p> <p>2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) ピッチング (スリングショット投法)</p> <p>3 ピッチング (スリングショット投法の復習およびウインドミル投法) トスバッティング</p> <p>4 ピッチング (各種投法の復習) ハーフバッティング</p> <p>5 守備練習 (基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング</p> <p>6 守備練習 (各ポジションの守備方法) シートノック</p> <p>7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習 (内野手の連携プレー)</p> <p>8 シートノックによる守備練習 (ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習</p> <p>9 審判の方法についての説明 チームの編成(1) (ポジション・打順を決める) 練習試合</p> <p>10 チーム練習 (試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D</p> <p>11 チーム練習 (トスバッティング) 試合 A~C、B~D</p> <p>12 チーム練習 (バント) 試合 A~D、B~C</p>	
◆ 評価方法			
評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣功一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 総合的練習(1) 審判方法の復習</p> <p>2 総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明</p> <p>3 チーム編成(2) (以下、各々試合 3 回ごとに編成をかえる) 練習試合</p> <p>4 チーム練習 (毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H</p> <p>5 チーム練習 試合 E~G、F~H</p> <p>6 チーム練習 試合 E~H、F~G</p> <p>7 チーム編成(3) チーム練習 試合 I~J、K~L</p> <p>8 チーム練習 試合 I~K、J~L</p> <p>9 チーム練習 試合 I~L、J~K</p> <p>10 チーム編成(4) チーム練習 試合 M~N、O~P</p> <p>11 チーム練習 試合 M~O、N~P</p> <p>12 チーム練習 試合 M~O、N~P</p>	
◆ 評価方法			
評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 個人的技能 基本技能 キャッチング</p> <p>3 スローイング 1対1での正確な技能の修得バッティング ノックとトスバッティング</p> <p>4 フリーバッティング 正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける</p> <p>5 ピッチング</p> <p>6 集団的技能 連携プレー攻撃＝バント及びヒットエンドラン</p> <p>7 タッチアッププレー守備＝フォースプレー</p> <p>8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き</p> <p>9 カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション</p> <p>10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)</p> <p>11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。</p> <p>12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能 (捕球、送球、遠投) ・ ゲーム結果 (集団、個人技能) <p>欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 個人技能 ゲーム・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習</p> <p>2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など) を集計し成績を出し、技能を競い合う</p> <p>3 " "</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 " "</p> <p>7 " "</p> <p>8 " "</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 " "</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能 (捕球、送球、遠投) ・ ゲーム結果 (集団、個人技能) <p>欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野元祐
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでほしい。</p>		<p>1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</p> <p>2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</p> <p>3 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>4 バッティング練習 (握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。) 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>5 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>6 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>7 バンド練習。(グリップ、スタンス、セフティバンド) 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>8 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>9 守備における送球、捕球 (ゴロ、フライ) 練習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>10 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。</p> <p>11 前回の復習。 ゲーム実施。</p> <p>12 前回の復習。 ゲーム実施。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野元祐
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでほしい。</p>		<p>1 復習。 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>2 復習。 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>3 集団技能 (守備)、リレープレーを練習。 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>4 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (4)</p> <p>5 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>6 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>7 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>8 4 チームによるリーグ戦 (4)</p> <p>9 4 チームによるリーグ戦 (1)</p> <p>10 4 チームによるリーグ戦 (2)</p> <p>11 4 チームによるリーグ戦 (3)</p> <p>12 4 チームによるリーグ戦 (4)</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野忠枝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成 2 競技場と用具について (準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方 3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う ミニ試合 4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合 5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルス試合方法と試合 6 サービスについて ボールの回転と ラケットの動きを練習 シングルス試合 7 審判法について学ぶ 8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合 9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合 10 上記に同じ 11 シングルス試合 12 まとめ シングルス試合 	
◆評価方法			
<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野忠枝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 復習 基本の動き シングルス試合 2 カットについて学ぶ シングルス試合 3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー 4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて 5 グループでダブルスの試合 6 上に同じ 7 上に同じ 8 上に同じ 9 シングルのトーナメント試合 10 シングルス ダブルスにわかれて試合 11 総復習 12 総復習と反省 	
◆ 評価方法			
<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	本田稔祐
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。特に初心者は形だけでも上手にできるようにする。ラケットはできれば個人で用意するように。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『指導者のための卓球』I. II. III. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明と個人資料カード作成 (写真を必ず用意すること) 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え・フットワークなどの基本練習 4 フォアハンド・ロング・バックハンドショート・簡易ゲーム 5 バックハンド・ロング・ショートカット簡易ゲーム 6 サーブ・レシーブ・能力別グループ内でのシングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い・ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦 	

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	本田稔祐
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。特に初心者は形だけでも上手にできるようにする。ラケットはできれば個人で用意するように。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『指導者のための卓球』I. II. III. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成とチーム内シングルス・リーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルス・リーグ戦。 3 チーム対抗戦 1 4 チーム対抗戦 2 5 チーム対抗戦 3 6 チーム対抗戦 4 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 ダブルス・トーナメント戦 12 技能テスト 	

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>【講義概要】 バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>3.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>4.セットオフェンス (ハーフコートにおける 3対2)</p> <p>5.セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)</p> <p>6.オールコートにおける試合 (班分けをする)</p> <p>7.オールコートにおける試合 (班分けをする)</p> <p>8.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)</p> <p>9.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>10.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>11.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>12.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p>	
◆ 評価方法			
出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の 1/3 を超した者は不合格とする。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>【講義概要】 バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<p>1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)</p> <p>2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)</p> <p>3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p>	
◆ 評価方法			
出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の 1/3 を超した者は不合格とする。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>【講義概要】 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>3.基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)</p> <p>4.オーバーナンバーの攻め方 (ハーフコートにおける 3対2)</p> <p>5.マンツーマンディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)</p> <p>6.オールコートにおける試合</p> <p>7.オールコートにおける試合</p> <p>8.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)</p> <p>9.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>10.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>11.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p> <p>12.リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう)</p>	
◆ 評価方法			
出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>【講義概要】 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>【受講者への要望】 バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)</p> <p>2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)</p> <p>3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)</p> <p>10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p> <p>12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。</p>	
◆ 評価方法			
出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。			
◆テキスト、参考文献			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>【講義概要】 バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めている。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p>		<p>1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、 次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。</p> <p>2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ</p> <p>3 基本的技術 ○ ストローク・オーバーヘッド (バック、フォア)・サイドアーム (フォア、バック)・アンダーハンド (フォア、バック)</p> <p>4 基本的技術 ○ フットワーク 前後、左右 フライトの理解 ラケットワークとフライト (クリアー・ドライブ)</p> <p>5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ ロングサービス ○ ショートサービス (フォア・バック) ○ ショートサービスに対する対応 (プッシュ) ○ 基本的技術の復習</p> <p>6 " "</p> <p>7 " "</p> <p>8 ○ いろいろなフォーメーション ○ 基本的技術の復習簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得</p> <p>9 前回までの復習</p> <p>10 前回までの復習</p> <p>11 前回までの復習</p> <p>12 前回までの復習</p>	
◆ 評価方法			
出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。			
◆ 受講者への要望			
毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田朝博
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>【講義概要】 バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めている。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p>		<p>1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習</p> <p>2 " "</p> <p>3 " "</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 シングルの決勝リーグ戦</p> <p>7 " "</p> <p>8 " "</p> <p>9 ダブルスのリーグ戦</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 " "</p>	
◆ 評価方法			
出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。			
◆ 受講者への要望			
毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 年間授業計画の説明 実技実施上の諸注意 連絡事項の確認 2 バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3 ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4 クリヤー、ドロップの復習 ヘアピンの基本 5 各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6 片面シングルスの実施 カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 7 片面シングルス 審判法の理解 審判の実施 8 ドライブの基本 正規のシングルスゲーム 9 スマッシュの基本 シングルスゲーム 10 各種ストロークの練習 ダブルスの基本 11 ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 12 リーグ戦の実施 	
◆ 評価方法			
出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。			
◆テキスト、参考文献			
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』ベースボールマガジン社			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2 ダブルスの組み合わせの決定 いくつかのグループによるリーグ戦 3 ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲーム中に生かす 4 ゲーム結果の分析・問題点の整理 ダブルスゲームの実施 5 ゲームの進行状況の確認 組み合わせを変えてのリーグ戦 6 ダブルスゲームの進行 課題をゲーム内で解決 7 ダブルスゲームの進行 ゲームの面白さの理解 8 ダブルスゲームの進行 高いレベルのゲーム 9 ゲームの中での課題の練習 組み合わせの変更 10 ゲームの中での課題の練習 相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習 11 ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員が実施 12 ゲームの進行 勝敗・順位について整理 	
◆ 評価方法			
同			
◆テキスト、参考文献			
同			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小川又八朗
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 基本技と動き (アンダー オーバー)、パスゲーム 1。</p> <p>3 レシーブとトス (ボールのつなぎ)、パスゲーム 2。</p> <p>4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム 3</p> <p>5 基本技と動き (アンダー フローターサーブ) サブレシーブ 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1</p> <p>6 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。</p> <p>7 チーム編成 (スターティングポジションの決定) サブレシーブのフォーメーション。サーレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。</p> <p>9 上記と同じ。8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。</p> <p>10 上記と同じ。</p> <p>11 上記と同じ。</p> <p>12 上記と同じ。まとめテスト</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社 『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小川又八朗
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>【講義概要】 バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>【受講者への要望】 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 チーム編成 (スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。</p> <p>2 上記と同じ。</p> <p>3 サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>4 上記と同じ。</p> <p>5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に攻撃スパイク サーブ)。</p> <p>6 上記と同じ。</p> <p>7 上記と同じ。</p> <p>8 ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に守りレシーブ ブロック)。</p> <p>9 上記と同じ。</p> <p>10 ゲーム (リーグ戦) 記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。</p> <p>11 上記と同じ</p> <p>12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー 審判法など知的理解度をテストする。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社 『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版</p>			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。</p> <p>2 基本技術と動き (アンダーハンドパス、オーバーハンドパス) 試しのゲーム</p> <p>3 アンダーハンドサーブ、レシーブ 試しのゲーム</p> <p>4 個人のレシーブ練習 (マンツーマン) スパイク練習</p> <p>5 様々な打ち方によるサーブ練習 試しのゲーム</p> <p>6 サーブレシーブフォーメーション アタックレシーブフォーメーション バレーボールのルールやゲーム運営法</p> <p>7 チーム編成</p> <p>8 ゲーム、チームによるリーグ戦</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ 2002 以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小山さなえ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 チーム編成</p> <p>2 グループ練習</p> <p>3 サーブレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>4 "</p> <p>5 スパイクレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦) ルールやゲームの運営法、さらにはゲーム内容の分析法を学習する。</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フットサル a)	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってフットサルが楽しめるように、フットサルの基本技術と知識・マナーを学習し、楽しくゲームを実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>この授業では、初心者・初級者でもフットサルが気軽に楽しめるように、基礎的な技術の習得を目指す。さらに、毎週の積み重ねの成果に基づいてゲームが出来るまでを目標とする。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた受講準備。団体行動での協力。柔軟な思考。毎時間の出席。 フットサルにふさわしい服装、シューズの準備。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業登録の確認と授業内容の説明、諸注意。 写真添付の個人カードの作成。</p> <p>2 グループ編成、フットサルの歴史。トレーニングルームの登録。</p> <p>3 フットサルのテクニック 競技特性、フィールドプレイヤーの技術、ゴールキーパーの技術。</p> <p>4 " "</p> <p>5 " "</p> <p>6 フットサルのシステムと戦術 システム、戦術。</p> <p>7 " "</p> <p>8 フットサルのゲーム (審判法)</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 技術・審判テスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
フットサル教本その他授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (フットサル b)	担当者	松原 裕
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってフットサルが楽しめるように、ゲームを理解し実践できるようにする。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>今年度は春学期の授業の継続となるので、基礎的な技術の確認後、積み重ねの成果に基づいてフットサルのゲームの応用技術やゲームにおける戦術を習得する。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>自己の健康管理の継続。フットサルゲームの理解。プレーの試行錯誤の繰り返し。審判やオフィシャルなどゲーム実施への協力。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明 グループ編成。</p> <p>2 基本技術の確認と練習 フィールドプレイヤー、ゴールキーパー。</p> <p>3 " "</p> <p>4 " "</p> <p>5 フォーメーションとポジショニングの学習</p> <p>6 " "</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦)</p> <p>8 " "</p> <p>9 " "</p> <p>10 " "</p> <p>11 " "</p> <p>12 まとめと総合的なテスト</p>	
◆ 評価方法			
出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。			
◆テキスト、参考文献			
授業時に紹介する。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (frisbee-a)	担当者	和田 智
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>frisbeeは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>【講義概要】</p> <p>フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<p>1 オリエンテーション フライングディスクとは</p> <p>2 バックハンドスロウとサイドアームスロー</p> <p>3 バックハンドスロウとサイドアームスロー</p> <p>4 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>5 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>6 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>7 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション</p> <p>8 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>9 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>10 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>11 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p> <p>12 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて印刷物を配布します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (frisbee-b)	担当者	和田 智
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義の目標】</p> <p>frisbeeは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>【講義概要】</p> <p>フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<p>1 秋学期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明</p> <p>2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム</p> <p>8 チーム編成とリーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦 まとめ</p>	
◆ 評価方法			
出席と受講態度、技術の向上度			
◆テキスト、参考文献			
必要に応じて印刷物を配布します。			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス a)	担当者	青柳 多恵子
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかろうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。</p> <p>目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動くことを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。</p>		<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 : ストレッチ・ダンスウォーク・ブルースステップ</p> <p>3 : ステップ I (ブルース・ワルツ)</p> <p>4 : ステップ II (チャチャ)</p> <p>5 : ステップ III (ワルツ B)</p> <p>6 : ステップ IV (クイック)</p> <p>7 : ステップ V (キュウバンチャチャ)</p> <p>8 : ステップ VI (タンゴ)</p> <p>上記のステップを習熟度に応じて行う (ステップ I・II はマスターすること)</p>	
◆評価方法			
出席を重視			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			

全カリ	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス b)	担当者	青柳 多恵子
2002 以前	体育 I・II (通年)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかろうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です。太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。</p> <p>目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動くことを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。</p>		<p>1 : ガイダンス</p> <p>2 : ストレッチ・ダンスウォーク・ブルースステップ</p> <p>3 : ステップ I (ブルース・ワルツ)</p> <p>4 : ステップ II (チャチャ)</p> <p>5 : ステップ III (ワルツ B)</p> <p>6 : ステップ IV (クイック)</p> <p>7 : ステップ V (キュウバンチャチャ)</p> <p>8 : ステップ VI (タンゴ)</p> <p>上記のステップを習熟度に応じて行う (ステップ I・II はマスターすること)</p>	
◆評価方法			
出席を重視			
◆テキスト、参考文献			
プリント配布			